笛吹市文化財調査報告書　第15集

山梨県笛吹市

物見塚遺跡(2次)

県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釈迦堂地区
における農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

山梨県峡東農務事務所
笛吹市教育委員会
㈶山梨文化財研究所

序

笛吹市は甲府盆地中央部のやや東寄りに位置し、旧石器時代から中世にかけての遺跡が多数存在しており、山梨県内でも屈指の埋蔵文化財の宝庫として知られています。市内では、公共事業や民間による開発が行われています。これらの開発が周知の埋蔵文化財包蔵地内にもおよぶことがあり、それに伴って各地で発掘調査が実施されています。

さて、この調査報告書は、平成20年12月に試掘調査を行い、縄文時代の竪穴建物跡などを確認したことから、記録保存のための発掘調査を実施した農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業に伴う物見塚遺跡発掘調査（2次）の結果を記したものです。

物見塚遺跡は、京戸川扇状地の扇央部にあり、山梨県内にある縄文時代の遺跡の中でも屈指の規模をもつ釈迦堂遺跡群の南東約400メートルに位置します。発掘調査によって、縄文時代早期末から前期初頭を中心とする竪穴建物跡や土坑などが発見されました。また、およそ2万年前と考えられる旧石器時代の黒曜石の石器群もまとまって見つかったことから、当時の人々がここで石器を作っていたことが明らかになるなど、先人の生活していた証を発見することができました。これらの成果が、本遺跡も含めた周辺地域の様相について、新たな視点で検証されることになれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にご理解、ご協力をいただいた関係機関並びに関係者各位、調査を担当していただいた財団法人山梨文化財研究所に感謝申し上げますとともに、本書が広く活用されますことをご期待申し上げます。

平成22年3月15日

笛吹市教育委員会

教育長　山　田　武　人

例　言

1．本書は、山梨県笛吹市一宮町南野呂1254、1257-1に所在する、物見塚遺跡（２次）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釈迦堂地区における農道建設工事に先立って実施されたもので、山梨県峡東農務事務所の委託を受けた財団法人山梨文化財研究所が、発掘調査および整理作業にあたった。
3．本書の執筆は平野修、編集等は望月秀和と平野が行った。
4．発掘調査および整理作業において一部の業務を以下の機関に委託した。
　基準点・写真測量　テクノプランニング㈱
　テフラ分析　㈶山梨文化財研究所
　炭化種実同定　㈱パレオ・ラボ
5．本書に関わる記録図面・写真・出土遺物等は、笛吹市教育委員会が保管している。
6．本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位から多大なるご指導・ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である（順不同、敬称略）。
　山梨県峡東農務事務所、笛吹市教育委員会、山梨県教育委員会、石器石材研究会、明治大学地理学研究室、明治大学文化財研究施設、釈迦堂遺跡博物館、㈱エンドレス、小渕忠秋、伊藤修二、瀬田正明、望月和幸、野崎　進、鷹野義朗、櫛原功一、中山千恵、秋山圭子、猪股喜彦、網倉邦生、村松佳幸、保坂康夫、河西　学、入江千晶、弦巻賢介、佐藤裕亮、金木利憲

凡　例

1．遺構・遺物の縮尺は、原則として各図ごとに示している。
2．第１図で使用している地図は、国土地理院発行『甲府』（1：200,000）を使用している。
3．遺物の挿図番号は、連番で付しており、遺物分布図および観察表・本文中・写真図版中の番号は対応している。
4．遺物実測図の縮尺は、1/3である。
5．遺構図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。
　石　 　焼土　
6．遺構図版中および土器観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務所監修　1990『新版　標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄）による。

目　次

例　言
凡　例
第Ⅰ章　調査に至る経緯 …… 1
第Ⅱ章　調査の経過 …… 1
第Ⅲ章　調査の方法と基本層序 …… 5
第Ⅳ章　遺跡の立地環境と周辺遺跡 …… 7
第Ⅴ章　発見された遺構と遺物 …… 9
第Ⅵ章　物見塚遺跡の旧石器時代石器群 …… 52
第Ⅶ章　山梨県笛吹市物見塚遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定 …… 62

第Ⅷ章　物見塚遺跡のテフラ …… 73
第Ⅸ章　物見塚遺跡出土の炭化種実 …… 79
第Ⅹ章　まとめ …… 81
参考文献
抄録・奥付

表目次

第１表　京戸川周辺の遺跡 …… 8
第２表　SK（土坑・ピット）一覧表 …… 16
第３表　出土遺物観察表（土器類） …… 42
第４表　出土遺物観察表（石器類） …… 46
第５表　出土遺物観察表（旧石器類） …… 61
※第Ⅶ章・第Ⅷ章・第Ⅸ章における挿表番号は、各章内で完結している

図版目次

第１図　調査地位置図 …… 4
第２図　調査グリッド図 …… 5
第３図　基本層序図 …… 6
第４図　周辺の遺跡 …… 8
第５図　調査区全体図 …… 19・20
第６図　笛吹市側調査区全体図（1） …… 21・22
第７図　笛吹市側調査区全体図（2） …… 23・24
第８図　SI1・2 …… 25
第９図　SI3・4 …… 26
第10図　SI5 …… 27
第11図　SI6～10・SK45～56（1） …… 28
第12図　SI6～10・SK45～56（2） …… 29
第13図　SI11～14（1） …… 30
第14図　SI11～14（2） …… 31
第15図　SK11・12・23・28・29・36～44・107～109 …… 32
第16図　SK57～69 …… 33
第17図　SK70～78・86 …… 34
第18図　SK79・80・83～85・89～92・94～105・110～112（1） …… 35
第19図　SK79・80・83・89～91・94～103・105・110～112（2） …… 36
第20図　SD2～4・SK19～22・24～26・30～35 …… 37
第21図　SK21・22・24・30～35・プレA地点 …… 38
第22図　旧石器時代石器群出土状況図 …… 39・40
第23図　プレB地点 …… 41
第24図　SI出土遺物 …… 47
第25図　SK・SD出土遺物 …… 48
第26図　遺構外・表土出土遺物、石器（1） …… 49

第27図　石器（2）…… 50
第28図　石器（3）…… 51
第29図　出土石器数と垂直分布図 …… 54
第30図　旧石器時代石器（1）石器 …… 56
第31図　旧石器時代石器（2）背面単方向剥片 …… 57
第32図　旧石器時代石器（3）背面上下方向剥片 …… 58
第33図　旧石器時代石器（4）接合資料、背面自然面剥片 …… 59
第34図　旧石器時代石器（5）調整剥片 …… 60
※第Ⅶ章・第Ⅷ章・第Ⅸ章における挿図番号は、各章内で完結している

写真図版目次

図版１　物見塚遺跡遠景（北西から）
図版２　物見塚遺跡遠景（南東から）
図版３　調査前状況（南西から）
図版４　調査区全景（上が南）
図版５　調査区東側完掘状況（上が南）
調査区中央部完掘状況（上が南）
図版６　調査区西側完掘状況（上が南）
調査区全景（東から）
図版７　重機による表土剥ぎ作業風景
調査前状況（東から）
図版８　調査区近景（西から）
調査区近景（北から）
図版９　SI1 遺物出土状況（1）
SI1 完掘状況
SI1 南北セクション
SI1 炉セクション
SI1 炉完掘状況
SI1 炉周辺遺物出土状況
SI1 出土遺物
SI2 遺物出土状況
図版10　SI2 炉完掘状況
SI2 完掘状況
SI2 出土遺物（1）
SI2 出土遺物（2）
SI2 出土遺物（3）
SI3・4、SK14 遺物出土状況
SI3・4、SK14 完掘状況
SI3 炉掘りかた完掘状況
図版11　SI4 出土遺物（1）
SI4 出土遺物（2）
SI5 完掘状況
SI5 硬化面確認状況
SI5 炉掘りかた完掘状況
SI5Pit1 完掘状況
SI5 出土遺物（1）
SI5 出土遺物（2）
図版12　SI5 出土遺物（3）
SI5 出土遺物（4）
SI6・7・8・9・10 完掘状況
SI6 遺物出土状況
SI6 焼土範囲確認状況
SI6 炉掘りかた完掘・セクション
SI6 出土遺物
SI7 遺物出土状況
図版13　SI7 出土遺物
SI8 焼土範囲確認状況
SI8 炉掘りかた完掘状況
SI8 出土遺物（1）
SI8 出土遺物（2）
SI8 出土遺物（3）
SI9 遺物出土状況
SI9 出土遺物（1）
図版14　SI9 出土遺物（2）
SI11 完掘状況（1）
SI11 完掘状況（2）
SI11 炉掘りかた完掘状況
SI11 出土遺物（1）
SI11 出土遺物（2）
SI11 出土遺物（3）
SI11 出土遺物（4）
図版15　SI11 出土遺物（5）
SI12 遺物出土状況

SI12 完掘状況
SI12 出土遺物（1）
SI12 出土遺物（2）
SI13 遺物出土状況
SI13 出土遺物
SI14・SK93 完掘状況
図版16 SI14 出土遺物
SK10 完掘状況
SK11 完掘状況
SK12・23 完掘状況
SK13 完掘状況
SK14 完掘状況
SK14 出土遺物（1）
SK14 出土遺物（2）
図版17 SK14 下層出土遺物（1）
SK14 下層出土遺物（2）
SK16 完掘状況
SK17（手前）・18 完掘状況
SK19（右）・20 完掘状況
SK21・22・24・27 完掘状況
SK22 完掘状況
SK22 出土遺物（1）
図版18 SK22 出土遺物（2）
SK22 出土遺物（3）
SK23 出土遺物（1）
SK23 出土遺物（2）
SK25・26 完掘状況
SK27 遺物出土状況
SK27 出土遺物（1）
SK27 出土遺物（2）
図版19 SK28 完掘状況
SK29 完掘状況
SK30 完掘状況
SK30 出土遺物（1）
SK30 出土遺物（2）
SK31 完掘状況
SK32 完掘状況
SK33 完掘状況
図版20 SK33 出土遺物
SK34（右）・35 完掘状況
SK36 完掘状況
SK36 出土遺物（1）
SK36 出土遺物（2）
SK37 完掘状況
SK38 完掘状況
SK38 出土遺物
図版21 SK39 完掘状況
SK40 完掘状況
SK40 出土遺物
SK41 完掘状況
SK42 完掘状況
SK43 完掘状況
SK43 出土遺物
SK44 完掘状況
図版22 SK45（左）・46 完掘状況
SK47 完掘状況
SK48（右）・49（中）・50 完掘状況
SK51 完掘状況
SK52 完掘状況
SK53 完掘状況
SK53 出土遺物
SK54（中）・55（左）・56 完掘状況
図版23 S57（右）・58 完掘状況
SK59 完掘状況
SK60 完掘状況
SK60 出土遺物
SK61 完掘状況
SK61 出土遺物
SK62 完掘状況
S63（右）・64 完掘状況
図版24 SK65 完掘状況
SK66 完掘状況
SK67 完掘状況
SK68 完掘状況
SK69 完掘状況
SK70 完掘状況
SK71 完掘状況
SK72（左）・73 完掘状況
図版25 SK74 完掘状況
SK74 出土遺物
SK75（手前）・76（奥）・77 完掘状況
SK77 完掘状況
SK78 完掘状況
SK78 出土遺物
SK79・85・104 完掘状況
SK80（左）・94 完掘状況

図版26　SK81 完掘状況
SK82 完掘状況
SK83・104（左）完掘状況
SK86 完掘状況
SK86 出土遺物
SK87（左）・88 完掘状況
SK89（手前）・90 完掘状況
SK89・90 完掘状況
図版27　SK89 出土遺物
SK90 出土遺物
SK91 完掘状況
SK91 出土遺物
SK92 完掘状況
SK92 出土遺物
SK93 完掘状況
SK95・96・97・98 完掘状況
図版28　SK99（手前）・100・101 完掘状況
SK101 出土遺物
SK105 遺物出土状況
SK105 出土遺物
SK105 完掘状況
SK106 完掘状況（1）
SK106 完掘状況（2）
SK107 完掘状況
図版29　SK107 遺物出土状況（1）
SK107 遺物出土状況（2）
SK108 遺物出土状況（1）
SK108 遺物出土状況（2）
SK108 遺物出土状況（3）
SK109 遺物出土状況
SK110・111 完掘状況
SK112 完掘状況
図版30　SD2・3 完掘状況
SD4 完掘状況
プレ A 地点遺物出土状況（1）
図版31　プレ A 地点遺物出土状況（2）
プレ A 地点遺物出土状況（3）
図版32　プレ A 地点東西セクション、遺物出土状況
プレ A 地点出土遺物（1）
プレ A 地点出土遺物（2）
プレ A 地点出土遺物（3）
プレ A 地点出土遺物（4）
図版33　プレ A 地点出土遺物（5）
プレ A 地点出土遺物（6）
プレ A 地点出土遺物（7）
プレ A 地点出土遺物（8）
プレB地点遺物出土状況およびセクション
図版34　プレ B 地点火山灰分析土壌サンプリング箇所セクション
火山灰分析土壌サンプリング状況
調査風景（1）
調査風景（2）
調査風景（3）
図版35　出土土器（1）
図版36　出土土器（2）
図版37　出土土器（3）
図版38　出土土器（4）
図版39　出土土器（5）
図版40　出土石器（1）
図版41　出土石器（2）
図版42　旧石器時代石器（1）
図版43　旧石器時代石器（2）
図版44　物見塚遺跡から出土した炭化種実

第Ⅰ章　調査に至る経緯

山梨県が計画を進めていた県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釈迦堂地区における農道建設工事計画は、笛吹市および甲州市の両市にまたがっており、それぞれ「物見塚遺跡」として埋蔵文化財包蔵地が存在していたため、笛吹市教育委員会と甲州市教育委員会は、事業主である山梨県峡東農務事務所と協議をおこなった結果、果樹の収穫後、県が用地を買収した時点で、遺構の内容および検出面の深度等を把握するための試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は、笛吹市教育委員会が平成20年12月1日から同年12月8日まで実施した。その結果、縄文式土器の散布や、縄文時代を中心とする竪穴建物跡や土坑などが確認されたことから、笛吹市教育委員会は再度調査対象地について山梨県峡東農務事務所と協議をおこない、笛吹市教育委員会による現場監理のもとで財団法人山梨文化財研究所が発掘調査を実施する体制にて、記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することとなった。山梨県峡東農務事務所、笛吹市教育委員会、財団法人山梨文化財研究所による三者協定書を締結し、笛吹市教育委員会は平成20年12月19日付けで、山梨県教育委員会に文化財保護法92条に基づく埋蔵文化財発掘の届出を提出し、同年12月24日から発掘調査に着手した。

【調査体制】

○調 査 主 体　　財団法人山梨文化財研究所　理事長　冲永荘八

○調査担当者　　平野　修（財団法人山梨文化財研究所　考古第3研究室長）

○発掘調査参加者（五十音順）

大久保一吉、櫛原ゆかり、鮫田勝夫、高野まゆみ、田中健二、辻　妙子、筒井　聡、
中込　榊、中澤　保、能登瑛志、萩原　忠、望月　明、若林豊美、渡辺嘉子

○整理作業参加者（五十音順）

岩崎満佐子、角屋さえ子、櫛原ゆかり、須田泰美、竜沢みち子、西海真紀、林　紀子、
広瀬悦子、藤原五月、古郡　明、望月秀和

○指導・監督・助言　　笛吹市教育委員会

第Ⅱ章　調査の経過

平成20(2008)年

12月24日(水)　甲州市地内調査区の重機による表土層除去作業開始。

12月25日(木)　笛吹市地内調査区の重機による表土層除去作業。

12月26日(金)　重機による表土層除去作業すべて終了、凍結防止のため現場養生作業、年内は本日にて調査終了。

平成21(2009)年

1月6日(火)　本調査再開。甲州市地内調査区から着手。人力による遺構確認作業開始。基準点お

よびグリッド設定。

1月7日(水)　SD1新設、同遺構掘り下げ、出土遺物取上、撹乱掘り下げ。

1月8日(木)　SD1掘り下げ、同遺構出土遺物個別写真撮影し随時取上、同遺構調査区北側南面セクション写真撮影および光波測量。

1月9日(金)　降雪のため現場作業休止

1月12日(月)　SD1掘り下げ、同遺構出土遺物個別写真撮影し随時取上、土坑状遺構および撹乱掘り下げ。

1月13日(火)　SK1・2・3新設、同遺構セクション写真撮影、SD1南側セクション写真撮影。

1月14日(水)　SK1・2・3セクションおよびSD1南側セクション光波測量、SK4新設、同セクション写真撮影および光波測量、SD1遺物出土状況および完掘、SK2・3完掘写真撮影。

1月15日(木)　SK5～9新設、同遺構セクション・完掘写真撮影および光波測量、笛吹市地内調査区遺構確認作業および撹乱掘り下げ作業開始。

1月16日(金)　笛吹市地内調査区にて遺構確認作業、SI1新設、同遺構南北セクション写真撮影および光波測量、遺物出土状況写真撮影および遺物取上、その他土坑状・ピット状・溝状遺構等掘り下げ。

1月19日(月)　甲州市地内調査区の写真測量実施に伴う写真撮影および笛吹市地内調査区内グリッド設定、甲州市地内調査区完掘全景等写真撮影、笛吹市地内調査区内SI2およびSK10～18新設、各遺構セクション写真撮影および光波測量。

1月20日(火)　SI1炉跡調査、SI2東西セクション写真撮影および光波測量、遺物出土状況写真撮影および遺物取上、SK19～23新設

1月21日(水)　SI1・2柱穴ピット調査、SI3・4新設、同遺構南北セクション写真撮影および光波測量、SK24～26新設、SK21・22・24セクション写真撮影および光波測量。

1月22日(木)　SI1完掘状況写真撮影、SI2炉跡調査、SK25～28完掘写真撮影、SK27～29新設、X4～5Y8～9グリッドエリア内遺構確認精査。

1月23日(金)　SI3・4柱穴ピット調査、同ピットセクション光波測量、SK28等完掘写真撮影、X4～6Y9～10グリッドエリア内遺構確認精査。

1月26日(月)　SK30～32新設、SI2炉跡調査後完掘写真撮影、SI3・4完掘写真撮影、X4～6Y9～10グリッドエリア内遺構確認精査。

1月27日(火)　SK33～41新設およびセクション写真撮影および光波測量、SK30～31遺物出土状況兼完掘状況写真撮影、SD2・3新設。

1月28日(水)　SI5新設、SK39等完掘写真撮影、SD2・3南西セクション写真撮影および光波測量。

1月29日(木)　SI5東西セクション写真撮影および光波測量、遺物出土状況写真撮影、炉跡調査、SD4新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量機、X4～6Y9～10グリッドエリア内遺構確認精査。

1月30日(金)　SI5柱穴ピット調査および完掘状況写真撮影、SK42～44新設、セクション写真撮影および光波測量、SD2～4完掘状況写真撮影。

2月2日(月)　SI6～10新設、SK45～51新設、SI8・9・SK47～48東西セクション、SI8・SK45～46南北セクション、SI6・9・SK51南北セクション写真撮影、SK42～44完掘状況写真撮影。

2月3日(火)　SI8・9・SK47～48東西セクション、SI8・SK45～46南北セクション、SI6・9・SK51南北セクション光波測量、SK52新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、X6～8Y10～12グリッドエリア内遺構確認精査。

2月4日(水)　SI6･7･8･9遺物出土状況写真撮影および遺物取上、SK53～66新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、SK45～52完掘状況写真撮影。

2月5日(木)　SI6・7・8・9・10完掘状況写真撮影、SK67～69新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、SK53～69完掘状況写真撮影。

2月6日(金)　X7～9Y12～15グリッドエリア内遺構確認精査。

2月9日(月)　X8～10Y13～15グリッドエリア内遺構確認精査。

2月10日(水)　SK70～78新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、X8～10Y13～15グリッドエリア内遺構確認精査。

2月11日(木)　SK70～73・75～78完掘状況写真撮影、SK79～80新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、X8～10Y13～15グリッドエリア内竪穴状遺構落ち込み掘り下げ、調査区北東隅撹乱内にて旧石器時代遺物を確認。

2月12日(月)　SI11新設、同遺構東西南北セクション写真撮影および光波測量、SK81～85新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量。

2月13日(火)　SI12・13・14新設、SK84～94新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量。旧石器時代石器を発見。

2月16日(水)　SI11・12・13遺物出土状況写真撮影および遺物取上、SK95～104新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、SK79・81・83・86～90・104完掘状況写真撮影。

2月17日(木)　SI11･12･13･14完掘状況写真撮影、SI11炉調査、SK105～106新設、同遺構セクション写真撮影および光波測量、SK93・95～98・105完掘状況写真撮影。

2月18日(木)　ラジコンヘリによる遺跡景観写真撮影および笛吹市地内調査区写真測量実施、同調査区完掘全景写真撮影、X3～5Y6～8グリッド域にて旧石器時代調査開始。

2月19日(木)　SK107～109新設、同遺構セクション写真撮影および遺物出土状況写真撮影および遺物取上、SI11・12・SK106を含む調査区南面セクション光波測量。

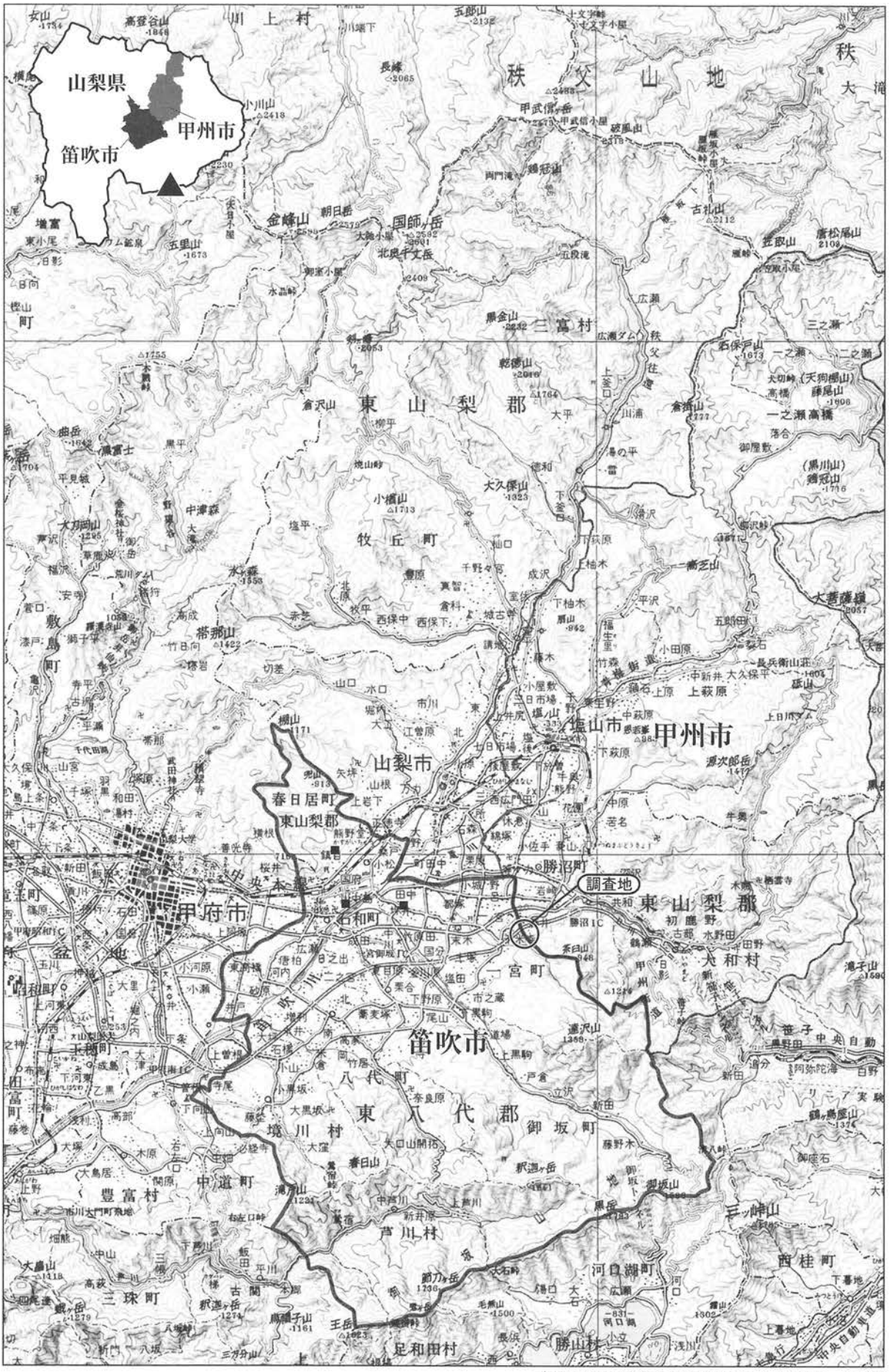
2月20日(金)　降雨のため現場作業休止、室内にてデータ整理。

2月23日(月)　X8～10Y14～15グリッド域において旧石器時代調査。

2月24日(火)　SK107～109完掘状況写真撮影、X9～10Y14～15グリッド域およびX4～5Y7グリッド域において旧石器時代調査。

2月25日(水)　X9～10Y14～15グリッド域をプレA地点としX4～5Y7グリッド域をプレB地点とする、プレA地点東西南北セクション光波測量。

2月26日(木)　プレA地点およびプレB地点における遺物出土状況写真撮影および遺物取上、両地点において火山灰分析のための土壌サンプルを採取、SK110～112新設、同遺構セクション写



（国土地理院発行 20 万分の 1 を加工・加筆）

第 1 図　調査地位置図

真撮影および光波測量。

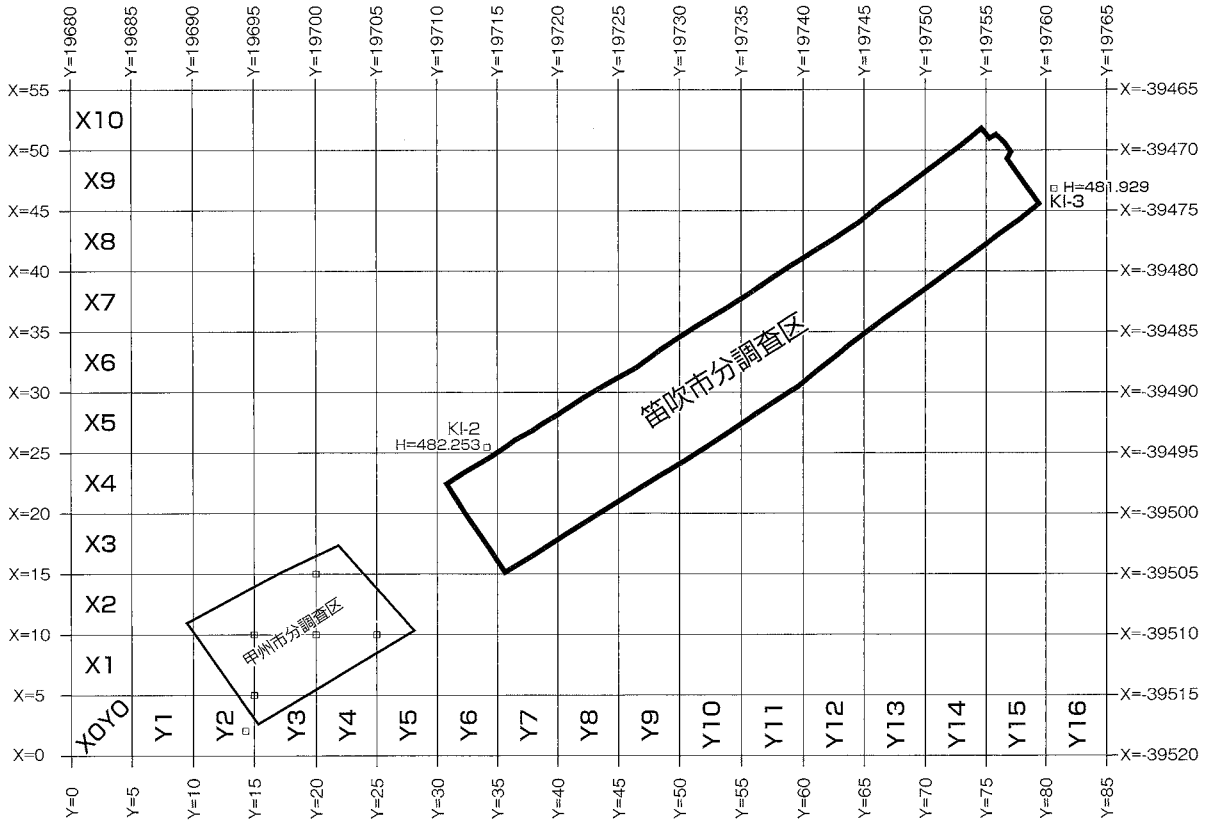
２月27日(金)　SK110～112完掘状況写真撮影、プレＢ地点東西セクション写真撮影および光波測量、機器材撤収作業。

３月以降は、一部出土遺物洗浄作業および本報告書掲載用遺構図版を作成するための光波測量データの整理作業をおこなった。

第Ⅲ章　調査の方法と基本層序

発掘調査は、前述のとおり本調査実施予定地が甲州市と笛吹市の両市にまたがっていることから、「甲州市分調査区」と「笛吹市分調査区」に分けておこなった。重機による表土剥ぎ作業は、甲州市地内調査区から実施した。表土剥ぎ終了後、開発対象地全体を覆うように国土座標にあわせて、南北方向をＸ軸、東西方向をＹ軸とし、５ｍメッシュを基本とするグリッドを設定した。南西隅を基点として、世界測地系座標Ｘ＝－39520.000、Ｙ＝19680.000を原点（X=0、Y=0）としている。グリッドの名称は南北方向を南からＸ０・Ｘ１・Ｘ２･･･、東西方向を西からＹ０・Ｙ１・Ｙ２･･･とし、南西隅を基点として、Ｘ１Ｙ１グリッドと呼称した。

遺構調査については、すべて人力にて覆土を除去し、発生土の排出についても人力にておこなった。確認された遺構は、構築年代の新しいものから順次おこなったが、一部新旧関係が不明確な重複した遺構については、同時に調査をおこない、土層観察等によって新旧関係の決定をおこなった。出土した遺物は、原位置が判明するすべての土器片や石器片等の遺物は、光波測量機によって各出



第２図　調査グリッド図

土地点ごとにナンバリングして取り上げた。遺構の断面(セクション)測量についても光波測量とし、平面図については、写真測量も併用した。測量図は光波測量は1/20、写真測量は1/40を基本とした。

光波測量に用いた機器およびシステムは以下のとおりである。

○光波測量機　　TOPCONGTS-320F Ⅱ A

○データコレクタ　　PanasonicTOUGHBOOKCF-18

○取り上げ・図化ソフト　アイシン精機株式会社製　遺構くん aiVer1.50

なお、遺構の名称は、以下ような略称を使用した。

○竪穴建物・竪穴状遺構･･･ＳＩ、○溝状遺構･･･ＳＤ、○土坑およびピット･･･ＳＫ

○不明･･･ＳＸ

基本層序については、当該遺跡地が扇状地であるため、均一的な堆積状況ではないことを考慮に入れつつ、旧石器時代の調査の際に笛吹市地内調査区東端部（プレＡ地点）での状況を示す。プレＡ地点では、現表から約1.8ｍの深度まで掘り下げ、Ⅰ層からⅧ層まで分層した。なお、笛吹市・甲州市両地内の調査区ともに、土壌改良に伴う天地返しや、石の切り出し等で広範に撹乱を受けており、特に甲州市地内調査区では、表土層直下で基盤層の一つである黄褐色砂質土が露出したことから、ここでは、層序を示すことができない。土層色調標記については、『新版標準土色帳』13版（農林省水産技術会議事務所監修　小山正忠・竹原秀雄編・著　1993）に準拠している。

〈基本層序説明〉

第Ⅰ層　表土層（整地層・撹乱等も含む）遺物包含層、小礫・炭化物等含む、約15㎝ほど残存

第Ⅱ層　黒褐色砂質土（10YR2/2）縄文時代早期末以降の遺物包含層、炭化物粒、小礫、黄褐色土ブロックを含む

第Ⅲ層　褐色砂質土（10YR4/6）縄文時代遺構の掘り込み層位、黄褐色土・黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒含む

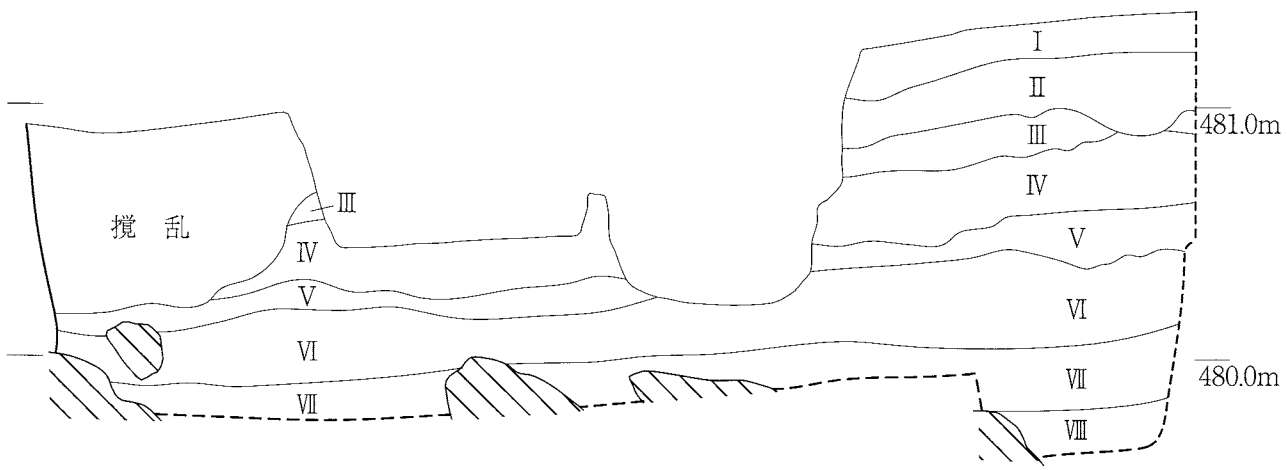
第Ⅳ層　暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土・黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒、1㎜大スコリア含む

第Ⅴ層　黄褐色砂質土（10YR5/6）暗褐色土ブロック、花崗岩粒、1～2㎜大スコリア含む、炭化物粒微量含む

第Ⅵ層　明黄褐色砂質土(10YR6/8)2～5㎜大スコリア、花崗岩粒〈第Ⅴ層よりやや少ない〉含む、風化した花崗岩・石英閃緑岩含む

第Ⅶ層　オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/6）小礫やや多く含む、花崗岩粒、5㎜大スコリア極少含む、風化した花崗岩・石英閃緑岩含む

第Ⅷ層　オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/4）小礫やや多く含む、花崗岩粒含む、風化した花崗岩・石英閃緑岩含む



第３図　基本層序図

第Ⅳ章　遺跡の立地環境と周辺遺跡

物見塚遺跡は、甲府盆地東南部、御坂山地の北麓、笛吹市一宮町と甲州市勝沼町にまたがって分布する京戸川扇状地の扇頂部近くに立地している。遺跡の南側には蜂城山（738 m）、南東側には茶臼山、大沢山などがそびえ立ち、遺跡地の標高は480 m前後を測る。京戸川扇状地は、北を田草川、南側を京戸川および御手洗川によって囲まれる矩形の扇状地で、甲府盆地に発達する扇状地の中では、最も傾斜の大きい急傾斜扇状地である。扇状地の上半部は、巨礫を含む土石流堆積物による土石流凸地であり、あたかも動物の背のように突出した高まりが幾重にも重なった状態で分布しており、地形の微起伏が著しい。まとまった平坦面も少なく、遺跡もこうした突出した高まりの地形面に立地している。扇頂部の水分付近には、諏訪池と呼ばれる湧水池があり、その池にまつわる雨乞いの風習が現在でも残っているという。

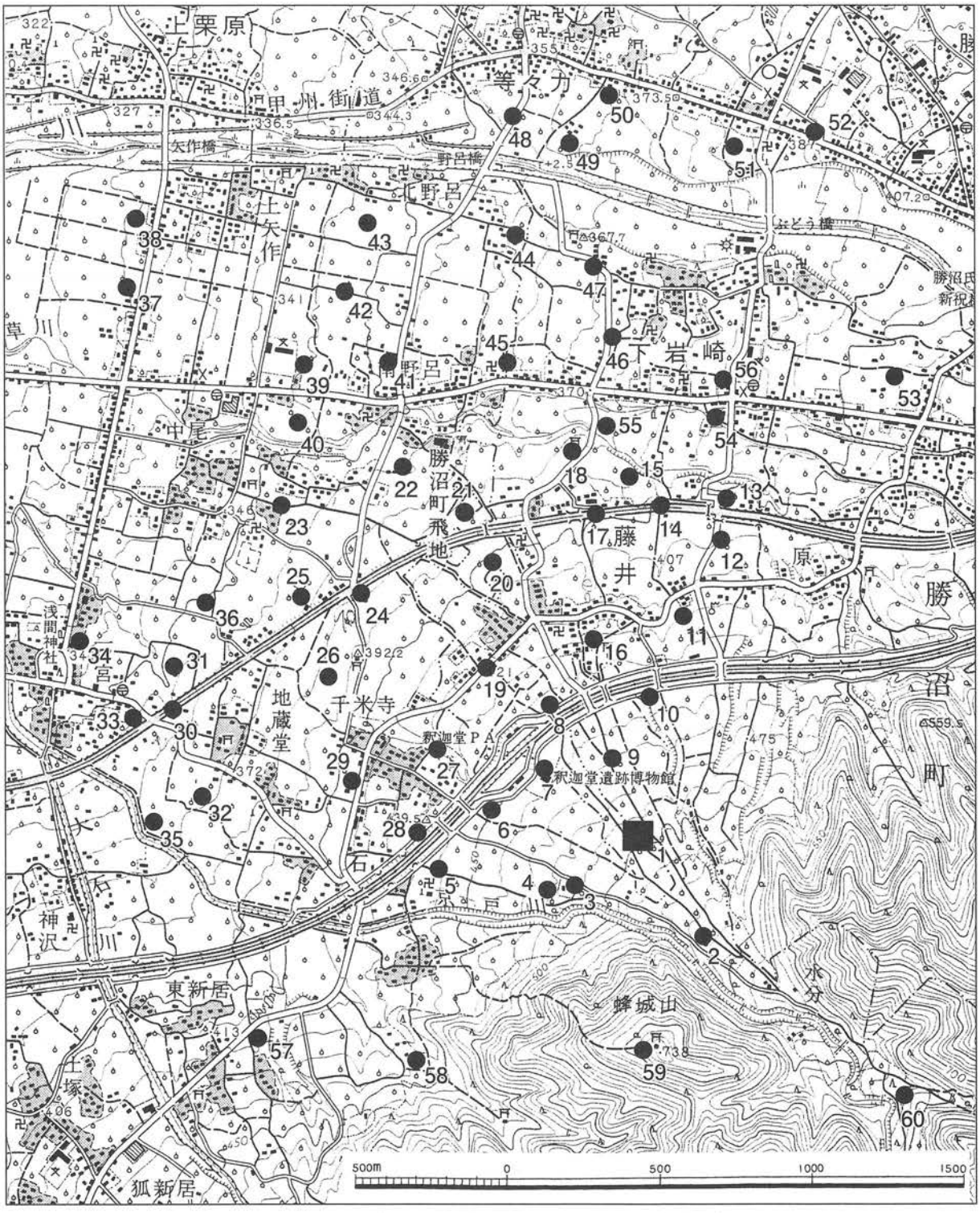
京戸川扇状地には数多くの遺跡が分布している。旧石器時代の遺跡では、釈迦堂遺跡群の塚越Ａ地区があり、ナイフ形石器、スクレーパー、ブレード、ドリルなどが出土している。縄文時代早期の遺跡では、釈迦堂遺跡群塚越北ＡおよびＢ地区で、神ノ木台式期、三口神平地区で下吉井式期の集落跡が発見されている。縄文時代前期の遺跡では、釈迦堂遺跡群塚越北Ａ地区で諸磯ａ式期・ｂ式期の集落が発見されている。縄文時代中期の遺跡では、釈迦堂遺跡群で中期初頭五領ヶ台式期から後葉の曽利式期の大規模集落跡が発見されている。特筆すべきは、1,116個体に及ぶ土偶が出土していることで、これら土偶は国の重要文化財に指定されている。縄文時代後期・晩期の遺跡は少ないが、釈迦堂遺跡群塚越北Ｂ地区で後期初頭の竪穴建物跡が検出されている。

弥生時代の遺跡は、京戸川扇状地でもその下半部の泥流舌状地に主に分布している。旧東八代郡一宮町域の中尾条里遺跡（亀沢遺跡）で後期の水田遺構が発見されている。田村遺跡では後期の方形周溝墓が１基検出されており、山梨県内で初めて発見された周溝墓として学史的にも重要である。

古墳時代の遺跡では、扇頂部から扇央部にかけて千米寺･石古墳群という群集墳が分布している。一宮町誌（1977）の段階では総数36基が確認されおり、その後の調査分析でかつては68基の古墳が存在していたと確認されている。発掘調査された事例は少ないが、大塚古墳と釈迦堂遺跡群塚越北Ａ地区で発見された釈迦堂１号墳が発掘調査されており、７世紀後半代の所産とされている。

奈良・平安時代の遺跡も京戸川扇状地では調査例が少ない。その中でも釈迦堂遺跡群釈迦堂地区で鉄製人形や須恵器坏・蓋などが出土した小竪穴遺構は、祭祀遺構として注目される。同遺跡群野呂原地区で皇朝銭である隆平永宝を伴う９世紀後半代の竪穴建物跡が１軒のみ検出されている。天神堂遺跡では、８世紀～９世紀代の竪穴建物跡と掘立柱建物跡が発見されている。方形周溝墓が発見された田村遺跡でも、９～10世紀代の竪穴建物跡が検出されている。

中世以降の遺跡では、岩崎館跡が京戸川扇状地扇端部に位置し、館北縁に沿って坂戸川が南流し急崖を形成している。昭和50年に勝沼バイパス建設に伴い実施された発掘調査では、15世紀初頭とされる古瀬戸が出土している。また蜂城山は山城、茶臼山は烽火台とされている。



第４図　周辺の遺跡（国土地理院発行 1/25,000「石和」使用）1/20,000

第１表　京戸川周辺の遺跡

1.物見塚	2.日向林	3.山道添	4.鐙塚A	5.鐙塚B	6.塚越北A
7.三口神平	8.野呂原	9.末新田	10.西藤塚	11.大築地	12.雁屋敷
13.岩崎館跡	14.御所畑	15.天神堂	16.上野	17.白川・寺平	18.鉢塚古墳
19.藤井田	20.松本	21.馬込	22.宮田	23.地蔵久保1	24.地蔵久保2
25.妻神	26.本木	27.釈迦堂	28.若宮	29.南屋敷	30.西田
31.西田北	32.十二社	33.田村	34.桜坪	35.柳田	36.早川氏屋敷
37.中尾条里北宮海道	38.桜坪	40.穴地蔵	41.中尾条里神ノ木	42.中尾条里	43.塚田
44.卯ツ木田	45.辻氏屋敷	46.竹之後	47.小泉	48.福泉寺	49.箕輪
50.古町屋	51.富士塚	52.宮之上	53.三本榎	54.祝古墳群	55.古婦毛
56.東畑	57.上三口神	58.桧山田	59.蜂城山	60.東泉寺跡	

第Ⅴ章　発見された遺構と遺物

笛吹市分の調査区の実質調査面積は、旧石器時代調査箇所も含めて469.7㎡で、発見された遺構は、ＳＩ（竪穴建物・竪穴状遺構）14軒、ＳＫ（土坑・ピット）103基、ＳＤ（溝状遺構）３条である。

第１節　縄文時代およびその他の時代の遺構・遺物

１．ＳＩ（竪穴建物）

ＳＩ１（遺構第８図／遺物第24・27図）

（位置）X4・Y6グリッドに位置している。（重複・検出状況）SI2とSK108と重複し、両遺構を切り込んで構築している。竪穴北西側の1/3程度が調査区外にかかり全容は不明。（形態・規模等）形態は不整長楕円形を呈するものと思われる。規模は検出された範囲で東西約4.6ｍ、南北3.4ｍを測る。（壁・周溝・床等）周溝は検出されていない。壁は最大44㎝程度で、緩やかに立ち上がる。床も炉周辺以外は極めて軟弱である。（柱穴）柱穴と思われるピットはP1～P4・P6で、壁際付近で検出されている。P5・7はSI2に伴うものと思われる。（炉）地床炉だと思われ、竪穴中央部に自然露出した花崗岩周辺に焼土範囲が認められ、その下部に不整方形状の長軸0.95ｍ、短軸0.75ｍの深さ10㎝程度の浅い掘りかたを有する。（出土遺物）縄文時代早期末から前期初頭と思われる繊維を含んだ土器小片がP1や炉周辺において散在的に出土している。その他チップ状の黒曜石片や、石皿の形状ではないが、磨面を有する扁平な礫片等も少量出土している。（時期）出土遺物等から縄文時代早期末から前期初頭と思われる。

ＳＩ２（遺構第８図／遺物第24図）

（位置）X4・5Y6・7グリッドに位置している。（重複・検出状況）SI1と重複し、竪穴中央部分は現代のトレンチャーによって南北方向に破壊されている。竪穴北西側の1/2以上が調査区外にかかり全容は不明。（形態・規模等）不整長楕円形を呈すると思われ、規模は検出された範囲で東西約2.4ｍ、南北約2.8ｍを測る。（壁・周溝・床等）周溝は検出されていない。壁は最大36㎝程度で、比較的鋭角に立ち上がる。床は炉周辺以外は極めて軟弱である。（柱穴）柱穴と思われるピットはP1～P6、SI1内P5・7が柱穴と思われる。いずれも壁際で検出されている。（炉）地床炉だと思われ、竪穴中央部の南壁寄りに、トレンチャーによって破壊されながらも焼土範囲が認められ、その下部に不整方形状の長軸0.65ｍ、短軸0.53ｍ、深さ10㎝程度の浅い掘りかたを有する。（出土遺物）遺物量は少ない。縄文時代早期末から前期初頭と思われる繊維を含んだ土器小片数片等が出土している。（時期）出土遺物等から縄文時代早期末から前期初頭と思われる。

ＳＩ３（遺構第９図／遺物第24図）

（位置）X3・4Y6・7グリッドに位置している。（重複・検出状況）SI4、SK14と重複する。SI4を切り込んで構築し、SK14には覆土上面から切り込まれている。また竪穴北西側は南東隅は試掘時のトレンチによって破壊され、西壁の一部が調査区外にかかり全容は不明。（形態・規模等）形態は不整長楕円形を呈するものと思われる。規模は検出された範囲で東西約3.0ｍ、南北約3.9ｍを測る。（壁・周溝・床等）周溝は検出されていない。壁は最大24㎝程度で、比較的鋭角に立ち上がる。

床は全体的に軟弱である。(**柱穴**) 竪穴壁際においてP1～P8のピットが検出されたが、柱穴と考えられるものは、その配置からP1・3・5・7・8か。(**炉**) 地床炉だと思われ、竪穴中央部のやや北寄りに、トレンチャーおよびSK13によって破壊されながらも、わずかに焼土の散布が認められ、その下部に不整方形状の長軸0.9m、短軸現状で0.41m、深さ約4cm程度の浅い掘りかたを有する。(**出土遺物**) 出土遺物はない。(**時期**) SK13との重複関係から縄文時代早期末から前期初頭以前か。

ＳＩ４ (遺構第9図／遺物第24図)

(**位置**) X3・4Y7グリッドに位置している。(**重複・検出状況**) SI3、SK27と重複する。SI4に切り込まれて構築され、竪穴西側の半分以上をSI3によって破壊されている。SK27との新旧関係は不明確。(**形態・規模等**) 楕円形を呈すると思われ、現状での南北軸約3.4mを測る。(**壁・周溝・床等**) 周溝は検出されていない。壁は最大22cm程度で、緩やかに立ち上がる。床は全体的に軟弱である。(**柱穴**) ピットはP1～6までの計6基検出されているが、柱穴と考えられるものは、P1·3·6か。(**炉**) 炉の痕跡と思われる焼土の散布も認められず検出できなかった。(**出土遺物**) 出土遺物は極めて少ない。縄文時代早期末から前期初頭と思われる繊維を含んだ土器小片数片等が出土している。(**時期**) 出土遺物や重複関係から縄文時代早期末から前期初頭と思われる。

ＳＩ５ (遺構第10図／遺物第24・27図)

(**位置**) X4・5Y8グリッドに位置している。(**重複・検出状況**) SD3と重複。竪穴西壁部分を切り込まれており、さらに竪穴中央部分では現代のトレンチャーによって破壊されている。(**形態・規模等**) 長楕円形を呈し、現状での東西軸4.08m、南北軸2.7mを測る。(**壁・周溝・床等**) 周溝は検出されていない。壁は東壁で約26cm程度で、比較的鋭角に立ち上がっている。床は炉周辺部に堅固な硬化面が認められるものの他は概して軟弱である。(**柱穴**) ピットはP1～P9の9基検出されており、P7を除いた他のピットが柱穴と考えられる。またP3・5・7には抜き取り痕跡が認められる。(**炉**) 竪穴中央部やや東壁寄りに、焼土の散布が顕著に認められ、トレンチャーによって半分程度破壊されているが、その焼土の下部には不整方形状の長軸0.92m、短軸現状で0.49m、深さ約12cm程度の浅い掘りかたを有する。(**出土遺物**) 遺物は竪穴全域にわたって散在的に出土しており、縄文時代早期末から前期初頭と思われる繊維を含んだ土器小片数片等が出土している他、黒曜石チップ、磨石、剥片石器等の石器類もわずかながら出土している。(**時期**) 出土遺物から縄文時代早期末前期初頭と思われる。

ＳＩ６ (遺構第11・12図／遺物第24図)

(**位置**) X6・7Y10グリッドに位置している。(**重複・検出状況**) SI7・8・9、SK51～56と重複。SI7・9を切り込んで構築しており、SI8との新旧関係は不明確。SK51～56には切り込まれて構築されている。竪穴北側部分の1/2以上が調査区外にかかり全容は不明。(**形態・規模等**) 楕円形を呈すると思われ、検出されている現状規模で東西軸2.65m、南北軸1.9mを測る。(**壁・周溝・床等**) 周溝は検出されていない。壁は西壁で最大22cmを測り、緩やかに立ち上がる。床面は概して軟弱である。(**柱穴**) ピットはP1～P4の計4基検出されており、その内柱穴と思われるものは、壁際にみられるP1、P4であろうか。(**炉**) 竪穴中央部分に位置すると思われ、北側の調査区にかかる状況で焼土の散布が認められ、その焼土の下部には不整方形状の東西長軸0.72m、南北軸現状で0.45

m、深さ約10㎝程度の浅い掘りかたを有する。(**出土遺物**) 覆土の第1層中から縄文時代早期末から前期初頭と思われる繊維を含んだ土器小片数片等がわずかに出土しているが、図示できなかった。(**時期**) 出土遺物から縄文時代早期末から前期初頭と思われる。

ＳＩ７ (遺構第11・12図／遺物第24図)

(**位置**) X6・7Y9・10グリッドに位置している。(**重複・検出状況**) SI6・9・10と重複。SI6に切り込まれ、SI10を切り込んで構築しているが、SI9との新旧関係は不明確。竪穴の大半が調査区外にかかり全容は不明。(**形態・規模等**) 楕円形もしくはそれに近い形態を呈すると思われるが、形態は不明。検出されている現状規模で東西軸1.8ｍ、南北軸1.15ｍを測る。(**壁・周溝・床等**) 周溝は検出されていない。壁は西壁で最大15㎝を測り、緩やかに立ち上がる。床面は概して軟弱である。(**柱穴**) ピットはP1～P3の計3基が検出されており、その位置関係からいずれも柱穴とみてよかろう。(**炉**) 不明。(**出土遺物**) 遺物量は少ない。縄文時代早期末から前期初頭に属すると思われる無繊維の土器片が数点が出土している。(**時期**) 出土遺物等から縄文時代早期末から前期初頭と思われる。

ＳＩ８ (遺構第11・12図／遺物第24図)

(**位置**) X6Y10・11グリッドに位置している。(**重複・検出状況**) SI6・9、SK45～50・52と重複する。SK46を切り込んで構築し、SK47・48に切り込まれて構築されていることは判明できたが、その他のSK遺構と、SI6･9との新旧関係は不明確。(**形態･規模等**) 楕円形を呈し、東西軸3.25ｍ、南北軸4.09ｍを測る。(**壁・周溝・床等**) 周溝は検出されていない。壁は南壁で最大25㎝を測り、緩やかに立ち上がる。床面は概して軟弱である。(**柱穴**) ピットはP1～P11の計11基が検出され、これらの中にはP1・7・10・11のように、検出されている位置からSI9に伴う可能性もある。これらピットは柱穴とみてよかろう。(**炉**) 竪穴北壁寄りに焼土の散布が認められ、その焼土の下部には不整楕円形状の長軸0.75ｍ、短軸で0.7ｍ、深さ約10㎝程度の浅い掘りかたを有する。(**出土遺物**) 遺物量は少ない。縄文時代早期末から前期初頭に属すると思われる無繊維の土器片が数点が出土している他、図示できなかったが黒曜石片も数点出土している。(**時期**) 出土遺物等から縄文時代早期末から前期初頭と思われる。

ＳＩ９ (遺構第11・12図／遺物第24図)

(**位置**) X6Y10グリッドに位置している。(**重複・検出状況**) SI6・7・8・10、SK47と重複。SI6、SK47が本遺構を切り込んでまれて構築しているが、SI7･8･10との新旧関係は不明確。(**形態･規模等**) 楕円形もしくはそれに近い形態を呈すると思われるが、形態は不明。検出された範囲における現状での規模は南北軸約2.32ｍを測る。(**壁・周溝・床等**) 周溝は検出されていない。壁は南壁で最大17㎝を測り、緩やかに立ち上がる。床面は概して軟弱である。(**柱穴**) ピットはP1～P5の計5基が検出され、その内柱穴と思われるものは、P1～3と思われるが、前述のとおり、SI8内で検出されているP1・7・10・11もその可能性がある。(**炉**) 不明。(**出土遺物**) 遺物量は極めて少ない。黒曜石片等がわずかに出土しているに過ぎない。(**時期**) 重複関係等から縄文時代早期末から前期初頭と思われる。

ＳＩ10 (遺構第11・12図／遺物第24図)

（位置）X6Y9・10グリッドに位置している。（重複・検出状況）SI7・9と重複する。両遺構によってほとんどが破壊され欠失している（形態・規模等）不明。（壁・周溝・床等）周溝は検出されていない。壁は南壁で最大17㎝を測り、比較的鋭角に立ち上がる。検出された範囲での床面は概して軟弱である。（柱穴）不明。（炉）不明。（出土遺物）出土遺物なし。（時期）重複関係等から縄文時代早期末から前期初頭以前と思われる。

ＳＩ11（遺構第13・14図／遺物第24・27図）

（位置）X7～9Y13～15グリッドに位置している。（重複・検出状況）SI12・13・14、SK81・84・87・88・93と重複。竪穴東壁部分が調査区外にかかり全容は不明。（形態・規模等）長方形を呈すると思われ、東西軸は現状で5.3ｍ、南北軸は5.35ｍを測り、本遺跡内で最大規模を誇る。（壁・周溝・床等）周溝は検出されていない。調査区南壁断面で観察する限り、壁は北壁で最大約50㎝を測る。さらに竪穴部壁外には幅約50㎝、確認面からの深さ約12㎝を測る浅いテラス状の張り出しをもつことから、それを含めた建物自体の東西規模は最大6～7ｍ代となる。壁は比較的鋭角に立ち上がる。床面は全体にわたって軟弱で、硬化面等は確認できなかった。（柱穴）ピットはP1～P22の計22基が西壁際および北壁際を中心に検出されている。しかし竪穴規模に比して柱穴とするにはどれも小規模なものばかりであり、上屋構造の検討には慎重を要する。（炉）竪穴中央部に不整形な焼土の散布が認められ、その焼土の下部には楕円形を呈する長軸0.7ｍ、短軸で0.65ｍ、深さ約16㎝程度の掘りかたを有する。炉も竪穴規模に比べると非常にコンパクトである。（出土遺物）出土遺物はさほど多くはない。縄文時代早期末から前期初頭と思われる繊維を含む土器および無繊維の土器の小片が少量出土している他、無茎石鏃および打製石斧等も竪穴部全域にわたって散在的に出土している。P1や炉周辺において散在的に出土している。（時期）出土遺物等から縄文時代早期末から前期初頭と思われる。

ＳＩ12（遺構第13・14図／遺物第24図）

（位置）X8Y14・15グリッドに位置している。（重複・検出状況）SI11、SK79と直接重複する。大半が南側調査区外にかかり、さらにSI11に破壊されている。（形態・規模等）形態は不明。検出されている範囲での東西規模は約2.8ｍを測る。（壁・周溝・床等）周溝は検出されていない。壁は北壁で最大23㎝を測り、壁は北壁で最大約50㎝を測り、かなり鋭角に立ち上がっている。床面は概して軟弱である。（柱穴）ピットはP1・2の2基がいずれも壁際から検出されており、これらは柱穴とみてよかろう。（炉）不明。（出土遺物）出土遺物は少ない。縄文時代早期末から前期初頭と思われる繊維を含む土器および無繊維の土器の小片が少量出土している。（時期）出土遺物等から縄文時代早期末から前期初頭と思われる。

ＳＩ13（遺構第13・14図／遺物第24図）

（位置）X8・9Y14グリッドに位置している。（重複・検出状況）SI11、SK82・83・92と重複する。SK92を切り込んで構築し、SI11に切り込まれて構築されていることは判明しているが、その他の遺構との新旧関係は不明確。（形態・規模等）SI11に破壊され竪穴の大半が欠失しており形態は不明であるが、残存状況から推測すると、次に報告するSI14と類似した形態である、長楕円形を呈すると思われる。残存部における東西軸は約2.1ｍを測る。（壁・周溝・床等）壁は東壁で最大38

cmを測り、緩やかに立ち上がる。周溝は検出されていない。床面は概して軟弱である。(**柱穴**) ピットはP1･2の2基がいずれも壁際から検出されており、これらは柱穴とみてよかろう。(**炉**)不明。(**出土遺物**) 出土遺物は少ない。縄文時代早期末から前期初頭と思われる繊維を含む土器および無繊維の土器の小片が少量出土している。(**時期**) 遺構の重複関係および出土遺物および等から縄文時代早期末から前期初頭と思われる。

ＳＩ14（遺構第13図／遺物第24図）

(**位置**) X8Y13グリッドに位置している。(**重複・検出状況**) SI11およびSK93と重複する。竪穴建物跡南西隅には自然の花崗岩が露出している。SI11との新旧関係は不明確だが、SK93がSI14を切り込んで構築している。(**形態・規模等**) 長楕円形を呈し、東西軸は現存で3.35ｍ、南北軸2.3ｍを測る。(**壁・周溝・床等**) 壁は西壁で最大10cmを測り、緩やかに立ち上がる。周溝は検出されていない。床面は概して軟弱である。(**柱穴**) ピットはP1・2の2基がいずれも壁際から検出されており、これらは柱穴とみてよかろう。(**炉**) 不明。(**出土遺物**) 出土遺物は少ない。縄文時代早期末から前期初頭と思われる繊維を含む土器および無繊維の土器の小片が少量出土している。(**時期**) 遺構の重複関係および出土遺物および等から縄文時代早期末から前期初頭と思われる。

２．ＳＫ（土坑・ピット）（遺構第8～第21図／遺物第25・27・28図）

SK遺構は、笛吹市調査区では総計103基検出されている。これら遺構は、出土遺物が皆無であったり、出土遺物があっても土器細片のみや、それらが各時期にまたがるものが多く、その時期や性格等を特定するのは非常に困難な状況にある。よってここでは、その分布的特徴と判別可能な範囲内での時期的傾向、そして出土遺物で特筆すべき土坑を若干取り上げ記述することとし、平面形態や規模等の個別データは、一覧表を参照していただきたい。

調査区内での土坑の分布状況をみると、分布的には特に特別な傾向は認められない。おそらく物見塚遺跡の土地条件からすれば、竪穴建物も土坑も構築される場所はほぼ限定されてくることから、竪穴建物と土坑が相入り交じる状況が結果的に生み出されたとみられる。出土遺物では竪穴では縄文時代早期末～前期初頭の土器群に混じり、前期後半、中期段階の土器資料も少ないながらもみられるが、土坑でも同様な傾向がみられる。

その中で、SI3の覆土を切り込んで構築されているSK14は、隅丸長方形を呈し、長軸1.3ｍ、短軸1.05ｍ、確認面からの深さ0.9ｍを測る。掘りかた断面形態は、Ｙ字状に開く堝底形の形態を呈し、覆土の堆積状態において、柱痕状の痕跡がみられることから、本遺構は単独の柱穴であった可能性が考えられる。出土遺物は豊富で、縄文時代早期末から前期初頭中心とする土器群が覆土下層から主に出土し、縄文時代前期後半代の諸磯ｂ式土器群が覆土上層部（第2層中心）から出土している。また旧石器時代の両面礫器が出土している。このことから、本遺構の最終段階は縄文時代前期後半と推測され、旧石器時代や縄文時代早期末から前期初頭の遺物は、本遺構構築の際巻き上げられ、埋土中に混入したものと判断できる。その他諸磯ｂ式土器群が出土が顕著なSK遺構としては、SK22・28等が挙げられ、柱穴状の覆土堆積状態を示すものとしては、SK57・63・68等が挙げられる。

縄文時代中期段階の土器片出土しているのは、SI11を切り込んで構築しているSK106で、SI11出土遺物として資料化し掲載しているが、その出土位置から明らかにSK106に伴うものである。中期前葉段階と思われる。

埋納遺構的資料としては、SK107とSK108が挙げられる。両遺構はSK11・12・23と重複しており、その下部から検出されたものである。SK107は楕円形を呈し、長軸0.7m、短軸0.63m、深さはわずかに7cm程度で、底面に接するように打製石斧状の未製品石材が重ねられた状態で出土している。両遺構ともの土器群の出土がなかったため、所属時期については不明である。

SK108も楕円形を呈し、長軸、短軸ともに0.7mを測り、深さもはわずかに7cm程度で、底面に接するように磨石と敲石が埋置されたような状態で出土している。出土遺物が石類に限られているため、時期を特定することは難しいが、いずれの石器も縄文時代の再生産道具群であり、大地豊穣の祈りが込められた埋納遺構だと推測することもできよう。

またSK105は、その形状・規模から考え、小竪穴状遺構として捉えることが可能である。楕円形を呈し、長軸2.4m、短軸1.95m、確認面からの深さ0.4mを測り、覆土は自然堆積の状況を示している。壁は鋭角に立ち上がり、底面（床面）は概して軟弱である。ピットはP1～P7の計7基が検出されており、各コーナー壁下のP1～P3・P6は柱穴としてみてよかろう。

出土遺物は、縄文時代早期末から前期初頭と思われる繊維を含む土器および無繊維の土器の細片が少量出土していることから、SI13、SI14のような小竪穴状遺構と考えておきたい。

3．ＳＤ（溝状遺構）

SD遺構は、笛吹市調査区では総計3条検出されている。

ＳＤ２（遺構第20図／遺物第25図）

本遺構は、X3～5Y7・8グリッドに位置している。南東から北西にかけて直線的に延びる溝状遺構で、長さ8.6m、幅員0.9～1.45mを測り、現表土直下から掘り込まれ深さは1.08mを測る。断面形状は漏斗状を呈し、堅固な掘りかたである。地境的な性格を有する人工的な溝状遺構だと考えられるが、覆土内には何回かにわたって小規模な土石流痕跡を示す砂礫層が2～3層にわたって看取でき、流水があったことも看取できる。底面には人頭大以上の花崗岩礫も多数みられ、出土遺物は縄文時代早期末から前期初頭の土器細片が数点出土しているのみである。

ＳＤ３（遺構第20図／遺物第25図）

本遺構も、X3～5Y7・8グリッドに位置し、SD2よりその軸をやや東側に降って延びており、幅員は0.75m～1.0mを測る。本遺構も現表土直下から掘り込まれ、深さは0.4m前後を測る。覆土内には砂礫層が顕著にみられ、底面の至るところに流水時にできるポットホール状の掘りかたが多数みられ、本遺構もかなりの流水があったことがわかる。出土遺物も少なく、縄文時代早期末から前期初頭の土器細片が数点出土しているのみである。

ＳＤ４（遺構第20図／遺物第25図）

本遺構は、X4Y8・9グリッドに位置し、SD3から東西方向に長さ4.8mにわたって延びる溝状遺構である。幅員0.4m～1.0m、確認面からの深さは0.25mを測る。SD2・3と比べ顕著な流水痕

跡は認められない。本遺構東側は現代の天地返しによる撹乱で欠失している。本遺構も出土遺物は少なく、縄文時代早期末から前期初頭の土器細片が数点出土しているのみである。

4．遺構外出土遺物（第26・28図）

遺構外遺物では、検出された遺構群から出土している遺物群と同様な、縄文時代早期末～前期初頭の繊維を含む土器群および無繊維の土器群（94～107）、縄文時代前期後半の諸磯a・b式土器群（108～116）、第二次世界大戦中の統制陶器類も撹乱層中から出土している。また後述するプレB地点調査区内において、石器未製品資料も出土している。

第2節　旧石器時代の調査

旧石器時代の調査は、試掘調査段階や、本調査実施計画段階でもまったく論じられてこなかった。しかし近接する釈迦堂遺跡群からは旧石器時代の石器群が出土していることから、物見塚遺跡における当該時代の遺物の発見は当然の発見と言っても過言ではない。

調査も終盤にさしかかった2009年2月13日、X10Y14グリッド域の調査区東端部において、現代の撹乱坑の掘り抜き作業をおこなっている最中、撹乱坑の壁面に引っかかった状態で2点の黒曜石の剥片が発見され、それは縄文時代早期末から前期初頭における遺構群の切り込み層位であるローム層中から出土であった。

そのため残った縄文時代の遺構群の調査を早急に済ませ、同年2月18日に全体写真測量終了後、調査期限が同年2月末までとせまる中、全面調査は残された期間・予算では困難な状況下にあったため、それらを勘案して、およそ1グリッド分の広さで旧石器時代の調査区を任意に2箇所設定し、石器類の分布域を確認することを主目的に調査を実施することにした。一箇所（プレA地点）は黒曜石剥片が出土した調査区東端部のX9･10Y14･15グリッド域、そしてもう一箇所（プレB地点）は黒曜石片の出土が比較的目立っていた調査区西端部のX4・5Y7・8グリッド域のSD2を挟んで1箇所ずつ設定して調査を実施した。

1．プレA地点の調査（遺構第21・22図／遺物第30～34図）

A地点においては、黒曜石製の石器および剥片を中心とする分布域が、東西約2.5m、南北約2.2mにわたって確認できた。平面的には比較的密に分布するが、出土レベルについては高低差が著しい。こうした石器群の分析については、第Ⅵ章において保坂康夫氏らが詳述するが、少なくとも1ブロックを形成していることは確認できる。

2．プレB地点の調査（遺構第23図／遺物第28図）

B地点においては、わずかに黒曜石のチップ片と自然礫の分布がみられたものの、ブロックを形成するようなまとまりもなく、旧石器時代と思われる石器も抽出できなかった。しかし前述したように、本地点に近接するSK14からは旧石器時代の両面礫器が出土していることから、調査地点からはずれた区域に分布域が存在することは十分予測できる。

第２表　SK（土坑・ピット）一覧表

SKNo.	挿図番号	位置 (Grid)	重　複	平面形態 (　)＝推定	法量(　)＝推定値　[　]＝現存値			出土遺物 備　考
					長軸（m）	短軸（m）	深さ(m)	
SK10	9	X4Y6	なし	円形	0.45	0.40	0.08	
SK11	15	X4Y6・7	SK108	円形	0.62	0.58	0.25	
SK12	15	X4Y7	SK23・107～109	(楕円形)	(1.34)	1.05	0.32	
SK13	9	X4Y7	なし	楕円形	0.80	0.70	0.22	
SK14	9	X3Y6・7	SI3	隅丸長方形	1.30	1.05	0.90	断面形態はY字状、縄文早期末～前期初頭・前期後半諸磯b式土器片、旧石器時代礫器
SK15	欠番	—	—	—	—	—	—	—
SK16	9	X3Y7	なし	楕円形	1.00	0.95	0.25	
SK17	9	X4Y7	SK18	(円形)	0.80	(0.75)	0.24	
SK18	9	X3・4Y7	SK17・27	楕円形	0.75	(0.65)	0.28	
SK19	20	X4Y7	SK20、SD2	(楕円形)	1.15	[0.55]	0.42	
SK20	20	X4Y7	SK19	(円形)	0.70	0.60	0.34	
SK21	20	X4Y7・8	SK22・24・27、SD2	(楕円形)	[0.90]	0.90	0.35	縄文早期末～前期初頭・前期後半諸磯b式土器片
SK22	20	X4Y7	SK21、SD2	—	—	—	0.36	縄文早期末～前期初頭・前期後半諸磯b式土器片
SK23	15	X4Y7	SK12・108・109	不正楕円形	1.10	0.80	0.40	縄文早期末～前期初頭土器片
SK24	20	X3・4Y7・8	SK21・27、SD2	—	1.45	—	0.36	
SK25	20	X4Y8	SK26、SD2	—	0.95	(0.60)	0.18	
SK26	20	X3・4Y8	SK25、SD2	円形	0.80	0.75	0.15	
SK27	9	X3・4Y7	SI4、SK18・21・24	不正楕円形	1.90	1.55	0.38	縄文早期末～前期初頭土器片
SK28	15	X4Y7	なし	—	0.77	[0.38]	0.18	縄文早期末～前期初頭・前期後半諸磯b式土器片
SK29	15	X4Y7	なし	—	0.90	[0.60]	0.34	
SK30	20	X4Y8	なし	不正楕円形	1.15	1.00	0.22	
SK31	20	X4Y8	なし	楕円形	0.65	0.55	0.20	
SK32	20	X4Y9	なし	楕円形	1.05	0.90	0.32	
SK33	20	X4・5Y8	なし	円形	1.05	1.00	0.30	縄文早期末～前期初頭土器片
SK34	20	X5Y7	SK35	楕円形	0.80	0.65	0.34	
SK35	20	X5Y7	SK34	(楕円形)	0.75	0.55	0.30	
SK36	15	X5Y8	なし	—	0.56	[0.45]	0.22	縄文早期末～前期初頭土器片
SK37	15	X5Y8	なし	楕円形	1.12	0.78	0.14	
SK38	15	X5Y8	なし	楕円形	1.16	0.96	0.10	縄文早期末～前期初頭土器片
SK39	15	X5Y8	なし	—	1.20	[0.65]	0.35	
SK40	15	X5Y8	なし	円形	0.75	0.75	0.45	縄文早期末～前期初頭土器片
SK41	15	X5Y9	なし	楕円形	0.96	0.85	0.18	
SK42	15	X5・6Y9	なし	楕円形	1.08	0.92	0.20	
SK43	15	X6Y9	なし	円形	1.00	0.98	0.18	縄文早期末～前期初頭土器片
SK44	15	X6Y9	なし	円形	0.80	0.80	0.12	
SK45	11	X5・6Y10	SK46	不正楕円形	0.90	0.80	0.28	
SK46	11	X6Y10	SI8、SK45	(楕円形)	(0.90)	—	0.25	
SK47	11	X6Y10	SI8・9	楕円形	0.92	0.75	0.28	
SK48	11	X6Y11	SI8	楕円形	1.00	0.65	0.35	
SK49	11	X6Y11	SI8、SK50	—	—	—	0.28	
SK50	11	X6Y11	SI8、SK49	(楕円形)	0.95	—	0.18	
SK51	11	X6・7Y10	SI6	円形	0.65	0.60	0.20	
SK52	11	X6・7Y10	SI6・8、SK53	楕円形	1.15	0.90	0.24	

SKNo.	挿図番号	位置 (Grid)	重　複	平面形態 ( )＝推定	法量( )＝推定値 [ ]＝現存値			出土遺物 備　考
					長軸 (m)	短軸 (m)	深さ(m)	
SK53	11	X7Y10	SI6、SK52・54・55	楕円形	0.60	0.40	0.26	
SK54	11	X7Y10	SK53・55・56	(楕円形)	1.10	0.70	0.65	
SK55	11	X7Y10	SI6、SK53・54	—	—	—	0.55	
SK56	11	X7Y10	SK54	—	—	—	0.65	
SK57	16	X7Y11	なし	楕円形	0.62	0.55	0.34	柱穴状覆土堆積状態
SK58	16	X7Y11	なし	円形	0.74	0.74	0.22	
SK59	16	X6・7Y11	なし	楕円形	0.96	0.74	0.22	
SK60	16	X6Y11	なし	楕円形	1.06	0.82	0.24	
SK61	16	X6Y11	なし	不正楕円形	1.50	0.95	0.36	縄文中期土器片
SK62	16	X6Y11	なし	不正楕円形	1.14	1.00	0.34	
SK63	16	X6・7Y10・11	SK64	楕円形	0.90	0.72	0.24	柱穴状覆土堆積状態
SK64	16	X6・7Y11	SK63	(楕円形)	1.00	0.78	0.26	
SK65	16	X7Y11	なし	—	0.46	—	0.18	
SK66	16	X7Y11	なし	—	0.48	—	0.22	
SK67	16	X7Y11	なし	—	0.80	—	0.22	
SK68	16	X6Y11	なし	円形	0.44	0.44	0.26	柱穴状覆土堆積状態
SK69	16	X6Y11	なし	円形	0.48	0.46	0.16	
SK70	17	X7Y12	なし	楕円形	0.55	0.45	0.22	
SK71	17	X8Y13	なし	楕円形	1.10	0.85	0.14	
SK72	17	X8・9Y13	SK73	不正楕円形	1.00	0.90	0.24	
SK73	17	X9Y13	SK72	(楕円形)	1.05	0.85	0.28	
SK74	17	X9Y14	なし	楕円形	0.95	0.70	0.28	
SK75	17	X7Y13	SK76	楕円形	1.34	[1.04]	0.18	
SK76	17	X7Y13	SK75	—	1.00	—	0.22	
SK77	17	X7Y13	なし	円形	0.60	0.56	0.16	
SK78	17	X8Y13	なし	不正楕円形	1.05	(0.80)	0.18	
SK79	18	X8Y15	SI12、SK85・104・110	(不正楕円形)	1.55	1.20	0.56	
SK80	18	X9Y15	SK94・110・112	(不正楕円形)	1.00	0.80	0.26	
SK81	13	X8・9Y13	SI11	楕円形	0.95	0.85	0.16	
SK82	13	X9Y14	SI13、SK92	不正楕円形	1.40	1.02	0.40	
SK83	18	X8・9Y14・15	SK92・104・110	(楕円形)	—	0.94	0.50	
SK84	18	X8Y14	SI11	(楕円形)	[0.68]	0.85	0.30	
SK85	18	X8Y14・15	SK79・104	円形	0.60	0.54	0.35	
SK86	17	X9Y13・14	なし	楕円形	0.90	0.65	0.24	
SK87	13	X8Y14	SI11、SK88	楕円形	1.00	0.70	0.28	
SK88	13	X8Y14	SI11、SK87、SK106	楕円形	0.70	0.60	0.26	
SK89	18	X9・10Y15	SK90	不正楕円形	0.90	0.65	0.40	縄文早期末～前期初頭土器片
SK90	18	X9Y15	SK89	(楕円形)	1.40	1.08	0.30	縄文早期末～前期初頭土器片、中期？土器片
SK91	18	X9Y14・15	SK110・102	(不正楕円形)	1.35	1.22	0.36	
SK92	13	X9Y14	SI13、SK82・83・110	楕円形	1.30	0.98	0.42	縄文早期末～前期初頭土器片
SK93	13	X8Y13	SI14	不正楕円形	1.60	1.30	0.40	
SK94	18	X8・9Y15	SK80	楕円形	0.80	0.68	0.45	縄文早期末～前期初頭土器片
SK95	18	X9Y14	SK96	楕円形	0.82	0.45	0.38	縄文早期末～前期初頭土器片
SK96	18	X9Y14	SK95・97・98	(楕円形)	1.26	0.68	0.30	縄文早期末～前期初頭土器片
SK97	18	X9Y14	SK96・98	不正楕円形	1.15	0.90	0.28	縄文早期末～前期初頭土器片
SK98	18	X9Y14	SK96・97	(不正楕円形)	1.50	—	0.28	縄文早期末～前期初頭土器片
SK99	18	X9Y15	SK100・111	楕円形	0.85	0.65	0.38	

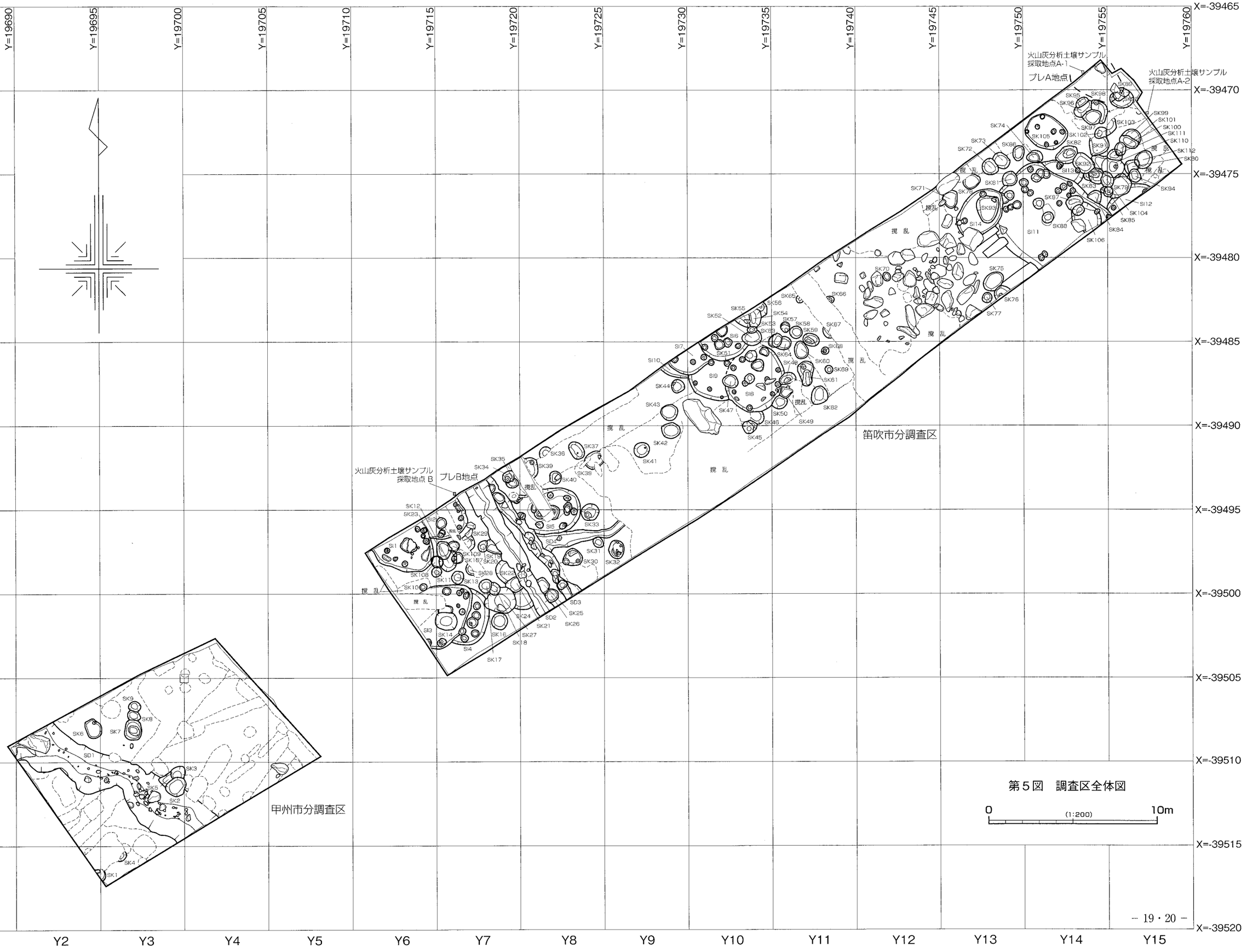
SKNo.	挿図番号	位置 (Grid)	重　複	平面形態 (　)＝推定	法量(　)＝推定値　[　]＝現存値			出土遺物 備　　考
					長軸（m）	短軸（m）	深さ(m)	
SK100	18	X9Y15	SK99・101	楕円形	1.15	0.60	0.50	
SK101	18	X9Y15	SK100	(円形)	1.12	—	0.40	
SK102	18	X9Y14	SK91・103	不正楕円形	0.80	0.72	0.64	縄文早期末～前期初頭土器片
SK103	18	X9Y14・15	SK102	—	—	—	0.18	
SK104	18	X8・9Y14・15	SK79・83・85・110	楕円形	1.00	0.75	0.40	
SK105	19	X9Y14	なし	楕円形	2.40	1.95	0.40	縄文早期末～前期初頭土器片、ピット7基検出、本来は小竪穴状遺構か
SK106	13	X8Y14	SI11、SK87・88	(楕円形)	[1.70]	1.50	0.75	
SK107	15	X4Y7	SK12	楕円形	0.70	0.63	0.07	打製石斧状未製品、埋納遺構か
SK108	15	X4Y6・7	SK11・12・23	(楕円形)	(0.70)	(0.70)	0.08	磨石・敲石、埋納遺構か
SK109	15	X4Y7	SK12・23	(楕円形)	(0.75)	0.65	0.08	
SK110	18	X8・9Y14・15	SK79・80・83・91・92・104・111	(不正楕円形)	2.40	1.10	0.84	
SK111	18	X9Y15	SK99・110	不正楕円形	0.88	0.64	0.20	
SK112	18	X9Y15	SK80	楕円形	1.12	1.00	0.56	

Y=19685 Y=19690 Y=19695 Y=19700 Y=19705 Y=19710 Y=19715 Y=19720 Y=19725 Y=19730 Y=19735 Y=19740 Y=19745 Y=19750 Y=19755 Y=19760

X=-39465 X=-39470 X=-39475 X=-39480 X=-39485 X=-39490 X=-39495 X=-39500 X=-39505 X=-39510 X=-39515 X=-39520

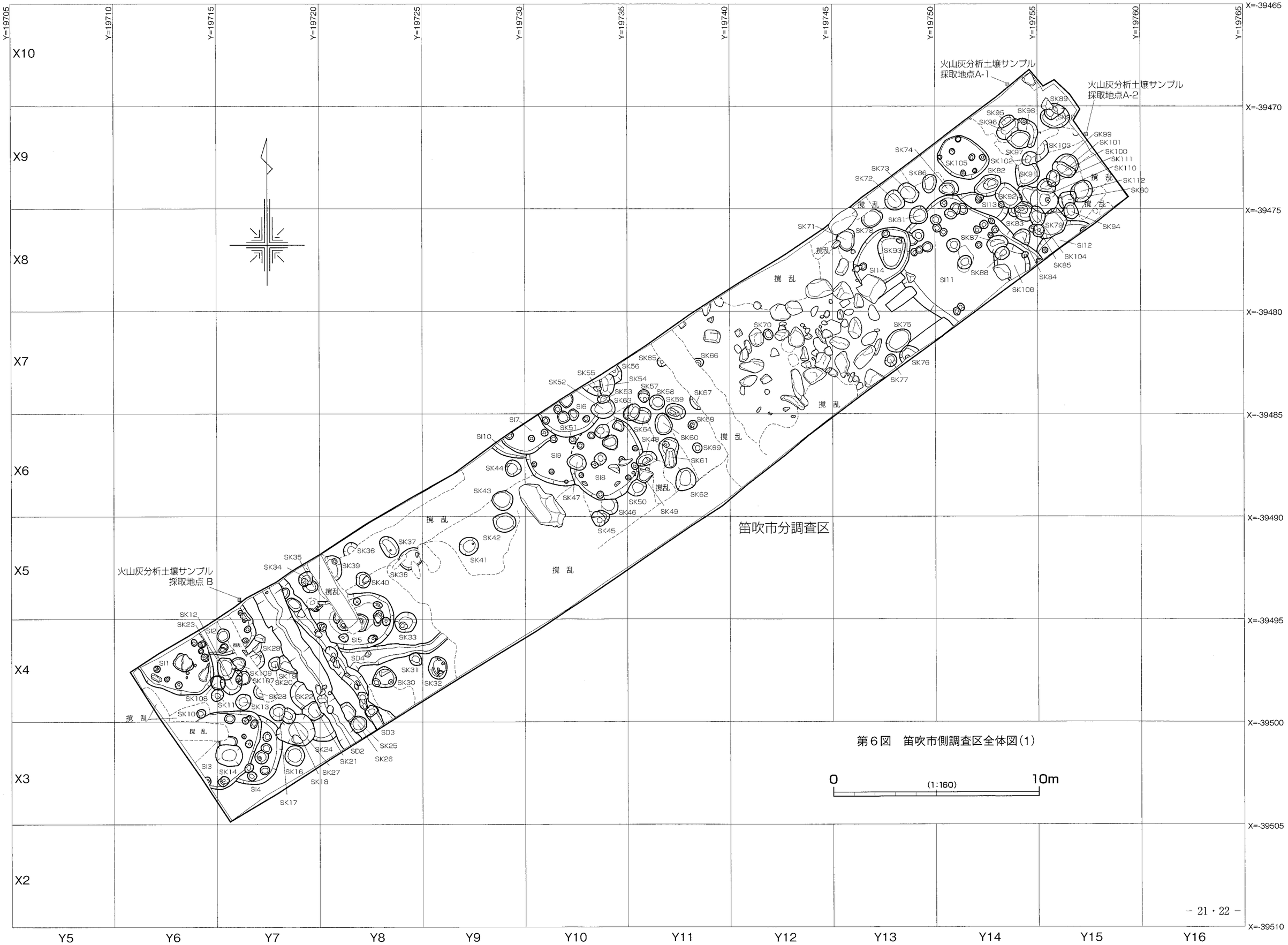
X10 X9 X8 X7 X6 X5 X4 X3 X2 X1 X0Y0

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11 Y12 Y13 Y14 Y15



第５図　調査区全体図

0 (1:200) 10m



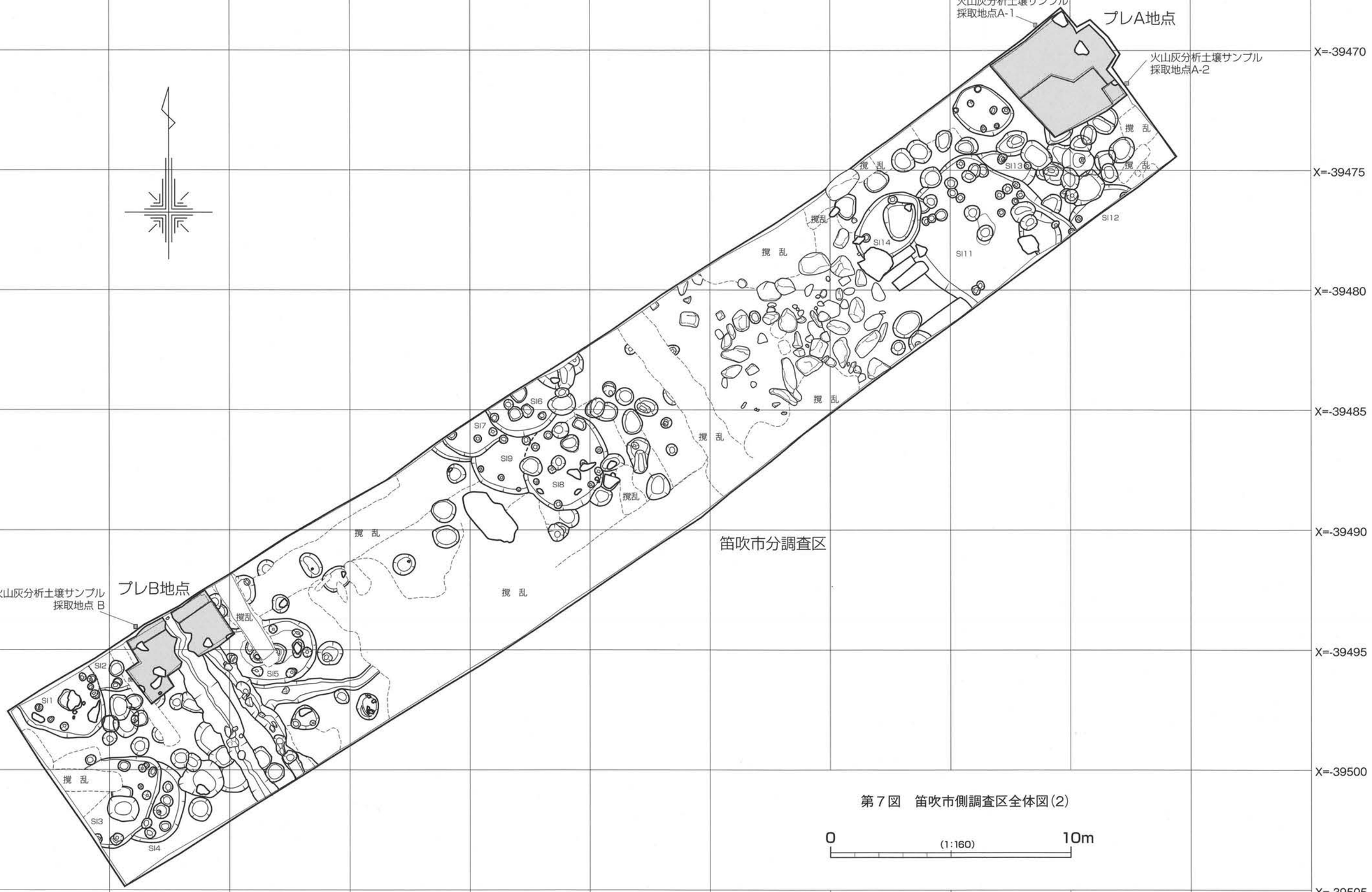
第６図　笛吹市側調査区全体図(1)

Y=19705 Y=19710 Y=19715 Y=19720 Y=19725 Y=19730 Y=19735 Y=19740 Y=19745 Y=19750 Y=19755 Y=19760 Y=19765

X=-39465 X=-39470 X=-39475 X=-39480 X=-39485 X=-39490 X=-39495 X=-39500 X=-39505 X=-39510

X10 X9 X8 X7 X6 X5 X4 X3 X2

Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11 Y12 Y13 Y14 Y15 Y16

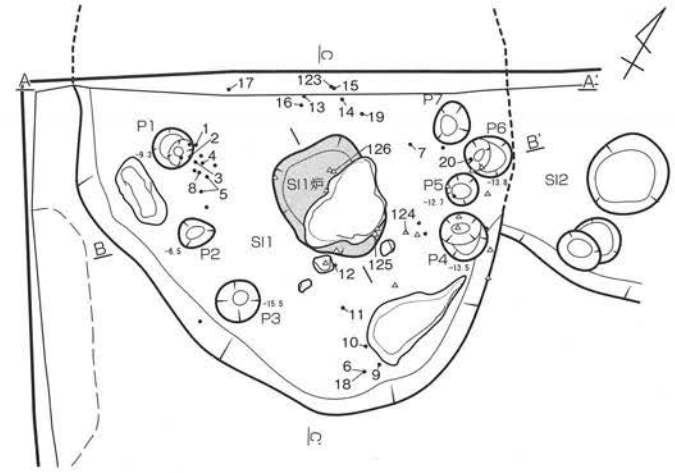


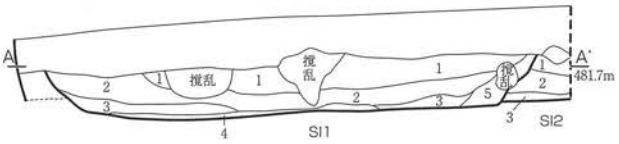
笛吹市分調査区

第７図　笛吹市側調査区全体図(2)

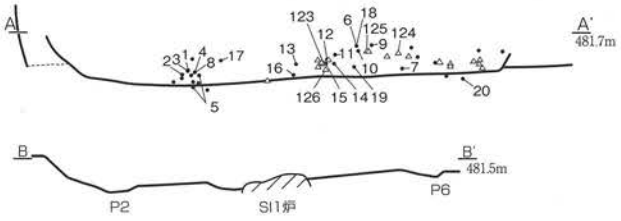
0 (1:160) 10m

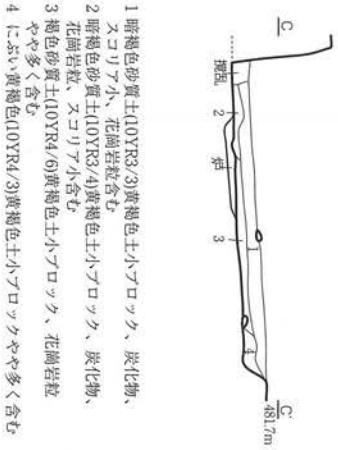
SI1



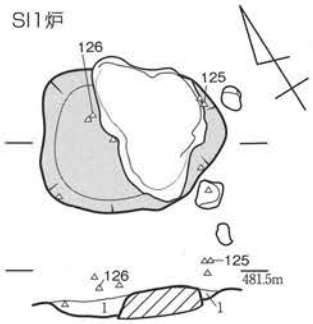


1 暗褐色砂質土(10YR3/3)
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)
3 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土ブロックやや多く含む
4 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土ブロックやや多く含む
5 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)

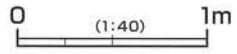




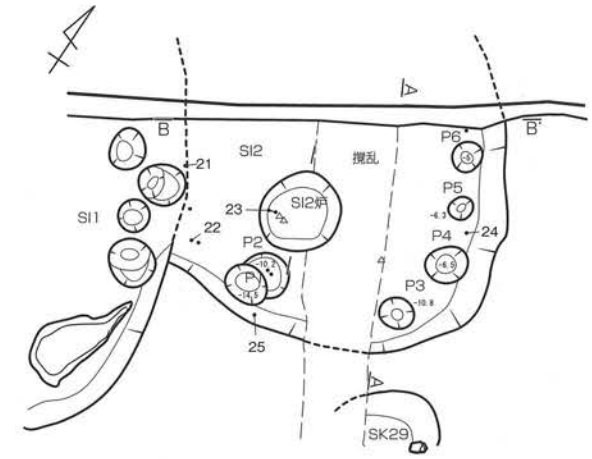
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、炭化物、スコリア小、花崗岩粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、炭化物、花崗岩粒、スコリア小含む
3 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒やや多く含む
4 にぶい黄褐色(10YR4/3)黄褐色土小ブロックやや多く含む

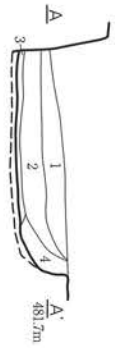


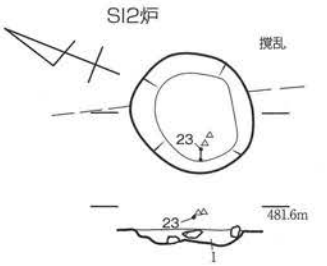
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)
黄褐色土ブロック多く含む、
炭化物・焼土小ブロック含む



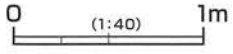
SI2

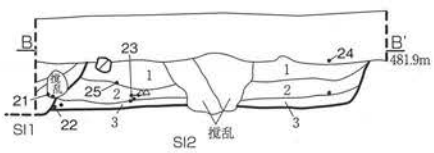




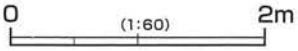


1 褐色砂質土(7.5YR4/4)
焼土粒・炭化物粒含む

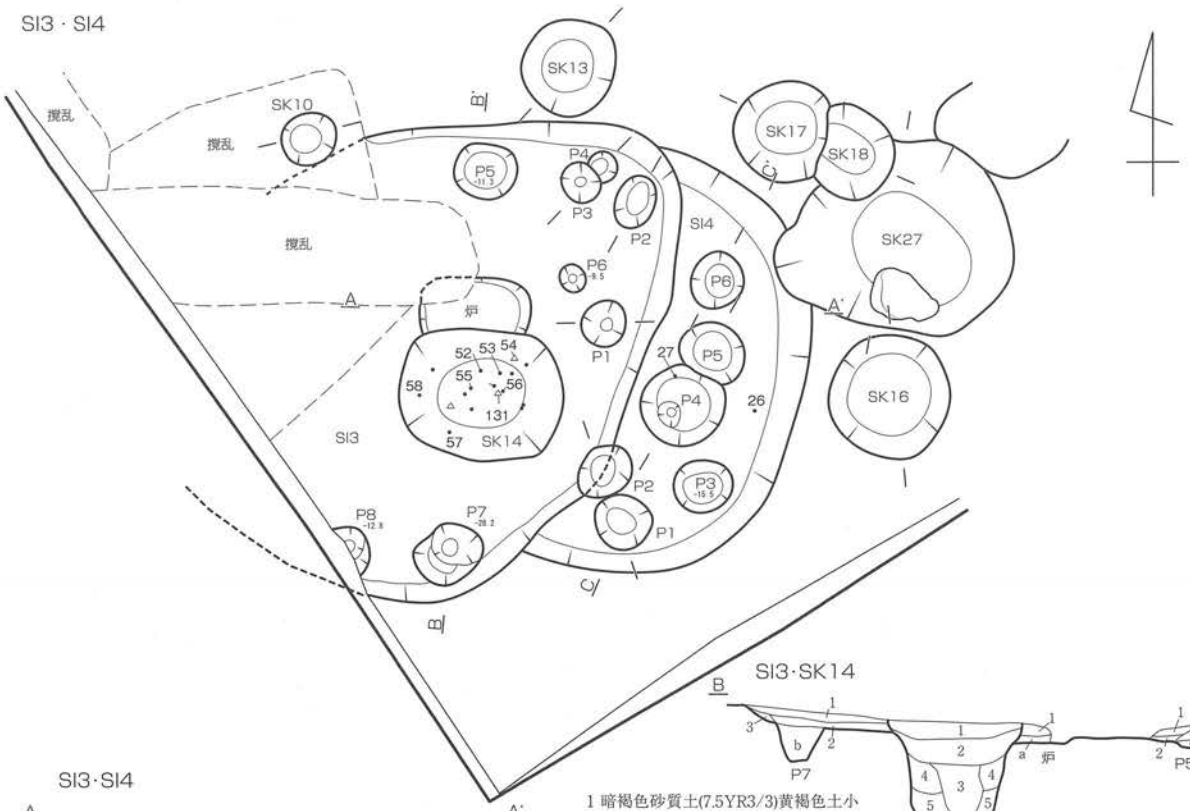




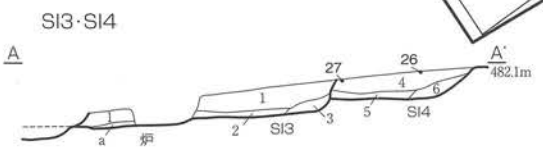
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア
3～5mm大、花崗岩粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、
スコリア 3～5mm大、花崗岩粒含む、小礫やや多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土小ブロック含む
4 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、スコリア
3～5mm大、花崗岩粒含む



第8図　SI1・2



SI3・SI4

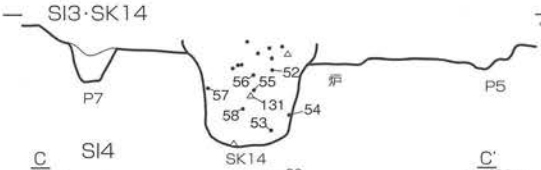


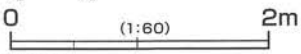
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、小礫、スコリア含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、小礫、スコリア含む
3 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む
4 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロックやや多く含む、小礫、スコリア含む
5 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む
6 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土ブロック含む
a にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)黄褐色土ブロックやや多く含む
b にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土ブロック含む

SI3・SK14

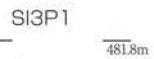
1 暗褐色砂質土(7.5YR3/3)黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック含む
2 暗褐色砂質土(7.5YR3/3)黄褐色土小ブロックやや多い、焼土小ブロック小含む
3 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック多く含む
4 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック多く含む
5 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、小礫、スコリア含む

SI3・SK14





SI3P1

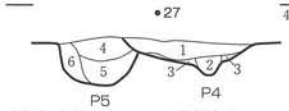


1 暗褐色砂質土(10YR3/4)
2 褐色砂質土(10YR4/6)

SI3P2

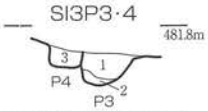
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)
黄褐色土小ブロック含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)
黄褐色土小ブロック含む

SI4P4・5



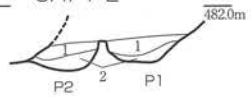
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土ブロック、スコリア多く含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)
4 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック含む
5 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック多く含む
6 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック多く含む

SI3P3・4



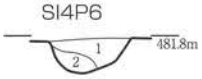
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)
2 褐色砂質土(10YR4/6)
3 褐色砂質土(10YR4/6)

SI4P1・2



1 暗褐色砂質土(10YR3/4)
2 褐色砂質土(10YR4/6)

SI4P6

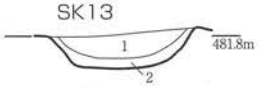


1 暗褐色砂質土(10YR3/4)
2 褐色砂質土(10YR4/6)

SK10

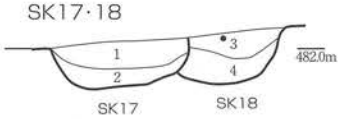
1 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)
花崗岩粒含む

SK13



1 暗褐色砂質土(10YR3/4)
黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)
黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む

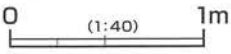
SK17・18



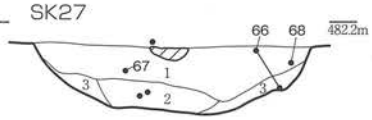
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック
2～3mm大スコリア小含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック
多く含む
3 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック
やや多く含む、花崗岩粒含む
4 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック
花崗岩粒含む

SK16

1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア、小礫含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロックやや多い、花崗岩粒、スコリア、小礫含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、スコリア含む

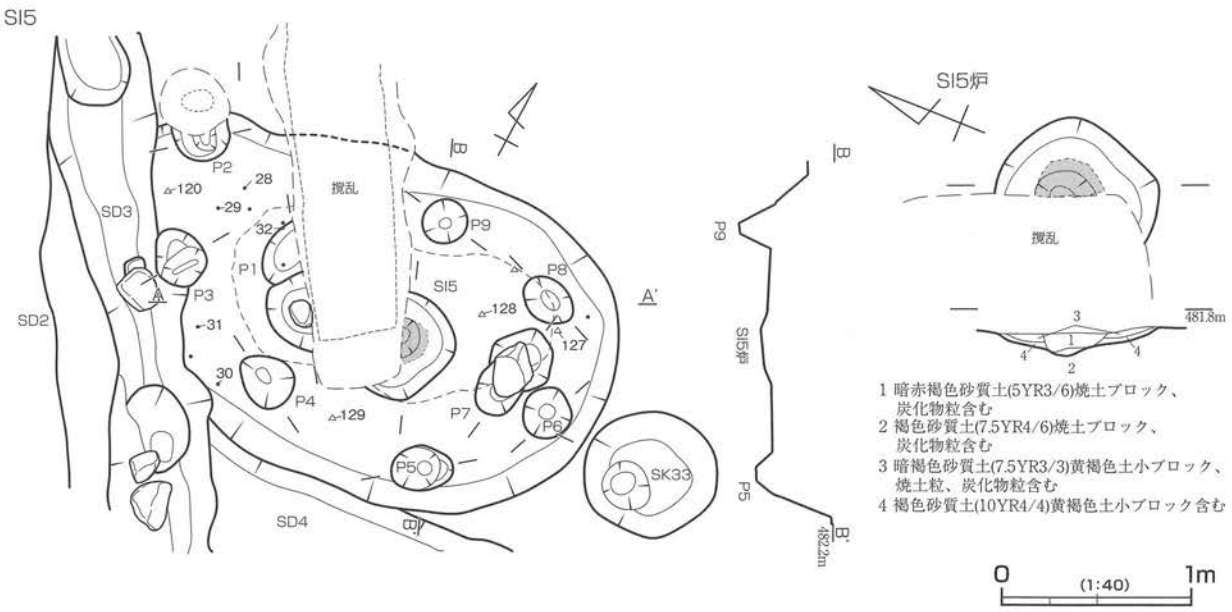


SK27

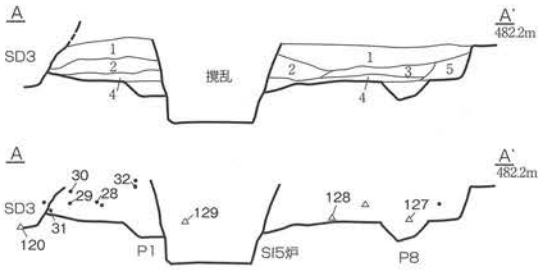


1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、小礫、スコリア含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック多く含む、花崗岩粒、小礫、スコリア含む
3 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む

第9図　SI3・4



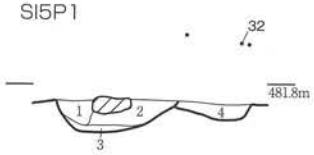
1 暗赤褐色砂質土(5YR3/6)焼土ブロック、炭化物粒含む
2 褐色砂質土(7.5YR4/6)焼土ブロック、炭化物粒含む
3 暗褐色砂質土(7.5YR3/3)黄褐色土小ブロック、焼土粒、炭化物粒含む
4 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック含む



1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、炭化物粒、花崗岩粒、スコリア含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、炭化物粒やや多い、花崗岩粒、スコリア含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土小ブロックやや多い、スコリア含む
4 褐色砂質土(7.5YR4/4)黄褐色土小ブロック多く含む
5 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む、炭化物粒・スコリアやや多い

0 (1:60) 2m

SI5P1

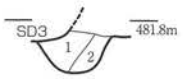


1 暗褐色砂質土(10YR3/3)焼土粒、黄褐色土粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)焼土粒、黄褐色土粒含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
4 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア含む

SI5P2

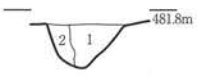
1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック含む

SI5P3



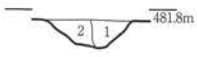
1 褐色砂質土(10YR4/4)
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)

SI5P4



1 褐色砂質土(10YR4/4)
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)

SI5P5



1 褐色砂質土(10YR4/4)
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)

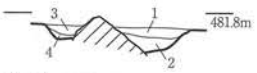
SI5P6

1 褐色砂質土(10YR4/4)
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック多く含む

SI5P8

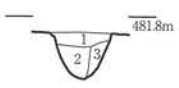
1 褐色砂質土(10YR4/4)

SI5P7



1 褐色砂質土(10YR4/4)
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)
3 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック含む
4 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック含む

SI5P9

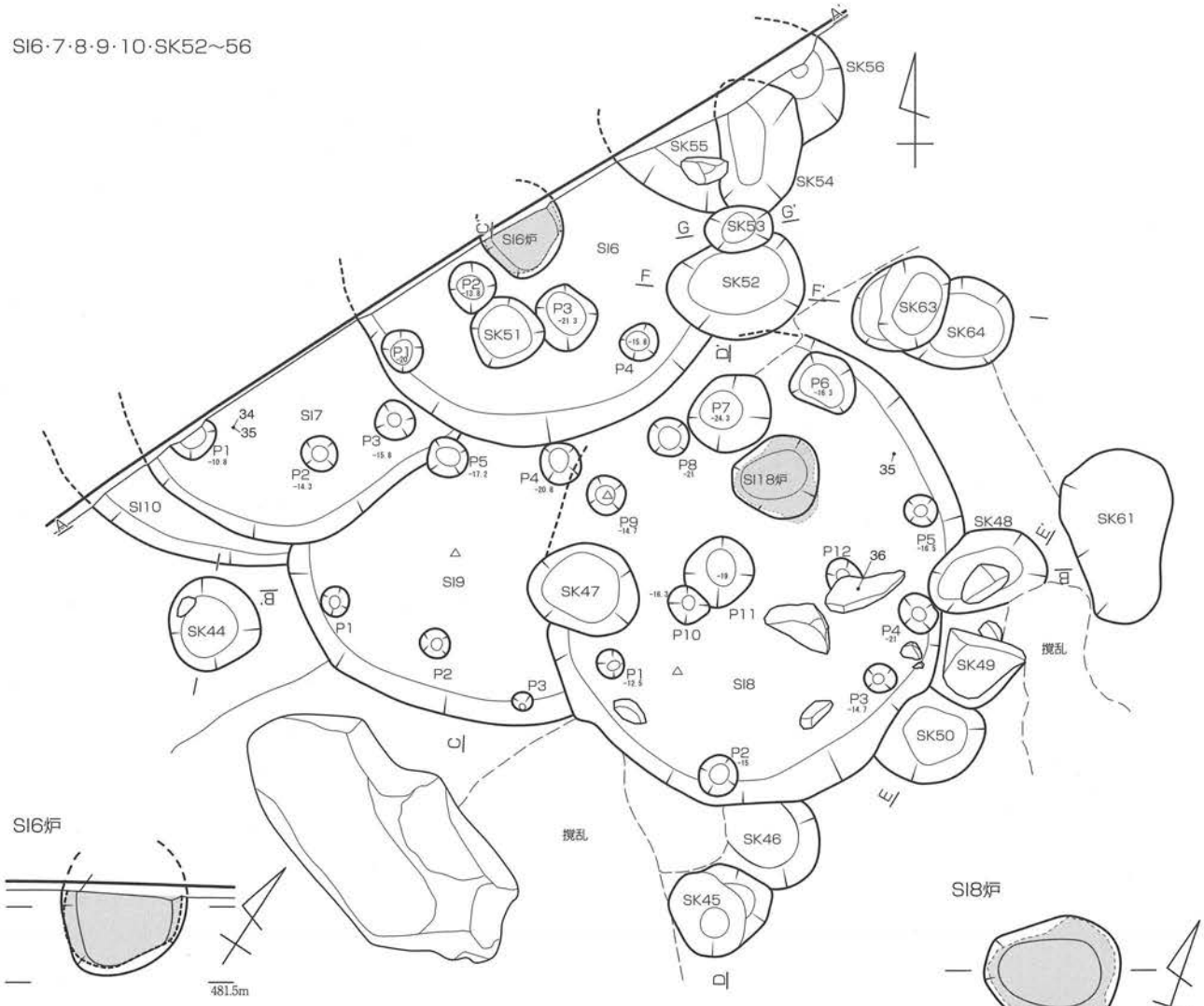


1 褐色砂質土(10YR4/4)
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック多い

0 (1:40) 1m

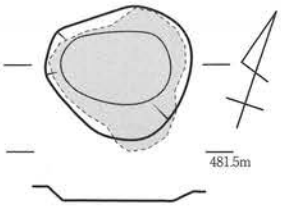
第10図　SI5

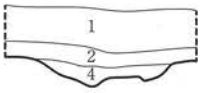
SI6·7·8·9·10·SK52～56



SI6炉

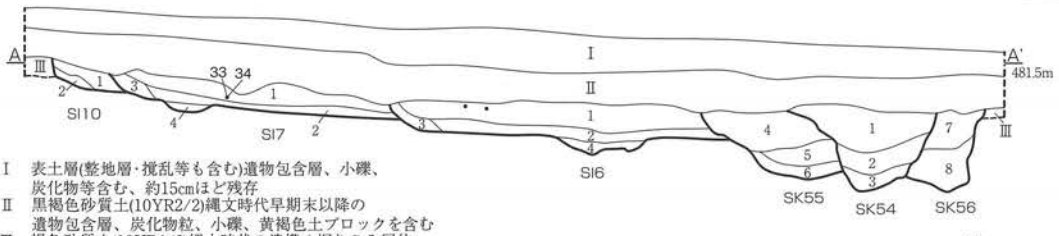
SI8炉





1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土ブロック、スコリア５mm大、小礫含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土ブロックやや多い、スコリア、炭化物粒含む
4 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、焼土粒小含む

SI6·7·10·SK54·55·56調査区南面



0 (1:40) 1m

0 (1:60) 2m

I　表土層(整地層・撹乱等も含む)遺物包含層、小礫、炭化物等含む、約15cmほど残存
II　黒褐色砂質土(10YR2/2)縄文時代早期末以降の遺物包含層、炭化物粒、小礫、黄褐色土ブロックを含む
III　褐色砂質土(10YR4/6)縄文時代の遺構の掘りこみ層位、黄褐色土・黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒含む

<SI6>

1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土ブロック、スコリア５mm大、小礫含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土ブロックやや多い、スコリア、炭化物粒含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロックやや多い、スコリア含む
4 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、焼土粒小含む

<SI7>

1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土ブロック、スコリア５mm大、小礫含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土ブロックやや多い、スコリア、炭化物粒含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロックやや多い、スコリア含む
4 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土小ブロック含む

<SI10>

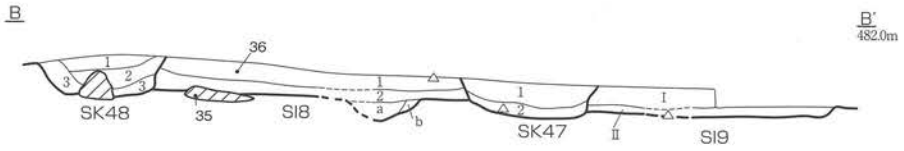
1 暗褐色土(10YR3/4)黄褐色土ブロックやや多い
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロックやや多く含む

<SK 54·55·56>

1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土ブロック、スコリア、炭化物粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土ブロックやや多い、スコリア含む
3 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土ブロック多く含む
4 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土ブロックやや多く含む、スコリア、小礫含む
5 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土ブロックやや多く含む、スコリア、小礫含む
6 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土ブロックやや多く含む、
7 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土ブロック含む
8 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土ブロック含む

第11図　SI6～10・SK45～56(1)

SI8·9·SK47·48



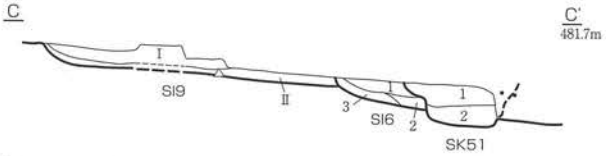
<SI8>
1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、スコリア、炭化物粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、スコリア、炭化物粒含む
a にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土小ブロック含む
b 黄褐色砂質土(10YR5/6)黄褐色土小ブロック含む

<SI9>
Ⅰ 暗褐色砂質土(10YR3/4)
Ⅱ にぶい黄褐色土(10YR4/3)

<SK47>
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む

<SK48>
1 暗褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、小礫含む
2 暗褐色土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、小礫、スコリア含む
3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土小ブロックやや多く含む

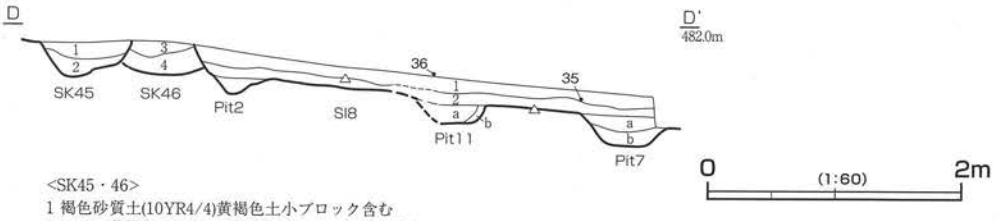
SI6·9·SK51東面南北



<SI6>
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア、花崗岩粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロックやや多く含む

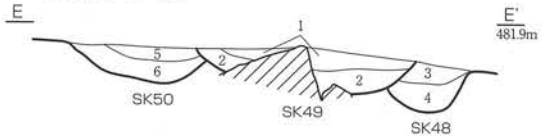
<SK51>
1 暗褐色砂質土(19YR3/3)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック多く含む

SI8·SK45·46



<SK45・46>
1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック含む
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック含む
3 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む
4 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロックやや多く含む

SK48·49·50

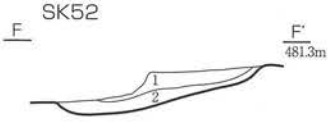


<SK49>
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア、小礫含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)黄褐色土小ブロック多く含む、スコリアやや多い

<SK48>
3 暗褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、小礫含む
4 暗褐色土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、小礫、スコリア含む

<SK50>
5 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む、スコリア含む
6 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロックやや多く含む、スコリア含む

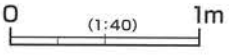
SK52



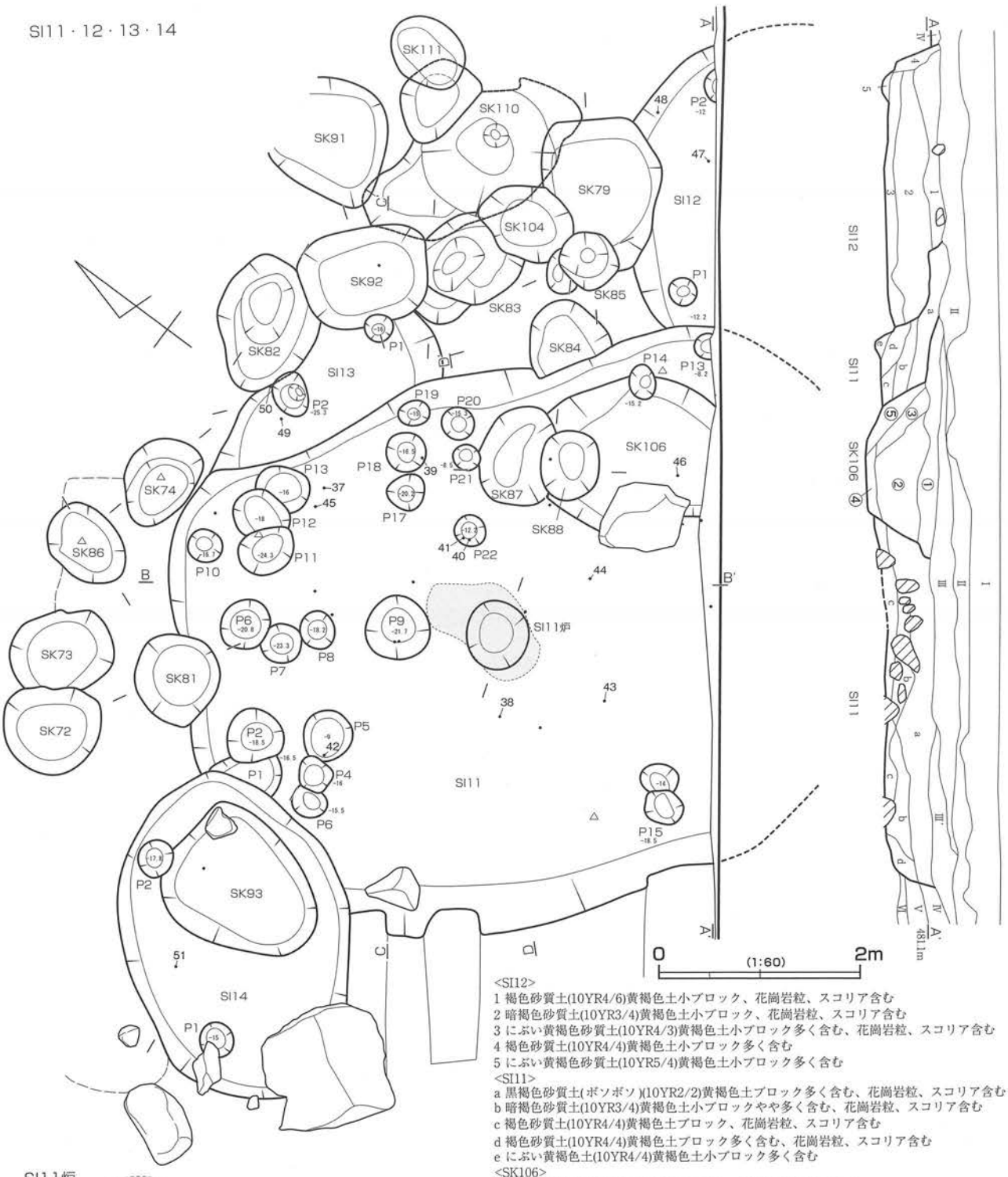
1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、小礫、スコリア
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土小ブロックやや多い、小礫、スコリア

SK53

1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、炭化物粒、スコリア



第12図　SI6～10・SK45～56(2)



1 暗褐色砂質土(10YR3/4)
黄褐色土ブロック、花崗岩粒、焼土粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)
黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む

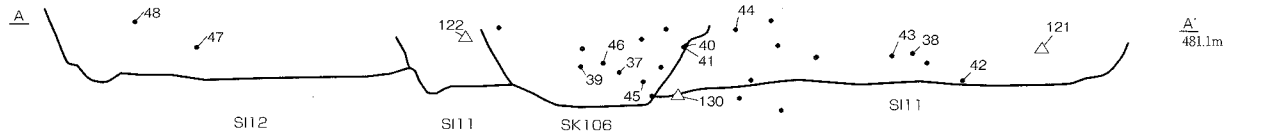
<SI12>
1 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック多く含む、花崗岩粒、スコリア含む
4 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック多く含む
5 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土小ブロック多く含む

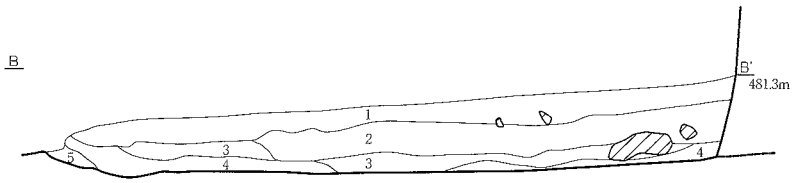
<SI11>
a 黒褐色砂質土(ボソボソ)(10YR2/2)黄褐色土ブロック多く含む、花崗岩粒、スコリア含む
b 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む、花崗岩粒、スコリア含む
c 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
d 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土ブロック多く含む、花崗岩粒、スコリア含む
e にぶい黄褐色土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック多く含む

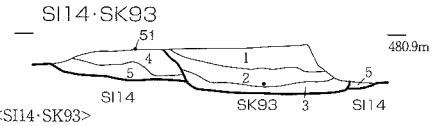
<SK106>
① 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土ブロック多く含む(ボソボソ)
② 黒褐色砂質土(10YR3/2)しまり強、黄褐色土ブロック多く含む、花崗岩粒含む
③ 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
④ 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土ブロック多く含む、花崗岩粒、スコリア含む
⑤ 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土ブロック多く含む、花崗岩粒、スコリア含む

Ⅰ 表土層(整地層・撹乱等も含む)遺物包含層、小礫、炭化物等含む、約15cmほど残存
Ⅱ 黒褐色砂質土(10YR2/2)縄文時代早期末以降の遺物包含層、炭化物粒、小礫、黄褐色土ブロックを含む
Ⅲ 褐色砂質土(10YR4/6)縄文時代の遺構の掘りこみ層位、黄褐色土・黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒含む
Ⅲ'褐色砂質土(10YR4/4)縄文時代の遺構の掘りこみ層位、黄褐色土・黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒含む
Ⅳ 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土・黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒、1㎜大スコリア含む
Ⅴ 黄褐色砂質土(10YR5/6)暗褐色土ブロック、花崗岩粒、1～2㎜大スコリア含む、炭化物粒微粒含む
Ⅵ 明黄褐色砂質土(10YR6/8)2～5㎜大スコリア、花崗岩粒(Ⅴ層よりやや少ない)含む、風化した花崗岩・石英閃緑岩含む
Ⅶ オリーブ褐色砂質土(2.5Y4/6)小礫やや多く含む、花崗岩粒、5㎜大スコリア極少含む
Ⅷ オリーブ褐色砂質土(2.5Y4/4)小礫やや多く含む、花崗岩粒含む、風化した花崗岩・石英閃緑岩含む

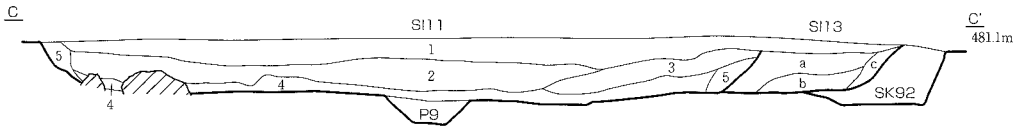
第13図　SI11～14(1)



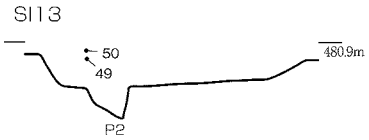


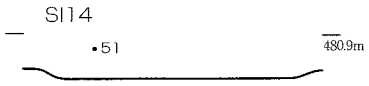


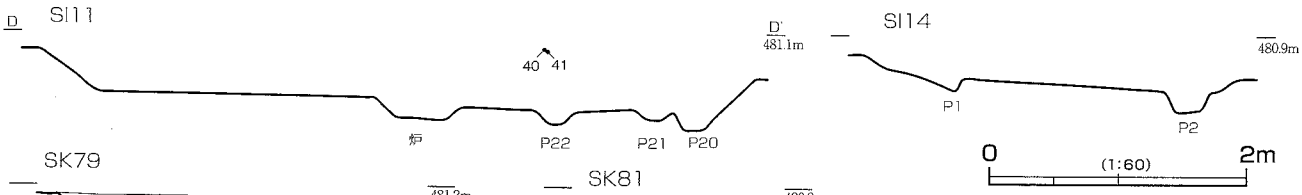
<SI14·SK93>
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒多い(ボソボソ感あり)
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
3 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む、スコリアやや多く含む
4 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア、花崗岩粒含む
5 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む

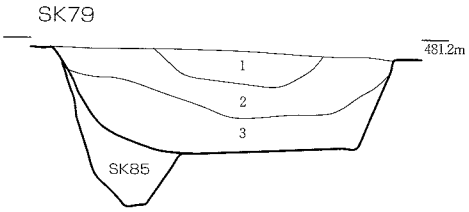


<SI11>
1 黒褐色砂質土(10YR2/2)黄褐色土ブロック、花崗岩粒、5mm大スコリア含む
2 黒褐色砂質土(10YR3/2)黄褐色土ブロック、花崗岩粒、5mm大スコリア含む
3 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
5 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
<SI13>
a 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、スコリア、花崗岩粒含む
b 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む、花崗岩粒含む
c にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック多く含む、花崗岩粒含む

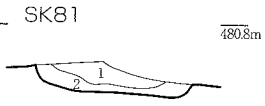




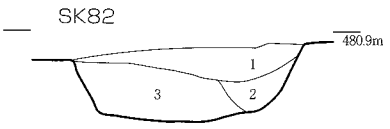




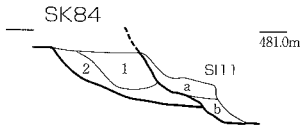
1 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土粒、花崗岩粒、スコリア含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
3 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む



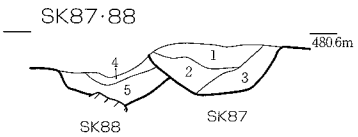
<SK81>
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、スコリアやや多く含む、花崗岩粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、スコリアやや多く含む、花崗岩粒含む



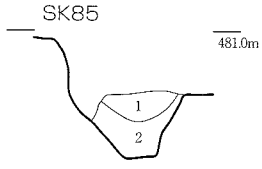
<SK82>
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロックやや多い、花崗岩粒、炭化物粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック・花崗岩粒やや多い
3 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロックやや多く含む



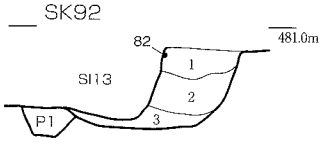
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロックやや多く含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック含む



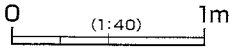
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土粒多く含む
2 黒褐色砂質土(10YR3/2)黄褐色土ブロック含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土粒多く含む
4 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土ブロック
5 褐色砂質土(10YR4/6)暗褐色土ブロック含む



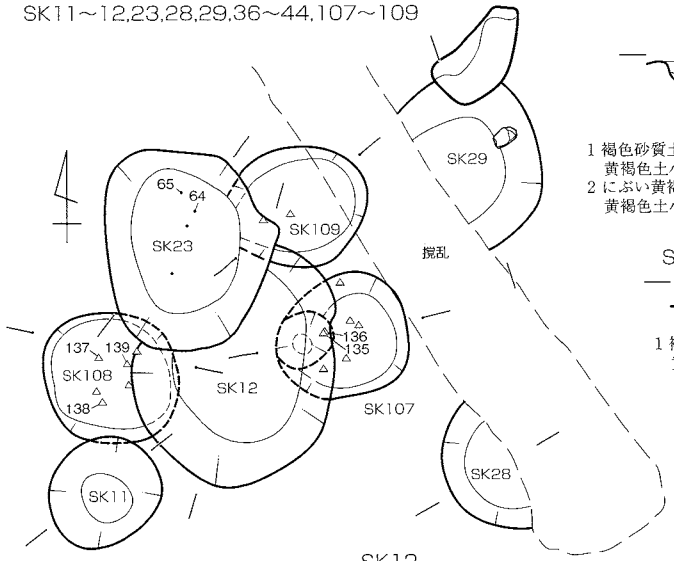
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)花崗岩粒やや多い、黄褐色土粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック含む



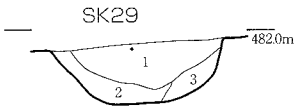
1 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土粒、花崗岩粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土粒、花崗岩粒含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む



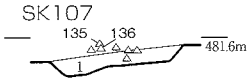
第14図　SI11～14(2)



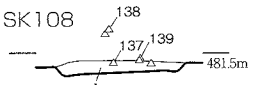
1 褐色砂質土(10YR4/4)スコリア、
黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)
黄褐色土小ブロック含む



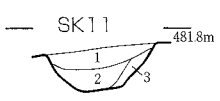
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)
黄褐色土ブロック、
小礫、スコリア、炭化物粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)
黄褐色土小ブロック
やや多く含む、スコリア含む
3 褐色砂質土(10YR4/4)
黄褐色土小ブロック
スコリアともに
やや多く含む



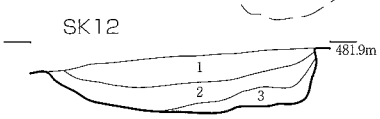
1 褐色砂質土(10YR4/4)
黄褐色土粒、花崗岩粒含む



1 褐色砂質土(10YR4/4)
黄褐色土粒、花崗岩粒含む

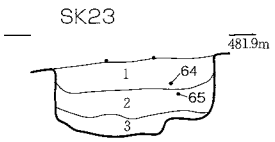


1 暗褐色砂質土(10YR3/4)花崗岩粒、
3～5mmスコリア小、黄褐色土ブロック含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)花崗岩粒、
3～5mmスコリア小、黄褐色土ブロック含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土
小ブロック含む

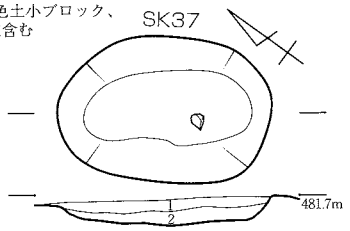


1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、
小礫、スコリア、花崗岩粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、
小礫、スコリア、花崗岩粒含む
3 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、
小礫、スコリア、花崗岩粒含む

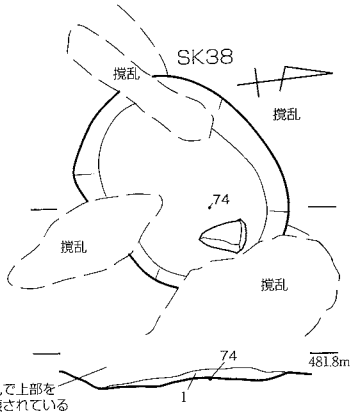
1 褐色砂質土(10YR4/4)
黄褐色土粒、花崗岩粒含む



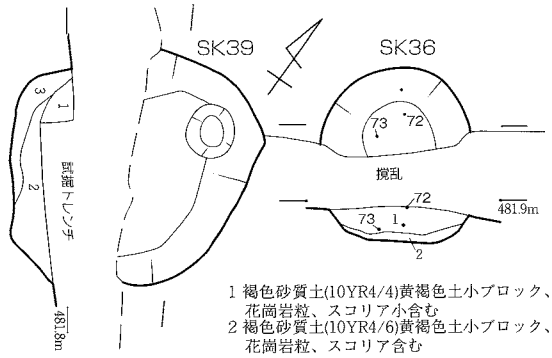
1 褐色砂質土(10YR4/6)
黄褐色土粒、スコリア
2 褐色砂質土(10YR4/4)
黄褐色土ブロック、スコリア、
花崗岩粒
3 暗褐色砂質土(10YR3/4)
黄褐色土小ブロック、スコリア



1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、
花崗岩粒、スコリア小含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、
花崗岩粒、スコリア含む

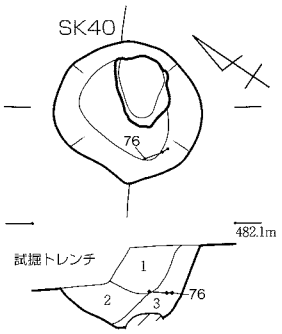


1 褐色砂質土(10YR4/6)花崗岩粒、
黄褐色土小ブロック含む

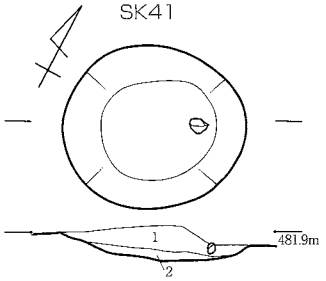


1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、
花崗岩粒、スコリア小含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、
花崗岩粒、スコリア含む

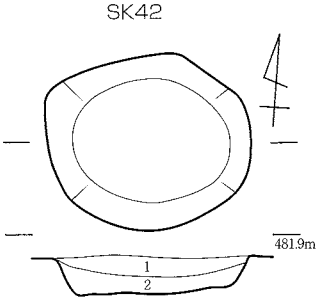
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)
黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土
小ブロック、花崗岩粒、スコリア小含む
3 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土
小ブロック、花崗岩粒、スコリア小含む



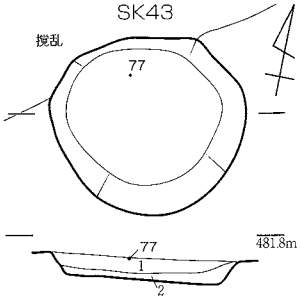
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土
小ブロック、花崗岩粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土
小ブロック、花崗岩粒含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)
黄褐色土小ブロックやや多い



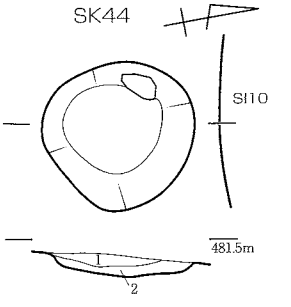
1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、
スコリア、小礫含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、
スコリア、小礫含む



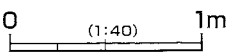
1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土粒、
炭化物粒、スコリア含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)
黄褐色土小ブロック、スコリア含む



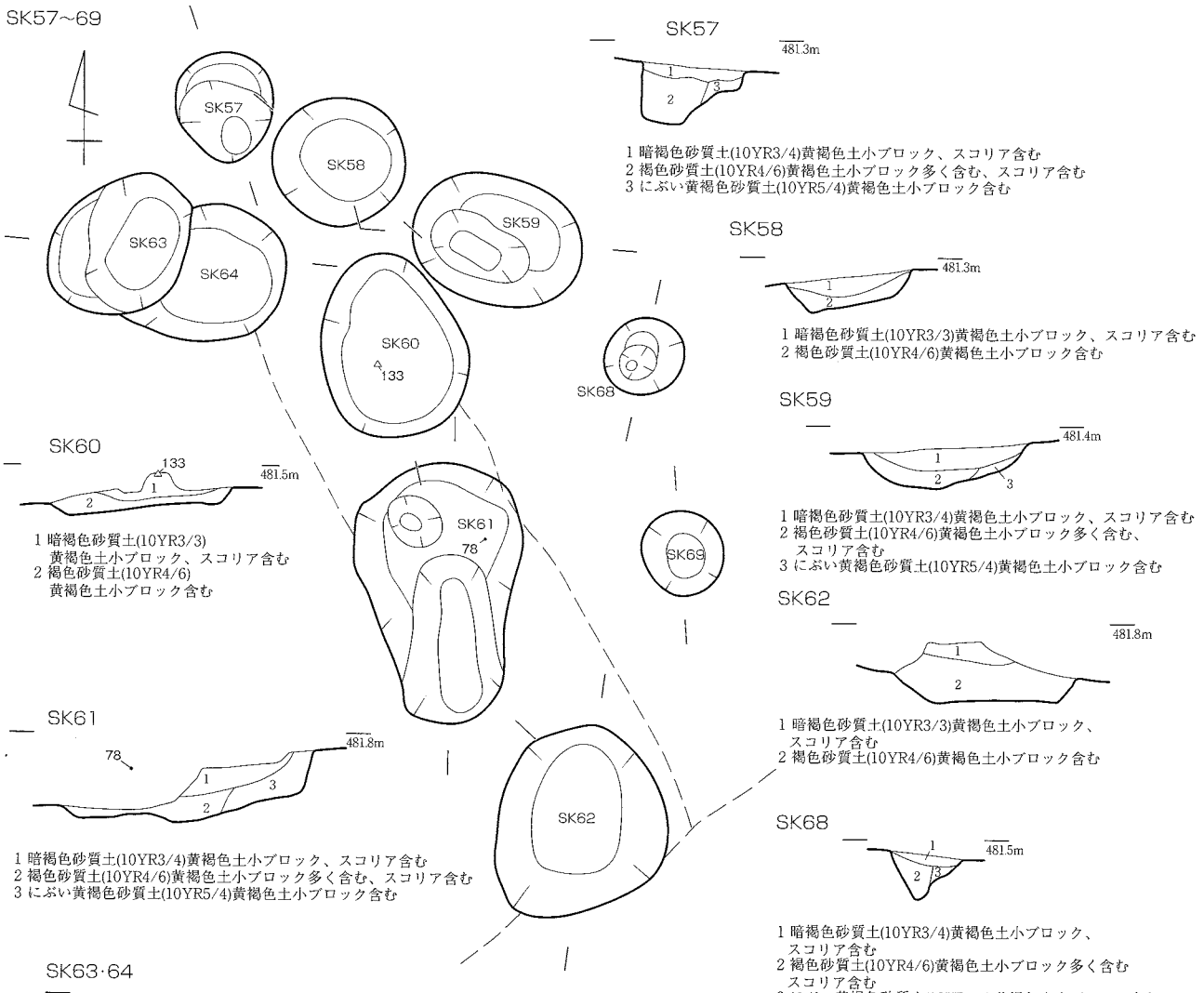
1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土粒、
炭化物粒、スコリア含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)
黄褐色土小ブロック、スコリア含む



1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土粒、
炭化物粒、スコリア含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)
黄褐色土小ブロック、スコリア含む



第15図　SK11・12・23・28・29・36～44・107～109



SK57

481.3m

1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック多く含む、スコリア含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土小ブロック含む

SK58

481.3m

1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック含む

SK59

481.4m

1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック多く含む、
スコリア含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土小ブロック含む

SK60

133
481.5m

1 暗褐色砂質土(10YR3/3)
黄褐色土小ブロック、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)
黄褐色土小ブロック含む

SK61

78
481.8m

1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック多く含む、スコリア含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土小ブロック含む

SK62

481.8m

1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、
スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック含む

SK68

481.5m

1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、
スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック多く含む
スコリア含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土小ブロック含む

SK63·64

481.4m
SK63
SK64

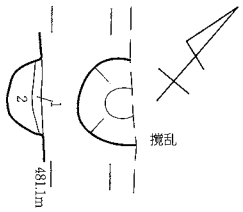
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック多く含む、スコリア含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土小ブロック含む
4 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
5 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック含む

SK69

481.7m

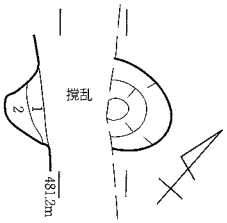
1 褐色砂質土(10YR4/6)花崗岩粒、
黄褐色土小ブロック、スコリア含む

SK65



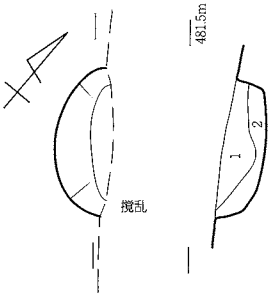
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック小、
スコリア含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック
やや多く含む、小礫含む

SK66



1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック小、
スコリア含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック
やや多く含む、小礫含む

SK67



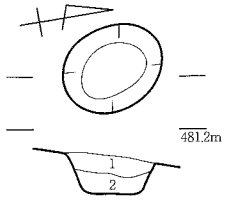
1 褐色砂質土(10YR4/4)スコリア、黄褐色土粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土粒、黄褐色土
小ブロック、スコリア含む

0 (1:40) 1m

第16図　SK57~69

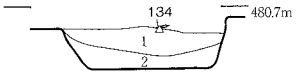
SK70~78·86

SK70

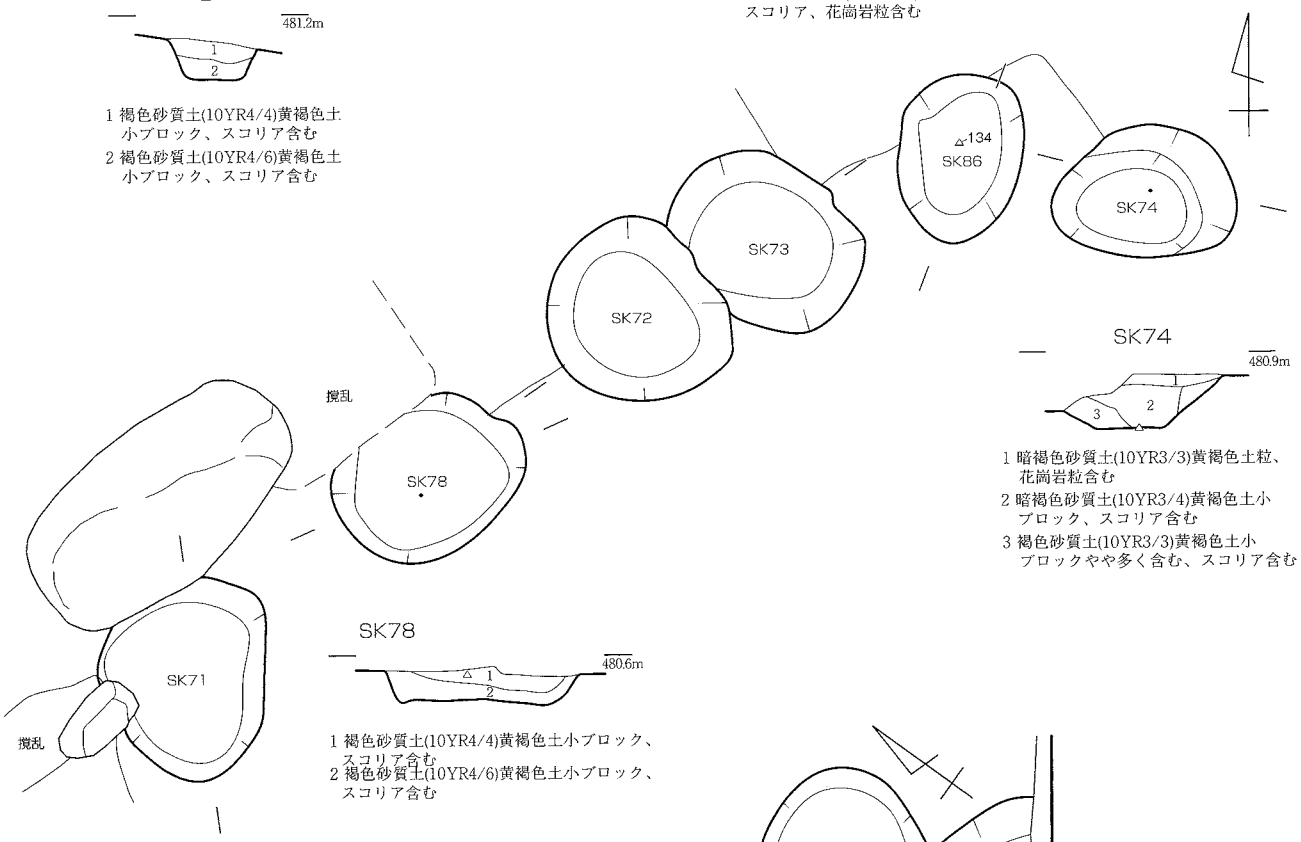


1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、スコリア含む

SK86



1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、スコリア、花崗岩粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア、花崗岩粒含む

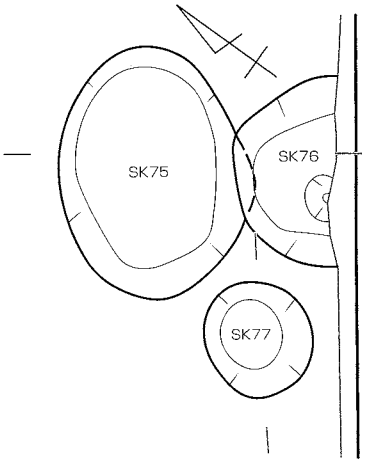


SK74

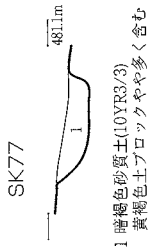
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土粒、花崗岩粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
3 褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロックやや多く含む、スコリア含む

SK78

1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、スコリア含む

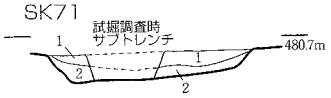


SK77



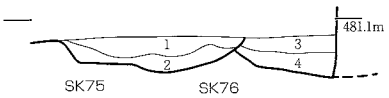
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土ブロックやや多く含む

SK71



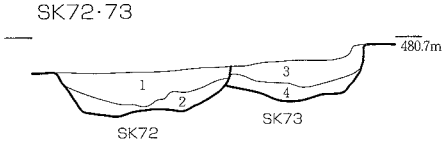
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土ブロック、スコリア含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土ブロック、スコリア含む

SK75·76

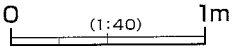


1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土ブロック、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土ブロックやや多く含む、スコリア含む
3 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
4 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、スコリア含む

SK72·73

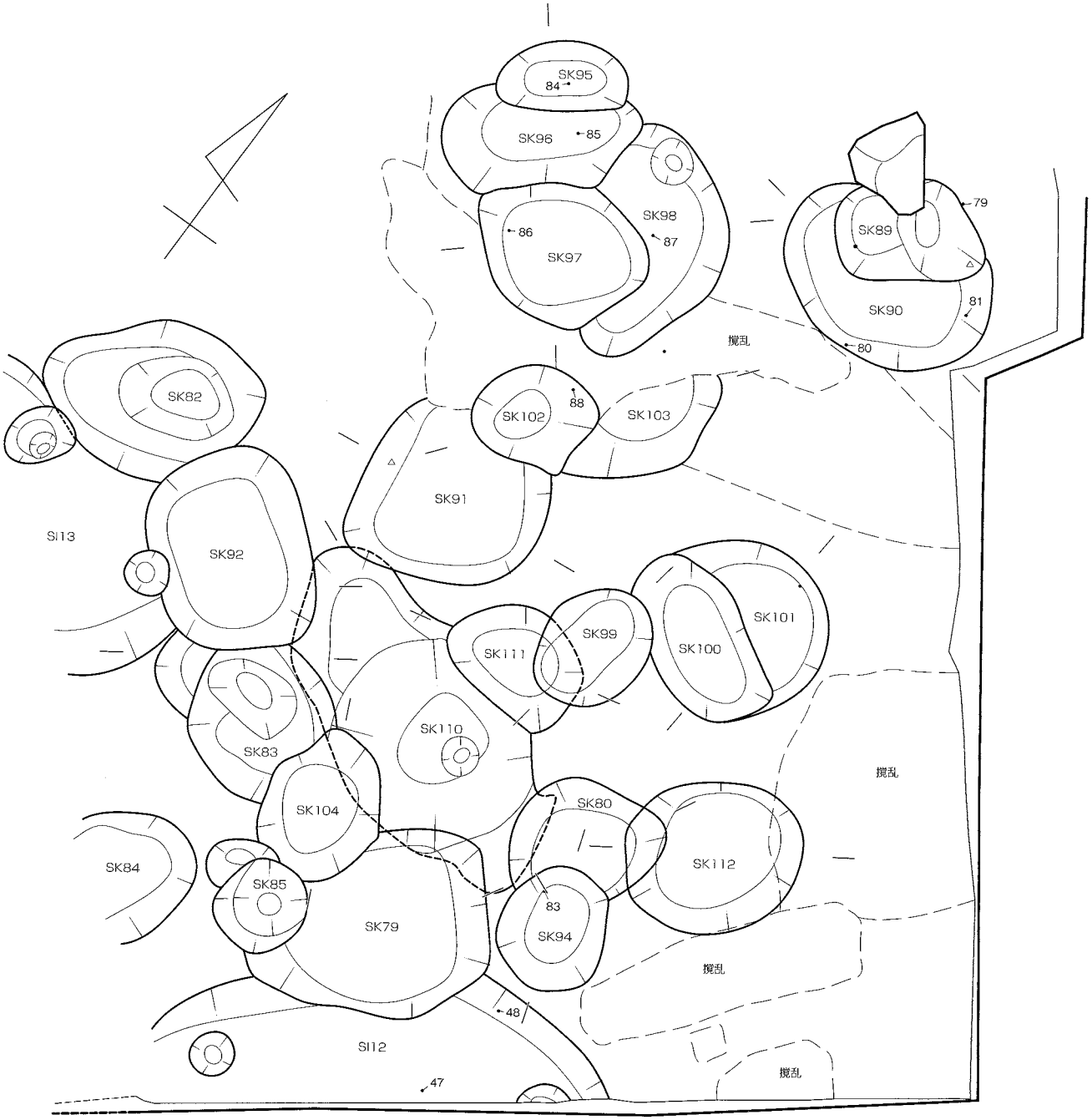


1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土ブロック、スコリア、花崗岩粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土ブロック、スコリア、花崗岩粒含む
3 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土ブロック、スコリア含む
4 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土ブロック、スコリア含む

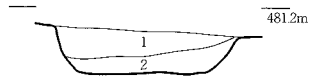


第17図　SK70~78・86

SK79,80,83~85,89~92,94~100~104,110~112

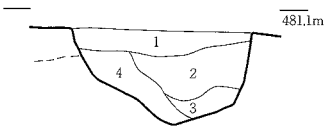


SK80



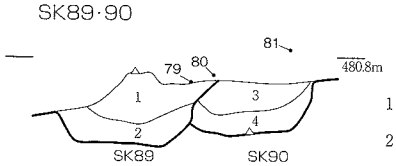
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、スコリアやや多く含む、花崗岩粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、スコリアやや多く含む、花崗岩粒含む

SK83



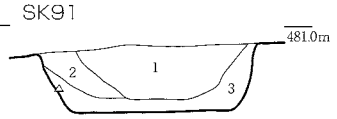
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)花崗岩粒やや多い、スコリア、黄褐色土小ブロック含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)スコリアやや多い、花崗岩粒・黄褐色土小ブロック含む
3 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む
4 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む

SK89·90

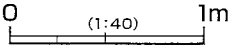


1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
3 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土粒、花崗岩粒、スコリア含む
4 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む

SK91

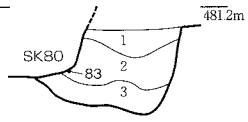


1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土粒、花崗岩粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
3 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む



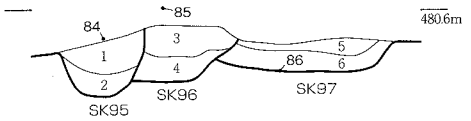
第18図　SK79・80・83~85・89~92・94~105・110~112(1)

SK94

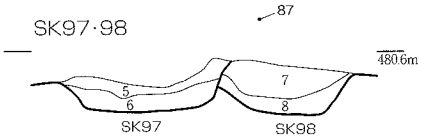


1 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土粒多い、スコリア含む
2 黒褐色砂質土(10YR3/2)黄褐色土粒、花崗岩粒含む
3 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土粒、花崗岩粒含む

SK95·96·97

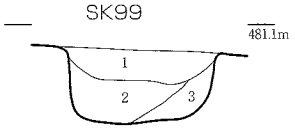


SK97·98



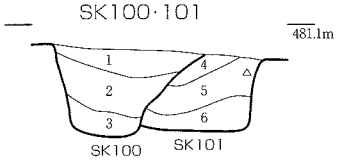
<SK 95·96·97·98>
1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土粒、花崗岩粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土粒、花崗岩粒含む
3 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土粒やや多い、花崗岩粒含む
4 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土粒やや多い、花崗岩粒含む
5 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック含む
6 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土粒含む
7 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土ブロック、スコリア、花崗岩粒含む
8 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア、花崗岩粒含む

SK99



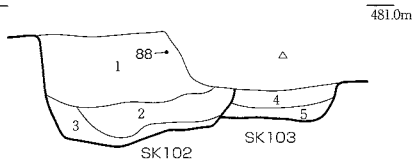
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)花崗岩粒やや多い、黄褐色土粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土粒、花崗岩粒含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む

SK100·101



1 暗褐色砂質土(10YR3/3)花崗岩粒やや多い、黄褐色土粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土粒、花崗岩粒含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む
4 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土粒、花崗岩粒含む
5 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む
6 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む

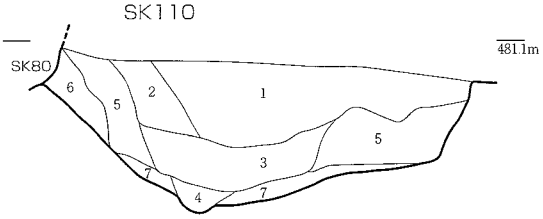
SK102·103



1 黒褐色砂質土(10YR3/2)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒やや多い
2 暗褐色砂質土810YR3/4)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
4 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
5 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒含む

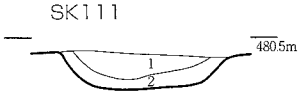
SK104

SK110



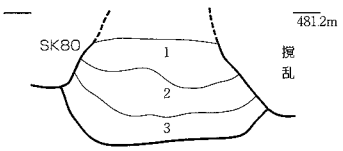
1 褐色砂質土(10YR4/6)黒褐色土ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土ブロック含む
3 暗褐色砂質土(10YR3/3)花崗岩粒、黄褐色土小ブロック、スコリア含む
4 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック多く含む
5 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロックやや多く含む
6 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック多く含む、スコリア含む
7 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック多く含む、スコリア、花崗岩粒やや多い

SK111



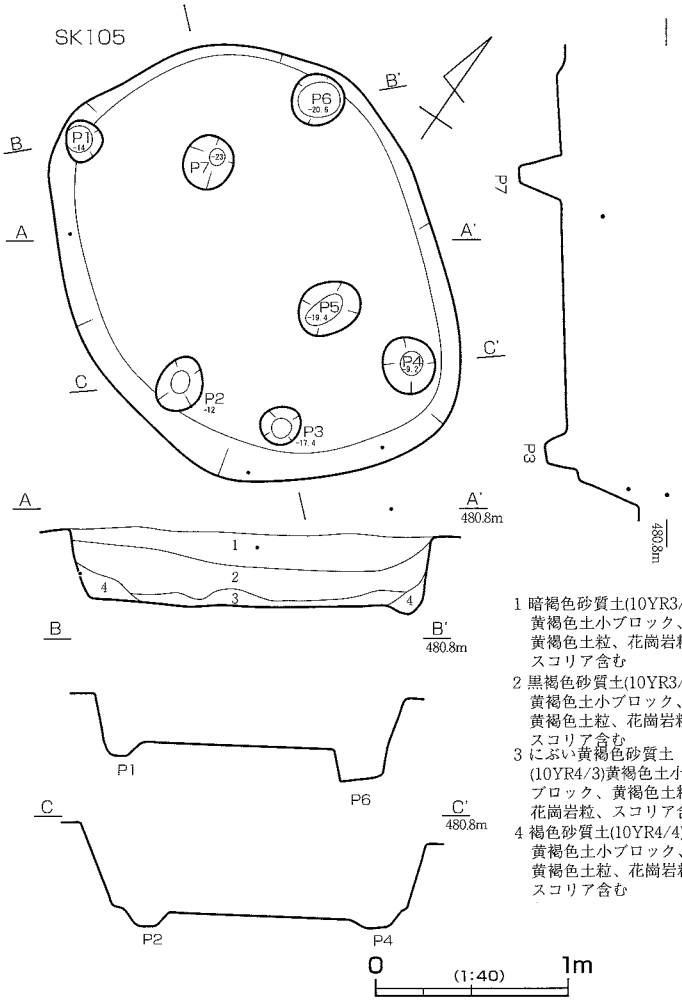
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)黄褐色土粒、花崗岩粒、スコリア含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土ブロック多く含む

SK112



1 黒褐色砂質土(10YR3/2)黄褐色土ブロック、スコリア、花崗岩粒含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土ブロックやや多く含む、スコリア、花崗岩粒含む
3 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土ブロック多く含む、スコリア、花崗岩粒含む

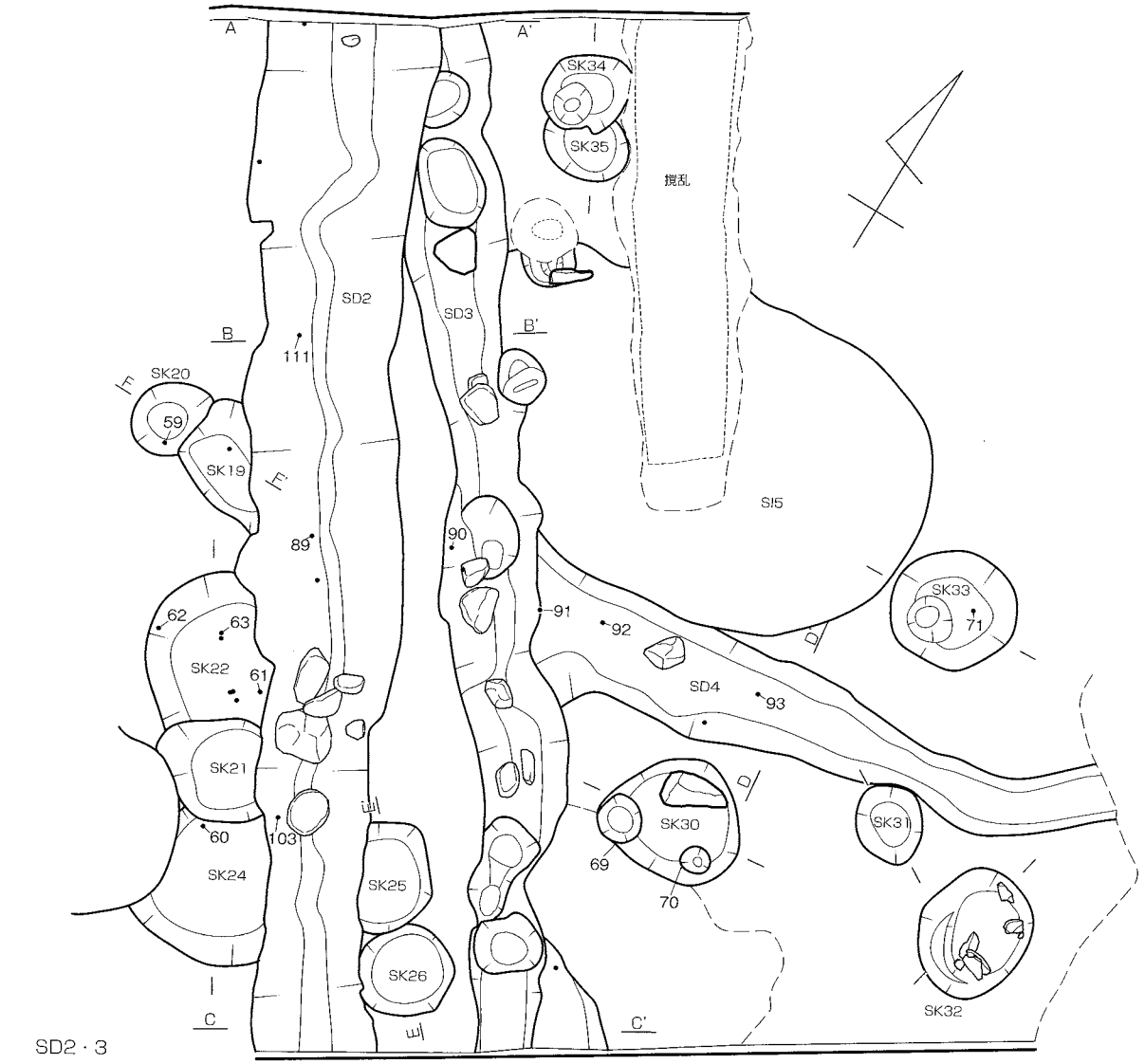
SK105

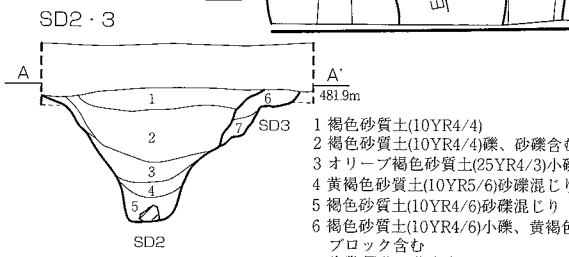


1 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、黄褐色土粒、花崗岩粒、スコリア含む
2 黒褐色砂質土(10YR3/2)黄褐色土小ブロック、黄褐色土粒、花崗岩粒、スコリア含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、黄褐色土粒、花崗岩粒、スコリア含む
4 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、黄褐色土粒、花崗岩粒、スコリア含む

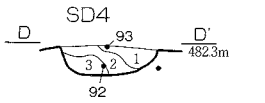
第19図　SK79・80・83・89～91・94～103・105・110～112(2)

SD2～4・SK19～22・24～26・30～35

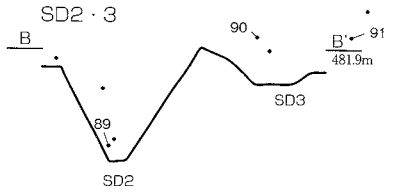


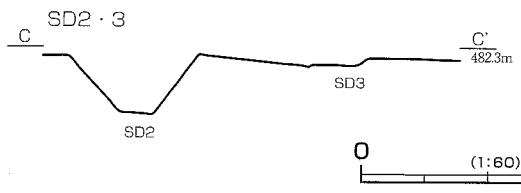


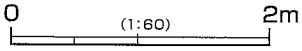
1 褐色砂質土(10YR4/4)
2 褐色砂質土(10YR4/4)礫、砂礫含む
3 オリーブ褐色砂質土(25YR4/3)小礫含む
4 黄褐色砂質土(10YR5/6)砂礫混じり
5 褐色砂質土(10YR4/6)砂礫混じり
6 褐色砂質土(10YR4/6)小礫、黄褐色土ブロック含む
7 砂礫(風化、花崗岩か)

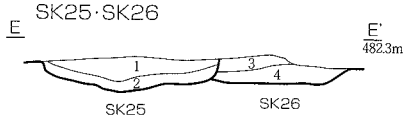


1 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、小礫

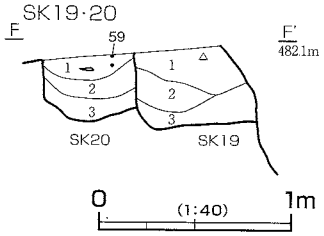








1 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
3 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、スコリア含む
4 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)黄褐色土小ブロック、スコリア含む

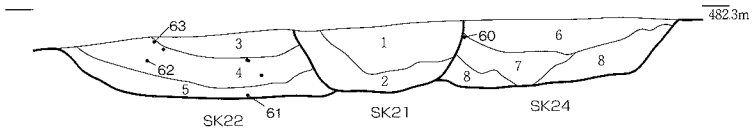


<SK19>
1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア少含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、小礫含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア少含む

<SK20>
1 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、炭化物粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、スコリアやや多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロック、小礫やや多く含む

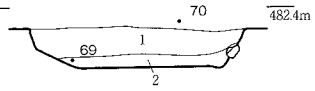
第20図　SD2～4・SK19～22・24～26・30～35

SK21·22·24



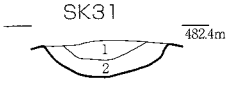
<SK21·22·24>
1暗褐色砂質土(7.5YR3/4)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア小含む
2 暗褐色砂質土(10YR3/4)黄褐色土小ブロック、小礫、スコリア含む
3 褐色砂質土(7.5YR4/4)黄褐色土小ブロック、小礫、スコリアやや多い
4 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、小礫、花崗岩粒含む
5 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロックやや多い、小礫、スコリア少含む
6 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア小礫含む
7 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、スコリアやや多い
8 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、やや多い、スコリア含む

SK30



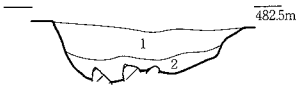
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)
黄褐色土小ブロック、花崗岩粒、スコリア含む
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)
黄褐色土小ブロックやや多く含む、スコリア含む

SK31



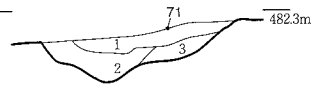
1 褐色砂質土(10YR4/6)
黄褐色土小ブロック含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)
黄褐色土小ブロック含む

SK32



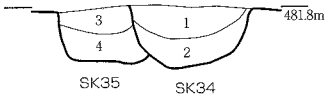
1 暗褐色砂質土(10YR3/3)
黄褐色土小ブロック、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土
ブロック多く含む

SK33

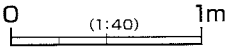


1 褐色砂質土(10YR4/6)黄褐色土小ブロック、スコリア、花崗岩粒含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、スコリア、花崗岩粒含む
3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)黄褐色土小ブロックやや多く含む、スコリア、花崗岩粒含む

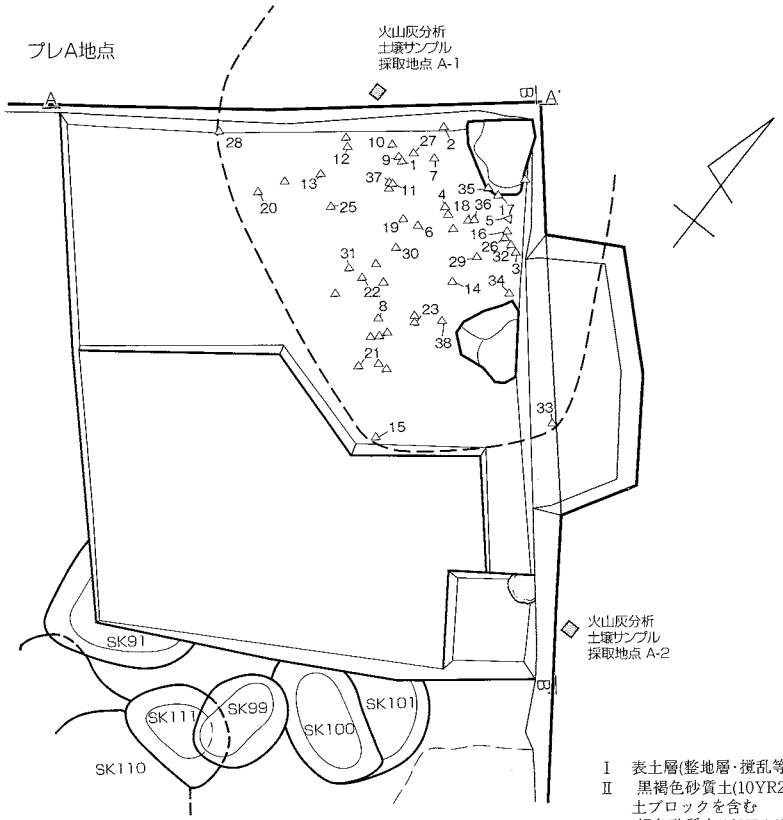
SK34·35

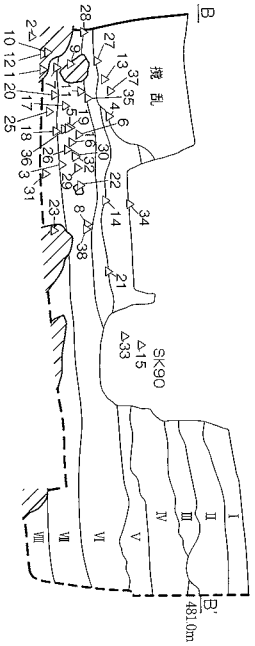


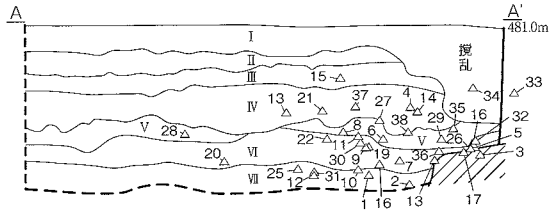
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)
黄褐色土小ブロック、スコリア含む
2 褐色砂質土(10YR4/4)
黄褐色土小ブロック、スコリア含む
3 褐色砂質土(10YR4/4)黄褐色土小ブロック、スコリアやや多い
4 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)
黄褐色土小ブロック、花崗岩粒やや多い



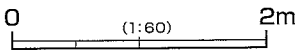
プレA地点



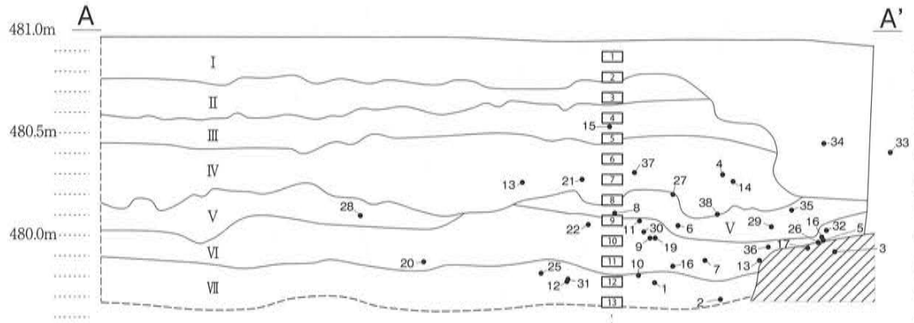


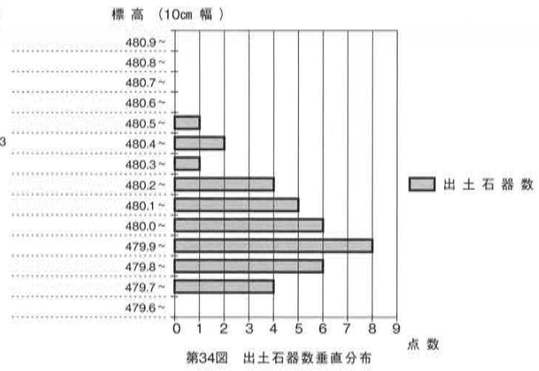


Ⅰ 表土層(整地層·撹乱等も含む)遺物包含層、小礫、炭化物等含む、約15cmほど残存
Ⅱ 黒褐色砂質土(10YR2/2)縄文時代早期末以降の遺物包含層、炭化物粒、小礫、黄褐色土ブロックを含む
Ⅲ 褐色砂質土(10YR4/6)縄文時代の遺構の掘りこみ層位、黄褐色土·黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒含む
Ⅳ 暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土·黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒、1㎜大スコリア含む
Ⅴ 黄褐色砂質土(10YR5/6)暗褐色土ブロック、花崗岩粒、1～2㎜大スコリア含む、炭化物粒微粒含む
Ⅵ 明黄褐色砂質土(10YR6/8)2～5㎜大スコリア、花崗岩粒(Ⅴ層よりやや少ない)含む、風化した花崗岩·石英閃緑岩含む
Ⅶ オリーブ褐色砂質土(2.5Y4/6)小礫やや多く含む、花崗岩粒、5㎜大スコリア極少含む
Ⅷ オリーブ褐色砂質土(2.5Y4/4)小礫やや多く含む、花崗岩粒含む、風化した花崗岩·石英閃緑岩含む

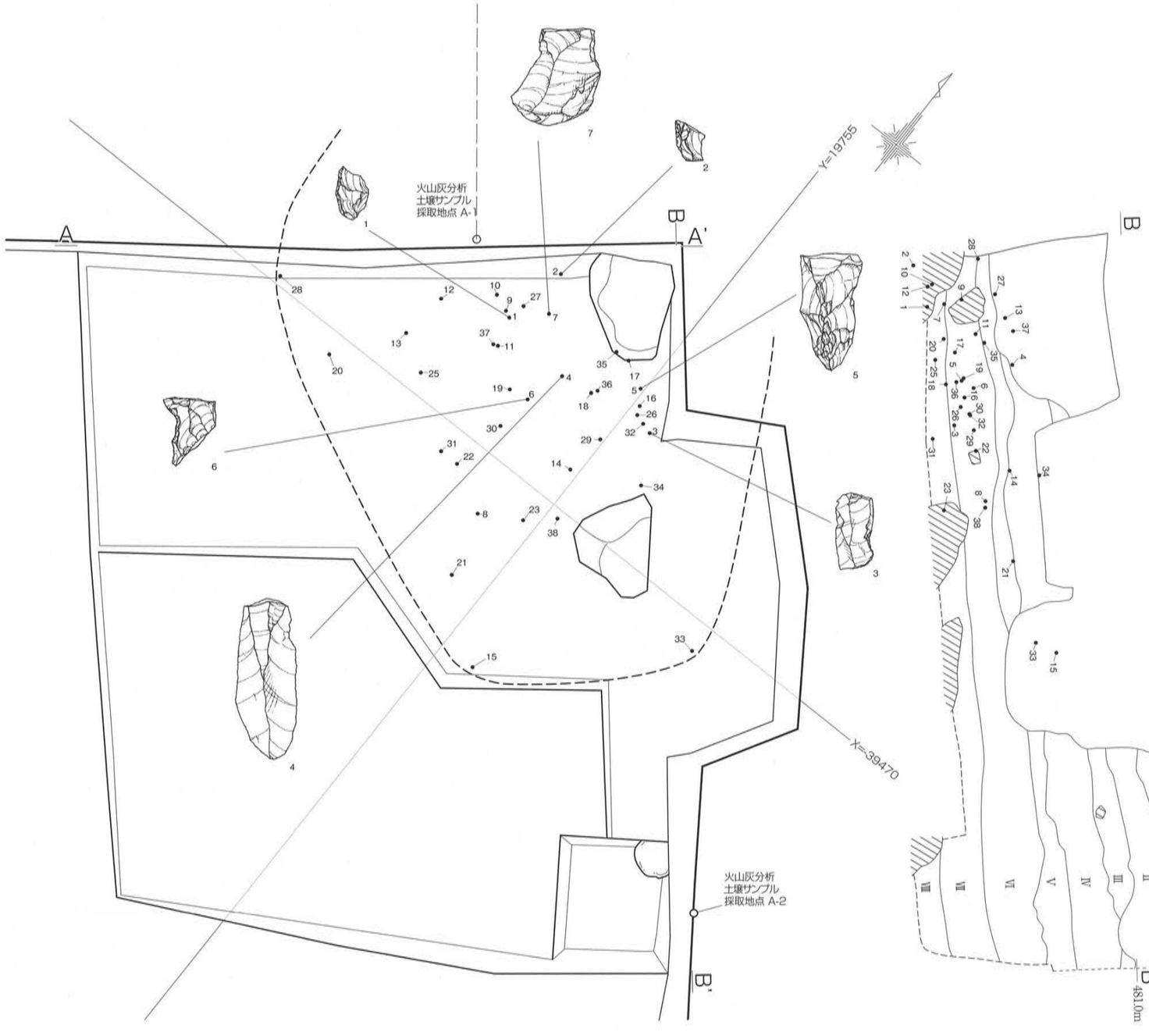


第21図　SK21・22・24・30～35・プレA地点



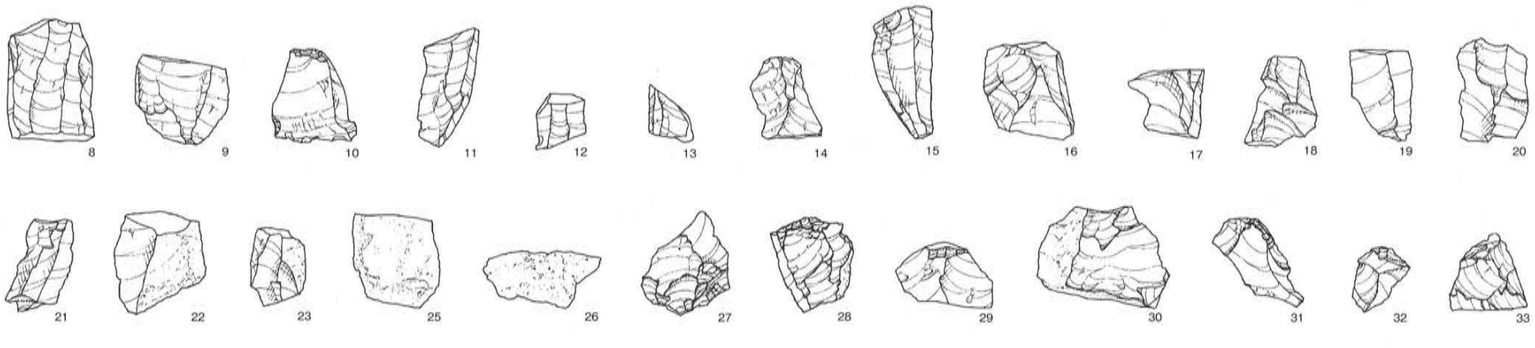


第34図　出土石器数垂直分布



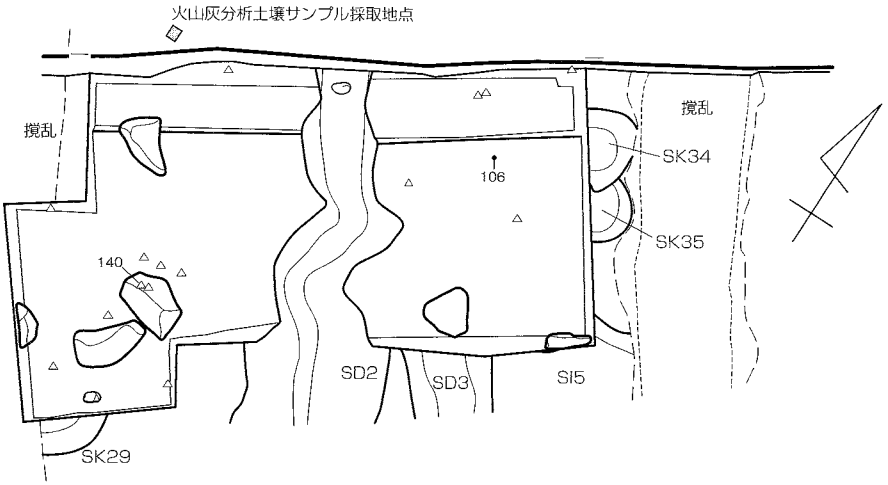
I　表土
II　黒褐色砂質土 10YR2/2　黄褐色土ブロック(遺物包含層)
III　褐色砂質土 10YR4/6　黄褐色ブロック 黒褐色土ブロック 花崗岩粒 炭化粒少量(縄文の切り込み面)
IV　暗褐色砂質土 10YR3/3　黄褐色ブロック 黒褐色土ブロック 花崗岩粒 炭化粒少量 1mm大スコリア
V　黄褐色砂質土 10YR5/6　暗褐色土ブロック 花崗岩粒 1~2mm大スコリア 炭化物粒極少
VI　明黄褐色砂質土 10YR6/6 2~5mm大スコリア 花崗岩粒V層に比べやや少ない 炭化物粒極少
VII　オリーブ褐色土 2.5Y4/6　小礫やや多い 花崗岩粒 5mm大スコリア極少
VIII　オリーブ褐色土 3.5Y4/4　小礫やや多い 花崗岩粒 5mm大スコリア極少

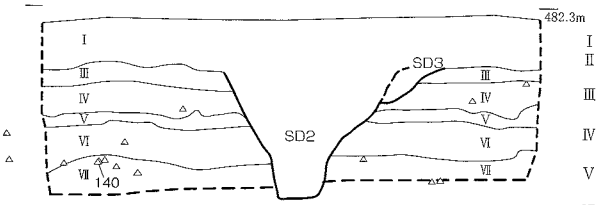
0　(1:30)　2m



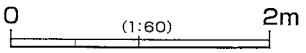
第22図　旧石器時代石器群出土状況図

プレB地点





I　表土層(整地層･撹乱等も含む)遺物包含層、小礫、炭化物等含む、約15cmほど残存
II　黒褐色砂質土(10YR2/2)縄文時代早期末以降の遺物包含層、炭化物粒、小礫、黄褐色土ブロックを含む
III　褐色砂質土(10YR4/6)縄文時代の遺構の掘りこみ層位、黄褐色土･黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒含む
IV　暗褐色砂質土(10YR3/3)黄褐色土･黒褐色土ブロック、花崗岩粒、炭化物粒、1㎜大スコリア含む
V　黄褐色砂質土(10YR5/6)暗褐色土ブロック、花崗岩粒、1～2㎜大スコリア含む、炭化物粒微粒含む
VI　明黄褐色砂質土(10YR6/8)2～5㎜大スコリア、花崗岩粒(V層よりやや少ない)含む、風化した花崗岩･石英閃緑岩含む
VII　オリーブ褐色砂質土(2.5Y4/6)小礫やや多く含む、花崗岩粒、5㎜大スコリア極少含む
VIII　オリーブ褐色砂質土(2.5Y4/4)小礫やや多く含む、花崗岩粒含む、風化した花崗岩･石英閃緑岩含む



第23図　プレ B 地点

第３表　出土遺物観察表（土器類）

地点	図版	番号	種別	器種	部位・形態	整形・施文技法（外）	調整技法（内）	色調	胎土	備考
ＳＩ１	24	1	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	橙（7.5ＹＲ6/8）	粗（白色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	2	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：赤褐（5ＹＲ4/6） 内：黒（7.5ＹＲ2/1）	粗（大粒白色粒子、黒色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	3	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：赤褐（2.5ＹＲ4/6） 内：黒褐（10ＹＲ2/2）	粗（大粒白色粒子、黒色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	4	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：赤褐（5ＹＲ4/8） 内：黒褐（10ＹＲ2/2）	粗（白色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	5	縄文	深鉢	胴部	沈線、ナデ	ナデ	外：赤褐（2.5ＹＲ4/6） 内：黒褐（10ＹＲ2/3）	粗（白・黒色粒子、雲母、繊維）	
ＳＩ１	24	6	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：赤褐（5ＹＲ4/8） 内：黒褐（10ＹＲ2/3）	粗（大粒白色粒子、黒色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	7	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：赤褐（2.5ＹＲ4/6） 内：褐（7.5ＹＲ4/6）	粗（白・黒色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	8	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：赤褐（2.5ＹＲ4/6） 内：褐（7.5ＹＲ3/1）	粗（白色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	9	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：明赤褐（5ＹＲ5/8） 内：黒褐（10ＹＲ2/2）	粗（大粒白色粒子、黒色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	10	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：赤褐（2.5ＹＲ4/6） 内：黒褐（10ＹＲ2/3）	粗（白・黒色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	11	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	暗褐（10ＹＲ3/3）	粗（大粒白色粒子、黒・赤黒色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	12	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	暗褐（10ＹＲ3/4）	粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	13	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	にぶい赤褐（5ＹＲ4/4）	粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	14	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	にぶい赤褐（5ＹＲ4/4）	粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	15	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	黄褐（10ＹＲ5/6）	粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	16	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	暗褐（10ＹＲ3/3）	粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ１	24	17	縄文	深鉢	胴部	条痕、ナデ	条痕、ナデ	外：赤褐（5ＹＲ4/8） 内：黒褐（10ＹＲ7/6）	やや粗（白・黒色粒子、雲母）	
ＳＩ１	24	18	縄文	深鉢	胴部	条線	ナデ、指頭痕	暗褐（10ＹＲ3/4）	やや粗（白・黒色粒子）	
ＳＩ１	24	19	土師か	鉢か	体部	ナデ	ナデ	橙（5ＹＲ4/4）	やや粗（白・黒・赤色粒子）	
ＳＩ１	24	20	縄文	浅鉢か	胴部	ナデ	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/3）	やや粗（大粒白色粒子、黒・赤色粒子、雲母）	
ＳＩ２	24	21	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/4）	やや粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ２	24	22	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/4）	やや粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ２	24	23	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：赤褐（7.5ＹＲ4/6） 内：黒褐（10ＹＲ2/2）	やや粗（大粒白色粒子、黒色粒子、繊維）	
ＳＩ２	24	24	縄文	深鉢	口縁	ナデ	ナデ	暗褐（10ＹＲ3/4）	密（白・黒色粒子）	
ＳＩ２	24	25	縄文	深鉢	胴部	ナデ、刻み目	ナデ	にぶい黄褐（10ＹＲ4/3）	粗（白・黒色粒子、雲母）	
ＳＩ４	24	26	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：明赤褐（5ＹＲ5/6） 内：黒褐（10ＹＲ2/2）	粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ４	24	27	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/4）	粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ５	24	28	縄文	深鉢	胴部	条痕、ナデ	ナデ	外：赤褐（5ＹＲ4/8） 内：暗褐（10ＹＲ3/3）	粗（白・黒色粒子、繊維）	

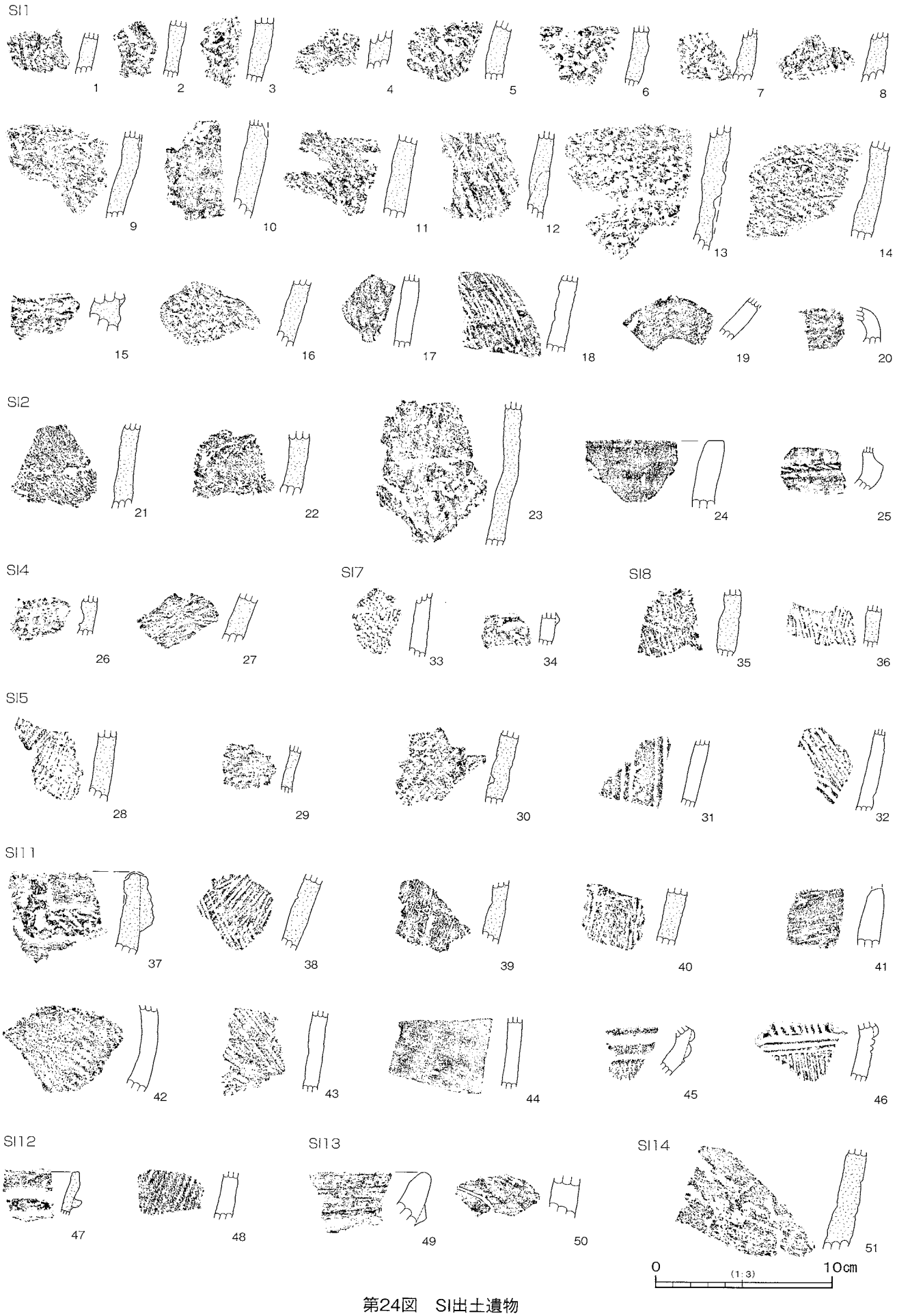
地点	図版	番号	種別	器種	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法（内）	色 調	胎土	備考
ＳＩ５	24	29	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	暗褐（10ＹＲ3/3）	粗（白・黒色粒子、繊維）	
ＳＩ５	24	30	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	暗褐（10ＹＲ3/2）	粗（白・黒色粒子、繊維）	
ＳＩ５	24	31	縄文	深鉢	胴部	沈線、半截竹管刺突、ナデ	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/6）	粗（白・黒色粒子、雲母）	
ＳＩ５	24	32	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/4）	粗（白・黒・赤色粒子）	
ＳＩ７	24	33	縄文	深鉢	胴部	縄文	ナデ	明褐（7.5ＹＲ5/6）	粗（白・黒・赤色粒子、雲母）	
ＳＩ７	24	34	縄文	深鉢	胴部	隆帯、縄文	ナデ	明褐（7.5ＹＲ5/6）	やや粗（白・黒・赤色粒子、雲母）	
ＳＩ８	24	35	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	明褐（7.5ＹＲ5/8）	粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ８	24	36	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	外：明黄褐（10ＹＲ6/6） 内：黒褐（10ＹＲ2/2）	やや粗（白・黒・赤色粒子、雲母、繊維）	
ＳＩ11	24	37	縄文	深鉢	口縁	隆帯、刻み目、ナデ	ナデ	暗褐（10ＹＲ3/3）	やや粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ11	24	38	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	外：にぶい黄褐（10ＹＲ5/4） 内：明黄褐（10ＹＲ7/6）	やや粗（大粒白色粒子、黒色粒子、繊維）	
ＳＩ11	24	39	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	赤褐（5ＹＲ4/6）	やや粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ11	24	40	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/4）	粗（白・赤色粒子、雲母、繊維）	
ＳＩ11	24	41	縄文	深鉢	胴部	条痕、ナデ	ナデ	明褐（7.5ＹＲ5/6）	やや粗（白・黒色粒子、雲母）	擬似口縁か
ＳＩ11	24	42	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	明褐（7.5ＹＲ5/8）	やや粗（白・黒色粒子）	
ＳＩ11	24	43	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	黒（10ＹＲ2/1）	やや粗（大粒白色粒子、赤色粒子）	
ＳＩ11	24	44	縄文	浅鉢か	胴部	ナデ	ナデ	橙（7.5ＹＲ6/6）	やや粗（白・黒色粒子、雲母）	
ＳＩ11	24	45	縄文	深鉢	胴部	沈線、隆帯、押引文	ナデ	橙（7.5ＹＲ6/6）	やや粗（白・黒・赤色粒子、雲母）	
ＳＩ11	24	46	縄文	深鉢	胴部	半截竹管沈線、結節隆帯	ナデ	外：褐（10ＹＲ4/6） 内：黒褐（10ＹＲ3/1）	密（白・黒・赤色粒子、雲母）	
ＳＩ12	24	47	縄文	深鉢	口縁	隆帯、ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10ＹＲ7/4）	密（白・赤色粒子、繊維）	
ＳＩ12	24	48	縄文	深鉢	胴部	縄文	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/4）	密（白・黒色粒子、雲母）	
ＳＩ13	24	49	縄文	深鉢	口縁	隆帯、ナデ	ナデ	明赤褐（5ＹＲ3/6）	やや粗（白・黒色粒子、雲母）	
ＳＩ13	24	50	縄文	深鉢	胴部	沈線、ナデ	ナデ	暗赤褐（5ＹＲ3/4）	密（白・黒・赤色粒子、雲母）	
ＳＩ14	24	51	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	明赤褐（5ＹＲ5/8）	粗（白・黒・赤色粒子、雲母、繊維）	
SK14	25	52	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/6）	粗（白・黒色粒子、繊維）	
SK14	25	53	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：赤褐（.5ＹＲ4/6） 内：黒褐（10ＹＲ2/3）	粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
SK14	25	54	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	明黄褐（10ＹＲ6/6）	粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
SK14	25	55	縄文	深鉢	口縁	縄文	ナデ	外：黒褐（10ＹＲ2/3） 内：明褐（7.5ＹＲ5/6）	密（白・黒・赤色粒子、雲母）	
SK14	25	56	縄文	深鉢	胴部	縄文	ナデ	外：明褐（7.5ＹＲ5/8） 内：黒褐（10ＹＲ2/2）	粗（白・黒・赤色粒子、雲母）	
SK14	25	57	縄文	深鉢	胴部	条痕、ナデ	条痕	明赤褐（5ＹＲ5/6）	やや粗（白・黒色粒子、雲母）	
SK14	25	58	縄文	深鉢	胴部	ナデ	条痕	橙（7.5ＹＲ6/8）	粗（白・黒色粒子、雲母）	
SK20	25	59	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	明赤褐（5ＹＲ5/8）	やや粗（白・黒・赤色粒子）	
SK21	25	60	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/6）	やや粗（白・黒・赤色粒子）	
SK22	25	61	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：明赤褐（5ＹＲ5/6） 内：黒褐（10ＹＲ3/2）	粗（白・黒・赤色粒子、繊維）	
SK22	25	62	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	明褐（7.5ＹＲ5/6）	密（白・黒色粒子、雲母）	

地点	図版	番号	種別	器種	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調	胎土	備考
SK22	25	63	縄文	深鉢	胴部	沈線、隆帯、縄文	ナデ	褐(7.5YR4/4)	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	
SK23	25	64	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外:赤褐(5YR5/6) 内:暗褐色(10YR3/4)	粗(白・黒・赤色粒子、雲母)	
SK23	25	65	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	明褐(7.5YR5/8)	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母)	
SK27	25	66	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	赤褐(5YR4/6)	粗(白・黒色粒子、雲母)	
SK27	25	67	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	赤褐(5YR4/6)	粗(大粒白色粒子、黒・赤色粒子、繊維)	
SK27	25	68	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ、輪積痕	橙(7.5YR6/6)	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母)	
SK30	25	69	縄文	深鉢	胴部	縄文、沈線	ナデ	橙(7.5YR6/6)	密(白・黒色粒子、雲母)	
SK30	25	70	縄文	深鉢	胴部	縄文、隆帯	ナデ	明黄褐(10YR6/6)	密(白・黒色粒子、雲母)	
SK33	25	71	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	褐(7.5YR4/6)	粗(白・黒色粒子、繊維)	
SK36	25	72	縄文	深鉢	口縁	隆帯、刻み目、ナデ	ナデ	褐(10YR4/4)	粗(白・黒・赤色粒子、繊維)	
SK36	25	73	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	にぶい赤褐(5YR4/4)	粗(白・黒色粒子、繊維)	
SK38	25	74	縄文	深鉢	胴部	貼付文、刺突	ナデ	黒褐(10YR2/3) 明褐(7.5YR5/6)	粗(白・黒色粒子)	
SK40	25	75	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	黒褐(7.5YR2/2)	粗(白・黒・赤色粒子、繊維)	
SK40	25	76	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	褐(7.5YR4/6)	粗(白・黒・赤色粒子、繊維)	
SK43	25	77	縄文	深鉢	胴部	縄文	ナデ	外:にぶい赤褐(5YR4/4) 内:にぶい黄褐(10YR4/3)	やや粗(白・黒・赤色粒子)	
SK61	25	78	縄文	深鉢	口縁	ロクロナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	
SK89	25	79	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	橙(5YR6/6)	やや粗(白・黒・赤色粒子、繊維)	
SK90	25	80	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	外:黒褐(10YR2/3) 内:明褐(7.5YR5/6)	粗(白・黒・赤色粒子)	
SK90	25	81	縄文	深鉢	胴部	半截竹管による押引、隆帯	ナデ	赤褐(5YR4/6)	密(白・黒色粒子、雲母)	
SK92	25	82	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	外:暗褐(10YR3/3) 内:明褐(7.5YR6/6)	やや粗(白・黒・赤色粒子、繊維)	
SK94	25	83	土師か	甕か	体部	ナデ	ナデ	明褐(7.5YR5/6)	密(白・黒色粒子、雲母)	
SK95	25	84	縄文	深鉢	口縁	条痕か	ナデ	橙(7.5YR7/6)	粗(白・黒・赤色粒子)	
SK96	25	85	縄文	深鉢	胴部	隆帯、縄文、半截竹管による押引	ナデ	明褐(7.5YR5/8)	やや粗(白・黒色粒子、雲母)	
SK97	25	86	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外:明褐(7.5YR5/8) 内:黒褐(10YR3/2)	粗(白・黒・赤色粒子、繊維)	
SK98	25	87	縄文	深鉢	胴部	刺突	ナデ	暗赤褐(5YR3/6)	やや粗(白・黒色粒子、雲母)	
SK102	25	88	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	褐(7.5YR4/4)	やや粗(大粒白色粒子、黒・赤色粒子)	
SD2	25	89	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	暗褐(10YR3/4)	粗(白・黒色粒子、雲母、繊維)	
SD3	25	90	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	褐(7.5YR4/6)	密(白・黒色粒子、雲母)	
SD3	25	91	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	明赤褐(5YR5/6)	密(黒・赤色粒子、雲母)	
SD4	25	92	縄文	深鉢	胴部	縄文	ナデ	橙(7.5YR6/6)	密(白・黒色粒子、雲母)	
SD4	25	93	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	黄橙(7.5YR7/8)	やや粗(白・黒色粒子、繊維)	
遺構外	26	94	縄文	浅鉢か	胴部	ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	粗(白・黒・赤色粒子、雲母、繊維)	
遺構外	26	95	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	明褐(7.5YR5/8)	粗(白・黒・赤色粒子、繊維)	
遺構外	26	96	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	明褐(7.5YR5/8)	粗(大粒白色粒子、黒・赤色粒子、繊維)	
遺構外	26	97	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	明褐(7.5YR5/6)	粗(白・黒・赤色粒子、繊維)	

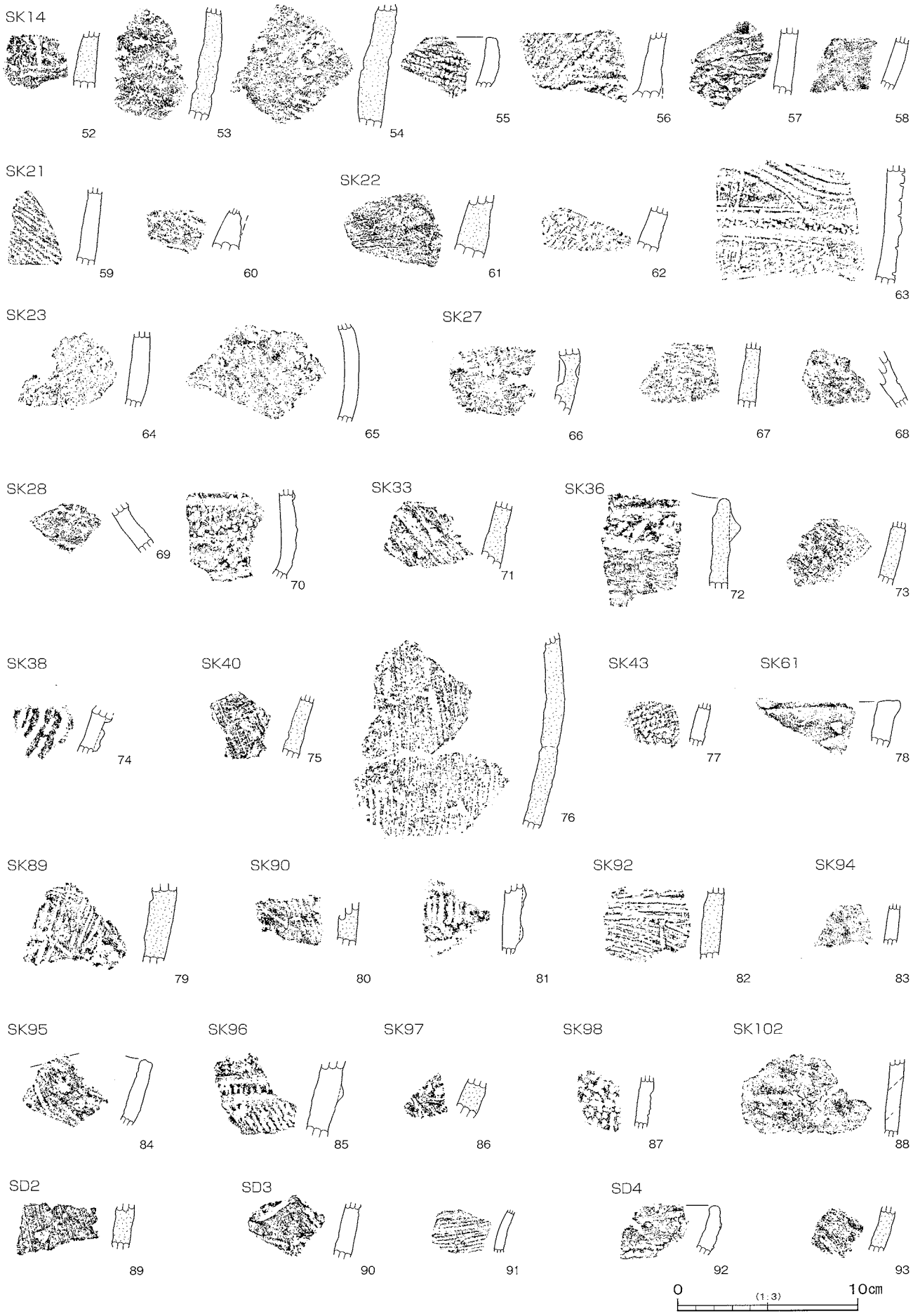
地点	図版	番号	種別	器種	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法（内）	色 調	胎土	備考
遺構外	26	98	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	赤褐（5ＹＲ4/6）	粗（白・黒・赤色粒子、雲母、繊維）	
遺構外	26	99	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	外：赤褐（5ＹＲ4/8） 内：黒（7.5ＹＲ2/1）	密（白・黒・赤色粒子、雲母、繊維）	
遺構外	26	100	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/4）	粗（白・黒色粒子、繊維）	
遺構外	26	101	縄文	深鉢	胴部	縄文	ナデ	明褐（7.5ＹＲ5/6）	密（白・黒色粒子、雲母）	
遺構外	26	103	縄文	深鉢	胴部	条痕	条痕、ナデ	橙（7.5ＹＲ5/8）	やや粗（白・黒色粒子）	
遺構外	26	104	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	明褐（7.5ＹＲ5/6）	やや粗（白・黒・赤色粒子、雲母）	
遺構外	26	105	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/6）	やや粗（白・黒・赤色粒子、雲母）	
遺構外	26	106	縄文	深鉢	胴部	隆帯、条痕	ナデ	橙（7.5ＹＲ6/6）	密（白・黒・赤色粒子、雲母）	
遺構外	26	107	縄文	深鉢	胴部	半截竹管による刺突	ナデ	にぶい黄褐（10ＹＲ7/4）	粗（白・黒・赤色粒子、雲母）	
遺構外	26	108	縄文	深鉢	胴部	縄文、沈線	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/4）	密（白・黒色粒子、雲母）	
遺構外	26	109	縄文	深鉢	胴部	縄文、沈線	ナデ	にぶい赤褐（5ＹＲ4/4）	密（白・黒色粒子、雲母）	
遺構外	26	110	縄文	深鉢	口縁部	半截竹管による押引	ナデ	褐（10ＹＲ4/6）	密（白・黒色粒子、雲母）	
遺構外	26	111	縄文	浅鉢か	口縁	縄文	ナデ	明褐（7.5ＹＲ5/8）	密（白・黒色粒子、雲母）	穿孔、補修孔か
遺構外	26	112	縄文	深鉢	胴部	条痕、隆帯、ナデ	ナデ	褐（7.5ＹＲ4/3）	粗（白・黒色粒子、雲母）	
遺構外	26	113	縄文	深鉢	胴部	隆帯、ナデ	ナデ	橙（7.5ＹＲ6/6）	密（白・黒色粒子、雲母）	
遺構外	26	114	縄文	深鉢	胴部	条痕	ナデ	橙（7.5ＹＲ6/6）	密（白・黒・赤色粒子、雲母）	
遺構外	26	115	縄文	深鉢	胴部	沈線、ナデ	ナデ	明褐（7.5ＹＲ5/8）	密（大粒白色粒子、黒色粒子、雲母）	
遺構外	26	116	縄文	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	にぶい赤褐（5ＹＲ4/4）	密（大粒白色粒子、黒・赤色粒子、雲母）	
遺構外	26	117	磁器	皿	口～底	底面にスタンプ	口縁下に2本の緑線	灰白N8/	緻密	口：（9.4）底：6.0 高：1.6
表土	26	118	縄文	深鉢	胴部	条痕、隆帯、半截竹管による連続刺突	ナデ	橙（7.5ＹＲ6/6）	密（白・黒色粒子、雲母）	

第４表　出土遺物観察表（石器類）

地点	図版	番号	分類	長cm	幅cm	厚cm	重さg	石材	色調	備考
イコウ外	26	119	石鏃	(9.2)	(9.5)	0.4	0.56	黒曜石	暗緑灰5G4/1	
SI5	26	120	スクレイパー	2.0	(2.5)	0.8	2.68	黒曜石	暗緑灰5G4/1	
SI11	26	121	石鏃	1.8	1.5	0.5	0.91	石英（水晶）	－	
SI11	26	122	石鏃	2.2	1.3	0.4	0.95	頁岩	暗緑灰10G4/1	
SI1	27	123		15.0	12.4	5.6	1930	花崗閃緑岩	浅黄2.5Y7/4	
SI1	27	124		9.4	4.7	1.5	58	粘板岩	灰7.5Y6/1	
SI1	27	125		5.3	2.8	0.8	11	粘板岩	灰白7.5Y7/2	
SI1	27	126		6.3	5.8	0.9	30	粘板岩	灰7.5Y6/1	
SI5	27	127		6.8	6.3	4.9	295	花崗閃緑岩	淡黄5Y8/3	
SI5	27	128		6.4	5.0	2.7	131	閃緑岩	にぶい黄2.5Y6/3	
SI5	27	129		7.7	7.0	1.3	83	ホルンフェルス	緑灰5G5/1	
SI11	27	130		13.7	8.0	1.7	192	ホルンフェルス	灰白7.5Y7/2	
SK14	27	131	礫器				884	安山岩	灰白7.5Y7/2	
SK19	27	132		10.1	4.5	2.0	97.82	ホルンフェルス	灰10Y5/1	
SK60	27	133		8.6	6.1	1.5	89.56	粘板岩	灰7.5Y6/1	
SK86	28	134		9.8	3.9	0.4	33.13	ホルンフェルス	灰7.5Y6/1	
SK107	28	135		10.8	5.4	1.4	101.41	粘板岩	灰白10Y7/1	
SK107	28	136		15.5	6.7	2.6	288.82	粘板岩	灰10Y6/1	
SK108	28	137					798	閃緑岩	浅黄2.5Y7/4	
SK108	28	138		8.0	7.9	3.0	310.7	安山岩	灰黄2.5Y6/2	
SK108	28	139					570	花崗閃緑岩	淡黄5Y8/3	
プレB	28	140		11.4	4.8	2.0	126.4	砂岩	淡黄5Y7/3	
イコウ外	28	141		18.0	7.4	3.3	468.91	粘板岩	淡黄5Y7/3	

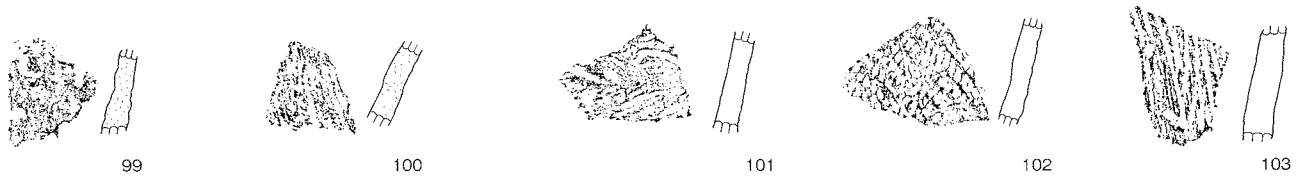

SI1
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
SI2
21
22
23
24
25
SI4
26
27
SI7
33
34
SI8
35
36
SI5
28
29
30
31
32
SI11
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
SI12
47
48
SI13
49
50
SI14
51
0
(1:3)
10cm

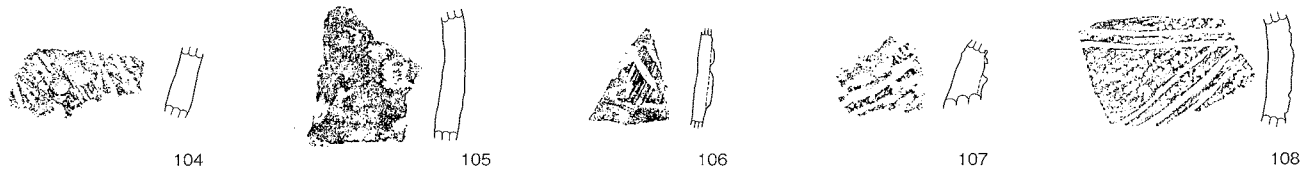
第24図　SI出土遺物



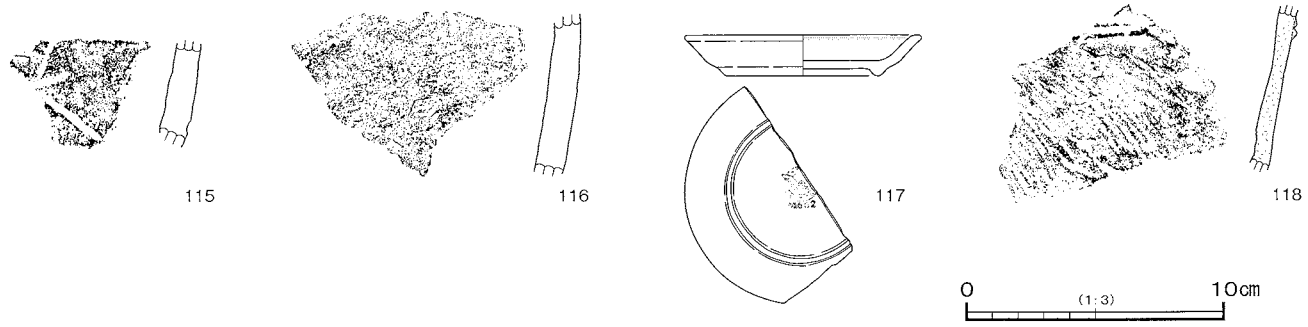
第25図　SK・SD 出土遺物

遺構外

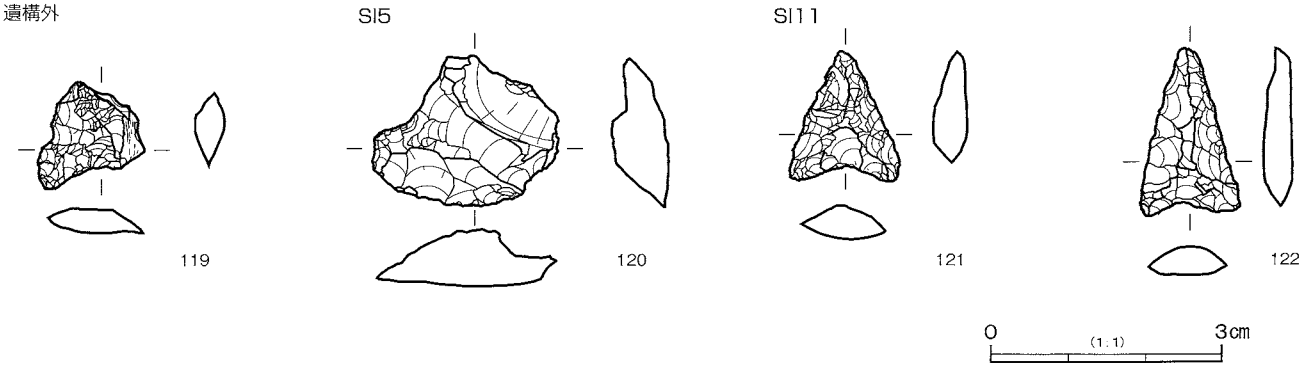




表土

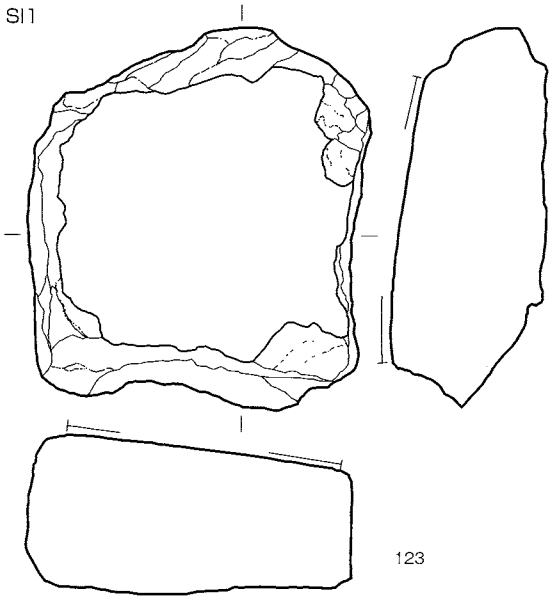


遺構外　SI5　SI11

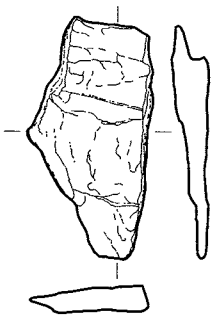


第26図　遺構外・表土出土遺物、石器(1)

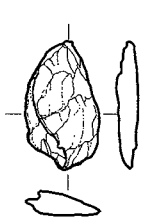
SI1



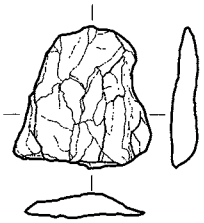
123



124

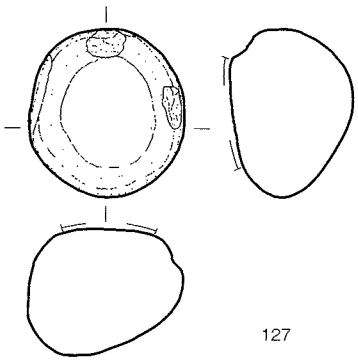


125

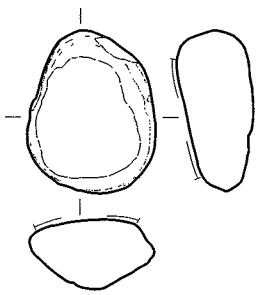


126

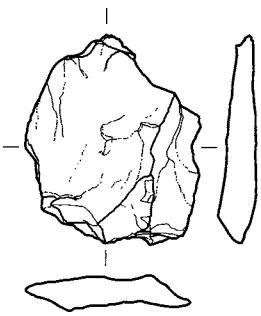
SI5



127

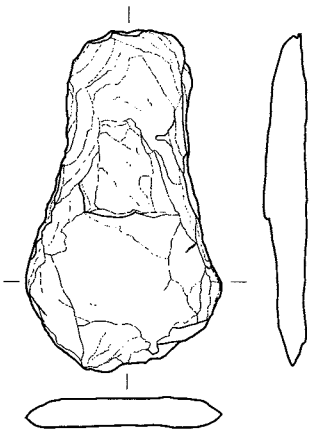


128



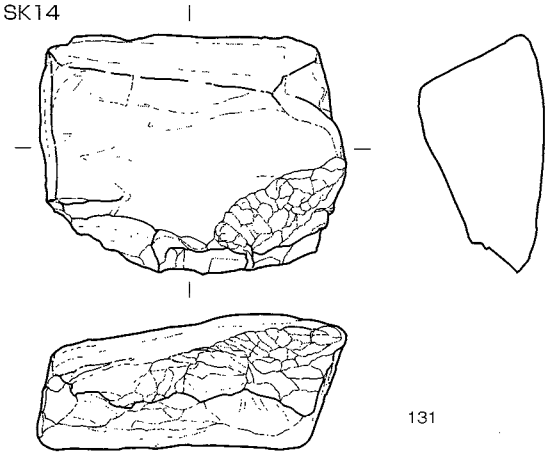
129

SI11



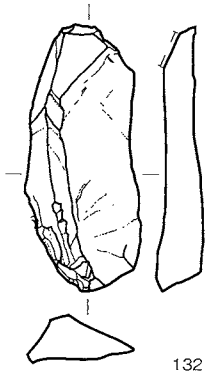
130

SK14



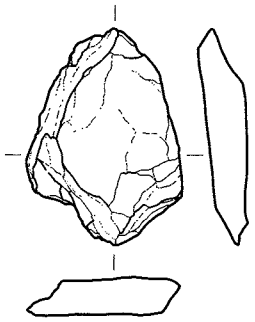
131

SK19



132

SK60

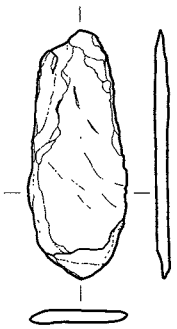


133

0 (1:3) 10cm

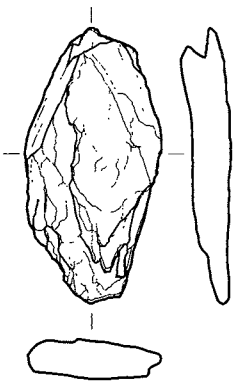
第27図　石器(2)

SK86

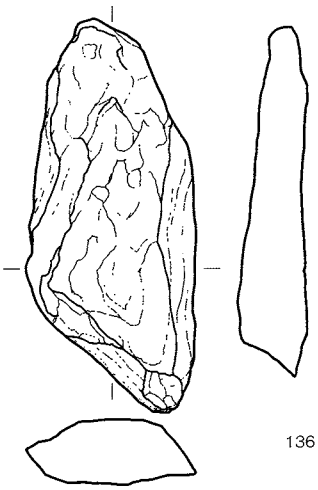


134

SK107

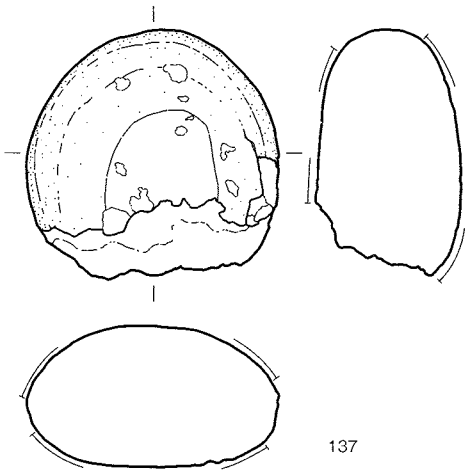


135

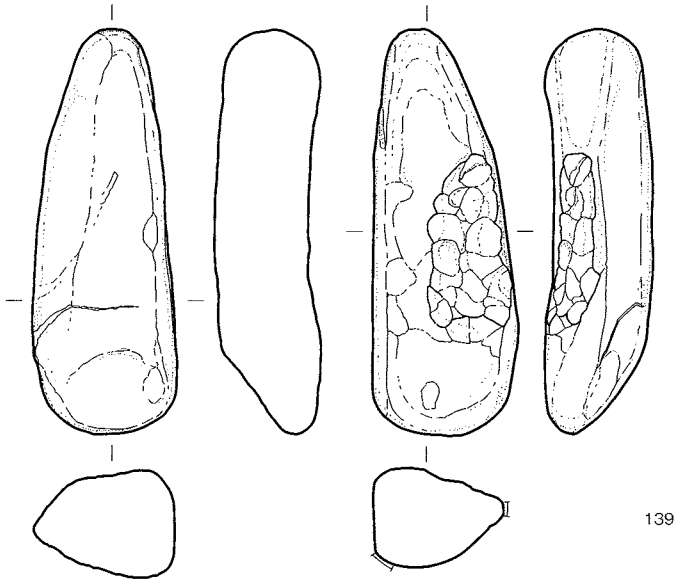


136

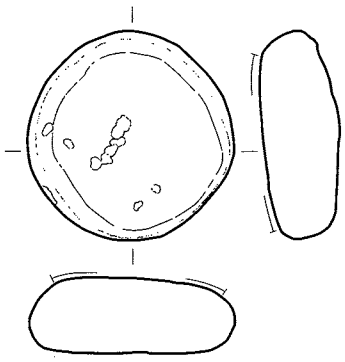
SK108



137

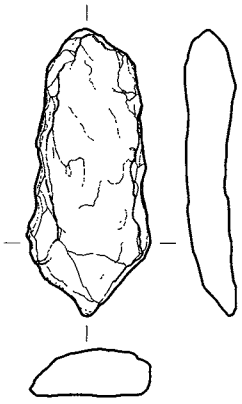


139



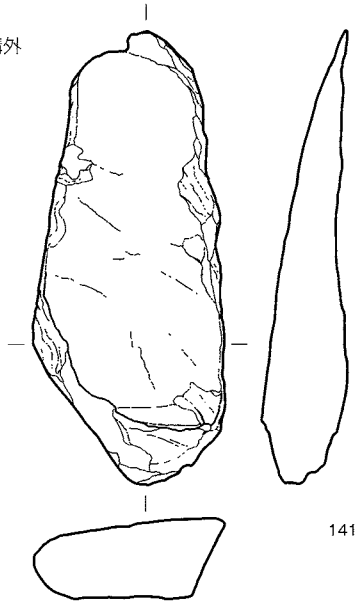
138

プレB

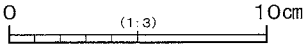


140

遺構外



141



第28図　石器(3)

第Ⅵ章　物見塚遺跡の旧石器時代石器群

石器石材研究会　保坂康夫・秋山圭子
網倉邦生・村松佳幸

物見塚遺跡の今回の調査地点から37点の旧石器時代石器が出土した。小型ナイフ形石器１点、ナイフ形石器破片１点、彫器２点、抉入石器１点、二次加工剥片２点、剥片29点、小原石１点である。うち32点を実測し第30～34図に示した。基本属性などの観察表を第５表に示した。また剥片のうち、２点が接合し、接合資料を１点確認した。石材はすべて黒曜石で、夾雑物を多く含み、細かな気泡を多量に含んで不透明なものがほとんどであり、原産地分析の結果、麦草峠・冷山系と推定された（第Ⅶ章参照）。ここでは、物見塚遺跡から出土した旧石器時代石器を記載する。

１．石器記載

小型ナイフ形石器（第30図１）　素材は薄い幅広の小型剥片で、背面剥離は主剥離方向と数十度の角度で交差し、打面は線状である。こうした特長から、本資料群から導き出される高度な石刃技法を考えると、目的剥片である石刃とは到底考えられず、打面などの調整剥片を素材としている可能性が高い。図正面左縁側全体に急角度剥離しているが、それほど深く加工されたものとは思われない。

小型ナイフ形石器は、「小型幾何形ナイフ形石器」として相模野台地では諏訪間編年段階Ⅶ（相模野第Ⅳ段階後半）（諏訪間順 2001「相模野旧石器編年の到達点」『相模野旧石器編年の到達点』神奈川県考古学会、P12）に特徴的にみられるものと同じ範疇で捉えられるものと思われる。山梨県内では丘の公園第１遺跡（秋山・網倉・村松・保坂 2008『丘の公園第１遺跡』北杜市教育委員会）や天神堂遺跡（保坂康夫・望月明彦・池谷信之 2003「石材管理と石器製作－山梨県天神堂遺跡の黒曜石産地推定と原産地クラスターの抽出から－」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第 11 集）で報告されている。

ナイフ形石器破片（第30図２）　ナイフ形石器の端部破片と思われる。末端部に、素材剥片の剥離打面の反対打面と思われる剥離面が残存することから、基部側破片と思われる。正面左側縁に刃潰し加工がみられ、右側縁には加工がみられないことから、一側縁加工ナイフ形石器と思われるが、二側縁加工ナイフ形石器作成のための左側縁加工の前に、加工途上で折損したものの可能性も留意する必要がある。

彫器（第30図４・５）　ここで彫器として記載する石器は２点ある。今回記載する資料の大半は、折断面を持っている。リングやフィッシャーの方向をルーペで観察した。資料はすべて黒曜石であるが、夾雑物や気泡が多く入る石材であり、肉眼のみによる観察では剥離方向を見誤る状況が多々生じたため、なるべくルーペを用いて剥離方向観察を行った。折断面は多くは素材剥片の背面か腹面にリングの結集点をもつが、第30図４・５にのみ、素材刃縁に結集点をもっていた。そこで、通常の折れによる面とは違い、横方向からの打撃による剥離、すなわち彫刀面剥離と判断して、彫器として記載することとした。

4は、今回記載する資料のなかでは、最も大型で典型的と表現すべき石刃を素材としている。彫刀面は、背面側から見ると凸形を呈する。角度は側面から見ると、やや背面側に傾くものの腹面との角度は直角に近い。打点付近に腹面側がらの微細剥離が集中し、この部分を使用したものと推定される。

5は、資料群の中で唯一の稜付き石刃を素材とする。彫刀面は素材右刃縁から打撃しており、打点が明瞭に観察できる。ただし、彫刀面端部はガジリで欠損していたり、背面側には折断面でよく観察される、めくれたようなフィニュアル（吉田政行1996「剥片折断面技術の実験的方法による一考察」『中ッ原第1遺跡G地点の研究Ⅱ』八ヶ岳旧石器研究グループ、P161）が観察できる。

4・5いずれも彫刀面打面が二次加工によって形成されたものではないが、彫刀面打撃を施す打撃面のひとつとして「二次加工のない面」が認識されており（M.-L.InizanH.RocheJ.Tixier著　大沼克彦・西秋良宏・鈴木美保　訳　1998『石器研究入門』クバプロ、P107)、彫器としての認識が可能である。だだし、4の凸形の背面観や、5のフィニュアルの存在などから、折取りによる可能性は残されている。通常の背面ないしは腹面方向への折取りではなく、ねじるような力を加えた場合、このような剥離面が出現する可能性もあるのではないかとも考えている。

抉入石器（第30図6）　素材は反対打面を端部に持つ折断剥片で、正面左側縁に腹面側から幅1.1cm、深さ0.4cmの抉り加工が施されている。抉入石器は、砂川期の石器群にしばしば伴うことが知られている。

二次加工剥片（第30図3・7）　3は、端部側を折り取った石刃の、折断面から右側縁にかけて急角度の二次加工が施されたものである。右側縁側の加工は、幅0.8cm、深さ0.1cmと小規模ではあるが、抉り状の加工である。切断面にかかる加工は特に急角度で、腹面側からみた刃形が円弧状であり、掻器的な加工といえる。

7は、反対打面をもつ石刃を素材とし、腹面左側縁上端部に背面側から2枚の小剥離による加工が見られる。

剥片（第31～34図）　大半が石刃技法に関連するものである。石刃8点を含め、石刃石核の剥片剥離作業面から剥離されたと思われる剥片が18点（第31～33図)、打面などの調整剥片と思われるものが7点（第34図)、図示しなかった砕片4点である。

縦長剥片うち、両刃縁が平行し、背面に両側縁に平行する稜線がみられ、長さが幅の2倍以上のものを石刃とした。第31図8・11・12・13、第32図15・19・20・21の8点が石刃と認識しうる。また、第30図の石器のうち、3・4・5・7が石刃素材である。

石刃を含め、背面の剥離方向が主剥離と同一方向のみの剥片が8点（第31図、第33図22)、主剥離と逆方向の剥離を含む剥片が8点（第32図、第33図23)、背面が自然面のみの剥片が2点（第33図25・26）ある。

調整剥片は、打面調整剥片（第34図27～30）と側面などの調整剥片（第34図31・32）の2種類が認識できる。打面調整剥片としたものは、石刃石核の弧状の打面縁が、剥片剥離作業面を打面として剥ぎ取られたため、背面側から見た打面が円弧を描く剥片がまずあげられる。27・28はその状況を典型的に示している。29は幅広剥片で、背面の剥離方向が主剥離の左右斜め方向からである

点や、打面細部調整痕が背面打面縁に見られる。30は剥片端部に広く自然面が見られることから、主剥離方向の長さが石核の奥行きを示すものと考えられる。

31・32の剥片は背面に多方向の剥離痕がみられ、稜形成などで剥離された可能性がある。

折断面を持つ剥片が多い。21点の剥片に折断面があり、第31図12・13、第32図17などのように打面側・端部側両方が折り取られているものもある。折断面の背面側からの形状は直線状が多く、打瘤が見られず、折断に伴う微細剥離が見られないといった特徴があり、硬質加撃具を用いない、曲げの力による人為的な折断である可能性が高い（吉田政行1996「剥片折断面技術の実験的方法による一考察」『中ッ原第1遺跡G地点の研究Ⅱ』八ヶ岳旧石器研究グループ）。

接合資料（第33図22～24）　背面に自然面を持つ剥片2点の接合資料である。主剥離と反対側からの剥離面のみで構成される背面をもつ剥片（第33図23）の剥離の後、背面が広く自然面で覆われた剥片（第33図22）が剥離されている。いずれも、剥片剥離作業面での剥離と思われる。

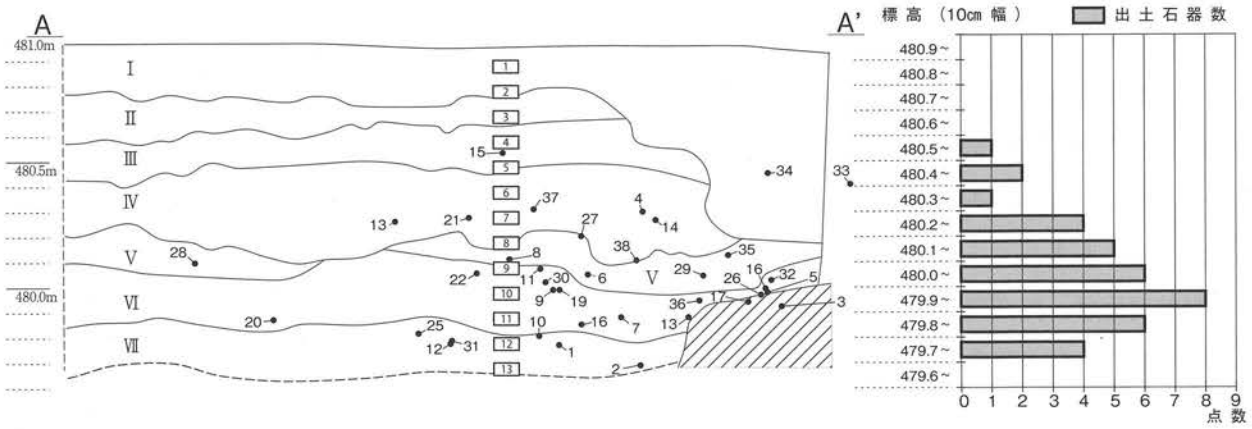
母岩資料　37点の出土石器は、A～Lまでの母岩資料に分類した。自然光による観察と、トレース台での透過光による観察とにより、夾雑物や気泡の大きさや量といった特徴を把握し分類した。さらに、F（2種類）・J（3種類）・K（3種類）・L（2種類）の小グループに分かれるため、全体で18種類となった。各母岩資料の構成数は、1～5点で、単独母岩が9資料ある。

2．石器群の出土状況

出土層位　第Ⅲ層から第Ⅶ層にかけて90cmの深度幅で出土し、10cm幅で垂直分布をみると、第Ⅵ層に最も出土数が多くなるピーナス曲線を描く（第29図）。分布幅があるものの、こうした垂直分布の特徴と、石器内容の均一性、石材が黒曜石で単一原産地の可能性が高いなどを勘案し、37点すべてがひとつのブロックに帰属するものと考えられる。

中心となる出土層である第Ⅵ層は、縄文時代早期の包含層である第Ⅳ層より下位であり、ＡＴ降灰面よりも上位と思われる（第Ⅷ章）。

平面分布　調査区北端部から、直径2.5ｍの範囲で出土している。ブロックの半分程度が調査区外にひろがっているとみられる。母岩資料別に分布をみると、ある母岩資料がある部分に集中分布するといった傾向はみられず、全体に混在する。



第29図　出土石器数と垂直分布図

3．まとめ

本石器群の特徴は、石材が麦草峠・冷山系の黒曜石のみである点、垂直分布や平面分布の分析から、単一ブロックに帰属すると思われる点、石刃の存在、上下両設打面、稜形成、打面調整といった特徴から、高度な石刃技法の存在が推定できる点、石器組成がナイフ形石器、抉入石器、彫器である点などである。二側縁加工ナイフ形石器がみられないものの、いわゆる砂川期に帰属すると思われる。

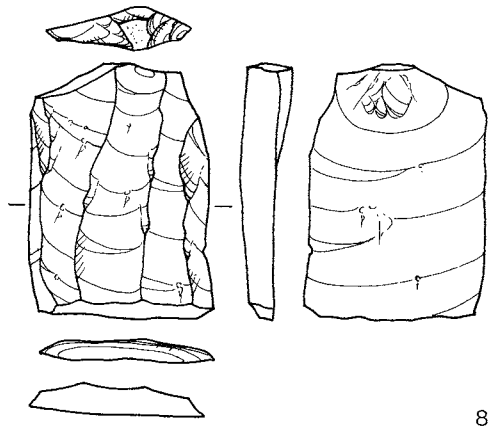
問題は小型ナイフ形石器の存在である。砂川期は、諏訪間編年段階Ⅵ（諏訪間順2001「相模野旧石器編年の到達点」『相模野旧石器編年の到達点』神奈川県考古学会）、相模野第Ⅳ段階前半にあたる。山梨県では丘の公園第２遺跡が典型例としてあげられるが、二側縁加工ナイフ形石器を多数組成するものの、小型ナイフ形石器が皆無である。小型ナイフ形石器は先述のとおり、諏訪間編年段階Ⅶの特徴である。隣接する丘の公園第１遺跡では、小型ナイフ形石器が存在し、二側縁加工ナイフ形石器も丘の公園第２遺跡とは違って、基部端に打面や折面などを残す点や、やや崩れた石刃技法がみられるといった特徴をもつ。

こうした点から、山梨県内では砂川期段階から小型ナイフ形石器が組成されるものと考えられるが、小型ナイフ形石器をもつ物見塚遺跡や丘の公園第１遺跡の石器群は、丘の公園第２遺跡よりも後出的なものと理解しておきたい。

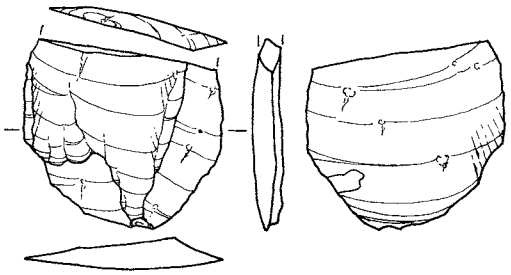
物見塚遺跡に隣接する釈迦堂遺跡群では、塚越北Ａ地区で約80点の旧石器時代石器が確認され、二側縁加工ナイフ形石器と石刃を主体とし、掻器や抉入石器などを組成するなど、砂川期でも古期のものと考えられる。石材は黒曜石のみであるが、産地分析は実施していないものの、麦草峠・冷山系の石材は少なく、和田峠･鷹山系の石材主体と思われる。しかも石刃などが大型なものが目立つ。

物見塚遺跡の石器は決して大型品ばかりではないが、自然面が背面全体を覆う資料があるなど、剥片剥離初期の作業がこの地点で実施されている可能性がある。黒曜石のみで他の石材を含まない点や、大型石材、初期形態の石材を持っていた可能性があるという点から、物見塚遺跡や塚越北Ａ地区の旧石器集団は、黒曜石原産地を出てから多くの地点を経由することなく甲府盆地を横切り、この地点に到来している可能性がある。ナイフ形石器の付け替えや他の石器を使った作業を行う生活がある程度展開された後、御坂山地を越えて他の遺跡群へ移動し、その遺跡群に麦草峠・冷山系の黒曜石をもたらしたものと考えられる。

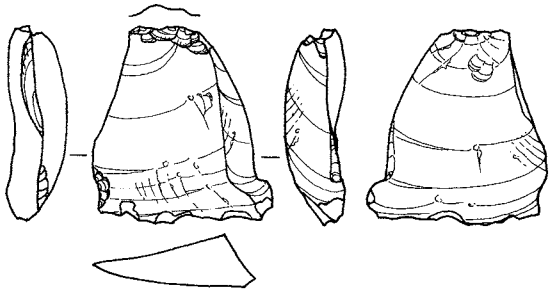
第30図　旧石器時代石器（1）　石器



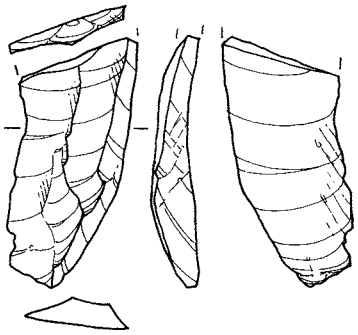
8



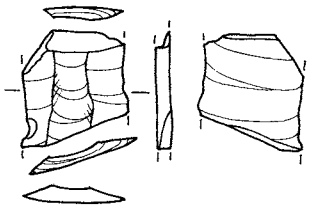
9



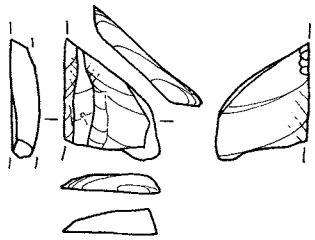
10



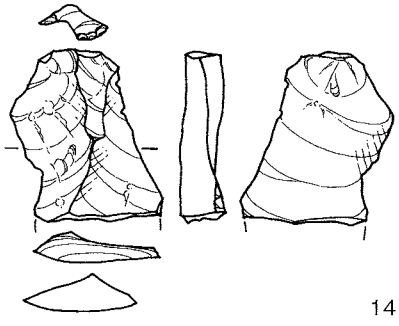
11



12



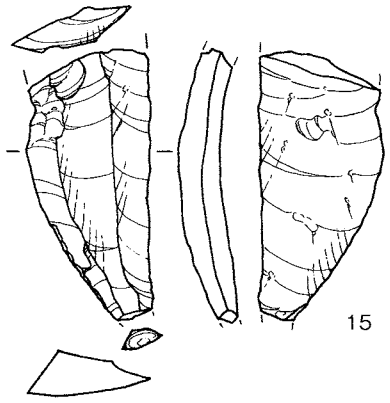
13

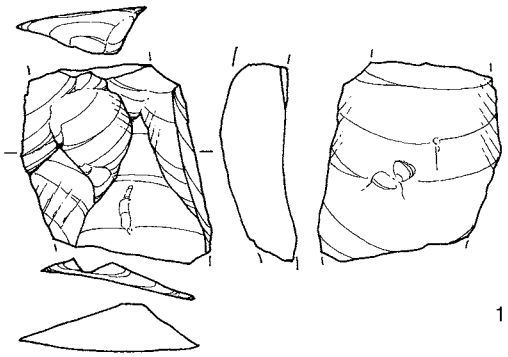


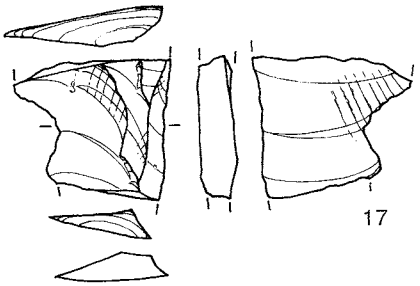
14

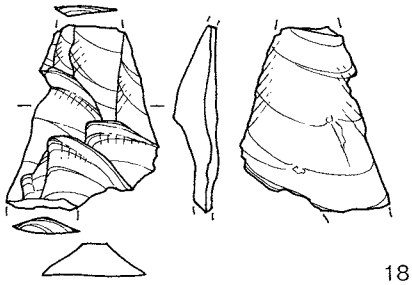
0 (1:1) 3cm

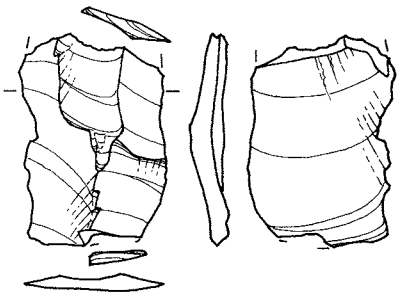
第31図　旧石器時代石器(2)　背面単方向剥片

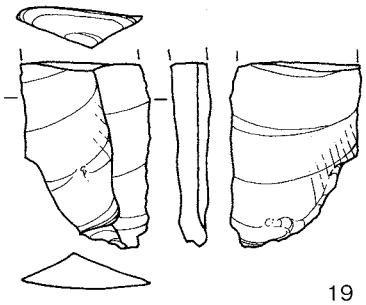


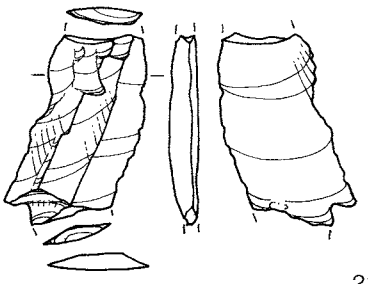


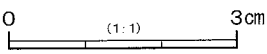




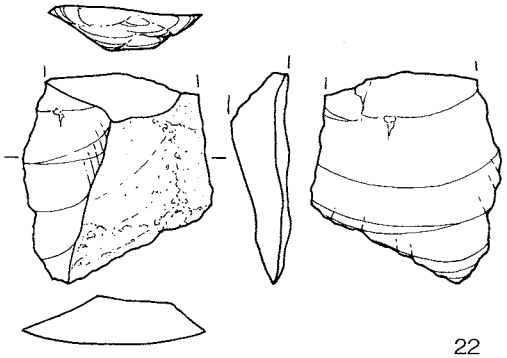




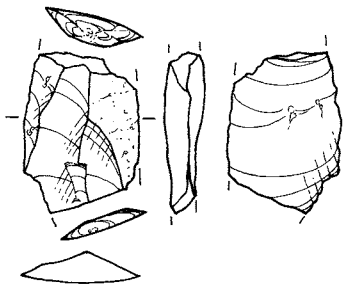




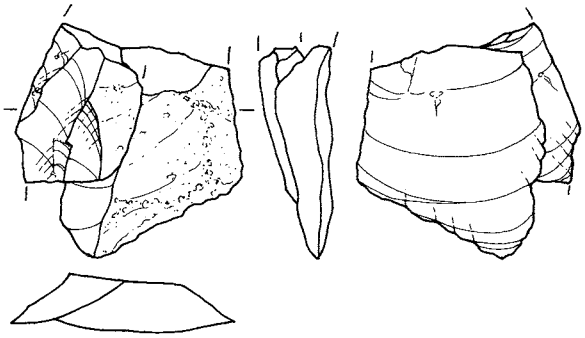
第32図　旧石器時代石器(3)　背面上下方向剥片



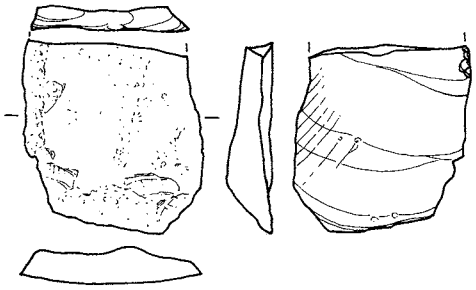
22



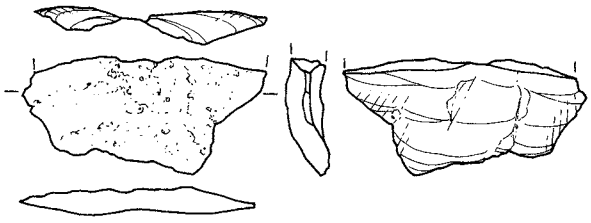
23



24



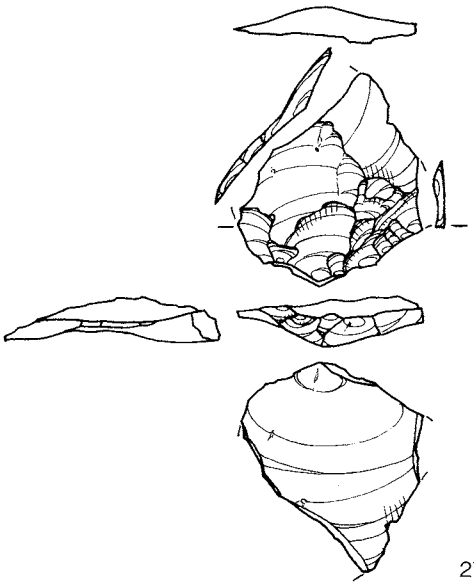
25

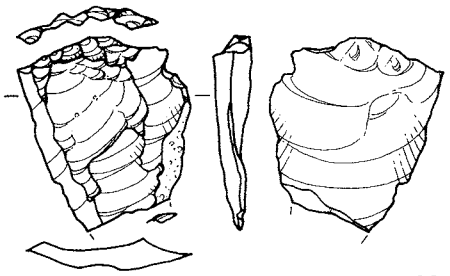


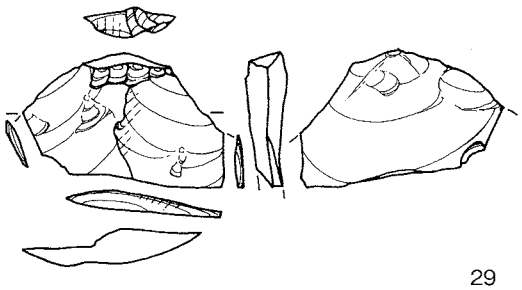
26

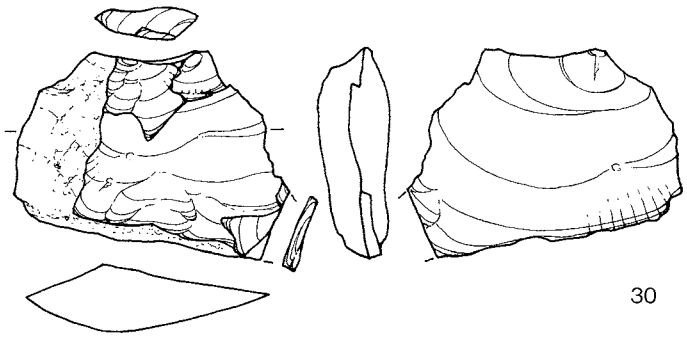
0 (1:1) 3cm

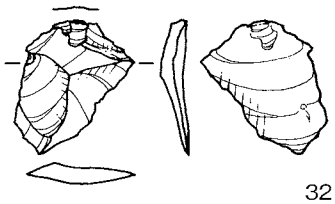
第33図　旧石器時代石器(4)　接合資料、背面自然面剥片

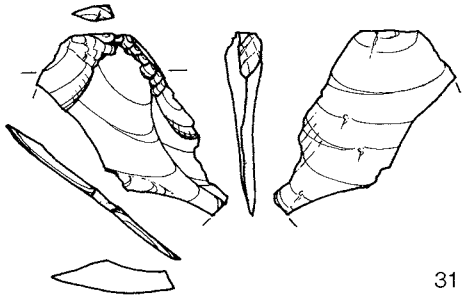


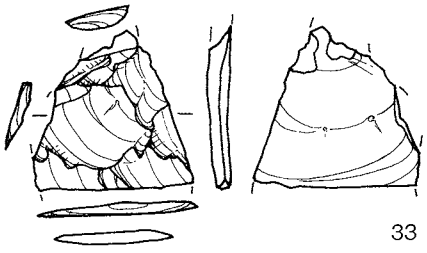


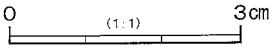












第34図　旧石器時代石器(5)　調整剥片

第５表　出土遺物観察表（旧石器類）

遺物番号	図版	器種	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）	石材	母岩資料番　号	注記遺跡名	注記No.	備　　考
1	第30図	小型ナイフ形石器	19.1	11.7	2.5	0.4	黒曜石	I	物見塚　S×A	No.49	小型、一側辺加工、一部２次加工あり
2	第30図	ナイフ形石器	14.2	10.5	4.8	0.6	黒曜石	L-2	物見塚　S×A	No.45	一側辺加工？、基部破片、折れあり
3	第30図	二次加工剥片	27.0	14.0	7.0	1.6	黒曜石	G	物見塚　S×A	No.25	石刃素材、打面あり
4	第30図	彫器	58.0	22.4	17.0	8.6	黒曜石	L-2	物見塚　S×A	No.3	折れあり
5	第30図	彫器	42.3	23.0	11.0	8.5	黒曜石	E	物見塚　S×A	No.23	折れあり、微細剥離あり、稜付き石刃
6	第30図	抉入石器	24.3	18.5	6.5	1.9	黒曜石	E	物見塚　S×A	No.16	折れあり、2次加工あり
7	第30図	二次加工剥片	35.0	32.5	7.7	7.2	黒曜石	D	物見塚　S×A	No.26	折れあり、端部反対打面付き、石刃素材
8	第31図	石刃	33.7	24.5	7.0	5.1	黒曜石	K-2	物見塚　S×A	No.11	折れあり、打面・打点あり、背面剥離単方向
9	第31図	剥片	25.0	26.4	3.5	2.3	黒曜石	B	物見塚　S×A	No.17	折れあり、端部片、末端部はちょうつがい状、背面剥離単方向
10	第31図	剥片（微細剥離あり）	25.7	23.8	7.6	3.5	黒曜石	A	物見塚　S×A	No.29	一部折れあり、打面・打点あり、ガジリあり、末端部はちょうつがい状、背面剥離単方向
11	第31図	石刃	32.7	17.0	6.5	2.0	黒曜石	K-1	物見塚　S×A	No.51	折れあり、背面剥離単方向
12	第31図	石刃	15.3	14.1	2.0	0.4	黒曜石	I	物見塚　S×A	No.31	折れあり、ガジリあり、背面剥離単方向
13	第31図	石刃（微細剥離あり）	15.8	12.4	3.0	0.5	黒曜石	K-3	物見塚　S×A	No.6	折れあり、背面剥離単方向
14	第31図	剥片	22.7	20.0	5.6	1.6	黒曜石	J-1	物見塚　S×A	No.8	縦長剥片、折れあり、打面・打点あり、背面剥離単方向
15	第32図	石刃（微細剥離あり）	37.0	17.0	7.0	3.5	黒曜石	D	物見塚　S×A	No.2	折れあり、自然面あり、ガジリあり、背面剥離上下両方向
16	第32図	剥片	27.0	22.0	9.0	4.0	黒曜石	G	物見塚　S×A	No.22	折れあり、、背面剥離上下両方向
17	第32図	剥片	20.0	19.0	5.0	1.4	黒曜石	H	物見塚　S×A	No.24	折れあり、背面剥離上下両方向
18	第32図	剥片	25.0	18.0	6.0	1.4	黒曜石	G	物見塚　S×A	No.46	折れあり、背面剥離上下両方向
19	第32図	石刃	25.0	18.0	5.0	1.8	黒曜石	G	物見塚　S×A	No.18	折れあり、背面剥離上下両方向
20	第32図	石刃	29.0	20.0	5.0	1.7	黒曜石	F-2	物見塚　S×A	No.28	折れあり、背面剥離上下両方向
21	第32図	石刃	25.0	13.0	3.0	1.2	黒曜石	F-2	物見塚　S×A	No.7	折れあり、背面剥離上下両方向
22	第33図	剥片	29.0	25.0	6.0	3.7	黒曜石	H	物見塚　S×A	No.12	１６と接合、単方向剥片、折れあり
23	第33図	剥片	22.0	15.0	5.0	1.3	黒曜石	H	物見塚　S×A	No.36	７と接合、折れあり、
25	第33図	剥片	26.0	24.0	6.0	3.9	黒曜石	C	物見塚　S×A	No.30	縦長剥片、折れあり、背面全体が自然面
26	第33図	剥片	16.0	33.0	4.5	1.9	黒曜石	L-1	物見塚　S×A	No.47	背面全体が自然面、打面・打点あり
27	第34図	打面調整剥片	28.7	24.4	6.0	2.3	黒曜石	J-3	物見塚　S×A	No.9	折れあり
28	第34図	打面調整剥片	26.0	23.2	5.0	1.6	黒曜石	J-2	物見塚　S×A	No.10	折れあり、打面・打点あり、背面の一部に自然面あり
29	第34図	打面調整剥片	27.0	17.0	5.0	1.6	黒曜石	F-1	物見塚　S×A	No.20	折れあり、打面あり
30	第34図	打面調整剥片	37.0	27.0	10.0	7.1	黒曜石	F-1	物見塚　S×A	No.15	折れなし、端部・左側方に自然面、打面あり、横長剥片
31	第34図	調整剥片	24.4	25.0	5.0	1.1	黒曜石	J-3	物見塚　S×A	No.39	折れあり、打面・打点あり
32	第34図	調整剥片	18.0	15.0	3.0	0.4	黒曜石	F-1	物見塚　S×A	No.21	折れなし
33	第34図	調整剥片	22.0	21.0	3.0	1.0	黒曜石	F-1	物見塚　SK89	No.2	折れあり
34	未掲載	小原石	20.0	16.0	5.0	1.4	黒曜石	E	物見塚　S×A	No.1	
35	未掲載	砕片	13.3	17.4	1.8	0.3	黒曜石	J-3	物見塚　S×A	No.13	打面・打点あり
36	未掲載	砕片	7.3	10.0	0.7	0.1以下	黒曜石	J-3	物見塚　S×A	No.37	折れあり、剥片末端部片
37	未掲載	砕片	12.6	16.4	4.2	0.5	黒曜石	L-2	物見塚　S×A	No.5	折れあり
38	未掲載	砕片	10.9	14.0	2.4	0.2	黒曜石	J-3	物見塚　S×A	No.14	折れあり、打面・打点あり

（※第3図24は、22・23の接合図）

第Ⅶ章　山梨県笛吹市物見塚遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定

明治大学地理学研究室　杉　原　重　夫
明治大学文化財研究施設　金　成　太　郎

1. はじめに

考古学研究では，遺物が遺跡へと至るまでの来歴を辿ることによって，個々の時代における人々の行動様式や流通関係に迫ることが可能となる。特に狩猟・採集によって生計を立てていたと考えられている石器時代においては，石器に使用する石材の原産地推定が，空間的な人の動きに迫るための有効な分析方法となる。なかでも，火山の噴出物として生成された黒曜石は，結晶構造をもたず，斑晶の含有量が少ないことから元素組成が安定しており，このような黒曜石の岩石学的特質に着目して，今日まで様々な理化学的分析方法を用いた原産地推定が行われている。特に蛍光Ｘ線分析装置を用いた分析は，装置の操作や測定の前処理が容易である点や，特に資料を非破壊で測定できるなどといったメリットにより，考古資料の扱いに適している。また，比較的短い時間で測定できるという点で，分析対象が出土遺物全般におよぶ石器研究においては非常に有効な測定手段といえる。以上のような経緯で，今回も蛍光Ｘ線分析装置を用いた原産地推定を行った。

2. 測定方法

蛍光Ｘ線法を用いて黒曜石の正確な元素分析値を得るには，内部が均質で表面形態が一様な試料を作成し，検量線法などによって定量的に分析を行うのが一般的である。そのためには，試料を粉砕してプレスしたブリケットを作成するか，もしくは溶融してガラスビードを作成する必要がある。しかしながら，遺跡から出土した遺物は，通常，非破壊での測定が要求されるため，上記の方法をとることは困難である。そのため，遺物に直接Ｘ線を照射する定性（半定量）分析が行われている。このような直接照射によって発生する蛍光Ｘ線の強度そのものは，試料の状態や装置の経年変化によって変動する可能性が高いが，特定元素の強度同士の比を採った場合はその影響は小さいと考えられている。今回は測定強度比をパラメータとして原産地推定を行った。

3. 試料の前処理

比較用の産出地採取原石については，必要に応じて新鮮な破断面または研磨面を作成し，超音波洗浄器によるクリーニングを行った。遺跡出土石器は，多くの場合新鮮で平滑な剥離面があるため，試料表面をメラミンスポンジとアルコールで洗浄してから測定を行った。特に汚れがひどい試料のみ超音波洗浄器を用いた。

4. 装置・測定条件

蛍光Ｘ線の測定にはエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置 JSX-3100s（日本電子株式会社）を用いた。Ｘ線管球は，ターゲットがRh（ロジウム）のエンドウインドウ型を使用した。管電圧は30kV，電流は抵抗が一定となるよう自動設定とした。Ｘ線検出器はSi（ケイ素）/Li（リチウム）

半導体検出器を使用した。試料室内の状態は真空雰囲気下とし，X線照射面径は15㎜とした。測定時間は，240secである。測定元素は，主成分元素はケイ素（Si），チタン（Ti），アルミニウム（Al），鉄（Fe），マンガン（Mn），マグネシウム（Mg），カルシウム（Ca），ナトリウム（Na），カリウム（K）の計9元素，微量元素はルビジウム（Rb），ストロンチウム（Sr），イットリウム（Y），ジルコニウム（Zr）の計4元素の合計13元素とした。また，X線データ解析ソフトには，明治大学文化財研究施設製；JsxExtを使用した。

5. 原産地推定の方法

黒曜石はケイ酸，アルミナ等を主成分とするガラス質火山岩であるが，その構成成分は産出地による差異が認められる。とりわけ微量元素のRb，Sr，Y，Zrでは産出地ごとの組成差がより顕著となっている。望月は，この産地間の組成差から黒曜石の産地推定が可能であると考え，上記の4元素にK，Fe，Mnの3元素を加えた計7元素の強度比を組み合わせることで産地分析を行っている（望月ほか1994；望月1997）。これら7元素による産地分析の有効性は，ガラスビードを用いた定量分析によっても裏付けられている（嶋野ほか2004）。ここでも，上記の判別方法に準拠することとし，原産地推定のパラメータにRb分率｛Rb強度×100/（Rb強度＋Sr強度＋Y強度＋Zr強度）｝，Sr分率｛Sr強度×100/（Rb強度＋Sr強度＋Y強度＋Zr強度）｝，Mn強度×100/Fe強度，Log（Fe強度/K強度）を用い，判別図の作成，および判別分析を行った。

6. 黒曜石原産地の判別

6－1. 判別図

判別図は，視覚的に分類基準が捉えられる点，および判定基準が分かりやすいというメリットがある。また，測定結果の提示に際し，読者に理解しやすいという点も有効であろう。まず，各産出地採取試料（基準試料）の測定データを基に2種類の散布図｛Rb分率vsMn×100/FeとSr分率vsLog（Fe/K）｝を作成し，各原産地を推定するための判別域を決定した。次に遺跡出土資料の測定結果を重ね合わせて大まかな判別を行った。基準試料の測定強度比の平均値を第1表に示す。

6－2. 判別分析

判別図や測定値の比較による原産地の推定は，測定者ごとの恣意的な判断を完全に排除することは難しい。そこで，多変量解析の一つである判別分析を行った。判別分析では，判別図作成に用いたパラメータを基にマハラノビス距離を割り出し，各原産地に帰属する確率を求めた。距離と確率とは反比例の関係にあり，資料と各原産地の重点間の距離が最も短い原産地が第一の候補となる。なお，分析用ソフトには明治大学文化財研究施設製；MDR1.02を使用した。また，判別結果の参考資料として，各原産地（重点）間のマハラノビス距離を提示した（第2表）。

7. 黒曜石原産地の名称と地理的な位置づけ

今回の黒曜石の原産地推定にあたっては，日本の黒曜石産出地データベース（杉原・小林2004，2006）を使用し，この中から，既存の文献・資料を参考にして現地調査を行い，石器石材に利用可

第１表　中部・関東地方における黒曜石の測定値(強度比)

西霧ヶ峰系	平均値:	41.1493	13.5626	9.7786	0.7394
	標準偏差:	1.0164	0.7052	0.1913	0.0190
和田峠・鷹山系	平均値:	56.2544	2.5419	11.6085	0.8263
	標準偏差:	2.4419	1.8258	1.0832	0.0617
男女倉系Ⅰ	平均値:	39.2207	14.5586	6.4936	0.9655
(ブドウ沢・高松沢)	標準偏差:	1.9651	1.5452	0.1970	0.0426
男女倉系Ⅱ	平均値:	30.6544	20.9275	6.2779	1.0817
(牧ヶ沢)	標準偏差:	0.9572	1.1395	0.1771	0.0393
男女倉系Ⅲ	平均値:	48.6588	7.5997	8.1531	0.8927
(高松沢)	標準偏差:	2.0244	1.5240	0.4545	0.0280
麦草峠・冷山系	平均値:	25.3676	30.4037	4.5545	1.1862
	標準偏差:	1.6971	1.1302	0.1065	0.0577
横岳系	平均値:	29.5108	28.0737	4.9412	1.0548
	標準偏差:	1.0883	1.4069	0.1387	0.0325
浅間山系	平均値:	9.4363	36.0885	2.5774	4.4620
	標準偏差:	0.6881	1.9894	0.1800	0.1688
高原山系	平均値:	21.7137	24.7537	2.5040	3.1282
	標準偏差:	0.9406	1.0819	0.0866	0.1943
畑宿系	平均値:	5.2493	37.3963	3.0831	10.4751
	標準偏差:	0.7134	0.8648	0.0625	0.3292
鍛冶屋系	平均値:	6.0529	36.0434	3.0539	7.1405
	標準偏差:	0.8268	0.8526	0.0557	0.1894
上多賀系	平均値:	8.0950	32.9557	2.9094	4.9729
	標準偏差:	1.1094	1.1565	0.0807	0.1904
芦之湯系	平均値:	4.1151	54.3873	2.8299	33.4087
	標準偏差:	0.6869	0.8030	0.0538	2.0068
柏峠系	平均値:	10.0801	26.4978	2.2486	4.2175
	標準偏差:	0.7500	1.0822	0.1059	0.2930
恩馳島系	平均値:	22.6837	28.2790	7.6059	1.3447
	標準偏差:	1.0294	1.3491	0.2228	0.0543
砂糠崎系	平均値:	26.4851	24.9958	8.4225	1.1311
	標準偏差:	1.1948	1.4497	0.1860	0.0331

原産地細分		Rb分率	Sr分率	Mn×100/Fe	Fe/K
和田峠系Ⅰ	平均値:	53.5690	4.5887	10.3043	0.8740
(小深沢・ツチヤ沢・東俣採掘場)	標準偏差:	1.4909	1.6605	0.8187	0.0547
和田峠Ⅱ・鷹山系	平均値:	56.8311	1.6499	12.1526	0.7746
(東餅屋)	標準偏差:	0.8122	0.6111	0.1912	0.0205
和田峠系Ⅲ	平均値:	59.7994	1.1102	12.5893	0.8795
(丁字御領)	標準偏差:	0.8227	0.6426	0.5179	0.0138

第２表　判別分析における群間距離（マハラノビス距離）

原産地	西霧ヶ峰系	和田峠・鷹山系	男女倉系Ⅰ	男女倉系Ⅱ	男女倉系Ⅲ	麦草峠・冷山系	横岳系	浅間山系	高原山系	畑宿系	鍛冶屋系	上多賀系	芦之湯系	柏峠系	恩馳島系	砂糠崎系
西霧ヶ峰系	0	75	320	718	200	2804	1439	5714	10732	16014	21018	9466	28670	8994	496	365
和田峠・鷹山系	75	0	1056	3203	107	6170	3383	9937	19226	25598	29095	14881	51147	16338	1356	1175
男女倉系Ⅰ	320	1056	0	85	28	630	245	4405	2815	9122	9156	4043	9107	3856	476	523
男女倉系Ⅱ	718	3203	85	0	232	422	193	2825	2519	7296	8028	3206	7191	2860	227	357
男女倉系Ⅲ	200	107	28	232	0	1904	945	6665	6558	13019	13950	6892	18078	7447	737	473
麦草峠・冷山系	2804	6170	630	422	1904	0	47	2246	841	6589	5264	1805	4633	1608	424	943
横岳系	1439	3383	245	193	945	47	0	2896	1096	7416	6267	2302	5416	2115	485	985
浅間山系	5714	9937	4405	2825	6665	2246	2896	0	250	1719	433	41	3942	179	1022	2411
高原山系	10732	19226	2815	2519	6558	841	1096	250	0	3893	1567	364	6415	361	645	1341
畑宿系	16014	25598	9122	7296	13019	6589	7416	1719	3893	0	222	447	1281	619	2975	7787
鍛冶屋系	21018	29095	9156	8028	13950	5264	6267	433	1567	222	0	116	1952	359	1940	4902
上多賀系	9466	14881	4043	3206	6892	1805	2302	41	364	447	116	0	3218	158	1224	2897
芦之湯系	28670	51147	9107	7191	18078	4633	5416	3942	6415	1281	1952	3218	0	2442	7668	21054
柏峠系	8994	16338	3856	2860	7447	1608	2115	179	361	619	359	158	2442	0	1092	2235
恩馳島系	496	1356	476	227	737	424	485	1022	645	2975	1940	1224	7668	1092	0	45
砂糠崎系	365	1175	523	357	473	943	985	2411	1341	7787	4902	2897	21054	2235	45	0

原産地細分	和田峠系Ⅰ	和田峠Ⅱ・鷹山系	和田峠系Ⅲ
和田峠系Ⅰ	0	121	68
和田峠Ⅱ・鷹山系	121	0	92
和田峠系Ⅲ	68	92	0

能と思われる黒曜石の産出地を選択した。ただし，ここでは黒曜石の原産地候補を関東・中部地方に限定して考察しており，北海道，東北，北陸，九州地方の各産出地については，検討していない。黒曜石原産地（obsidiansource）の設定は，各産出地を火山体，島嶼，河川流域，岩石区等の地形・地質的条件によって枠組みを行い，これを「地区;area」と名づけ，現在，黒曜石を産出する地点（露頭・散布地など）を「産出地区域（単に産出地とする）；district」とした。今回の原産地推定に使用した「系；series」は，「地区」内の「産出地」のうち，蛍光X線分析の結果に地形・地質情報を参考にして判別された地理的に隣接する「産出地」群で，岩石化学的原産地を指す。それぞれの「系」内の黒曜石産出地については，火道や貫入岩の位置，噴出物の産状や分布状態，黒曜石の岩石学的特徴（含有する斑晶鉱物，球顆の有無，色調，透明度など）についても検討を行い，この原産地設定が火山地質学的に有意義であることを確認した。

このようにして設定した「地区」内には，黒曜石原産地として2つ以上の「系」が存在する場合や，同一「系」内に複数の判別域が存在する場合がある。1つの「系」内に複数の種類の黒曜石が産出する場合で，地域的・岩石化学的に細分が可能な場合は「グループ；Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ…（噴出源が確定できるもの）」とする。また，黒曜石産出地には，噴出源に近い一次産出地のほか，河川や海流によって遠方に運ばれた二次産出地があり，ここでの判別域は，必ずしも考古学的原産地（石器時代における採取地）を示すのではないことは言うまでもない。

第3表には関東・中部地方における黒曜石産出地のなかで石器石材を採取（採掘）したと推定できる原産地を選別し，蛍光X線分析装置による化学組成分析により判別図を作製した原産地（地区・系）が示してある。

第3表　中部・関東地方における黒曜石の測定値（強度比）

地区（area）	系（series）	産出地（district）
霧ヶ峰地区	西霧ヶ峰系	星ヶ塔，星ヶ台，ウツギ沢，萩原沢，観音沢
	和田峠系	小深沢，東俣採掘場，ツチヤ沢，東餅屋，丁字御領
	鷹山系	鷹山川河床，星糞峠
	男女倉系	高松沢，ブドウ沢，牧ヶ沢
北八ヶ岳地区	麦草峠系	麦草峠，白駒林道，大石川
	冷山系	冷山
	横岳系	大岳林道，双子池の東
浅間山地区	浅間山系	千ヶ滝，大窪沢，仏岩
高原山地区	高原山系	剣ヶ峰東，桜沢，八方ヶ原，甘湯沢
箱根地区	畑宿系	畑宿
	鍛冶屋系	鍛冶屋
	上多賀系	上多賀
	芦之湯系	芦之湯
天城地区	柏峠系	柏峠
神津島地区	恩馳島系	恩馳島，［沢尻湾，長浜海岸，観音浦海蝕崖］
	砂糠崎系	砂糠崎，［長浜海岸，沢尻湾，観音浦］

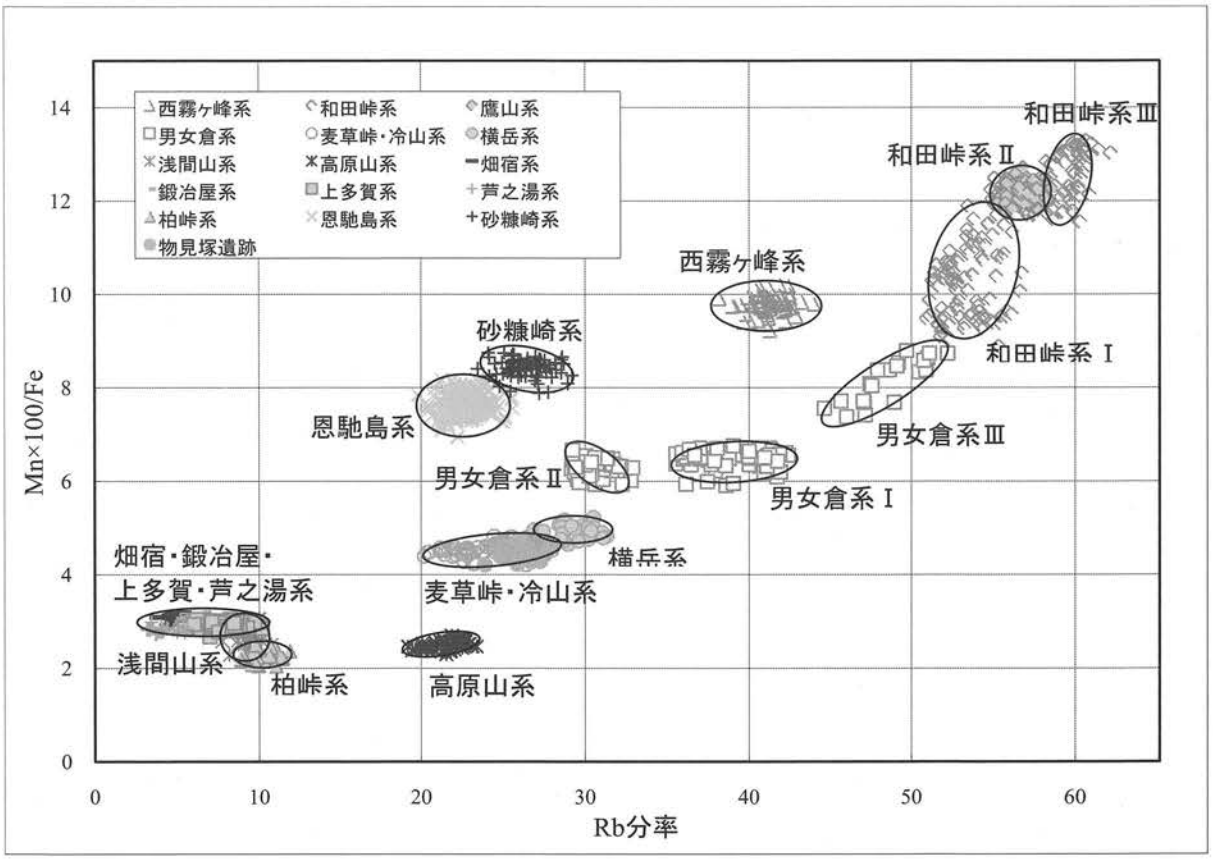


図１　物見塚遺跡の判別図（Ｒｂ分率）

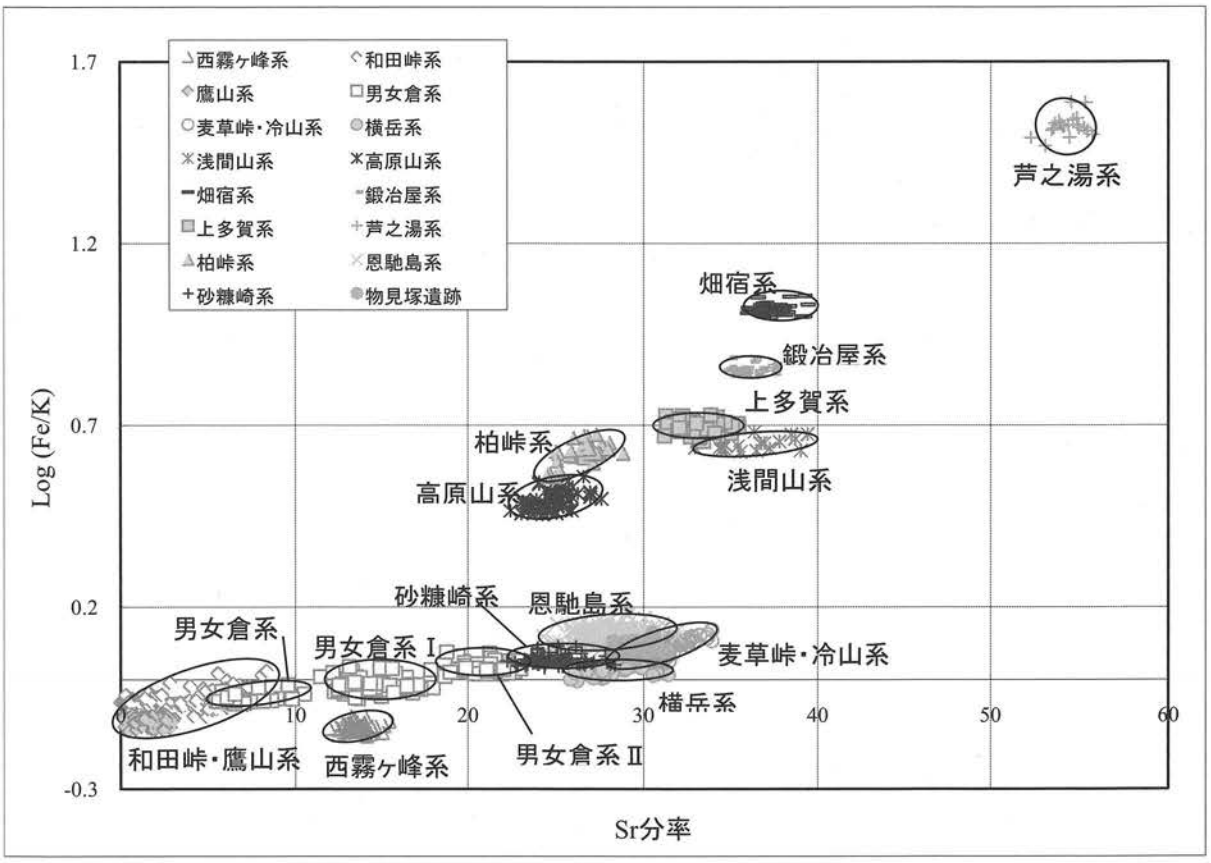


図２　物見塚遺跡の判別図（Ｓｒ分率）

8. 中部・関東地方における黒曜石産出地

第４表　物見塚遺跡における原産地推定の集計結果

遺跡名	時代	測定点数	判別点数	麦草峠・冷山系	判別不可
物見塚遺跡	旧石器時代	37	28	28	9

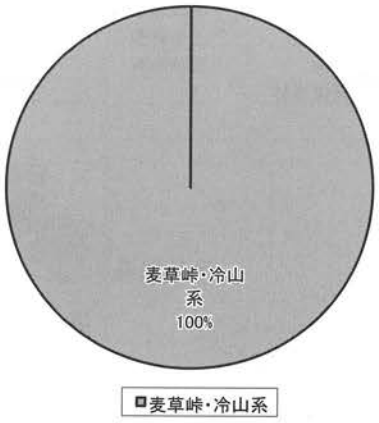


図３　物見塚遺跡の原産地構成

「霧ヶ峰地区」：霧ヶ峰火山からは複数火口からの黒曜石が岩脈，溶岩，火砕流など多様性ある産状を示す。これらの黒曜石は噴出源や噴出年代によって元素組成に地域性が認められる（杉原・小林 2004：杉原ほか 2004，2009b，2009c：長井ほか 2006）。ここでは西霧ヶ峰系，男女倉系，和田峠系，鷹山系に分類したが，和田峠系と鷹山系は産出地域が離れているにも拘らず，判別図では明瞭な識別が不可能であるので，この２つの原産地を和田峠・鷹山系として一括した扱いをする。なお，和田峠系は小深沢，東俣採掘場，ツチヤ沢の和田峠Ⅰグループ，東餅屋の和田峠Ⅱグループ，丁字御領の和田峠Ⅲグループと細分することも可能である。この分類では和田峠系Ⅱと鷹山系がほぼ同じ領域に入ることになる。また男女倉系はブドウ沢，高松沢の男女倉系Ⅰグループ，牧ヶ沢の男女倉系Ⅱグループ，高松沢の男女倉系Ⅲグループについても細分が可能である。

「北八ヶ岳地区」：八ヶ岳火山列（河内 1961）では，黒曜石が追分火山性地溝の南東への延長した地帯にあたる北八ヶ岳の流紋岩質～デイサイト質溶岩から産出する。このうち麦草峠付近を中心に分布する稲子沢溶岩（河内 1974）については，麦草峠東方（国道 299 号線沿い）に黒曜石溶岩が露出するほか，大石川最上流部に多量の転石が認められる。また冷山の標高 1,850m 付近にも黒曜石の巨大岩塊が黒曜石から産出する。ただし，この２つの黒曜石は，主要元素の組成が酷似しており，判別図・判別分析による原産地識別が不可能であることから，ここでは冷山・麦草峠系として一括して扱う。横岳の山頂付近で産出する黒曜石（河内 1974）のうち，大岳林道の山頂に近い道路沿いでは，横岳溶岩（諏訪の自然誌・地質編編集委員会 1975：河内 1974）の基底部から黒曜石を産出する。このほか双子池付近や滝ノ湯川上流などでも黒曜石の細礫が認められ，転石が山麓斜面や河床で散見できるが，いずれも斑晶が多い。ここでは，横岳付近において大岳林道沿いに産出する黒曜石を横岳系として扱う。

「浅間山地区」：浅間山の南東斜面に広く分布する仏岩溶岩流（津屋 1934：荒牧 1968，1993）は，その後の前掛山噴出物に覆われて露出する部分は少ないが，仏岩、大窪沢，千ヶ滝付近ではデイサイト質の厚い溶岩流として認められ、この溶岩流上下の急冷相部分から黒曜石を産出する。この黒曜石は中軽井沢に近い千ヶ滝の谷筋において仏岩溶岩流縁辺部とそこからの転石として採取できる。仏岩溶岩流から産出する黒曜石は斑晶鉱物が多く，石器石材として良質とは言えない。

「箱根地区」：箱根火山については，「久野の地質図」が大幅に改定され，箱根火山の活動史について新しい考え方が示された（高橋・長井 2007：長井・高橋 2008：神奈川県立生命の星・地球博物館 2008）。須雲川沿い畑宿で黒曜石を産出する噴出物は畑宿火砕流堆積物とよばれ，箱根火山のカ

ルデラ内部から噴出した中央火口丘形成期における最初の噴出物と考えられている（神奈川県立生命の星・地球博物館 2008）。また黒岩橋の黒曜石を含む火砕流も，これに対比できる可能性が高い。また芦之湯（笛塚）では，蛇骨川最上流部にあたる沢沿いの谷壁にデイサイト（流紋）質溶岩が露出し，この下流部の谷底に黒曜石礫が散乱する。この岩体は前期中央火口丘形成期の巣雲山溶岩（神奈川県立生命の星・地球博物館 2008）の一部と考えられるが，詳細は不明である。神奈川県湯河原町鍛冶屋においてみかん畑一帯に散在する黒曜石は鍛冶屋流紋岩溶岩に由来すると考えられ，外輪山を構成する成層火山噴出物に属するとされている（神奈川県立生命の星・地球博物館 2008）。上多賀町北の国道下に海浜礫として多量に産出する黒曜石は，上多賀北方で溶岩ドームを構成する上多賀デイサイトに由来すると考えられる（久野 1972）。ここでは箱根地区の黒曜石原産地として畑宿系，芦之湯系，鍛冶屋系，上多賀系を設定する。

「天城地区」：天城火山の北方に位置する東伊豆単成火山群（荒牧・葉室 1977）のなかで，柏峠には流紋岩（久野 1970 ではデイサイト）の岩体（侵食された溶岩ドーム）が認められ，ここでは黒曜石が岩脈として露出し，沢沿いには転石として黒曜石礫が散在する（杉原ほか 2008a）。また山体斜面には黒曜石剥片が散乱し，石器時代の採掘活動が考えられる（斉木 1973：関口・諏訪間 2005）。ここでは黒曜石原産地として柏峠系を設定する。

「高原山地区」：高原山火山では矢板市の桜沢と那須塩原市の甘湯沢に黒曜石の産出地がある（栃木県矢板市教育委員会 2006：向井 2007）。とくに剣ヶ峰から大入道に到る尾根筋の東側には溶岩ドームの一部を形成していたと考えられる黒曜石岩塊が認められ，その周囲には黒曜石礫が多量に産出する。またこの山体斜面に露出する火砕流堆積物中も黒曜石が含まれていて，桜沢の北支谷沿いから八方ヶ原にかけての地域でも黒曜石の河床礫や転石が産出する。また塩原市街地付近で箒川に合流する甘湯沢の中流部でも黒曜石が沢沿いに露出する泥流と河床礫に認められる。八方ヶ原と甘湯沢の黒曜石は，いずれも元素分析では同じ判別域に入る（杉原ほか 2009a）。

このほか高原山南麓斜面の湯沢，枝持沢，七尋沢の河床でも黒曜石礫が産出するが，デイサイト質で不規則な破断面を示すことから，石材としては不向きである。したがって，ここでは八方ヶ原（桜沢）産，甘湯沢産の黒曜石に限り高原山系とする。

「神津島地区」：神津島は複数の流紋岩質単成火山から構成されていて，黒曜石の産出地が多い（杉原 2008b）。このうち神津島の沖約６ｋｍにある恩馳島とその周囲海底および多幸湾に臨む砂糠崎からは，黒曜石が豊富に産出する。判別分析から，両地域の黒曜石を識別することが可能であることから，それぞれ恩馳島系と砂糠崎系として扱う（杉原ほか 2006，2008b）。神津島ではこのほか各地で黒曜石を産出する。このうち観音浦海蝕崖に露出する黒曜石は判別図では恩馳島系に含まれる（吉谷 2002）。神津島西海岸の長浜海岸や沢尻湾，および同東海岸の観音浦では黒曜石の海浜礫が産出するが，これらも恩馳島や砂糠崎から産出する黒曜石の判別域に入るが，地理的な位置関係や沿岸流（とくに海浜流）による漂礫の状況からみて，海浜礫のすべてをこれらの産出地からの二次的産出地とすることはできない。海底に露出している噴出物（火砕流や泥流）中の黒曜石が海浜に打ち上げられた可能性もあり，今後は未知の産出地に関する海底地質の調査が必要になると考えられる。

9. 石器の原産地推定結果

今回測定した遺跡は，山梨県笛吹市物見塚遺跡（旧石器時代）から出土した黒曜石製遺物である。測定した遺物は37点であり，原産地が判別できた遺物は28点であった。

原産地推定の結果は，37点全て麦草峠・冷山系であった。分析対象遺跡は，信州と関東を結ぶ地点にありながらも，これまでの分析点数は多くはない。よって，旧石器時代の黒曜石流通を考える上で重要な資料となろう。

10. おわりに

黒曜石製遺物の原産地推定は，明治大学文化財研究施設に設置されている「黒曜石原産地推定システム」で行ったものである。なお，この報告書を参考に論文を作成する場合は，原産地推定の結果を遺物の出土状況からも検討していただきたい。

＜引用・参考文献＞

荒牧重雄（1968）：浅間火山の地質．地団研専報，14，45p．附：浅間火山地質図（1：50,000）．

荒牧重雄（1993）：浅間火山地質図（1：50,000）．火山地質図，6.

荒牧重雄・葉室和親（1977）：東伊豆単成火山群の地質．東京大学地震研究所彙報，52，235－278.

神奈川県立生命の星・地球博物館（2008）：特別展図録．箱根火山—いま証される噴火の歴史，96p.

河内晋平（1961）：八ヶ岳火山列Ⅰ・Ⅱ．地球科学，55・56，1－8・11－17.

河内晋平（1974）：蓼科山の地質．地域地質研究報告（5万分の1地質図幅），地質調査所，101p.

久野久（1950；1972再版）：箱根火山地質図説明書，52p.

久野久（1970）：5万分の1地質図幅「伊東」，地質調査所

斉木勝（1973）：伊豆柏峠の黒曜石原産地．考古学ノート，3，2－10.

嶋野岳人・石原園子・長井雅史・鈴木尚史・杉原重夫（2004）：波長分散型蛍光X線分析装置による日本全国の黒耀石全岩定量分析．日本文化財科学会第21回大会研究発表要旨集，140－141.

杉原重夫・小林三郎（2004）：考古遺物の自然科学的分析に関する研究—黒耀石産出地データベース—．明治大学人文科学研究所紀要，55，1－83.

杉原重夫・檀原徹・山下透（2004）：霧ヶ峰火山における黒耀石の産出状況とフィッション・トラック年代．日本第四紀学会発表要旨集，34，20－21.

杉原重夫・小林三郎（2006）：文化財の自然科学的分析による文化圏の研究．明治大学人文科学研究所紀要，59，43－94.

杉原重夫・長井雅史・鈴木尚史・柴田徹・小森次郎・太田陽介・金成太郎：（2006）神津島産黒耀石の産地推定に関する基礎的研究—蛍光X線分析による定量・定性分析から—．日本文化財科学会第23回大会発表要旨集，200－201.

杉原重夫・杉山宏生・浦志真孝・柴田徹・金成太郎（2008a）：静岡県，伊東市内遺跡出土黒耀石製遺物の原産地推定―柏峠黒耀石原産地近傍遺跡群について―．環境史と人類，2，139 － 197.

杉原重夫・長井雅史・柴田徹（2008b）：伊豆諸島産黒曜石の記載岩石学的・岩石化学的検討―黒曜石製遺物の産地推定法に関する基礎的研究―．駿台史学，133，45 － 76.

杉原重夫・弦巻賢介・柴田徹・長井雅史・檀原徹・岩野英樹（2009a）：栃木県北部，高原山産黒曜石の記載岩石学的・岩石化学的検討とフィッション・トラック年代．明治大学博物館研究報告，14，43 － 70.

杉原重夫・長井雅史・金成太郎・柴田徹・弦巻賢介（2009b）：霧ヶ峰・北八ヶ岳地区における黒耀石の定量・定性分析―黒曜石流通の解明に向けて基礎的研究―．日本文化財科学会第 26 回大会発表要旨集，262 － 263.

杉原重夫・長井雅史・柴田徹・檀原徹・岩野英樹（2009c）：霧ヶ峰・北八ヶ岳産黒曜石の記載岩石学的・岩石化学的検討―黒曜石製遺物の産地推定法に関する基礎的研究―．駿台史学，136，57 － 109.

諏訪の自然誌・地質編編集委員会編（1975）：諏訪の自然誌・地質編及び諏訪地質図（七万五千分の一）．諏訪教育会，531p.

関口昌和・諏訪間順（2005）：伊豆柏峠黒曜石原産地採集の石刃石核．旧石器研究，1，81 － 93.

高橋正樹・長井雅史編（2007）：箱根火山．日本地質学会

津屋弘達（1934）：浅間火山の地質（一・二）．地理学，2，1265 － 1291・1479 － 1491.

栃木県矢板市教育委員会（2006）：高原山産黒曜石調査事業成果報告書．70p.

長井雅史・杉原重夫・檀原徹・岩野英樹・小森次郎・柴田徹・平野公平（2006）：塩嶺累層，和田峠 - 霧ヶ峰地域の火山層序とフィッション・トラック年代．日本第四紀学会発表要旨集，36，96 － 97.

長井雅史・高橋正樹（2008）：箱根火山の地質と形成史．神奈川県立博物館調査研究報告，13，25 － 42.

向井正幸（2007）：東日本から産出する黒曜石ガラスの化学組成．旭川市博物館研究報告，12，27 － 61.

望月明彦（1997）：蛍光 X 線分析による中部・関東地方の黒曜石産地の判別．X 線分析の進歩，28，157 － 168.

望月明彦・池谷信之・小林克次・武藤由里（1994）：遺跡内における黒曜石製石器の原産地別分布について―沼津市土手上遺跡 BB V 層の原産地推定から―．静岡県考古学研究，26，1 － 24.

吉谷昭彦（2002）：神津島の黒耀石．東京都神津島村フォークロア，東京都神津島村教育委員会，2 － 17.

第５表　物見塚遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定結果

試料No.	Rb分率	Sr分率	Zr分率	Mn×100/Fe	Log(Fe/K)	候補1	確率	距離	候補2	確率	距離	掲載番号	図版	器種
MNM1-001	25.9599	30.3925	33.6368	4.5777	0.0854	麦草峠・冷山系	1.0000	2.3556	横岳系	0.00	51.47	1	第29図	小型ナイフ形石器
MNM1-002	26.0455	29.8472	34.0316	4.3801	0.0807	麦草峠・冷山系	1.0000	3.8434	横岳系	0.00	50.53	2	第29図	ナイフ形石器
MNM1-003	26.3259	29.9187	34.1094	4.2930	0.1245	判別不可	－	－	－	－	－	3	第29図	二次加工剥片
MNM1-004	26.7478	28.7755	34.5242	4.0874	0.1420	判別不可	－	－	－	－	－	4	第29図	彫器
MNM1-005	26.1653	29.4840	34.9028	4.4724	0.0817	麦草峠・冷山系	1.0000	2.8867	横岳系	0.00	50.38	5	第29図	彫器
MNM1-006	25.2103	29.7427	35.3635	4.0899	0.1358	判別不可	－	－	－	－	－	6	第29図	抉入石器
MNM1-007	27.7640	28.3404	34.4815	4.5852	0.0709	麦草峠・冷山系	1.0000	6.8841	横岳系	0.00	28.43	7	第29図	二次加工剥片
MNM1-008	24.8680	29.6407	34.9689	4.3822	0.1054	麦草峠・冷山系	1.0000	8.8562	横岳系	0.00	101.22	8	第30図	石刃
MNM1-009	25.2020	29.4491	34.2984	4.3520	0.0853	麦草峠・冷山系	1.0000	6.5418	横岳系	0.00	70.55	9	第30図	剥片
MNM1-010	25.7387	28.6979	35.7288	4.5398	0.0841	麦草峠・冷山系	1.0000	7.1752	横岳系	0.00	64.73	10	第30図	剥片(微細剥離あり)
MNM1-011	26.7531	28.4103	35.0819	4.1914	0.1118	判別不可	－	－	－	－	－	11	第30図	石刃
MNM1-012	25.6070	30.7921	33.4482	4.6150	0.0908	麦草峠・冷山系	1.0000	3.8176	横岳系	0.00	61.14	12	第30図	石刃
MNM1-013	27.6846	30.0106	32.4376	4.4260	0.1116	判別不可	－	－	－	－	－	13	第30図	石刃(微細剥離あり)
MNM1-014	26.5234	29.5228	34.7810	4.5541	0.0558	麦草峠・冷山系	1.0000	1.0055	横岳系	0.00	24.47	14	第30図	剥片
MNM1-015	25.8724	30.1413	33.9868	4.2225	0.1006	麦草峠・冷山系	1.0000	12.9862	横岳系	0.00	76.39	15	第31図	石刃(微細剥離あり)
MNM1-016	25.0471	30.4503	33.7485	4.6208	0.0797	麦草峠・冷山系	1.0000	0.8742	横岳系	0.00	57.58	16	第31図	剥片
MNM1-017	26.2054	29.5201	35.0035	4.5812	0.0667	麦草峠・冷山系	1.0000	0.7227	横岳系	0.00	34.63	17	第31図	剥片
MNM1-018	27.2598	29.1293	33.5782	4.2791	0.0941	麦草峠・冷山系	1.0000	15.0786	横岳系	0.00	56.31	18	第31図	剥片
MNM1-019	23.8945	30.5302	34.4452	4.2076	0.1285	麦草峠・冷山系	1.0000	17.5383	横岳系	0.00	153.02	19	第31図	石刃
MNM1-020	26.3244	29.1176	36.2243	3.9385	0.1672	判別不可	－	－	－	－	－	20	第31図	石刃
MNM1-021	25.0464	29.8040	34.3602	3.8897	0.1857	判別不可	－	－	－	－	－	21	第31図	石刃
MNM1-022	25.8283	28.9575	35.1523	4.2850	0.1039	麦草峠・冷山系	1.0000	15.7973	横岳系	0.00	89.52	22	第32図	剥片
MNM1-023	26.6845	30.2027	33.8420	4.3462	0.1194	判別不可	－	－	－	－	－	23	第32図	剥片
MNM1-024	26.6032	30.3806	33.9628	4.4128	0.0871	麦草峠・冷山系	1.0000	5.3526	横岳系	0.00	46.47	25	第32図	剥片
MNM1-025	24.6488	28.9946	36.3971	4.5305	0.0657	麦草峠・冷山系	1.0000	7.2852	横岳系	0.00	59.33	26	第32図	剥片
MNM1-026	26.7194	29.4512	34.1868	4.2766	0.1005	麦草峠・冷山系	1.0000	14.5716	横岳系	0.00	67.99	27	第33図	打面調整剥片
MNM1-027	26.9701	29.0949	34.0533	4.3180	0.0998	麦草峠・冷山系	1.0000	14.9426	横岳系	0.00	65.55	28	第33図	打面調整剥片
MNM1-028	26.6543	29.1328	33.7522	4.3741	0.0903	麦草峠・冷山系	1.0000	8.7292	横岳系	0.00	57.14	29	第33図	打面調整剥片
MNM1-029	25.5571	28.3048	35.8353	4.4277	0.1053	麦草峠・冷山系	1.0000	18.6640	横岳系	0.00	102.13	30	第33図	打面調整剥片
MNM1-030	25.5932	29.5633	34.0052	4.3610	0.0909	麦草峠・冷山系	1.0000	6.2152	横岳系	0.00	69.77	31	第33図	調整剥片
MNM1-031	25.3958	30.5402	33.6208	4.4752	0.1115	麦草峠・冷山系	1.0000	8.7876	横岳系	0.00	94.45	32	第33図	調整剥片
MNM1-032	26.8444	29.4424	33.1536	4.2909	0.1061	麦草峠・冷山系	1.0000	16.9475	横岳系	0.00	73.04	33	第33図	調整剥片
MNM1-033	26.0843	29.5405	33.7882	4.7322	0.0882	麦草峠・冷山系	1.0000	9.8532	横岳系	0.00	61.95	34	未掲載	小原石
MNM1-034	27.2117	30.6572	31.6447	4.3326	0.1033	麦草峠・冷山系	1.0000	16.6301	横岳系	0.00	57.27	35	未掲載	砕片
MNM1-035	25.8653	31.3595	31.8517	4.5846	0.0763	麦草峠・冷山系	1.0000	3.3010	横岳系	0.00	39.00	36	未掲載	砕片
MNM1-036	26.5211	29.6728	34.0473	4.0946	0.1699	判別不可	－	－	－	－	－	37	未掲載	砕片
MNM1-037	25.5112	30.1007	33.2122	4.4255	0.0781	麦草峠・冷山系	1.0000	1.8221	横岳系	0.00	52.46	38	未掲載	砕片

第Ⅷ章　物見塚遺跡のテフラ

(財)山梨文化財研究所　河　西　　学

はじめに

物見塚遺跡は、京戸川扇状地の扇央部に位置する。京戸川は、甲府花崗岩体からなる御坂山地に流域をもち、北西方向に流下し、笛吹市一宮町分水付近を扇頂とした扇状地を形成している。京戸川扇状地は、同心円状の等高線が明瞭な典型的な扇状地であり、傾斜がきつい。物見塚遺跡からは、旧石器時代の黒曜石石器が検出されていることから、これらの遺物とテフラとの層位関係を明らかにする目的でテフラ分析を行ったので、以下に報告する。

試料

試料は、Ａ－１地点で13点、Ａ－２地点で17点、Ｂ地点で14点の総計44点を採取し分析した。Ａ－１地点は、石器が集中して出土地点近傍の北西壁に位置する。Ａ－２地点は、Ａ－１地点よりも東側の北東壁に位置する。Ｂ地点は、Ａ－１地点・Ａ－２地点よりも南西方向に45m程離れた北西壁に位置している。

分析方法

試料は、湿ったまま約20gを秤量後、水を加え超音波装置を用いて分散をはかり、分析篩（#250）で受けながら泥分を除去した。乾燥後、分析篩（#60,#250）を用いて>1/4㎜および1/4～1/16㎜の粒径に篩別・秤量し粒径組成を算出した。なお分析試料の乾燥重量は、別に同一試料約５～10gを秤量ビンにとり秤量後、乾燥器で105℃、５時間放置して得られた乾燥重量から算出した。鉱物粒子の観察は、1/4～1/16㎜の粒径砂をスライドグラスに封入し偏光顕微鏡下で行なった。試料ごとに火山ガラス・その他の粒子の合計が1000粒になるように計数した。火山ガラスの形態分類は遠藤・鈴木（1980）の方法に従った。細粒結晶を包有するＦ型火山ガラスはＦ’型として区別した。火山ガラスの屈折率の測定は、位相差顕微鏡による浸液法（新井,1972）による。

分析結果

火山ガラスの屈折率測定値を第１表に示す。偏光顕微鏡下での火山ガラスの計数結果を第２表に示す。これをもとに湿重基準の含水率、粒径組成、1/4～1/16㎜の全火山ガラス含有率、形態別火山ガラス含有率を算出し第１～３図に示す。なお1/4～1/16㎜全火山ガラス含有率、形態別火山ガラス含有率は、試料単位重量当たりの1/4～1/16㎜粒径の火山ガラスの割合で表示した(註1)。以下に各地点の特徴について述べる。

第１表　火山ガラス屈折率測定値

地点	試料	形態ガラス	水和層	色調	火山ガラス屈折率	対比されるテフラ
Ａ２地点	No.３	軽石型（Ｅ・Ｆ型）	無	無色	1.501-1.504(1.502-1.503)	カワゴ平軽石　Ｋｇ
Ｂ地点	No.14	泡壁型（Ａ・Ａ’型）	無	無色	1.499-1.501（1.4995）	姶良Ｔｎテフラ　ＡＴ

第２表　火山ガラスの計測粒数（+ は計数以外の検出を示す）

地点	物見塚遺跡Ａ－１地点													物見塚遺跡Ａ－２地点								
試料番号	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	No. 13	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9
A　無色	4	1			3	+	1	1	1	1		1	4	1	2	2	1	2	3	4		1
A　褐色			+													+						
A' 無色	1	3	3	2	3	1	3	2		1	3	1	2	4	6	4	4	6	2	1		1
A' 褐色																	+					
B　無色	6	8	10	5	3	4	2	2	2	+	1	1		7	17	12	5	7	6	1	3	5
B　褐色																1						
C　無色	4	4	1	1		3			1					5	3	7	7			+	1	1
D　無色															1							
E　無色															1	2	1					
F　無色	7	9	7	9	2		1					+		8	9	18	8	1				
F' 無色							1									1						
その他	978	975	979	983	989	992	992	995	996	998	996	997	994	975	961	953	974	984	989	994	996	992
合計	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000

地点	物見塚遺跡Ａ－２地点								物見塚遺跡Ｂ地点													
試料番号	No. 10	No. 11	No. 12	No. 13	No. 14	No. 15	No. 16	No. 17	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	No. 13	No. 14
A　無色		2		1	4	2	2	3	3	5	4	5	3	7	4	5	2	6	11	16	14	23
A　褐色											+											
A' 無色	1	2			4	2	3	6	10	9	7	9	3	9	12	8	8	7	15	15	26	24
A' 褐色																						
B　無色	3	3	1						6	3	5	10	8	9	16	8	7	5	4	1		4
B　褐色												1						1				
C　無色	+		1				1		2	1	2	2	4	1	1	1	1	1	1		3	4
D　無色										1											1	
E　無色									2	1	1	3										
F　無色			1			1			6	2	3	4	13	1	3		3	1	3			2
F' 無色															1	1						
その他	996	993	997	999	992	995	994	991	971	978	978	966	969	973	963	977	979	979	966	968	956	943
合計	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000

[Ａ－１地点]（第１図）

Ａ－１地点は、石器集中地点に最も近い地点である。

含水率は、21 ～ 32%の値を示し、上方に漸増する。含水率は、No.2 で極大値を No.11 付近で曲線の転換点を示す。粒径組成における 1/4 ㎜以上の粒子は、最下部の No.13 で 42%の高率を示し、上方に漸減するが、No.7 で小さな極大値を示す。1/4 ～ 1/16 ㎜粒子は、12 ～ 20%の値を示し、上方に向かって緩やかに漸減する。

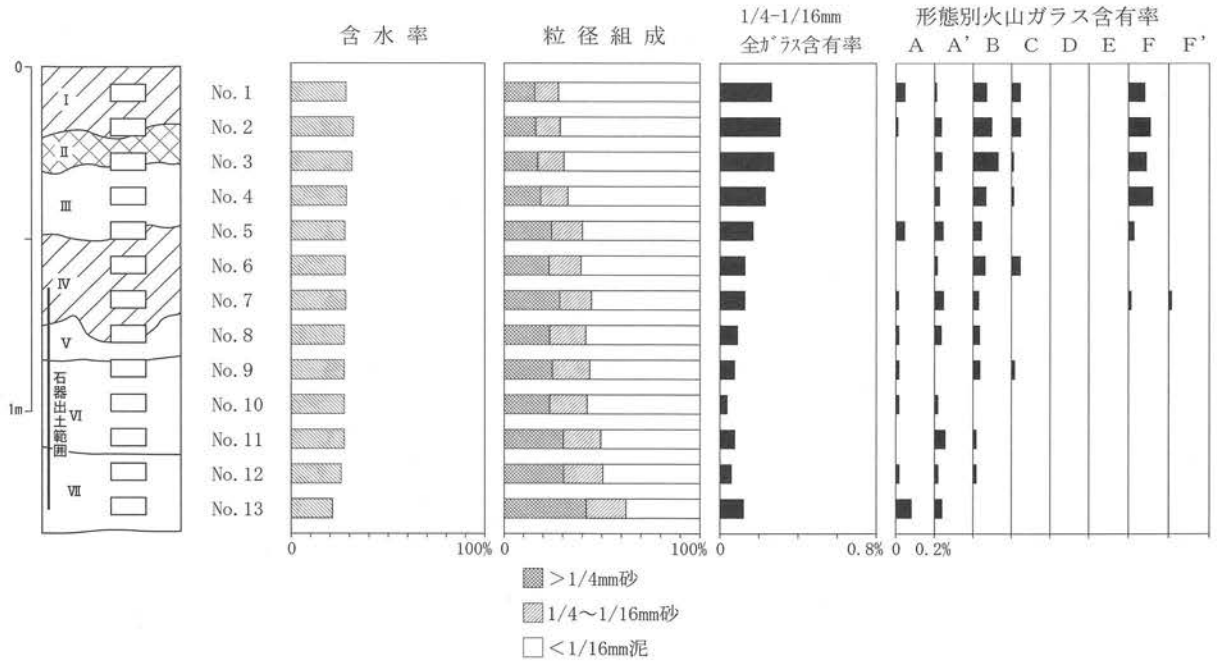
火山ガラスは、含有率が極めて少なく、1/4 ～ 1/16 ㎜全火山ガラス含有率は最大を示す No.2 でも 0.31%である。1/4 ～ 1/16 ㎜全火山ガラス含有率は、Nos.1 ～ 4 の部分が No.2 を中心とした極大部を形成しているが、これはＢ・Ｆ型火山ガラスの小規模な濃集によるものである。対比されるＡ－２地点の Nos.1 ～ 4 が天城火山カワゴ平軽石（Ｋｇ）[(註2)]に同定されることから本地点 Nos.1 ～ 4 も同様にＫｇに対比される。旧石器の出土層位に付近においてはテフラの濃集層準は認められない。

[Ａ－２地点]（第２図）

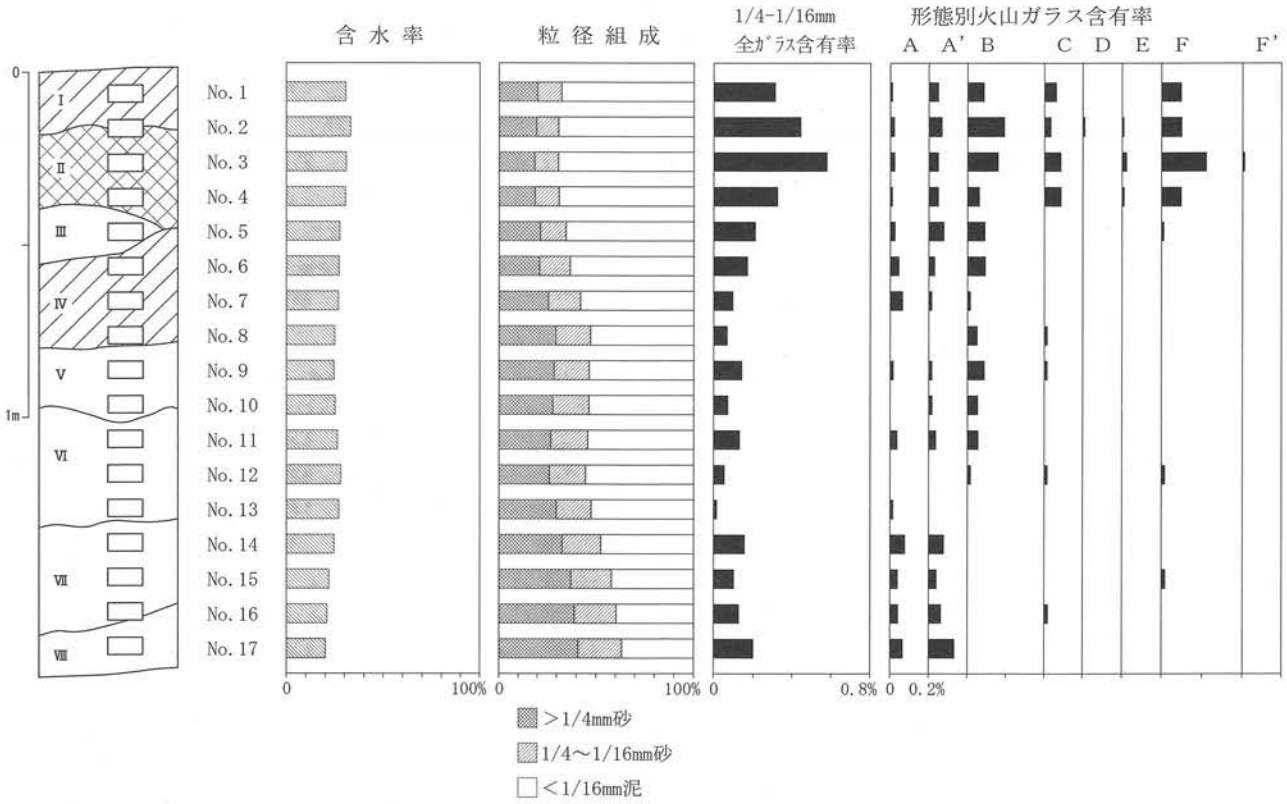
Ａ－２地点は、Ａ－１地点よりも斜面の上流側に位置し、より深くまで掘り込んだ断面である。

含水率は、20～33%の値を示し、上方に漸増する。含水率は、No.2 と No.12 で極大値を示し、ほぼＡ－１地点と対応する。粒径組成における 1/4 ㎜以上の粒子は、最下部の No.17 で 41%の高率を示し、上方に漸減するが、No.8 で小さな緩やかな極大値を示す。1/4 ～ 1/16 ㎜粒子は、11 ～ 22%の値を示し、上方に向かって緩やかに漸減する。

火山ガラスは、下半部において含有率が極めて少なく、1/4 ～ 1/16 ㎜全火山ガラス含有率は上



第1図　火山ガラス含有率（A－1地点）



第2図　火山ガラス含有率（A－2地点）

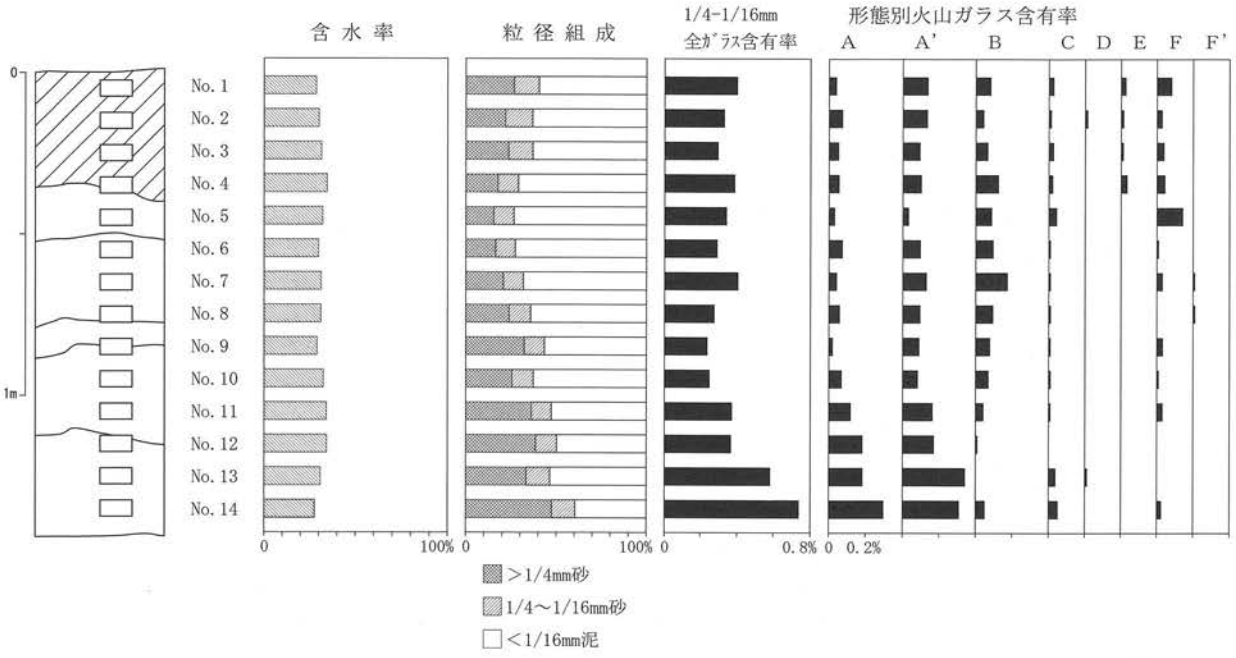
部 Nos.1 ～ 4 において No.3 の 0.58％を最大値とする極大部が認められる。これは軽石型スポンジ状のＦ型を主とし、Ｂ・Ｃ・Ｅ型を伴う火山ガラスの濃集によるものである。No.3 においてＦ型火山ガラスを主体に火山ガラスの屈折率を測定した結果、1.501-1.504（主要レンジ 1.502-1.503）の測定値を得た（第１表）。このことから Nos.1 ～ 4 の火山ガラスの濃集は、軽石型～急冷低発泡ガラスからなるＫｇに同定される。Ｋｇが確認された山梨県内遺跡は、上野原市関山遺跡、北杜市丘の公園第２遺跡・中込遺跡、富士吉田市池之元遺跡、南アルプス市二本柳遺跡、笛吹市桂野遺跡・車地蔵遺跡、南部町天神堂遺跡などである（河西 1988, 1989, 1990, 1997, 2000, 2002, 2004）。Nos.8 ～ 12 付近は塊状形態のＢ型火山ガラスがわずかながら連続的に安定して検出される。これらＢ型火山ガラスは、形態と層位的にみて立川ローム上部ガラス質テフラＵＧ(註3)に対比されると考えられる。

[Ｂ地点]（第３図）

Ｂ地点は、Ａ－１地点の南西約　45 ｍ付近に位置する。

含水率は、28 ～ 35％の値を示し、No.4 と Nos.11 ～ 12 で極大値を、No.9 で極小値を示す。粒径組成における 1/4 ㎜以上の粒子は、最下部の No.14 で 47％の高率を示し、上方に向かって凹凸を繰り返して漸減し、No.15 で 15％の極小値を示し、上方に向かって緩やかに漸増する。1/4 ～ 1/16 ㎜粒子は、11 ～ 15％の値を示す。

火山ガラスは、下部の No.14 で最大を示し、上方に漸減する傾向が認められる。泡壁型平板状のＡ型火山ガラスは、No.14 に最大値をもち、立体的泡壁型のＡ’型火山ガラスは、No.13 で極大値を示す。No.14 における泡壁型火山ガラスの屈折率は、1.499-1.501（モード 1.4995）を示す。したがって Nos.13 ～ 14 付近の泡壁型火山ガラスは、姶良 Tn テフラ（ＡＴ）(註4)に同定される。泡壁型火山ガラスの含有曲線から判断するとＡＴの降灰層準は、No.14 以下に位置すると推定される。No.7 で小さな極大値を示し安定的に塊状のＢ型火山ガラスが連続する Nos.6 ～ 10 は、ＵＧテフラに対比される可能性が考えられる。また、Nos.3 ～ 5 付近は、Ｆ型のほかＢ・Ｃ・Ｅ型を伴う火山ガラスの



第３図　火山ガラス含有率（Ｂ地点）

特徴からＫｇに対比される可能性がある。

旧石器時代遺物の層位

本地域は、急傾斜の扇状地扇央部に位置するため土石流堆積や風成あるいは雨水等の影響下での砕屑物の移動が起こりやすい環境にあるといえる。発掘調査と並行して実施されていた道路工事断面では、ローム層上位の暗褐色から黒褐色土層に不整合にレンズ状の土石流堆積物が観察された。土石流のレンズは、中央では1mを超える巨礫を含み両端に向かって細粒化・薄層化するのが観察された。試料採取断面においても、マサ状の砂粒が多く、ときに花崗岩礫を伴うことから、粗粒堆積物の供給が連続的にあったことが考えられる。このような状況でもＢ地点ではＡＴ火山ガラスの降灰時の極大につながる含有率曲線の一部がとらえられた。Ａ－１地点・Ａ－２地点は、Ａ・Ａ'型火山ガラスの微量で断片的な含有が認められるだけであり、ＡＴ降灰時の含有率の極大に直接結びつく結果は得られなかった。しかし、形態的・層位的に見てこれら泡壁型Ａ・Ａ'型火山ガラスは、ＡＴに由来する二次堆積の火山ガラスであることから、Ａ－１地点・Ａ－２地点の分析断面はＡＴ以降の堆積物であることが明らかである。ＵＧに対比されるＢ・Ｃ型火山ガラスが、Ａ－２地点Nos.8～12ばかりでなく、Ａ－１地点Nos.6～9付近のⅥ層上部からⅣ層でもわずかに認められる。Ａ－１地点において石器出土層位は、Ⅶ層～Ⅳ層下半部にわたっている。出土層位下半のⅦ～Ⅵ層の石器はＡＴ降灰以降ＵＧ降灰以前に、出土層位上半Ⅵ層上部～Ⅳ層の石器はＵＧ降灰前後の時期に相当する可能性がある。

註

註１　形態ｘ型の火山ガラスの含有率Ａｘは、Ａｘ（％）＝（Ｃ／Ｂ）×（Ｅｘ／Ｄ）×１００で算出される。ただし、Ｂ:試料の乾燥重量（ｇ）、Ｃ:1/4～1/16㎜粒径砂分の重量（ｇ）、Ｄ:計数した1/4～1/16㎜粒径粒子の総数、Ｅｘ：計数したｘ型火山ガラスの粒数。

註２　Ｋｇの噴出年代は、暦年較正した年代として3126～3145年前（calBP）が用いられている（町田ほか、2003）。

註３　ＵＧの噴出年代は、早川由紀夫氏の100万年テフラデータベースによると暦年較正した年代は1万5800年前とされている（http://gunma.zamurai.jp/database/index.php?kind=1m&mode=）。

註４　ＡＴの噴出年代は、14Ｃ年代では約2.4～2.5万年前が一般的に用いられているが、暦年較正した年代は2.6～2.9万年前程度とされている（町田ほか、2003）。

文献

新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究、11、254-269。

遠藤邦彦・鈴木正章（1980）立川・武蔵野ローム層の層序と火山ガラス濃集層。考古学と自然科学，13，19-30。

河西学（1988）山梨県上野原町関山遺跡における地層とテフラ。『関山遺跡Ⅱ』，山梨県埋蔵文化財

センター調査報告、第40集、20-24。
河西学（1989）丘の公園地域のテフラと地形。『丘の公園第２遺跡』，山梨県埋蔵文化財センター調査報告第46集、165-184。
河西学（1990）長坂町中込遺跡試料のテフラ分析。『中込遺跡』，山梨県埋蔵文化財センター調査報告、第52集、36-40。
河西学（1997）富士吉田市池之元遺跡のテフラ。池之元遺跡発掘調査報告書，富士吉田市史資料叢書、14、107-109。
河西学(2000)二本柳遺跡のテフラ。『二本柳遺跡』、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書、第183集、213-218。
河西学（2002）桂野遺跡の堆積物とテフラ。『桂野遺跡（第４次調査）・原山遺跡』、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書、第199集、75-77。
河西学（2004）天神堂遺跡におけるテフラ。『天神堂遺跡』、南部町教育委員会、38-39。
町田洋・新井房夫（2003）『新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺』。東京大学出版会、336p.

第Ⅸ章　物見塚遺跡出土の炭化種実

㈱パレオ・ラボ　佐々木由香
バンダリ スダルシャン

1．はじめに

物見塚遺跡は山梨県笛吹市一宮町および甲州市勝沼町に位置し、甲州盆地東南部、御坂山地の北麓、笛吹市一宮町と甲州市勝沼町にまたがって分布する京戸川扇状地の扇頂部近くに立地する。遺跡の標高は約480mである。遺跡の時期は旧石器時代と、縄文時代早期末から前期末である。ここでは笛吹市地内調査区から検出された縄文時代早期末葉～前期初頭の竪穴住居跡から得られた炭化種実の同定を行い、当時利用された種実を検討した。

2．試料と方法

試料は竪穴住居跡であるSI1、SI5、SI8、SI11の炉覆土から検出された、1試料あたり複数の炭化物を含む水洗選別済みの試料である。遺構の時期は縄文時代早期末葉から前期初頭である。

堆積物の採取から水洗、抽出までの作業は山梨文化財研究所によって行われ、試料はある程度の分類群で分類されていた。洗浄前の土壌重量は表1に重量（kg）で示した。炭化種実の同定・計数は肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損しても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。試料および残渣は笛吹市教育委員会に保管されている。

3．結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のオニグルミ炭化核とミズキ炭化核の2分類群、草本植物ではスベリヒユ属炭化種子とオオムギ-コムギ炭化種子の2分類群の計4分類群が見いだされた。このほかに、残存が悪く、微細な破片であるため識別点欠く同定不能な一群を同定不能炭化種実とした。植物以外には炭化した虫えいと子嚢菌が少量得られた。また他に炭化材片と、未炭化の材片、根が含まれていた。

以下に遺構別に炭化種実の出土傾向を記載する（同定不能種実、虫えい、子嚢菌は除く）。

SI1：オニグルミ核が少量とミズキ核がわずかに得られた。

SI5：オニグルミ核とスベリヒユ属種子がわずかに得られた。

SI8：スベリヒユ属種子とオオムギ-コムギ種子がわずかに得られた。

SI11：同定可能な種実は得られなかった。

第1表　物見塚遺跡の炭化種実同定結果（括弧は破片を示す）

	試料No.	1	2	3	4
	検出遺構	SI1	SI5	SI8	SI11
	検出位置	炉覆土	炉覆土	炉覆土	炉覆土
	洗浄量	4.94kg	8.02kg	7.54kg	15.86kg
分類群	部位/時期	縄文時代早期末葉ー前期初頭			
オニグルミ	炭化核	(50)	(5)		
ミズキ	炭化核	1			
スベリヒユ属	炭化種子		(2)	2	
オオムギ-コムギ	炭化種子			1	
同定不能	炭化種実	(22)	(86)	(13)	(17)
虫えい				1	
子嚢菌	炭化子嚢	4	5	16	1

以下に炭化種実遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

(1) オニグルミ　*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana*（Maxim.）Makino　炭化核　クルミ科

すべて破片での出土で、完形ならば側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹

凸が不規則に入る。壁は緻密で硬く、ときどき空隙がある。断面は角が尖るものが多い。最大破片で残存長 8.3 ㎜、残存幅 7.0 ㎜。

(2) ミズキ　*Swida controversa* (Hemsl. ex Prain) Sojak　炭化核　ミズキ科

楕円形で、完形ならば上端がやや尖る。基部に裂けたような大きな着点がある。種皮は厚くやや軟らかい。縦に深い溝と隆起が走る。長さ 3.7 ㎜、幅 4.1 ㎜、厚さ 3.5 ㎜。

(3) スベリヒユ属　*Portulaca sp.*　炭化種子　スベリヒユ科

上面観は扁平、側面観は円形。全体的にいぼ状の突起がある。「の」の字状になり先端に着点がある。長さ 0.7 ㎜、幅 0.6 ㎜程度。

(4) オオムギ - コムギ　*Hordeum vulgare* L.- Triticum aestivum L.　炭化種子　イネ科

上面観・側面観共に角張った楕円形。腹面中央部には、上下に走る溝らしい痕跡があるが、発泡しており明瞭でない。背面の下端中央部には、扇形の胚がある。オオムギとコムギの識別点としてコムギの場合側面観で最も背の高い部分（幅の広い部分）が基部付近に来るなど、側面および断面形状が重要であるが (Jacomet, 2006)、本試料では断面および側面の一部が失われて観察できなかったため、オオムギ - コムギとした。長さが短く、幅に対して厚みがあり、全体的に丸っこい傾向がある点でオオムギよりコムギに似る。大きさは長さ 2.9 ㎜、幅 2.0 ㎜、厚さ 2.6 ㎜と小さい。

(5) 虫えい　Gall

上面観は円形で、上下は平坦な楕円形。表面は粗い。虫えいの頂点部分は円形に凹む。長さ 2.1 ㎜、幅 2.3 ㎜程度。

(6) 子嚢菌　Ascomycotetes　炭化子嚢

円形で片側中央部が窪む。直径 0.9 ㎜。

4．考察

縄文時代早期末葉から前期初頭の竪穴住居跡内の炉覆土から産出した炭化種実を同定した結果、SI1 と SI5 からオニグルミ核が少量得られた。破片数は多いが、いずれも微細な破片で、復元個体数は 1 個体に満たなかった。オニグルミは食用になるが、出土した核の部分は食用部位ではない。また熱を受けているため、形状の観察は困難なものが多いが、完形の個体が炭化したというより、破片の状態で炭化したものがほとんどと考えられる。オニグルミのほか、SI1 からは産出数は少ないが食用可能なミズキが得られた。SI8 からは栽培植物であるオオムギ - コムギが 1 点得られた。形状からはコムギに近いが、残存が悪く種の同定には至らなかった。この時期のオオムギあるいはコムギの出土事例は日本列島にはなく、本遺跡でも 1 点のみの出土であるため、種実自体の年代測定を行うなど、時期については慎重に検討する必要があろう。食用可能な種実が炭化した要因としては、炉覆土からの産出であることから、加工・調理時の炭化と考えられる。オニグルミについては加えて、食用部分を取り出した後の残渣焼却の可能性なども考えられる。

SI5 と SI8 から産出したスベリヒユ属は荒れ地や路傍など日当たりの良い所に生育する草本植物で、種によっては若芽を食用にする。種子は食用にしないため、周辺に生育していたスベリヒユ属の種子が偶発的に覆土中に混入したと思われる。なお、SI11 からは同定可能な種実は得られなかった。虫えいや子嚢菌は木材に付着していたものが、木材に伴って炉内にもたらされた可能性がある。各試料からは未炭化の根や材片も多く、点数の少ない種実は後世の種実が混入した可能性もあるため、取り扱いには注意を要する。

引用文献

Jacomet, S. and collaborators Archaeobotany Lab. (2006) Identification of cereal remains from archaeological sites. 2nd edition, IPAS, Basel Univ.

第X章　まとめ

本調査区では、調査の結果、旧石器時代の包含層、縄文時代早期末から前期初頭および前期後半代の竪穴建物跡と土坑、ピット、時期不明の溝状遺構が検出されている。各遺構の検出総数は、竪穴建物跡（ＳＩ）14軒、土坑・ピット（ＳＫ）103基、溝状遺構（ＳＤ）３条である。出土した遺物の総量は、幅34㎝、長さ49.5㎝、深さ26㎝のプラスチックコンテナに約３箱である。

第１節　旧石器時代

本遺跡における旧石器時代の石器群の詳細については、すでに第Ⅵ章において保坂康夫氏を中心とする石器石材研究会の各位によって詳細なる分析がおこなれているのでそちらに譲ることとしたい。さらに第Ⅶ章で明治大学の杉原重夫、金成太郎氏による黒曜石の蛍光Ｘ線分析装置を用いた原産地推定、第Ⅷ章で（財）山梨文化財研究所の河西学氏によるテフラ分析によって総合的な調査が可能となった。石器群のすべては一つのブロック内に属し、層位的、石器群の特徴、テフラ分析から後期旧石器時代後半期のいわゆる「砂川期」のもので、信州蓼科冷山系の石材で、ほぼ構成されていることが判明した。

山梨県内では、面的な発掘調査が実施された旧石器時代の遺跡の数は、これまで10箇所程度にすぎず、その他の時代の遺跡の調査数に比べるとその数は圧倒的に少ない。その中にあって調査面積は狭いながらも各機関や各位の協力のもと、総合的な分析調査が実施できたことは大変意義深い。

第２節　縄文時代

縄文時代の遺構と遺物は、前述のとおり早期末から前期初頭段階の神之木台式期･下吉井式期と、前期後半代の諸磯ｂ式期の二つの時期が主体となっているが、諸磯ａ式期や中期資料もわずかにみられる。土器全体の出土量は極めて少ない。破片資料が主体で、土器の全容が判明する資料は一点もない。早期末から前期初頭段階では、胎土に繊維を比較的多く含む胴部周辺の破片が多く、口縁部や底部資料は極めて少ない。SI11で隆帯上にヘラ状工具による刻み目を施した口縁部資料（第24図37）が検出されている程度である。土器の出土量の少なさは、反面、遺跡の性格を反映している可能性が強い。それについては後述したい。

諸磯ｂ式期段階では、縄文を地文として刻みのある浮線文や沈線文を施すものがみられ、深鉢形態の他、浅鉢形態の破片資料がみられる。また中期土器資料もみられるが、その量はわずかである。

さて、竪穴建物跡は14軒、土坑・ピットは103基検出している。土坑・ピットについては、年代決定資料となる出土遺物が乏しく、時期不明のものが大半を占めている。遺構群は調査区内の巨礫が露出していない土石流凹地部分に分布しており、大まかに３つのブロックを形成している。

縄文時代早期末から前期初頭段階の竪穴建物跡の検出例は、山梨県内では釈迦堂遺跡群、大月市原平遺跡で良好な事例があるものの、他時期の事例から比べれば検出例は少なく、その集落構造の実態は不明瞭な部分が多い。こうした状況の中で、竪穴建物跡がある程度まとまって検出されたことは、今後の当該期の集落構造の解明に向けての貴重な一事例となろう。

竪穴建物跡は、標高482ｍ前後の等高線に沿うように弧状に展開するようであり、竪穴の形状は主に不整楕円形を呈し、長軸が３～４ｍを測るものが多く、柱穴は６本前後で直径は20㎝程度。炉は地床炉で、その位置は竪穴中央部分に多い。しかし焼土の分布は極めて希薄で、長時間使用されたという感じは乏しい。

出土遺物は、各竪穴建物跡とも非常に少なく、土器小片や黒曜石チップ片の出土が中心である。完形土器がなく、石器の内容も石皿や磨石などの再生産に関わる石器が少ないことが特徴の一つとして挙げられよう。竪穴の規模からみればSI11は、長軸が現状で６ｍ、短軸が5.5ｍを測るやや大型の竪穴建物跡で特筆すべき存在であろう。本竪穴建物が集落の中に占める位置や性格を今後考えていかなければならないであろう。

本遺跡は、中央自動車道建設に伴って発掘調査された前述した釈迦堂遺跡群を見下ろす位置にあり、その立地条件からみても、釈迦堂遺跡群との関連性が容易に想定できる。縄文時代早期末から前期初頭の遺構群をみれば、釈迦堂遺跡群でも総計22軒の当該期の竪穴建物跡が検出されており、しかも同時期の遺構とは重複をせずに、単独で存在しているものが多い。その集落構造は一時期に３～４軒がブロックを形成し生活が営まれていたとされている。

土坑群については、竪穴建物跡を掘り込んで構築されている事例が多く、出土遺物では縄文時代前期後半代の諸磯ｂ式期の土器資料が目立っている。当該期の居住痕跡はみられないが、本遺跡の南東側には当該期の遺跡とされる日向林遺跡の存在が知られているため、居住域は当該遺跡またはその周辺に求められるかもしれない。

各土坑の性格については、墓壙なのか貯蔵穴なのかその認定は難しい。その中にあってSI3を掘り込んで構築されているSK14や、石器未製品類などがまとまって出土しているSK107とSK108は、埋納（デポ）行為に伴う痕跡である可能性が高く特筆できよう。

物見塚遺跡では、ほぼ同時期の竪穴建物跡が重複して存在しているケースが多く、短期間に建物の建て替えが頻繁におこなわれた状況がうかがえる。このことは、本遺跡への人の出入りが頻繁におこなわれていたことを物語っていると思えるが、一方で土器の出土量は極めて少ないこと、さらに定着性を物語る再生産石器類や、石鏃などの狩猟具石器類も少ないことは、本遺跡の竪穴建物跡は、恒常的な住まいとはしない、一時的な仮住まいの建物として使用されたことを物語っているのではなかろうか。

さらに今回、竪穴建物跡の炉内の土壌サンプリングをおこない土壌水洗をおこなった結果抽出された炭化種実等の同定分析を実施したが（第Ⅸ章）、明確な食物残滓等は検出されなかった。以上のことから本遺跡は一時的な住まいの場、すなわちキャンプサイト的な集落であった可能性が高いといえよう。キャンプサイト的な状況は、遡って旧石器時代でも読み取ることができそうである。遺物のあり方からみると、石器製作等に関わるようなブロックの検出はされたものの、その土地への定着的な痕跡だとされる「礫群」が検出されなかったことで、本調査区外に存在しているのかもしれないが、同じく旧石器時代遺物が多数出土した釈迦堂遺跡群でも「礫群」の存在は認められていない。こうした状況から、旧石器時代における釈迦堂遺跡群内の遺跡や周辺遺跡の遺跡は、キャンプサイト的な遺跡であった可能性が高いと推測できる。

本報告第Ⅵ章において旧石器時代石器群の分析を担当した保坂康夫氏らの分析でも、「物見塚遺跡や塚越北Ａ地区の旧石器集団は、黒曜石原産地を出てから多くの地点を経由することなく甲府盆地を横切り、この地点に到来」し、「ナイフ形石器の付け替えや他の石器を使った作業を行う生活がある程度展開された後、御坂山地を越えて他の遺跡群に移動」したと、石器群のあり方から想定されている。

こうしたことからも物見塚遺跡では、旧石器時代から縄文時代前期初頭にかけても、キャンプサイト的な遺跡であった可能性が高いと想定できる。しかしながら、今回発掘調査は、物見塚遺跡のごく限られた範囲の調査であり、調査区以外の未調査部分に、礫群が存在する可能性も残されていることから、結論は急がず、今後の今回調査地以外の本遺跡の調査や隣接遺跡の調査の状況を見守っていきたい。

第３節　おわりに

モノと人との流通・交流という視点から物見塚遺跡をはじめ、京戸川周辺の遺跡のあり方をみると、旧石器時代集団の行動パターンにみられるように、本遺跡は甲府盆地から現在の大月方面に抜ける最短ルート上に位置しており、そこからさらに相模・武蔵地域に抜けるルートとなっている。京戸川沿いに７世紀後半代を中心とする古墳時代の千米寺・石古墳群が分布していることから、少なくとも当該期段階までは甲斐国内における地域間の主要ルートとして利用されていた状況が浮かびあがってくる。

現在の大月方面へ抜ける笹子峠越えルートは、近世段階に整備された甲州道中ルートが主要となっているが、古代の天武朝期前後において、古代の官道である東海道の支路、御坂路が整備されるまでは、当該ルートは甲斐国内におけるモノ・人の流通・交流の主要ルートの一つであった可能性が高い。本遺跡周辺に７世紀代～８世紀初頭段階の遺跡が多数存在するのもその傍証の一つであろう。

最後に、極寒の中、現場作業に直接携わっていただいた作業スタッフの皆さんをはじめ、本調査全般にわたりご指導、ご教示、ご協力をいただいた関係諸機関、各位には心から感謝申し上げるとともに、今回の物見塚遺跡の発掘調査成果が、今後の山梨県における考古学研究進展の一助となれば望外なる喜びである。

参考文献

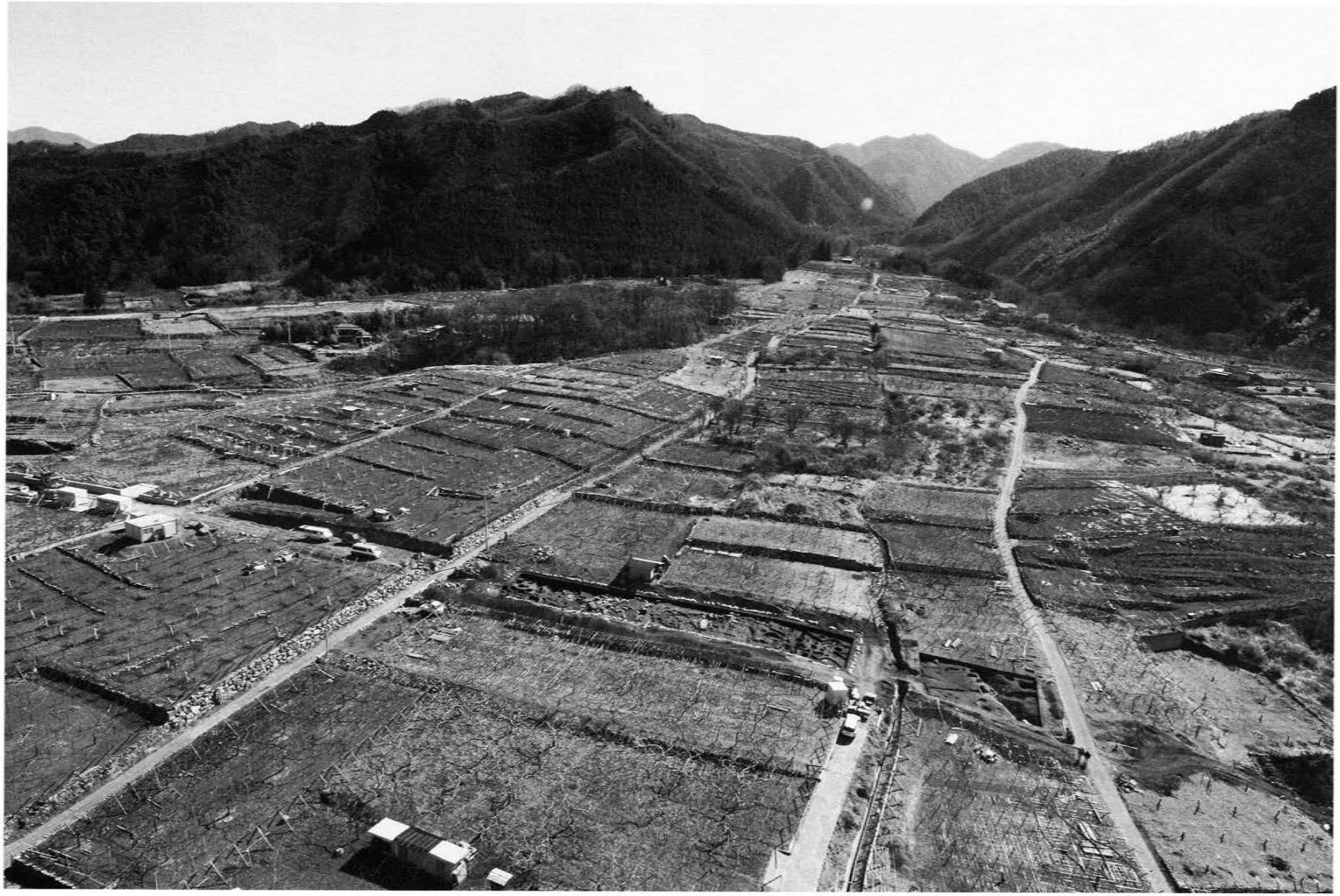
石器文化研究会　2002『第８回　石器文化研究交流会発表要旨』第８回石器文化研究交流会やまなし実行委員会

小野正文他　1986『釈迦堂Ⅰ』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第17集

釈迦堂遺跡博物館建設促進期成同盟会　1983『釈迦堂遺跡周辺分布調査報告書』

瀬田正明　1992『'92第４回特別展　縄文世界の形成』釈迦堂遺跡博物館

山梨県　1999『山梨県史 資料編２原始・古代２』



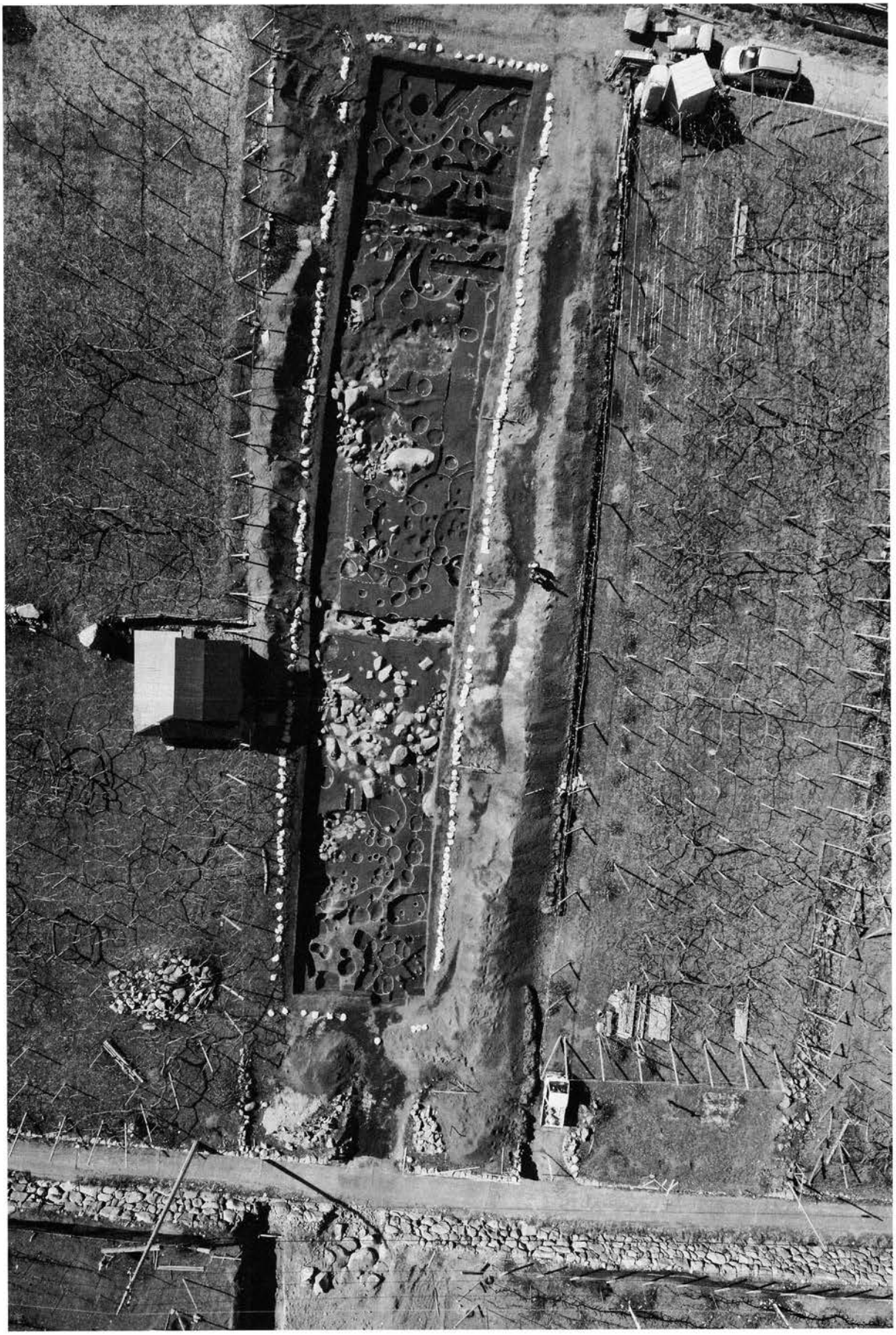
物見塚遺跡遠景（北西から）

物見塚遺跡遠景（南東から）

調査前状況（南西から）

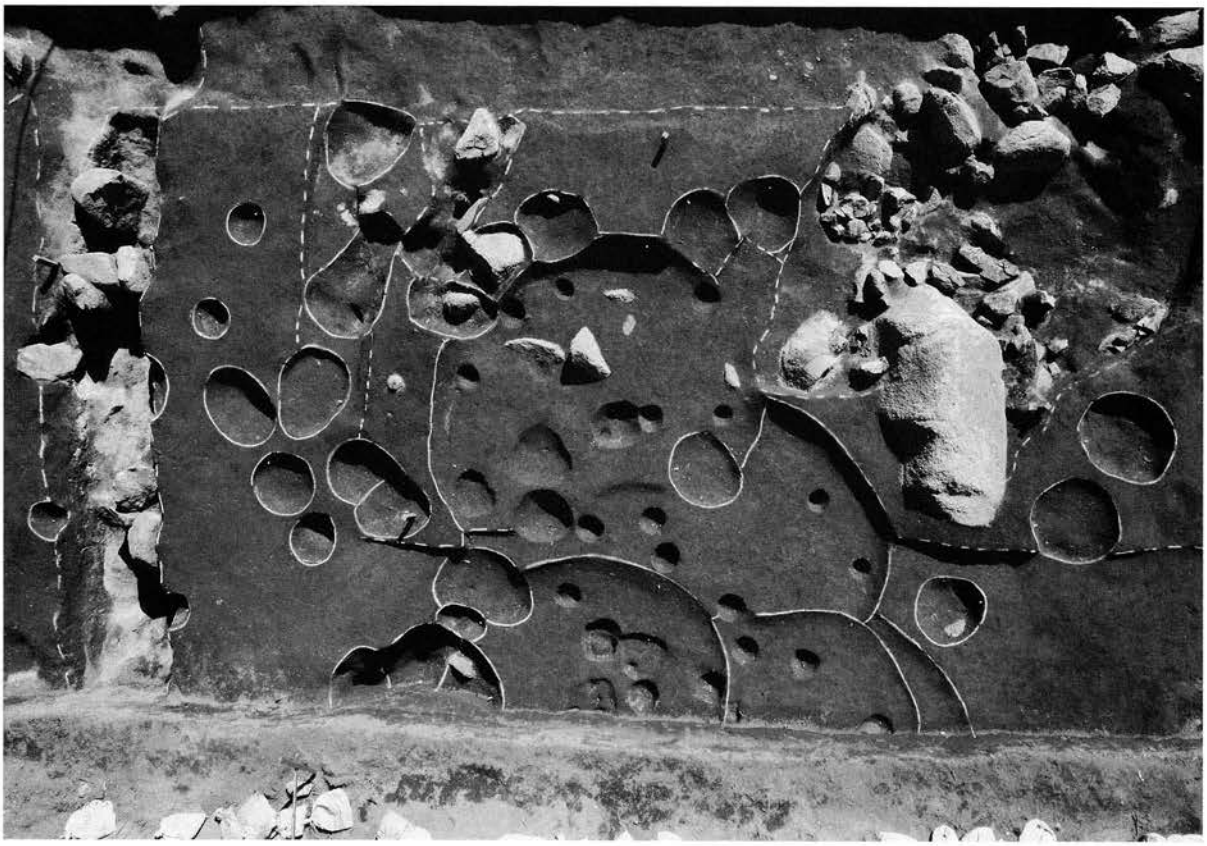
図版3

図版 4



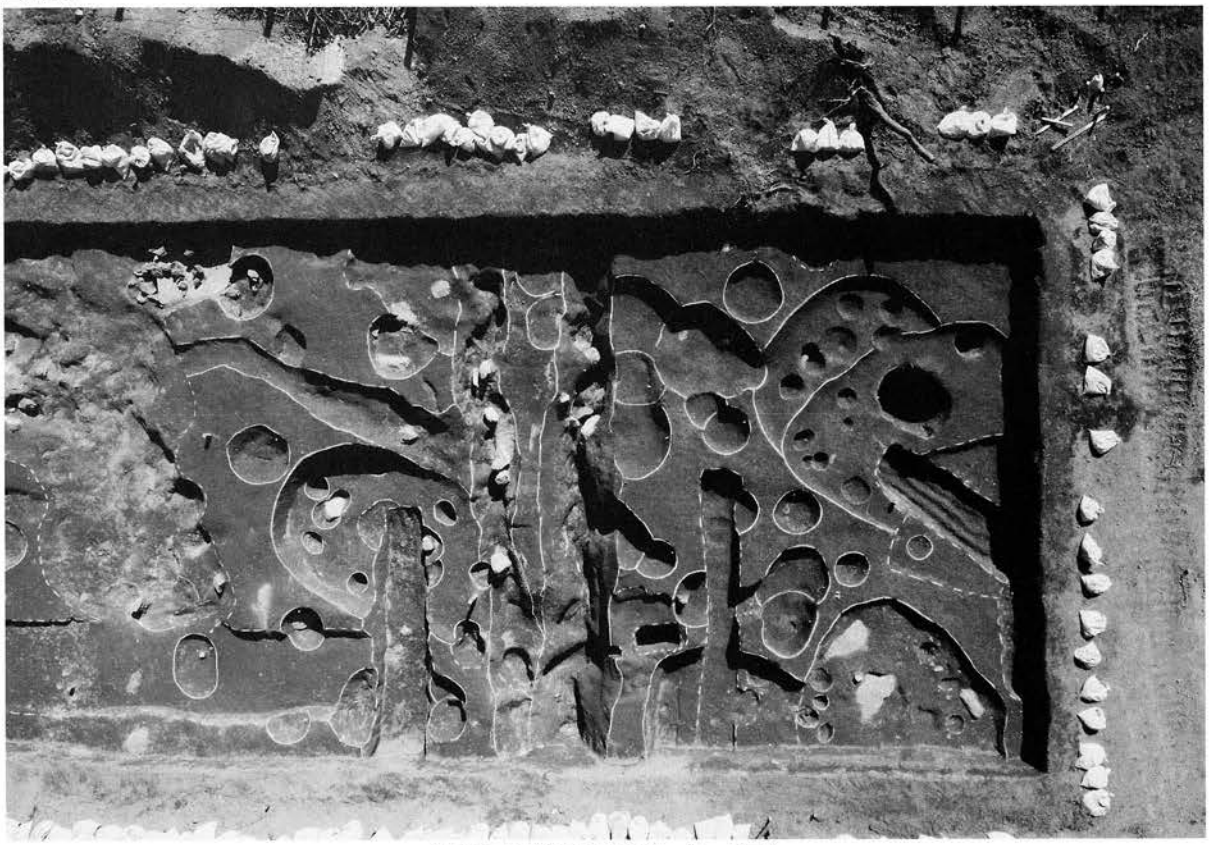
調査区全景（上が南）

調査区東側完掘状況（上が南）



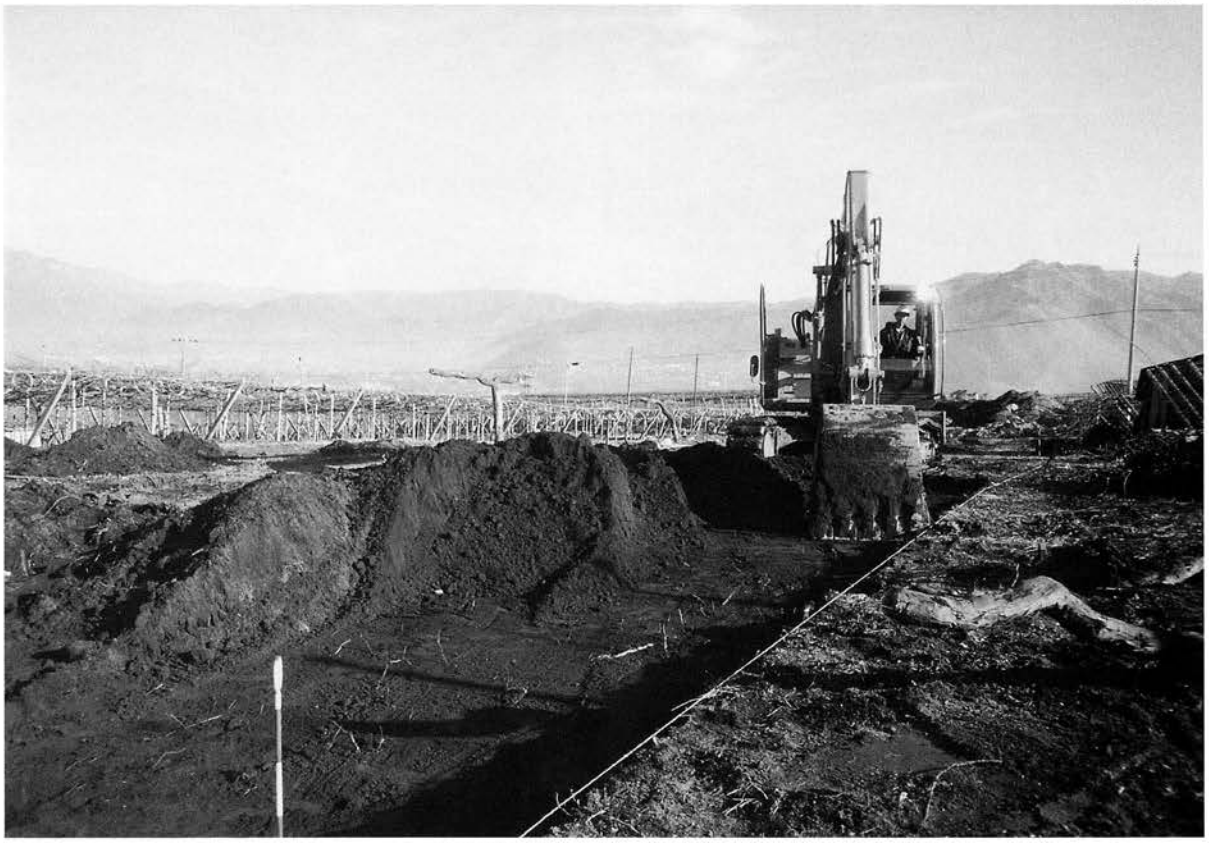
調査区中央部完掘状況（上が南）

図版６



調査区西側完掘状況（上が南）

調査区全景（東から）



重機による表土剥ぎ作業風景

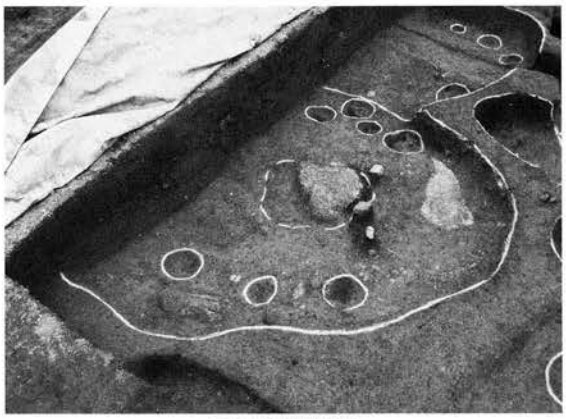
調査前状況（東から）

図版８

調査区近景（西から）

調査区近景（北から）

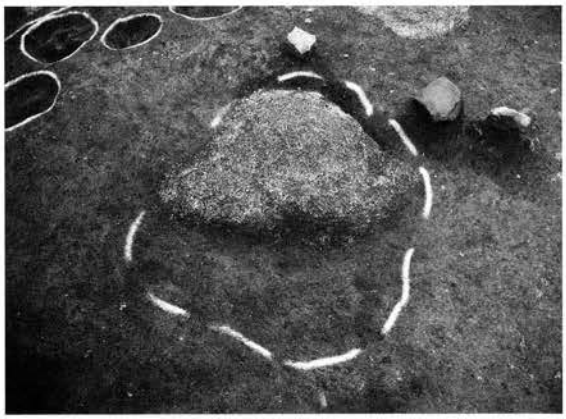
SI1 遺物出土状況（1）



SI1 完掘状況

SI1 南北セクション

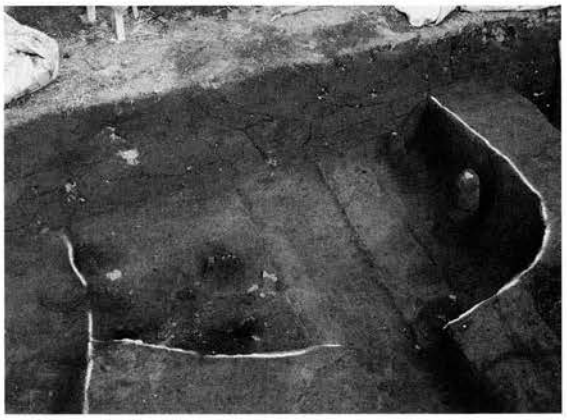
SI1 炉セクション



SI1 炉完掘状況

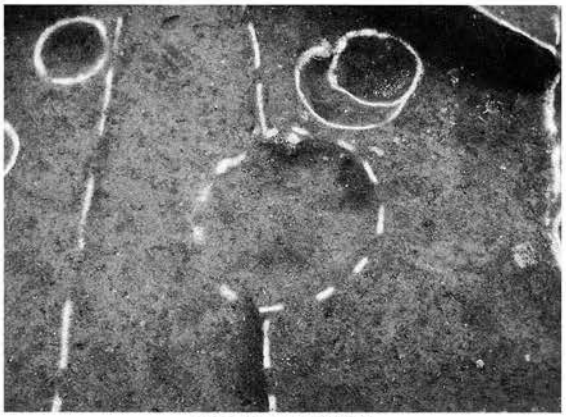
SI1 炉周辺遺物出土状況

SI1 出土遺物

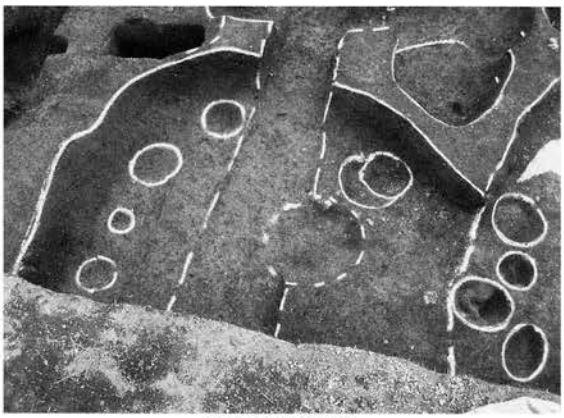


SI2 遺物出土状況

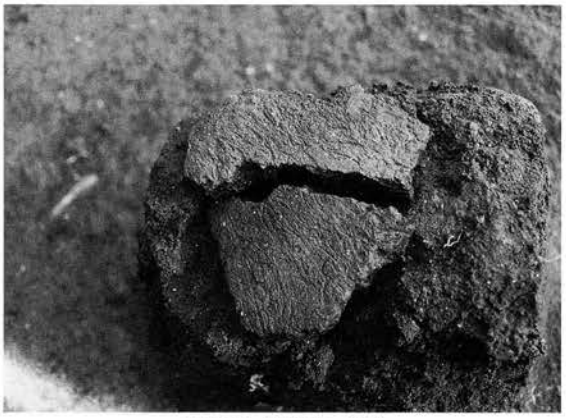
図版 10



SI2 炉完掘状況



SI2 完掘状況

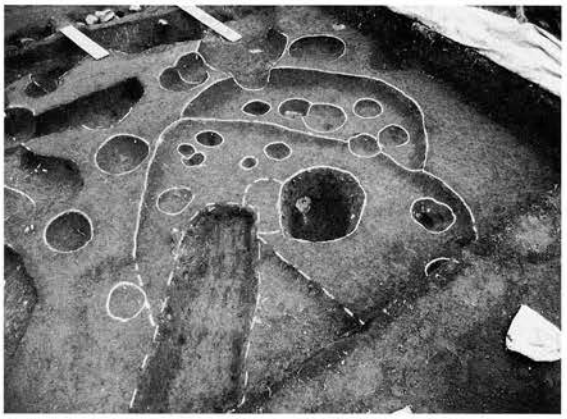


SI2 出土遺物（1）

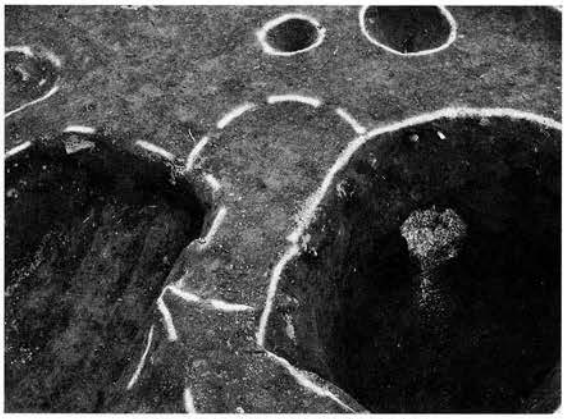
SI2 出土遺物（2）

SI2 出土遺物（3）

SI3・4、SK14 遺物出土状況



SI3・4、SK14 完掘状況

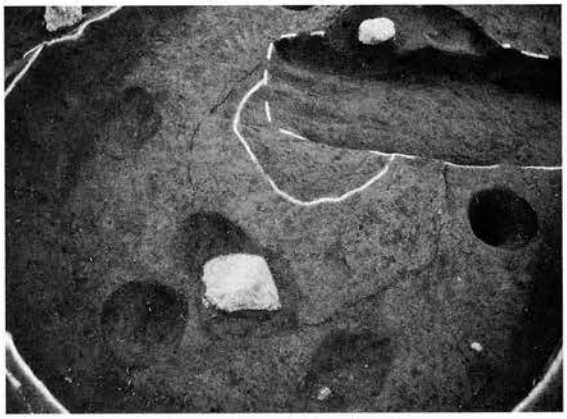


SI3 炉掘りかた完掘状況

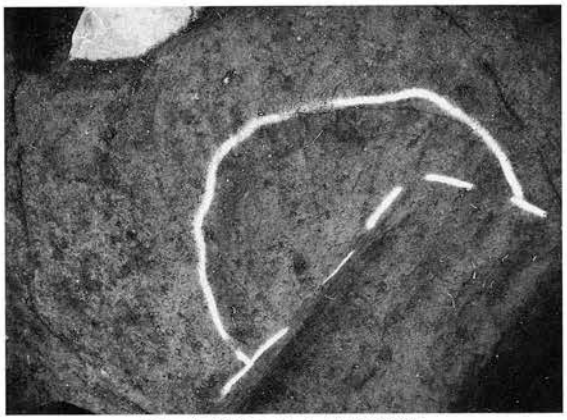
SI4 出土遺物（1）

SI4 出土遺物（2）

SI5 完掘状況



SI5 硬化面確認状況



SI5 炉掘りかた完掘状況

SI5Pit1 完掘状況

SI5 出土遺物（1）

SI5 出土遺物（2）

図版 12

SI5 出土遺物（3）

SI5 出土遺物（4）

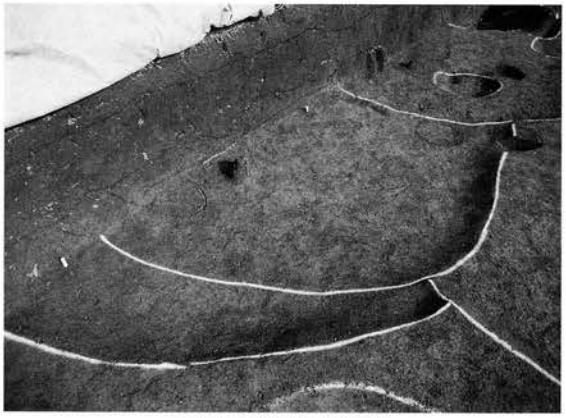
SI6・7・8・9・10完掘状況

SI6 遺物出土状況

SI6 焼土範囲確認状況

SI6 炉掘りかた完掘・セクション

SI6 出土遺物



SI7 遺物出土状況

SI7 出土遺物

SI8 焼土範囲確認状況

SI8 炉掘りかた完掘状況

SI8 出土遺物（1）

SI8 出土遺物（2）

SI8 出土遺物（3）

SI9 遺物出土状況

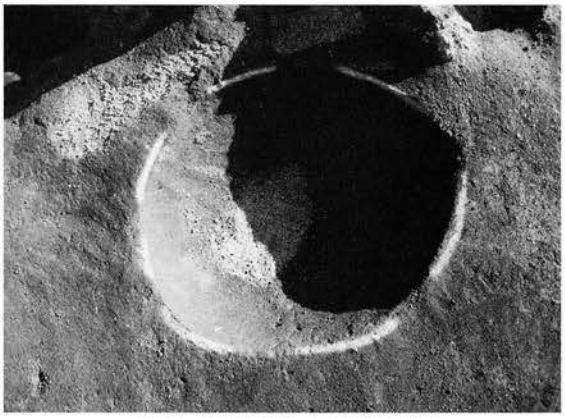
SI9 出土遺物（1）

図版 14

SI9 出土遺物（2）

SI11 完掘状況（1）

SI11 完掘状況（2）



SI11 炉掘りかた完掘状況

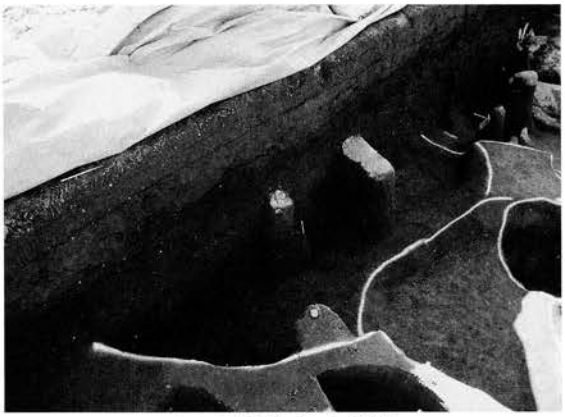
SI11 出土遺物（1）

SI11 出土遺物（2）

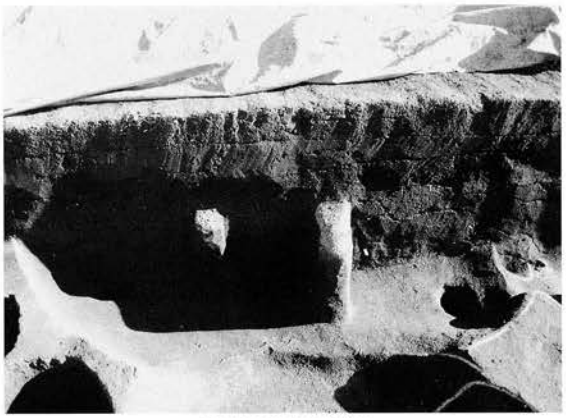
SI11 出土遺物（3）

SI11 出土遺物（4）

SI11 出土遺物（5）



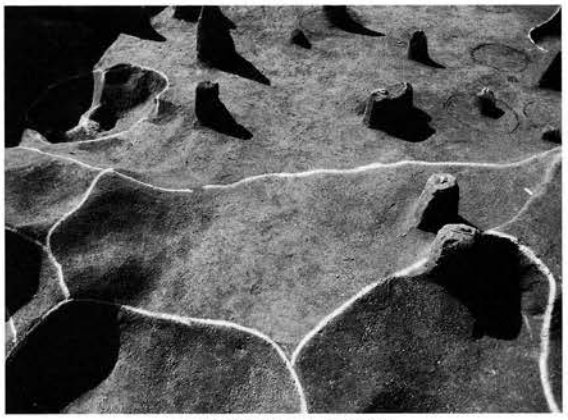
SI12 遺物出土状況



SI12 完掘状況

SI12 出土遺物（1）

SI12 出土遺物（2）



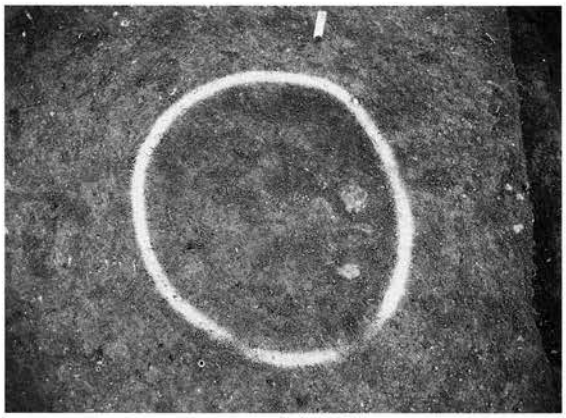
SI13 遺物出土状況

SI13 出土遺物

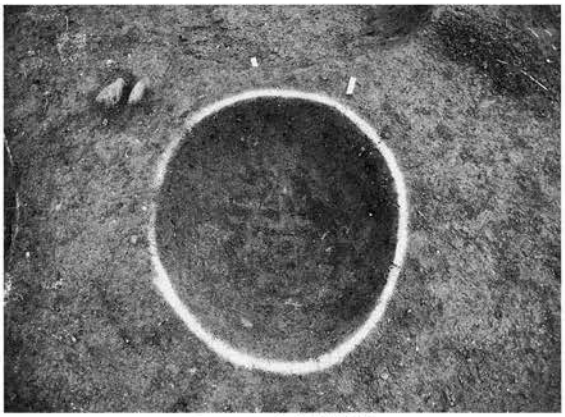
SI14・SK93 完掘状況

図版 16

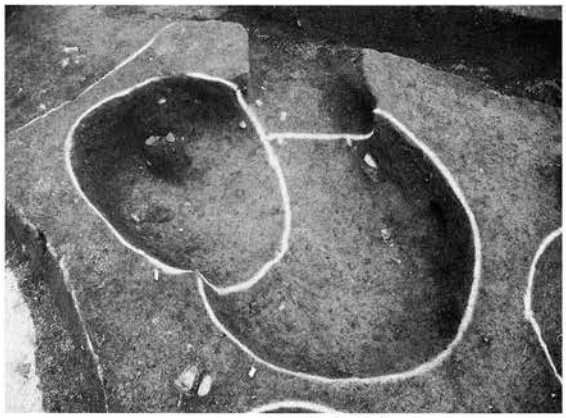
SI14 出土遺物



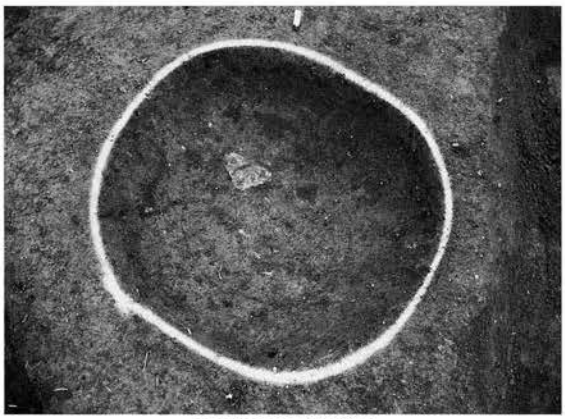
SK10 完掘状況



SK11 完掘状況

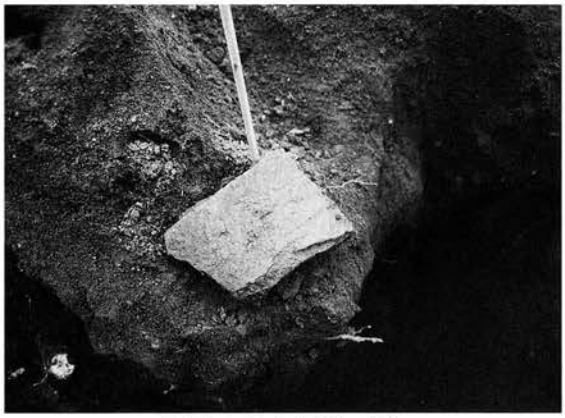


SK12・23 完掘状況



SK13 完掘状況

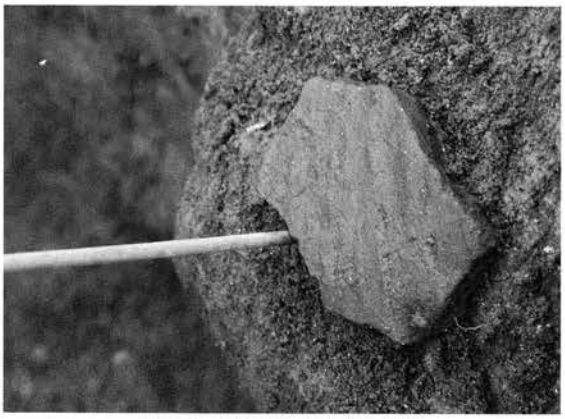
SK14 完掘状況



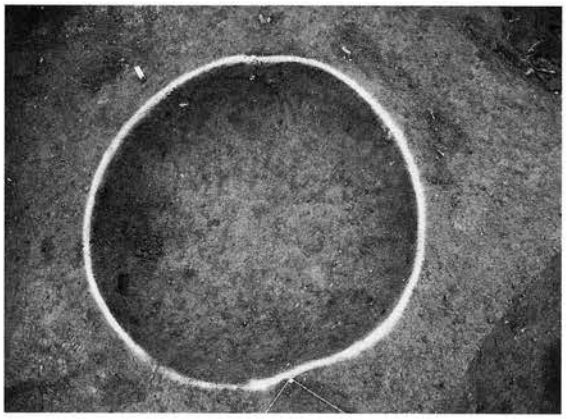
SK14 出土遺物（1）

SK14 出土遺物（2）

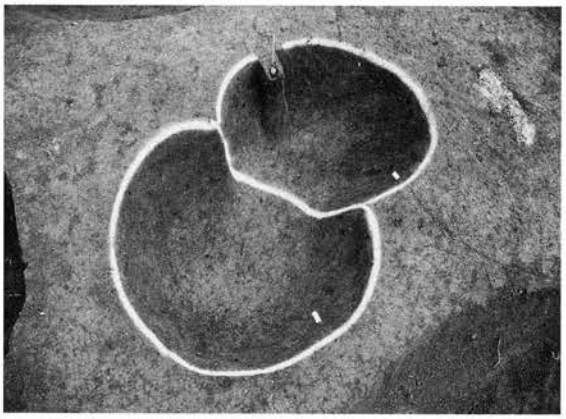
SK14 下層出土遺物（1）



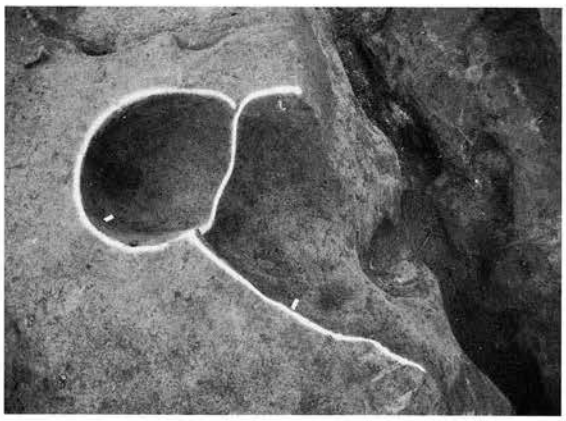
SK14 下層出土遺物（2）



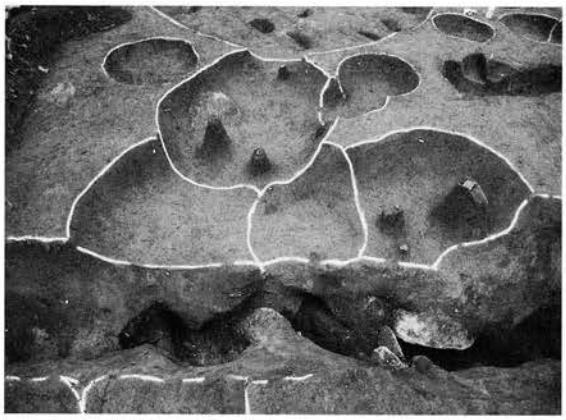
SK16 完掘状況



SK17（手前）・18 完掘状況

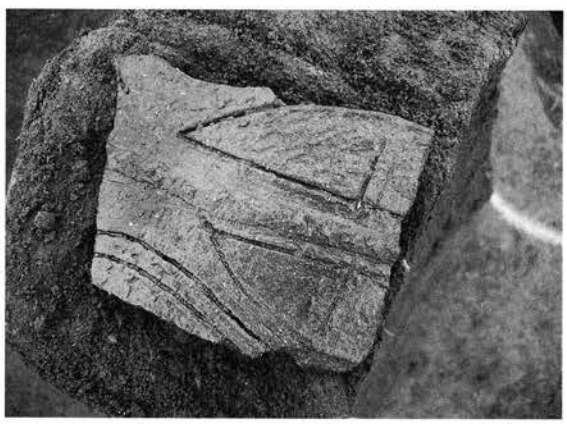


SK19（右）・20 完掘状況



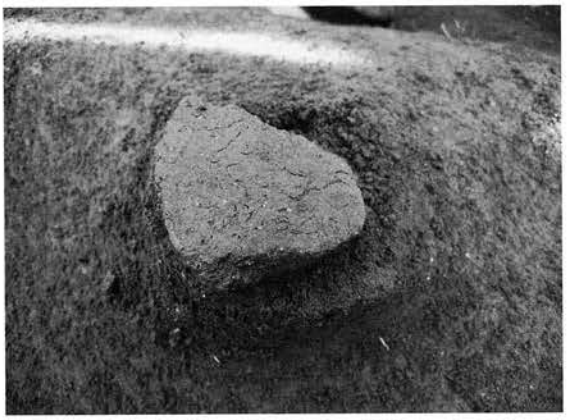
SK21・22・24・27 完掘状況

SK22 完掘状況



SK22 出土遺物（1）

図版 18

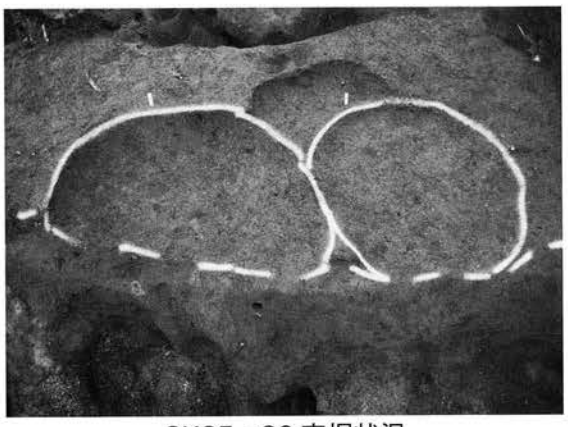


SK22 出土遺物（2）

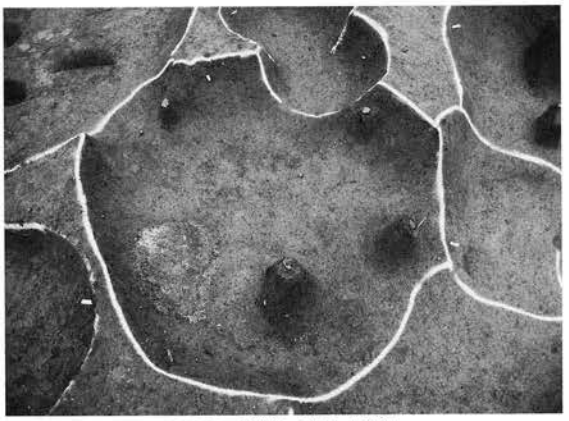
SK22 出土遺物（3）

SK23 出土遺物（1）

SK23 出土遺物（2）



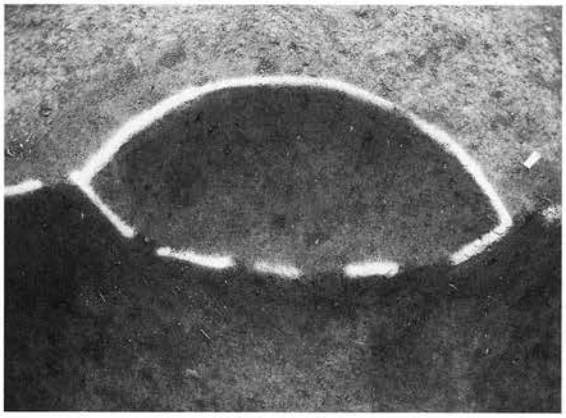
SK25・26 完掘状況



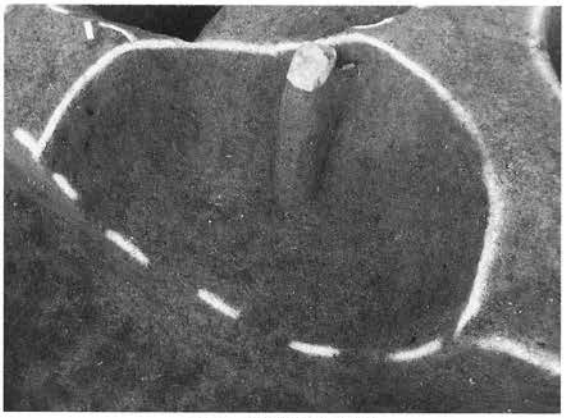
SK27 遺物出土状況

SK27 出土遺物（1）

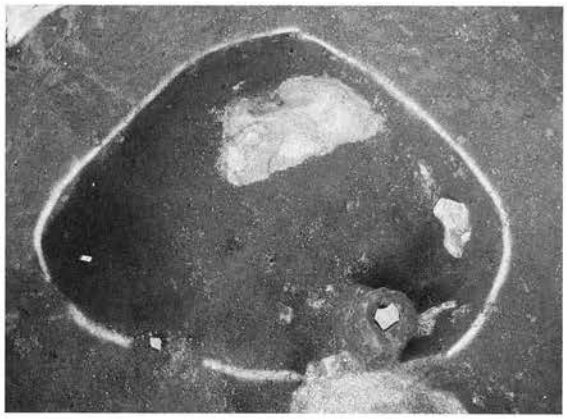
SK27 出土遺物（2）



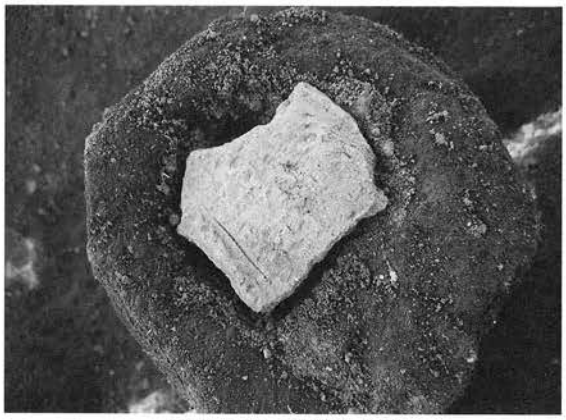
SK28 完掘状況



SK29 完掘状況

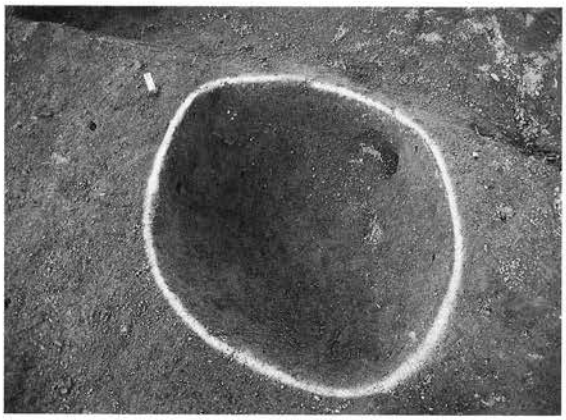


SK30 完掘状況



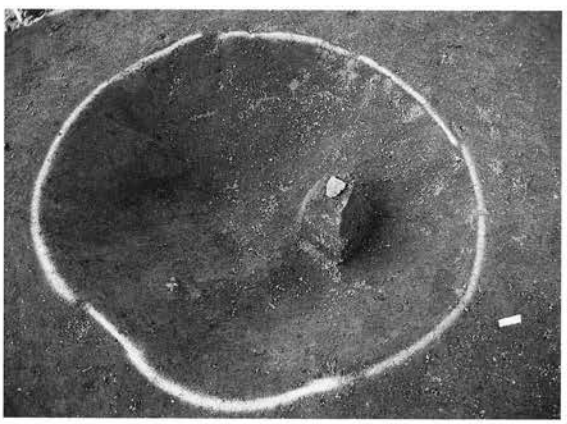
SK30 出土遺物（1）

SK30 出土遺物（2）



SK31 完掘状況

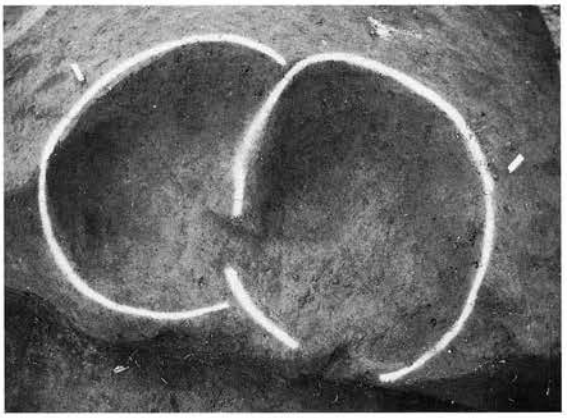
SK32 完掘状況



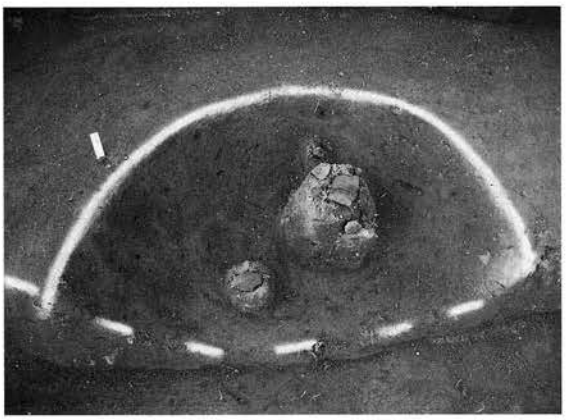
SK33 完掘状況

図版 20

SK33 出土遺物



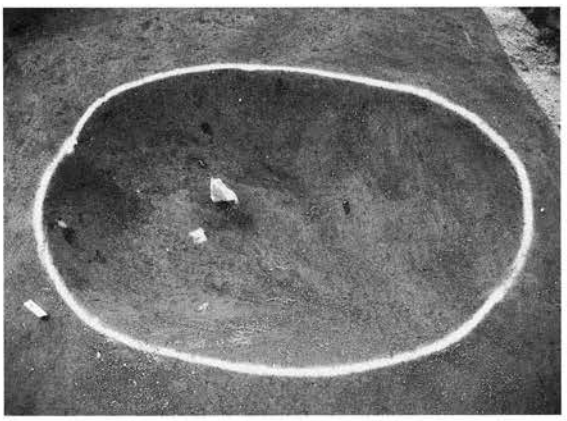
SK34（右）・35 完掘状況



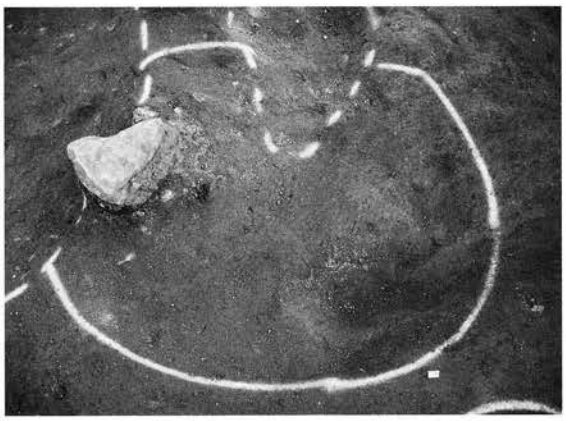
SK36 完掘状況

SK36 出土遺物（1）

SK36 出土遺物（2）

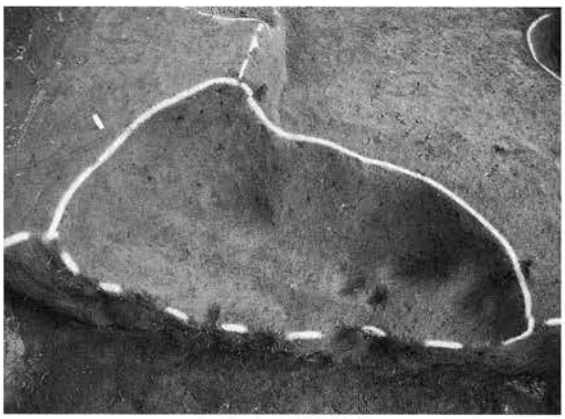


SK37 完掘状況

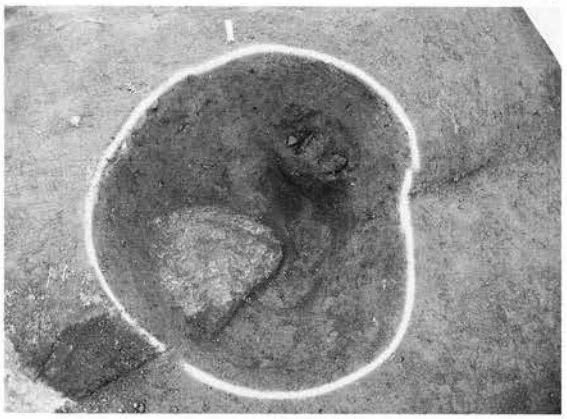


SK38 完掘状況

SK38 出土遺物

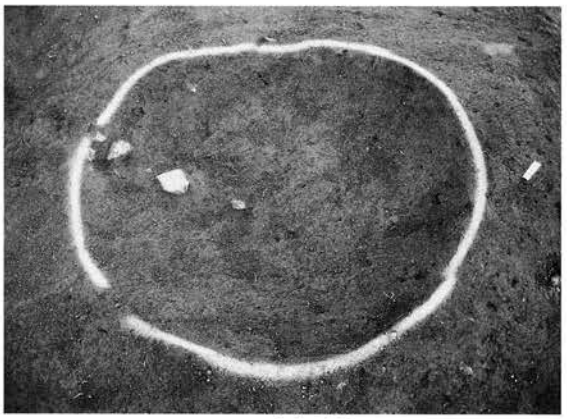


SK39 完掘状況

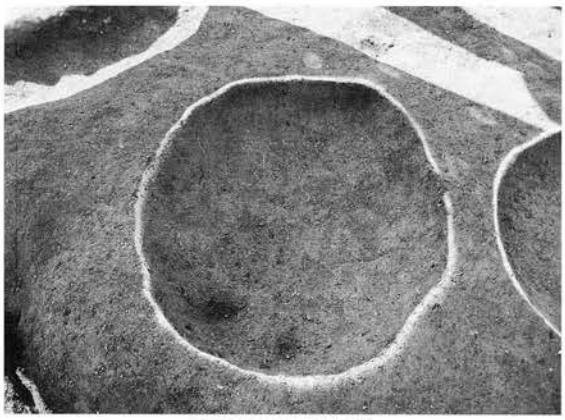


SK40 完掘状況

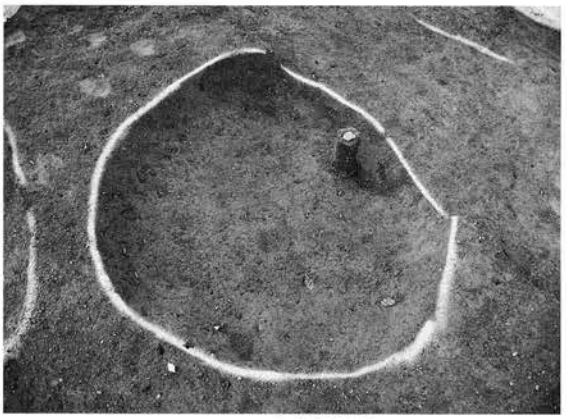
SK40 出土遺物



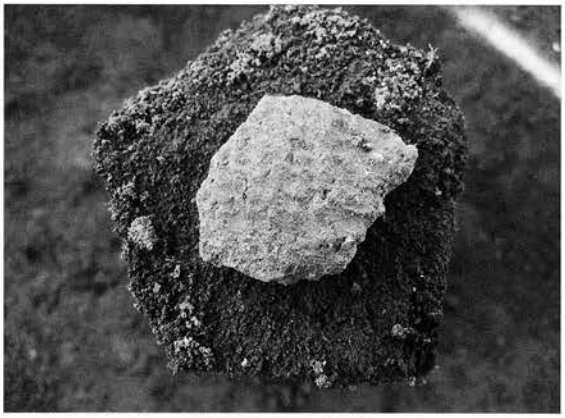
SK41 完掘状況



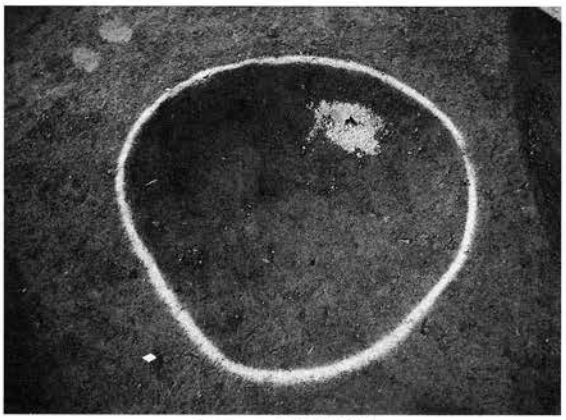
SK42 完掘状況



SK43 完掘状況

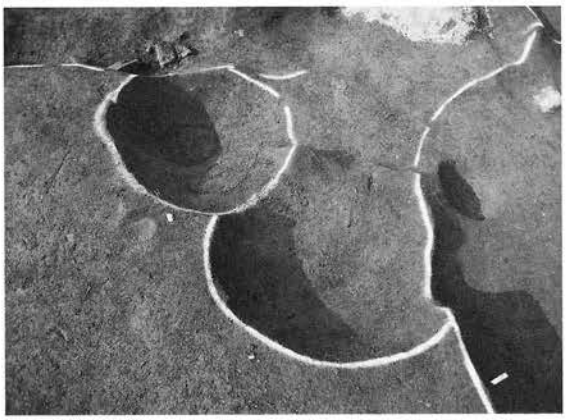


SK43 出土遺物

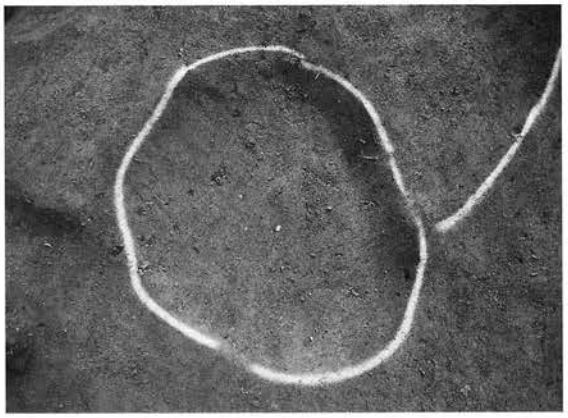


SK44 完掘状況

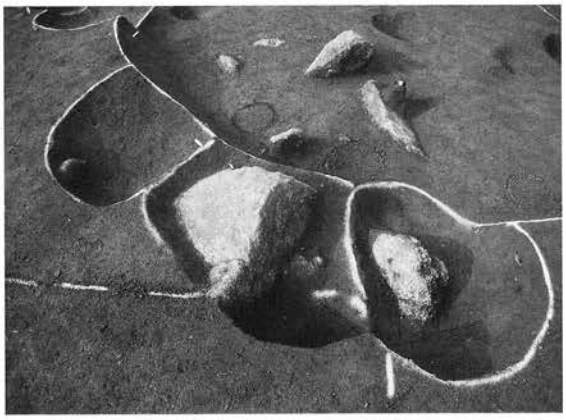
図版 22



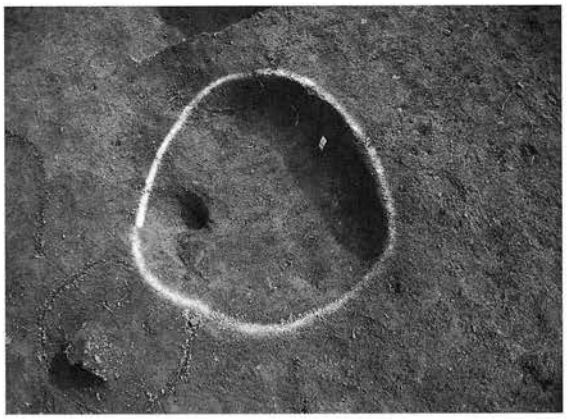
SK45(左)・46 完掘状況



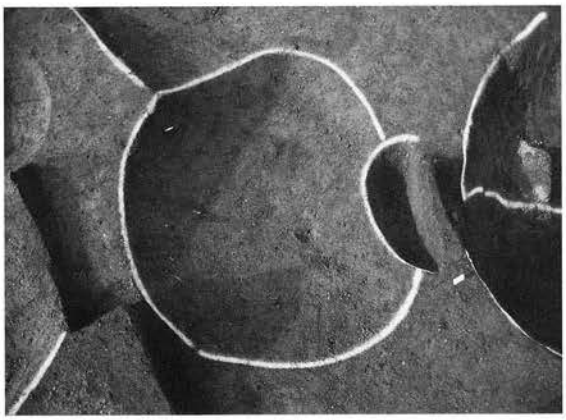
SK47 完掘状況



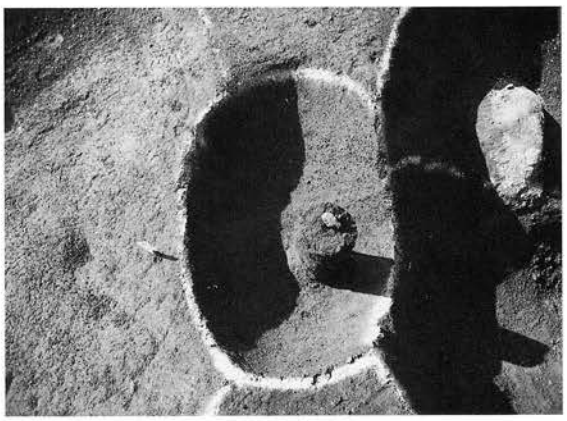
SK48(右)・49(中)・50 完掘状況



SK51 完掘状況

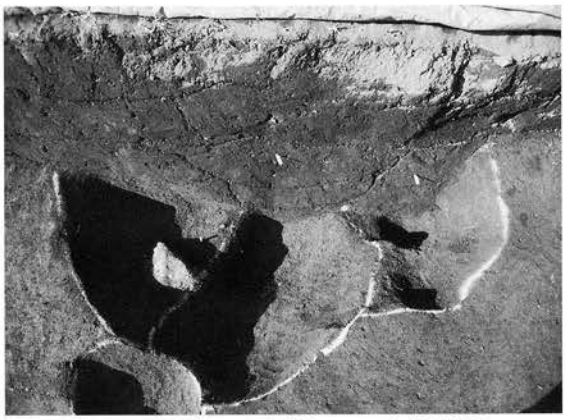


SK52 完掘状況

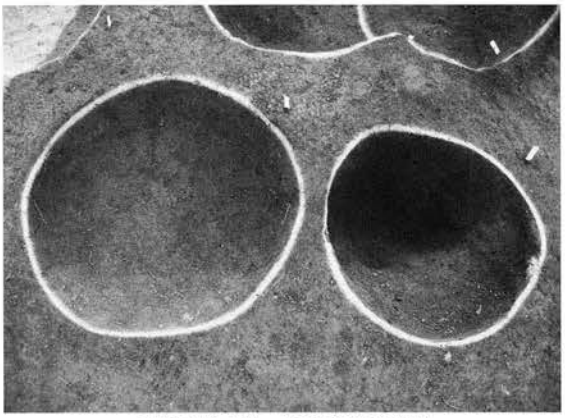


SK53 完掘状況

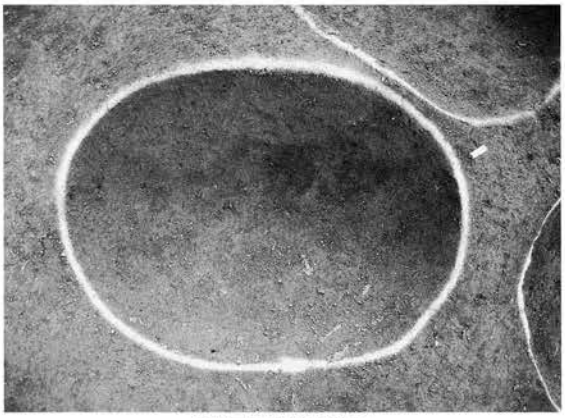
SK53 出土遺物



SK54(中)・55(左)・56 完掘状況



SK57（右）・58 完掘状況

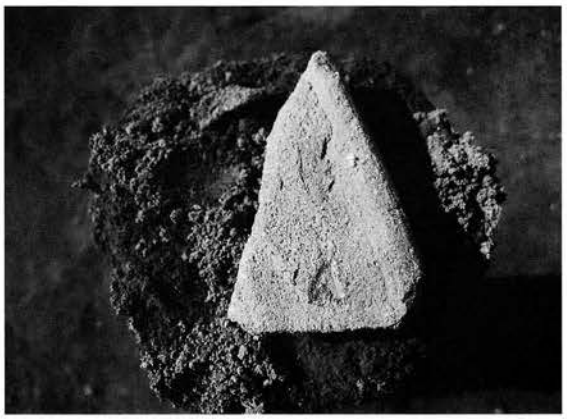


SK59 完掘状況

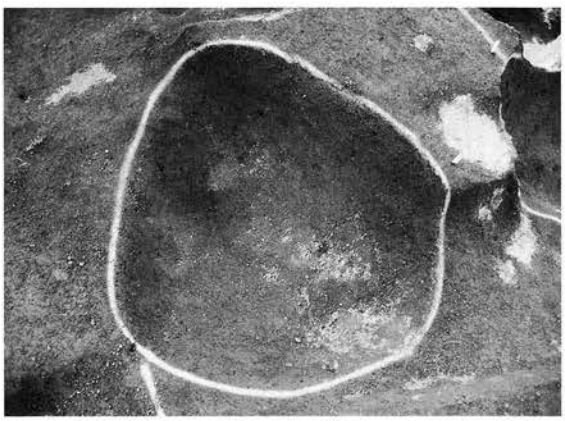
SK60 完掘状況

SK60 出土遺物

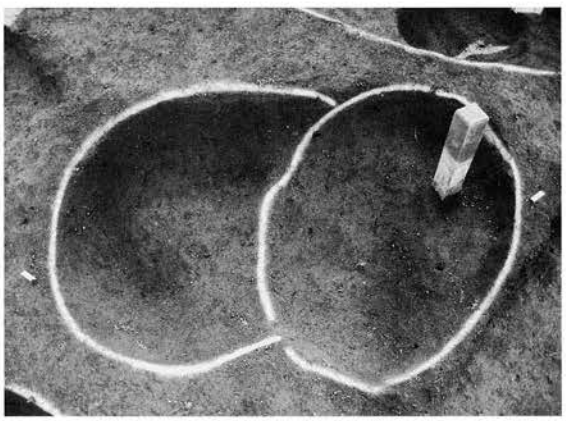
SK61 完掘状況



SK61 出土遺物

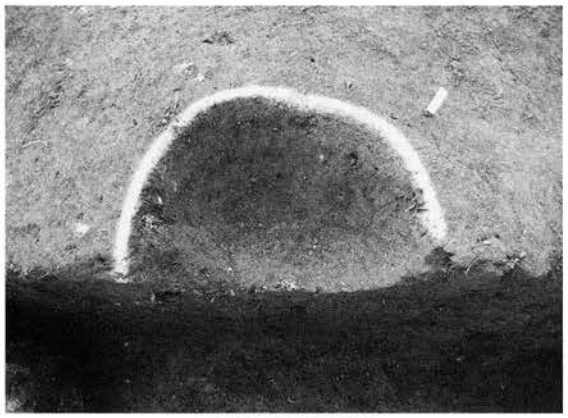


SK62 完掘状況



SK63（右）・64 完掘状況

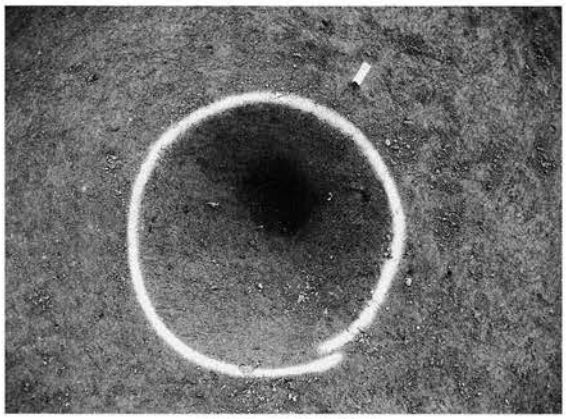
図版 24



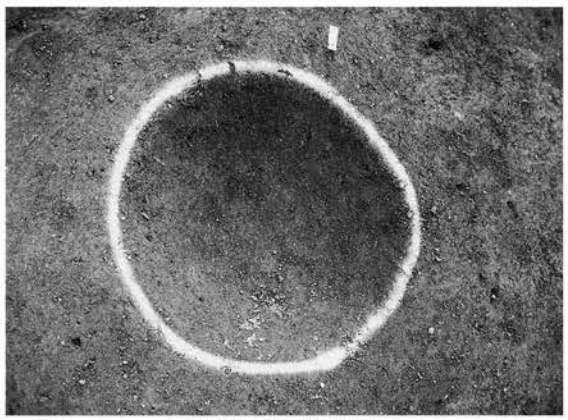
SK65 完掘状況

SK66 完掘状況

SK67 完掘状況



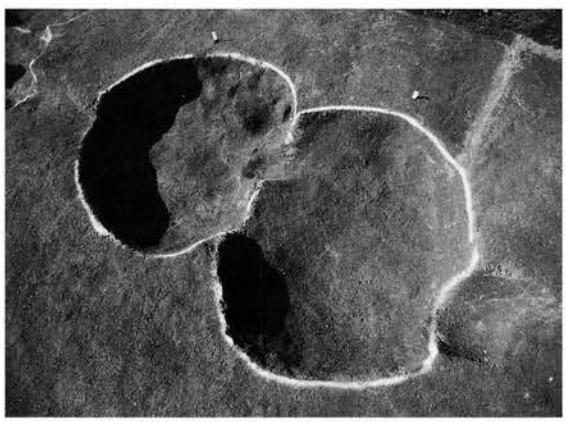
SK68 完掘状況



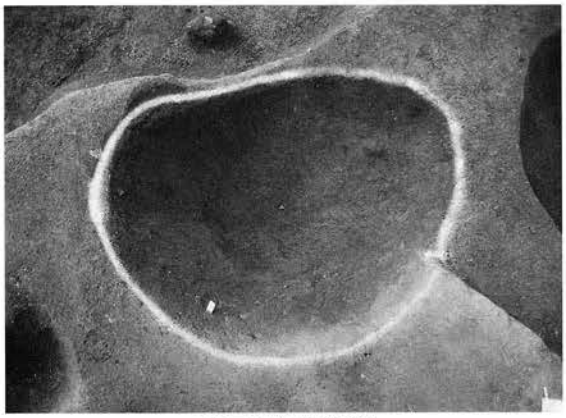
SK69 完掘状況

SK70 完掘状況

SK71 完掘状況

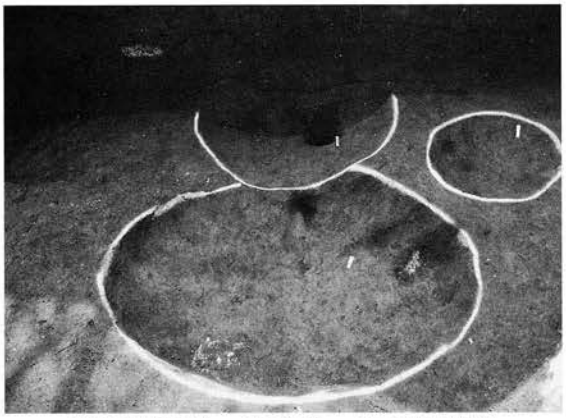


SK72(左)・73 完掘状況

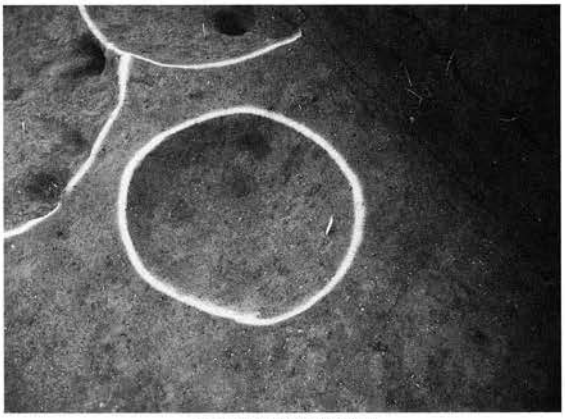


SK74 完掘状況

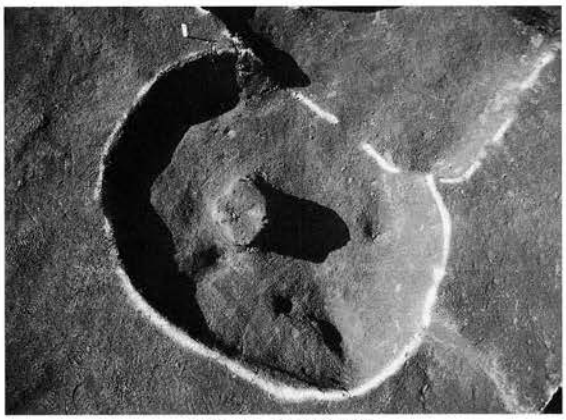
SK74 出土遺物



SK75(手前)・76(奥)・77 完掘状況



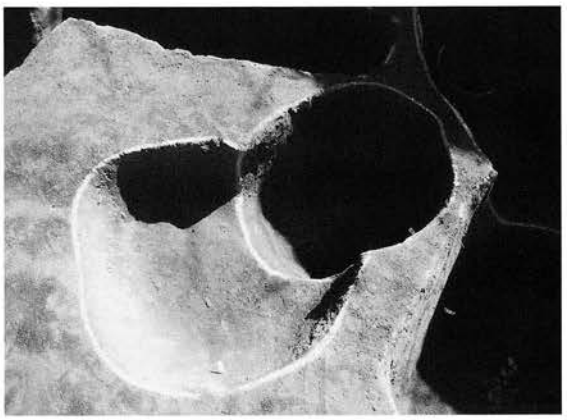
SK77 完掘状況



SK78 完掘状況

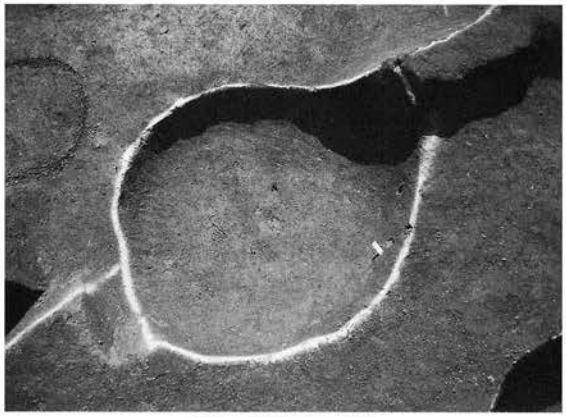
SK78 出土遺物

SK79・85・104 完掘状況



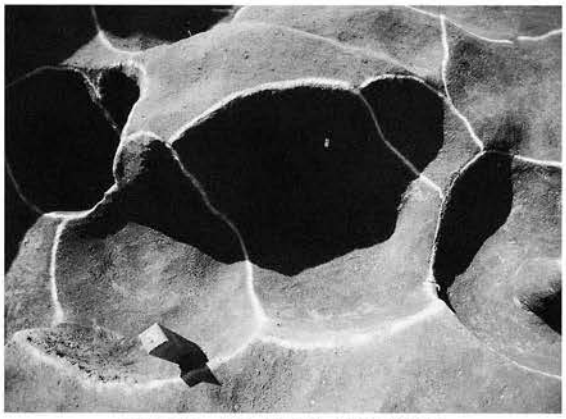
SK80(左)・94 完掘状況

図版 26

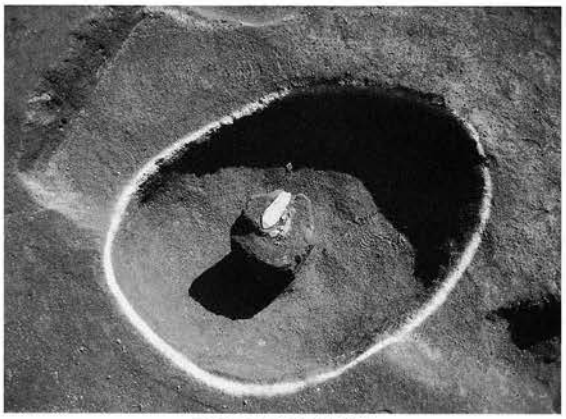


SK81 完掘状況

SK82 完掘状況

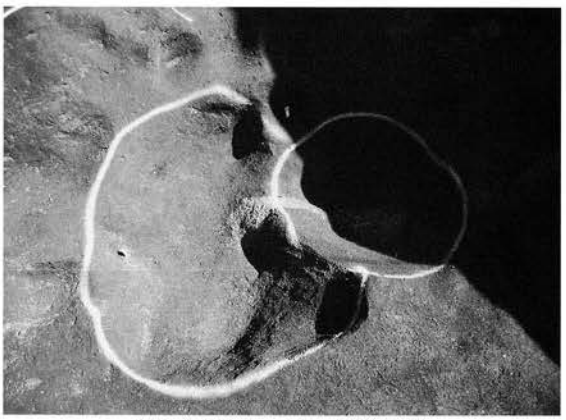


SK83・104（左） 完掘状況

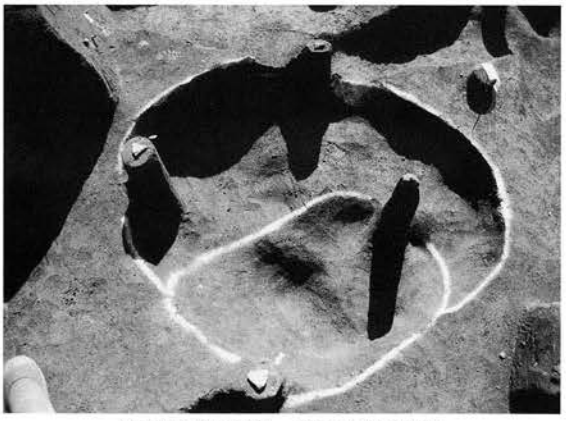


SK86 完掘状況

SK86 出土遺物



SK87（左）・88 完掘状況

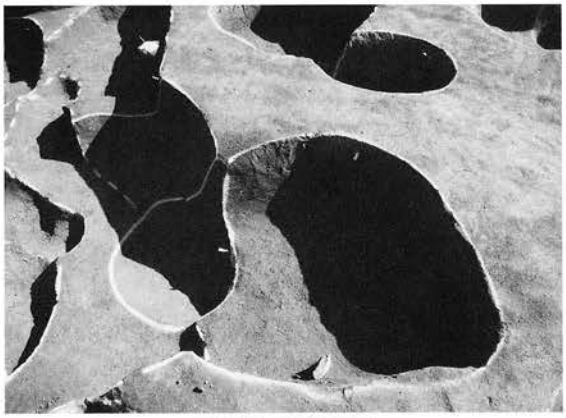


SK89（手前）・90 完掘状況

SK89・90 完掘状況

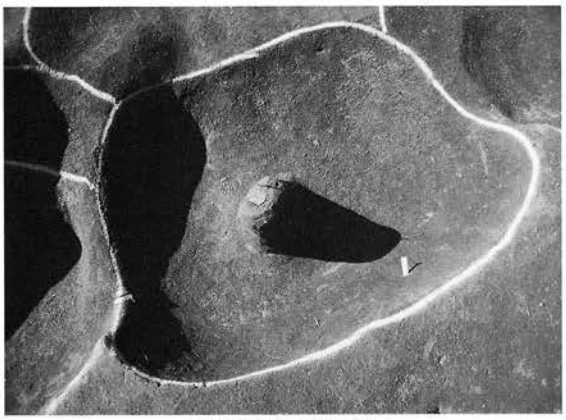
SK89 出土遺物

SK90 出土遺物



SK91 完掘状況

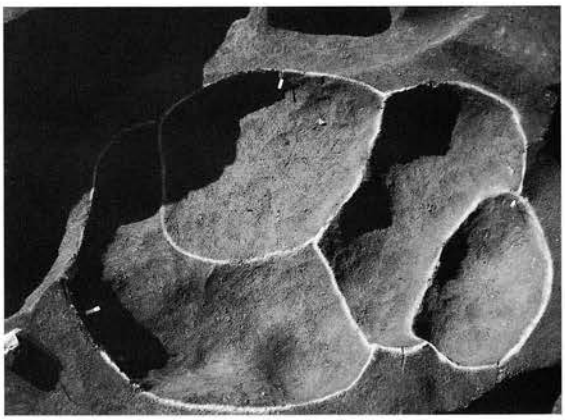
SK91 出土遺物



SK92 完掘状況

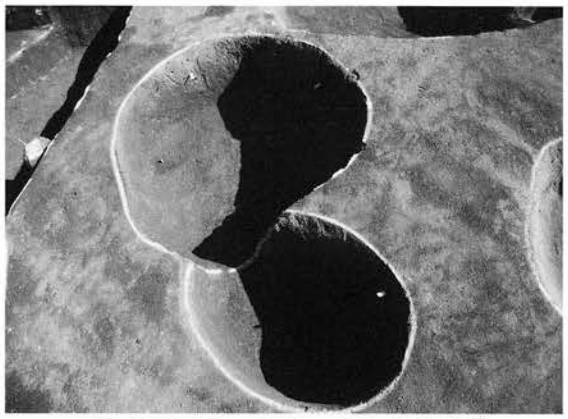
SK92 出土遺物

SK93 完掘状況



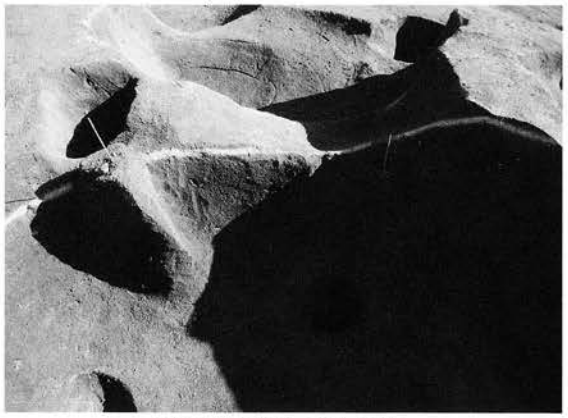
SK95・96・97・98 完掘状況

図版 28

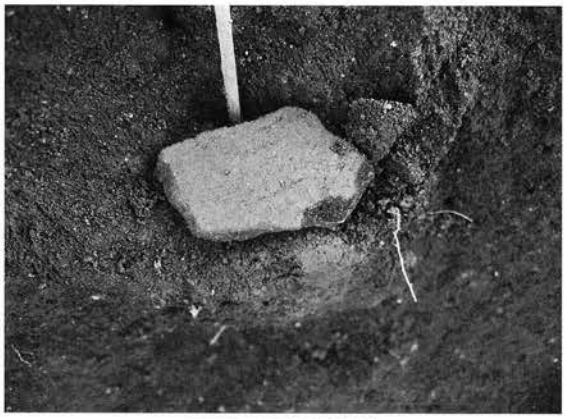


SK99(手前)・100・101 完掘状況

SK101 出土遺物



SK105 遺物出土状況

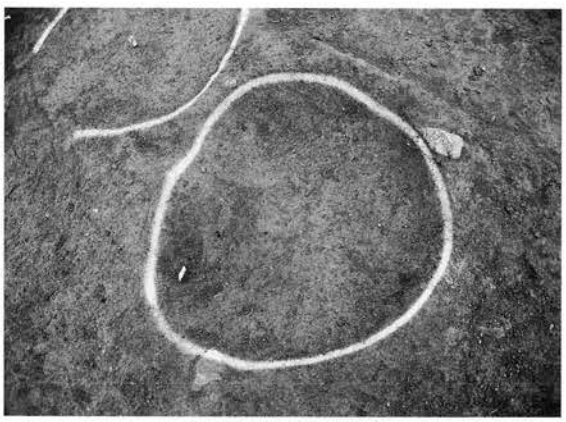


SK105 出土遺物

SK105 完掘状況

SK106 完掘状況（1）

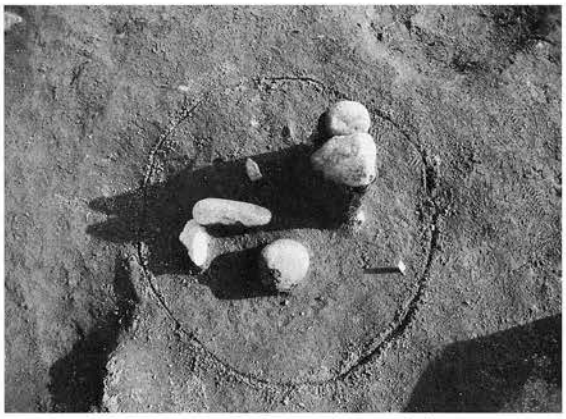
SK106 完掘状況（2）



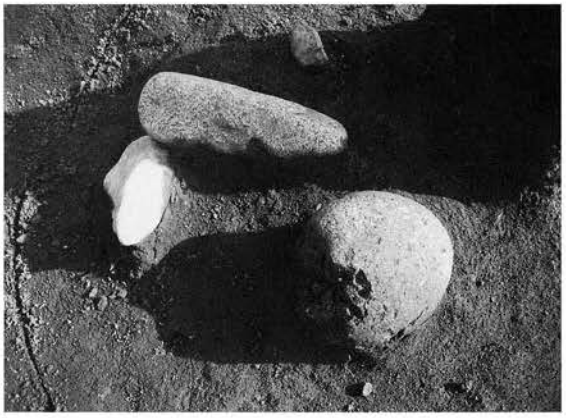
SK107 完掘状況

SK107 遺物出土状況（1）

SK107 遺物出土状況（2）



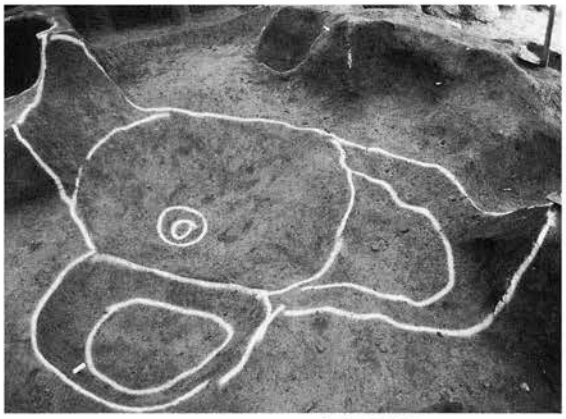
SK108 遺物出土状況（1）



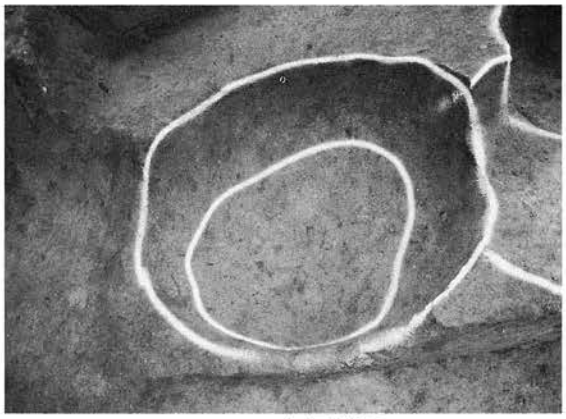
SK108 遺物出土状況（2）

SK108 遺物出土状況（3）

SK109 遺物出土状況

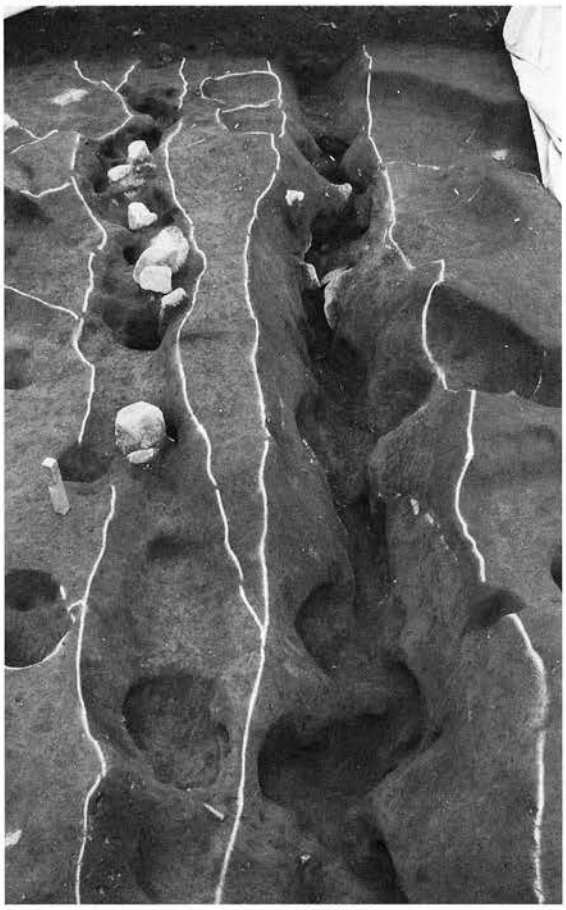


SK110・111 完掘状況

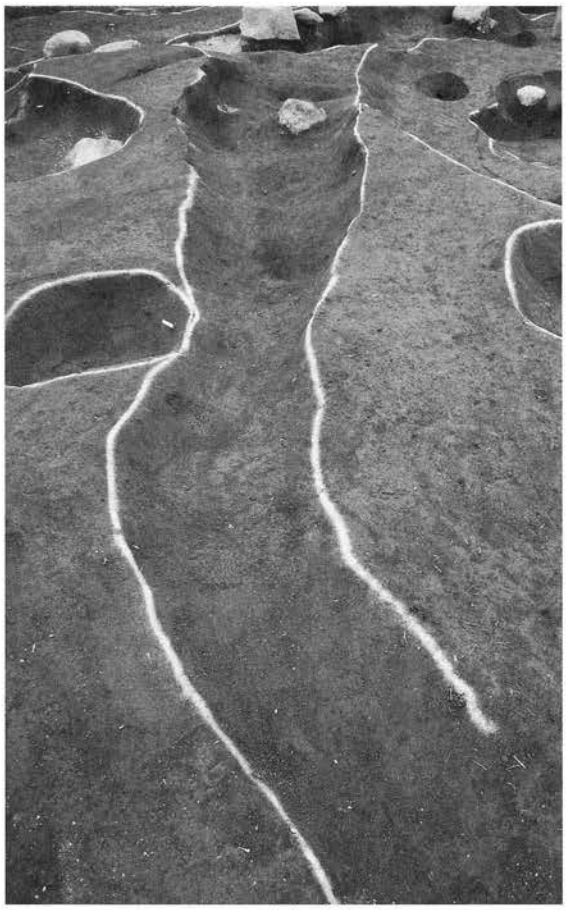


SK112 完掘状況

図版 30



SD2・3 完掘状況



SD4 完掘状況

プレ A 地点遺物出土状況（1）

プレ A 地点遺物出土状況（2）

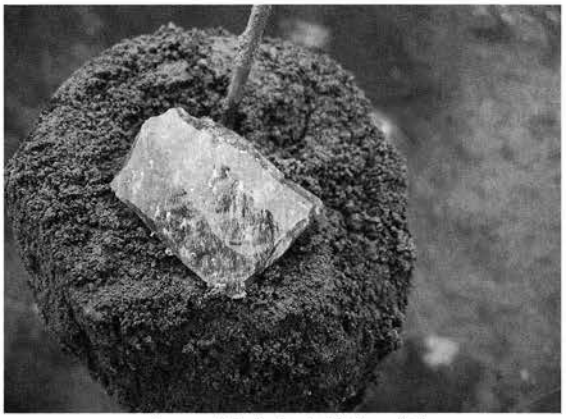
プレ A 地点遺物分布状況（3）

図版 32

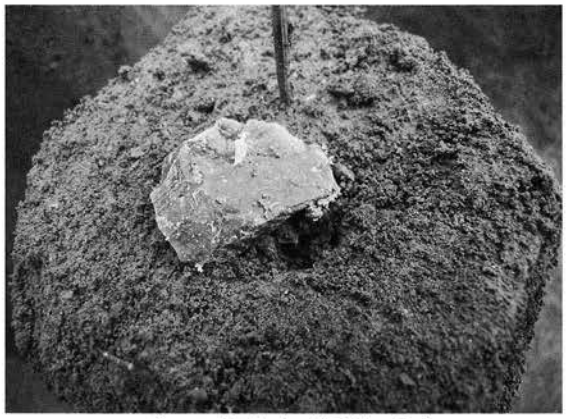
プレ A 地点東西セクション、遺物出土状況

プレ A 地点出土遺物（1）

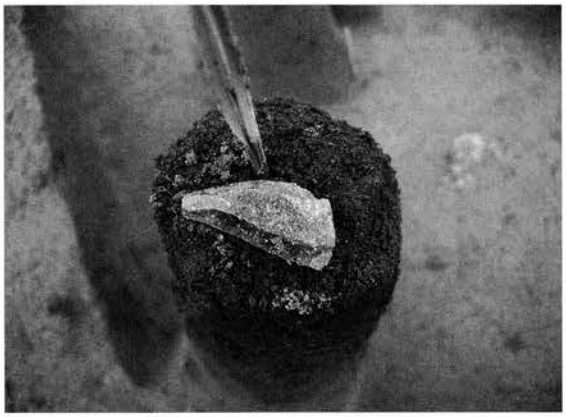
プレ A 地点出土遺物（2）



プレ A 地点出土遺物（3）



プレ A 地点出土遺物（4）



プレ A 地点出土遺物（5）

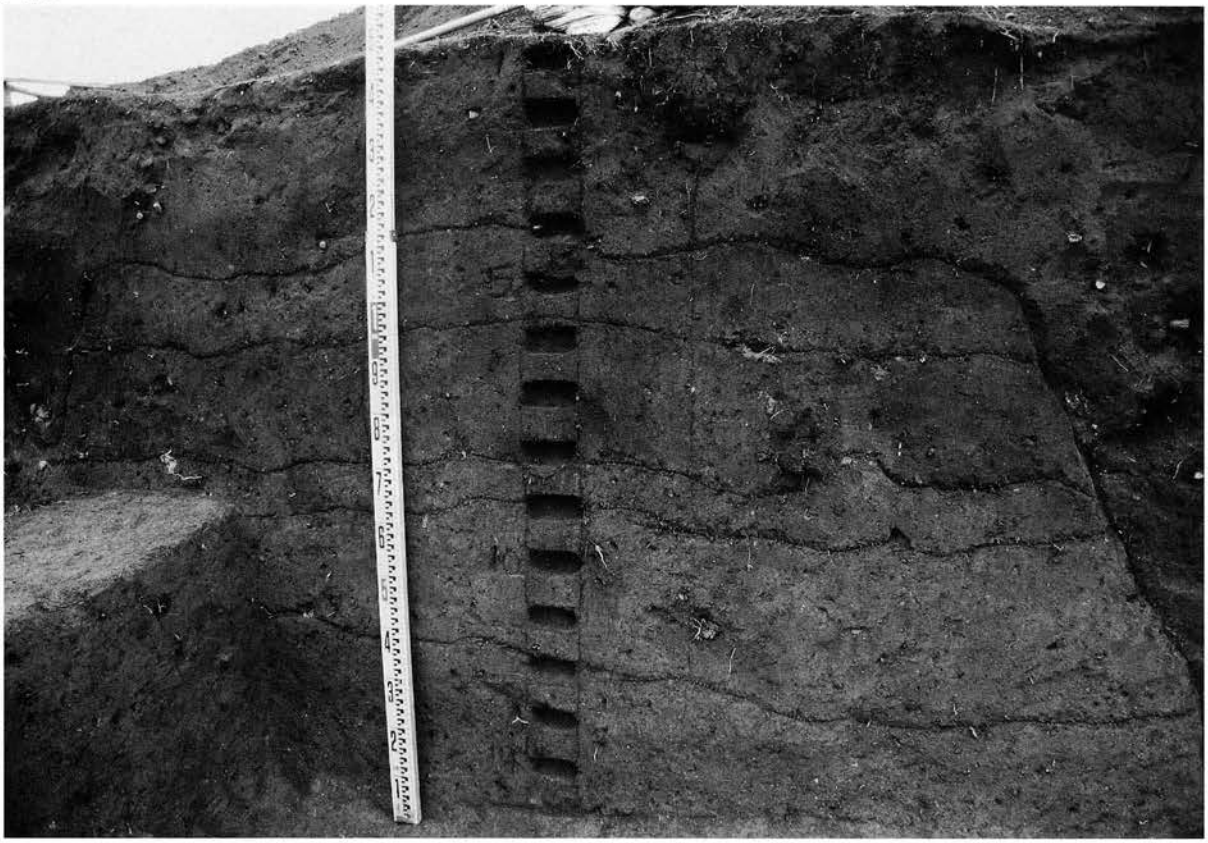
プレ A 地点出土遺物（6）

プレ A 地点出土遺物（7）

プレ A 地点出土遺物（8）

プレ B 地点遺物出土状況およびセクション

図版 34



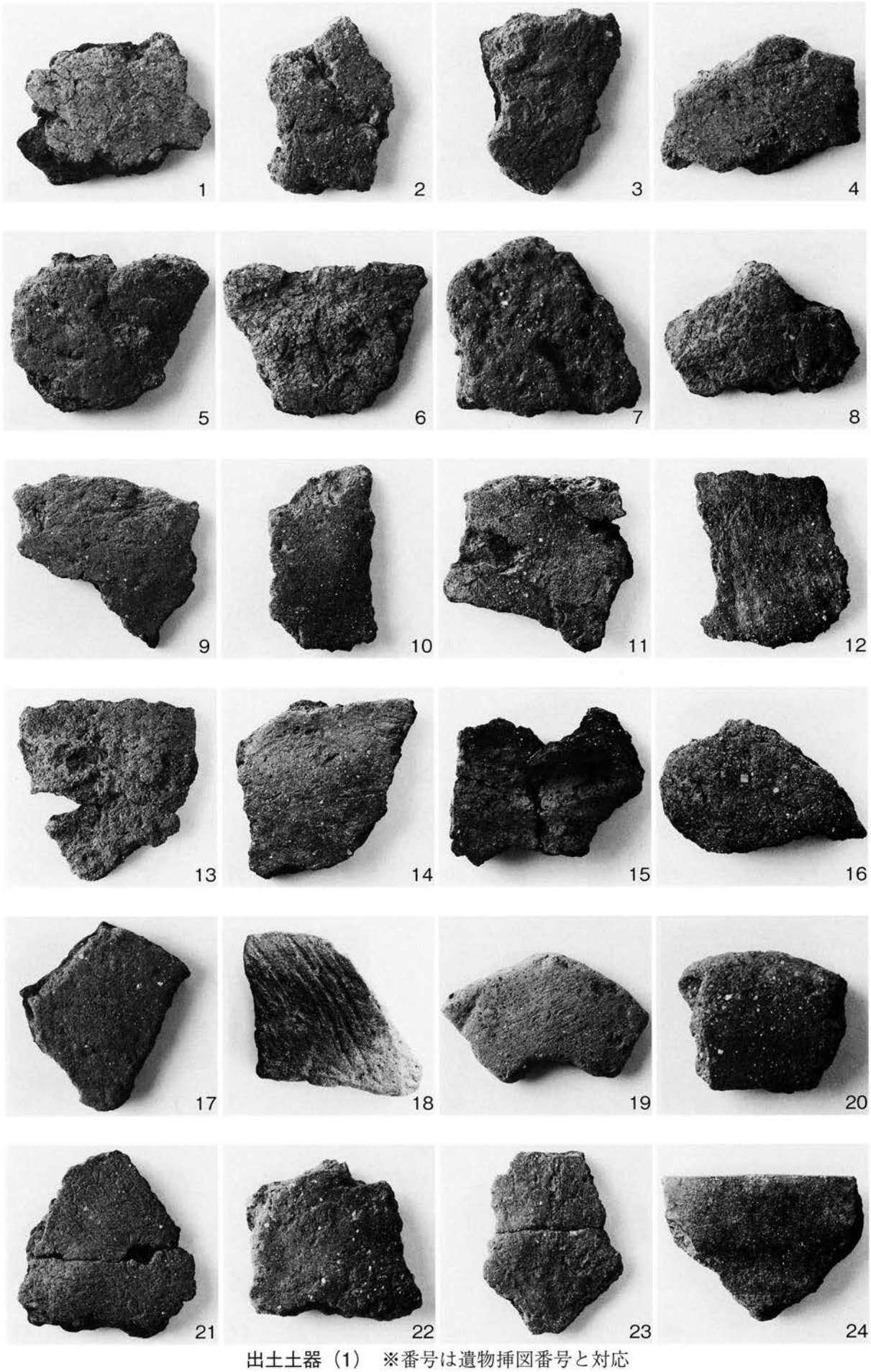
プレ B 地点火山灰分析土壌サンプリング箇所セクション

火山灰分析土壌サンプリング 状況

調査風景（1）

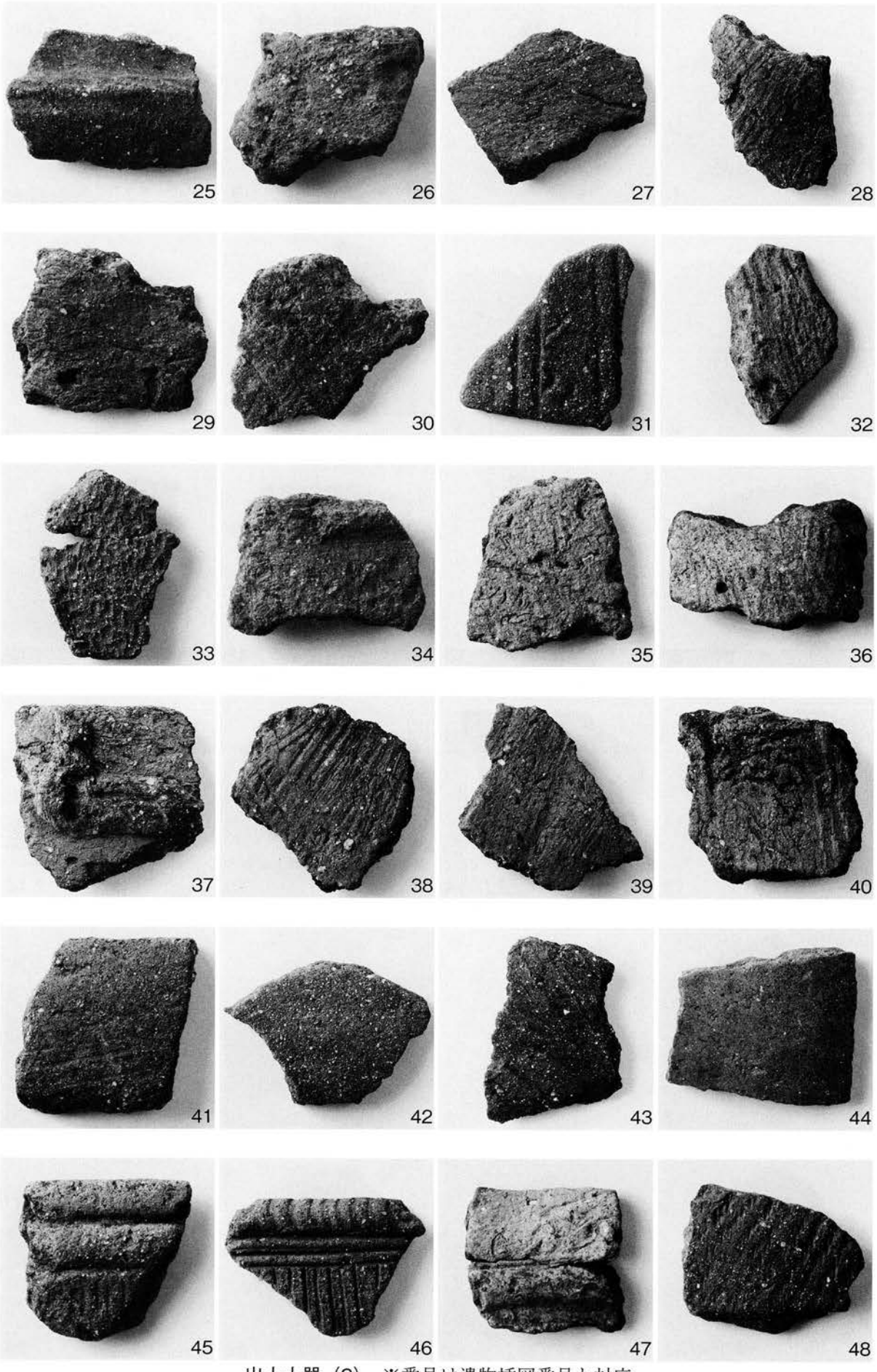
調査風景（2）

調査風景（3）

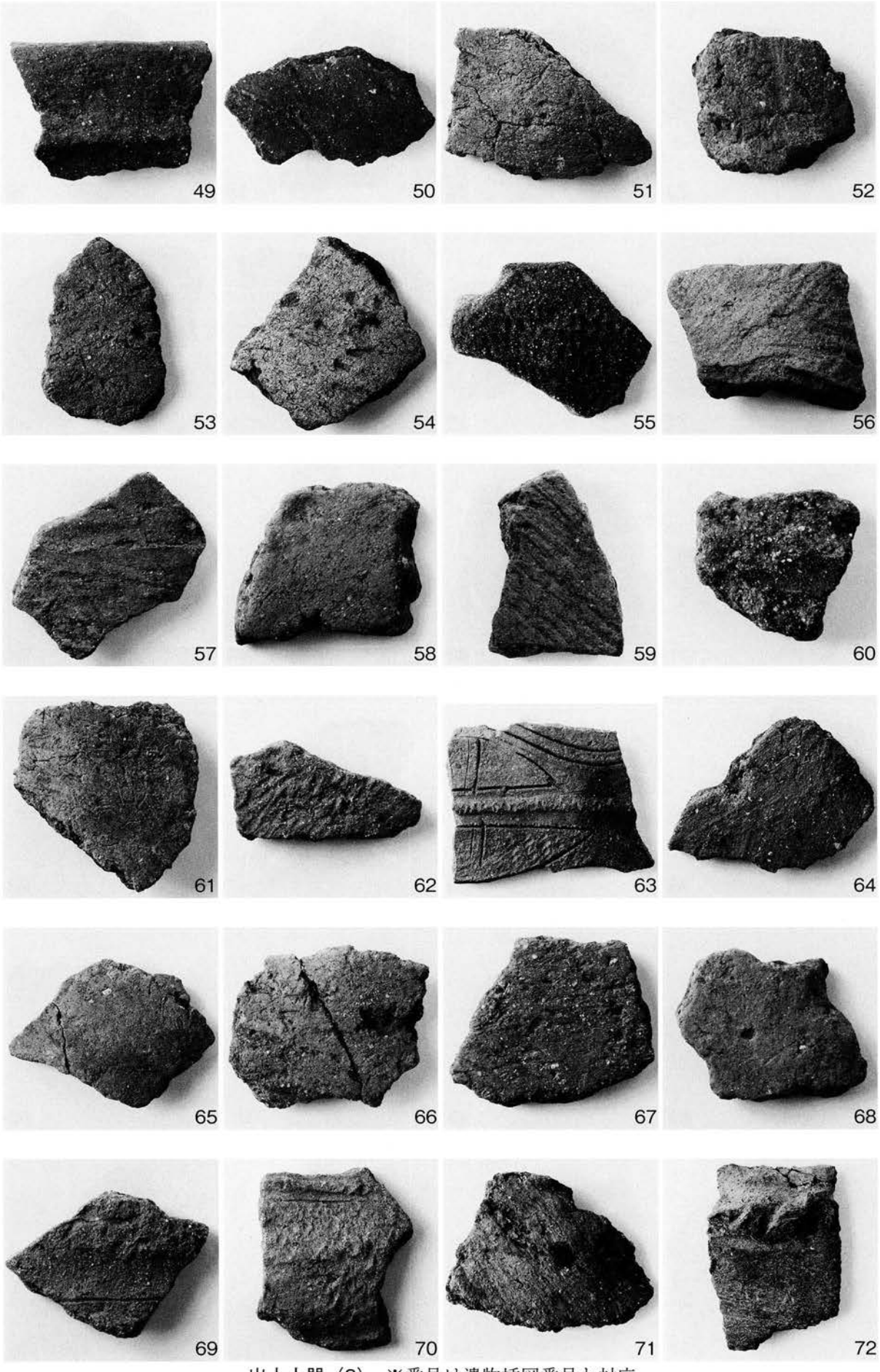


出土土器（1）　※番号は遺物挿図番号と対応

図版 36

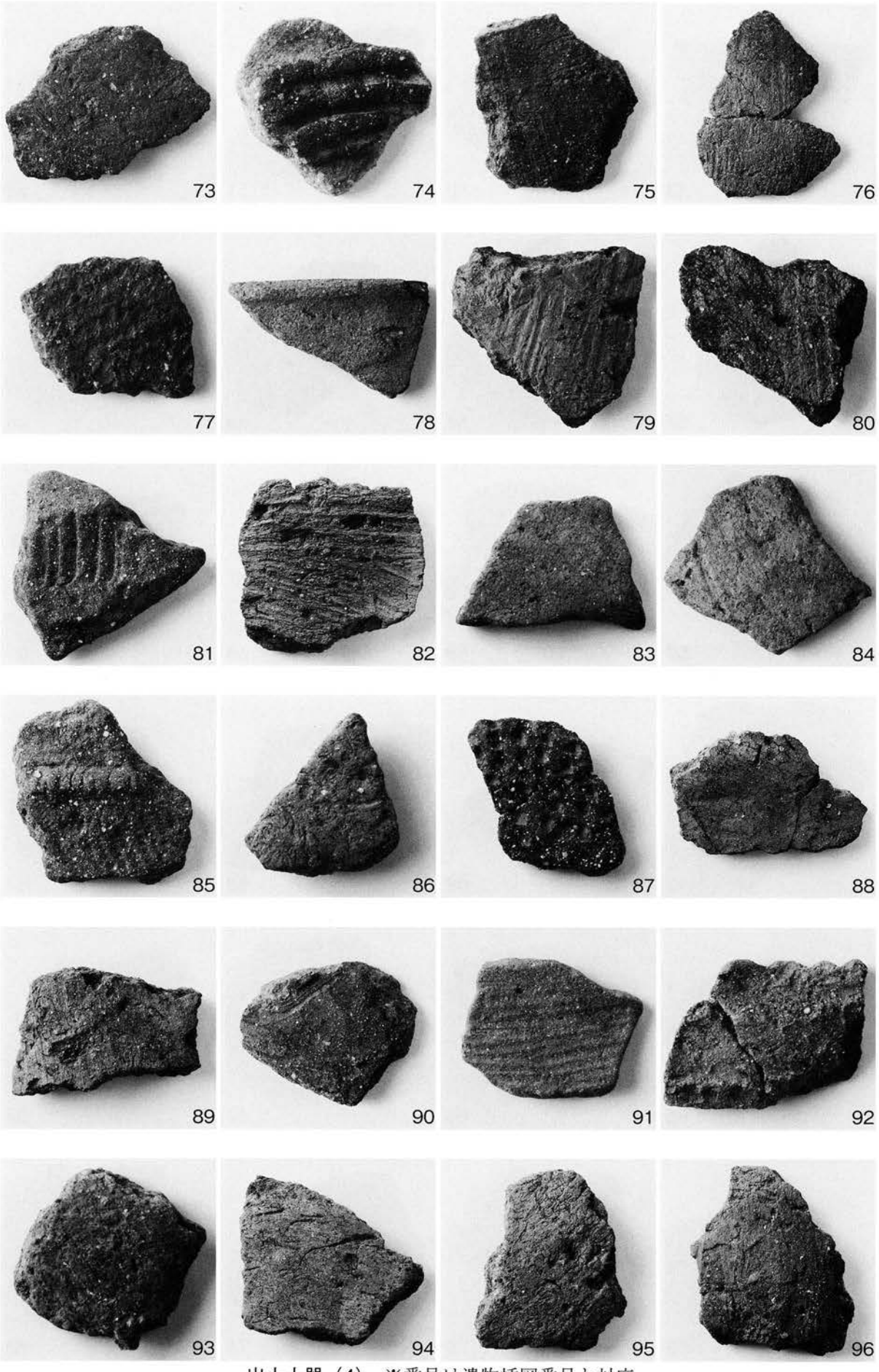


出土土器（2）　※番号は遺物挿図番号と対応



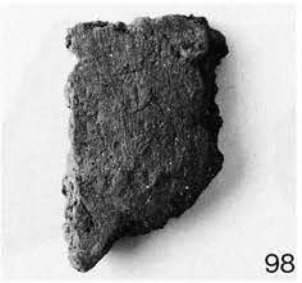
出土土器（3）　※番号は遺物挿図番号と対応

図版 38

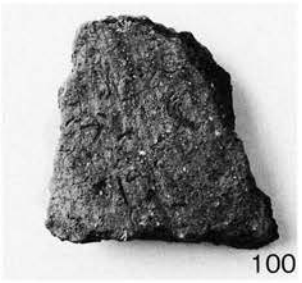


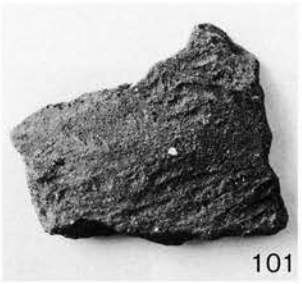
出土土器（4）　※番号は遺物挿図番号と対応

97

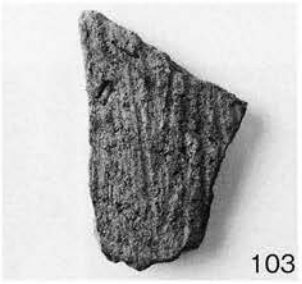

98

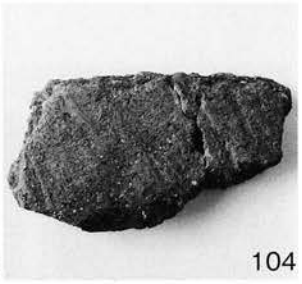
99

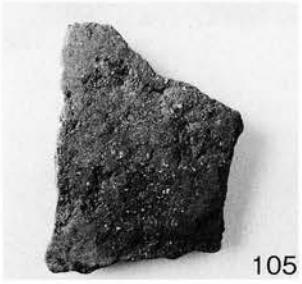

100

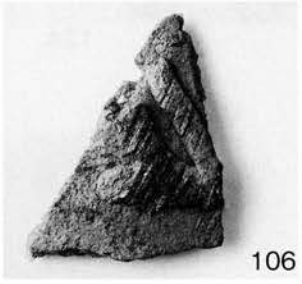

101

102

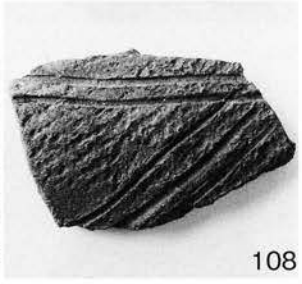

103

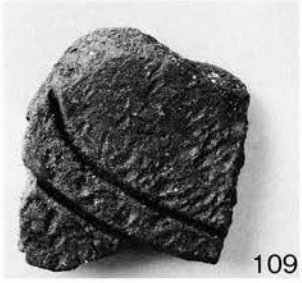

104

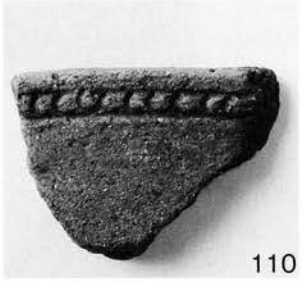

105

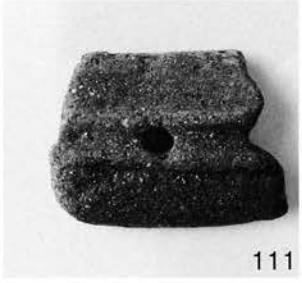

106

107


108


109


110

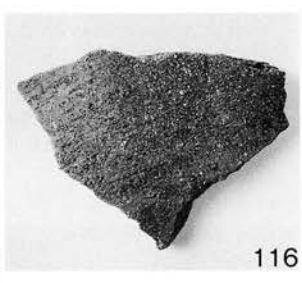

111

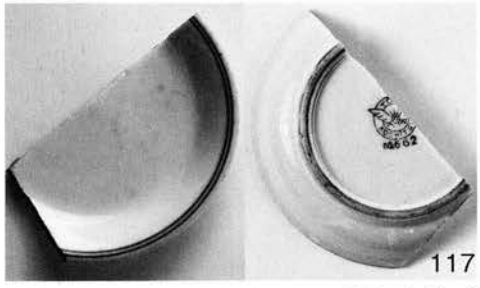
112

113

114

115


116


117

118

出土土器（5）　※番号は遺物挿図番号と対応

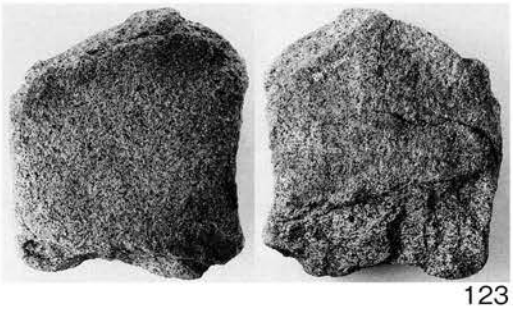
図版 40

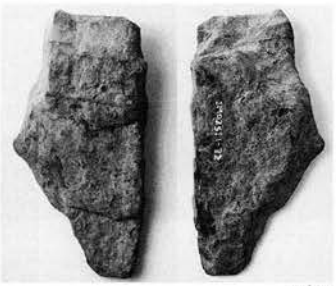
119

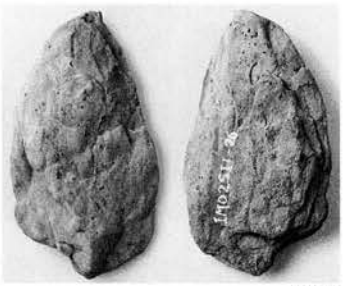
120

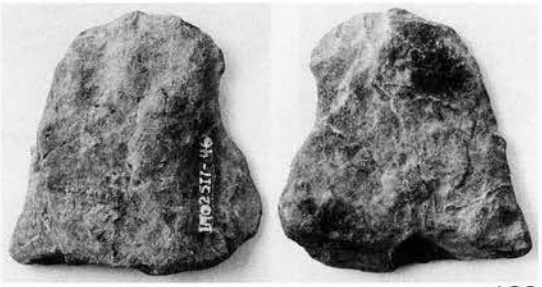
121

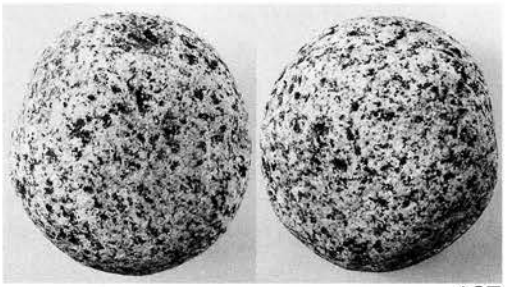
122

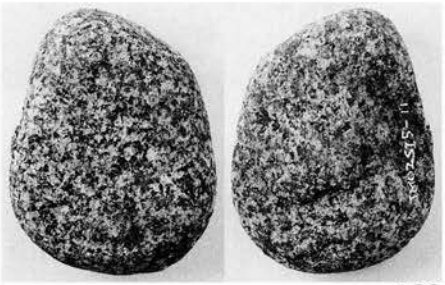

123

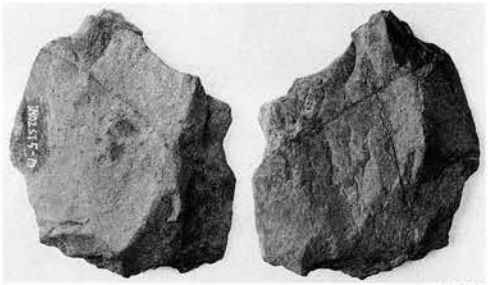

124

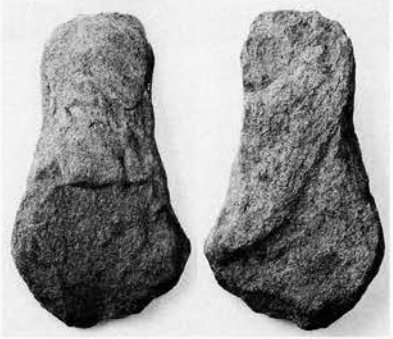

125

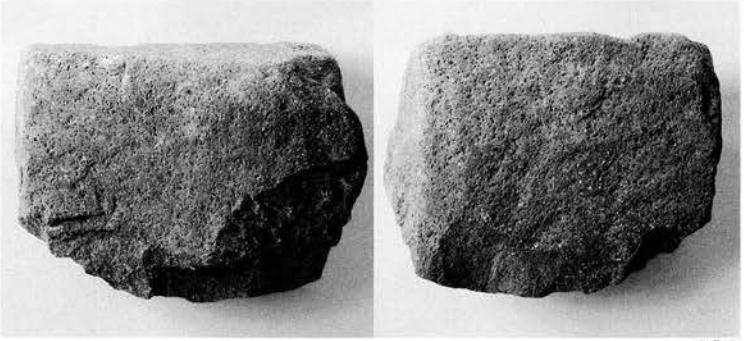

126


127

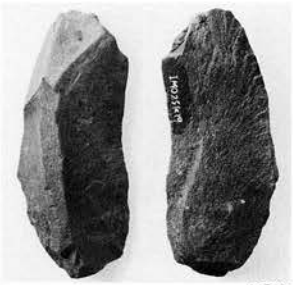

128

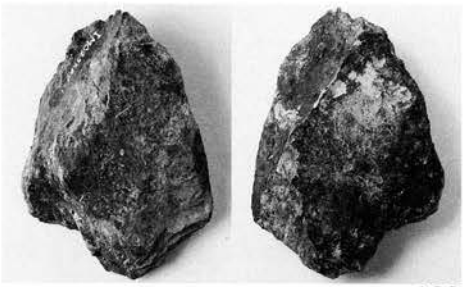

129


130


131

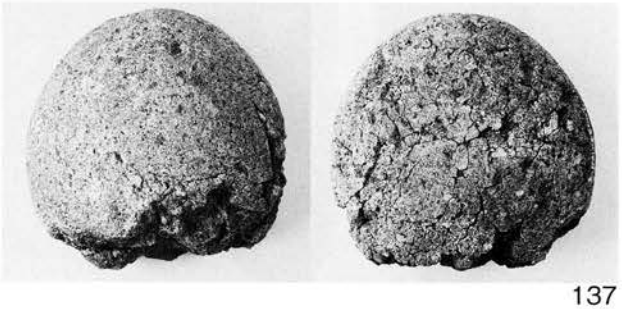
出土石器（1）　※番号は遺物挿図番号と対応

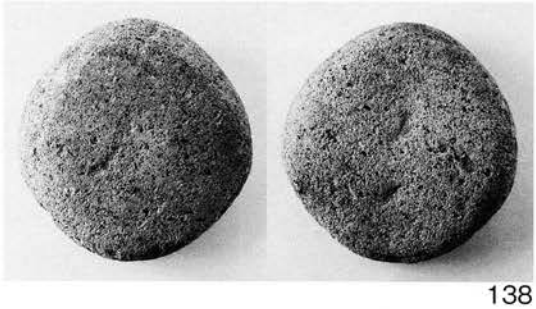

132


133

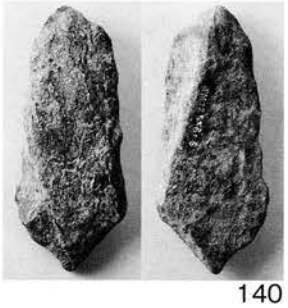
134

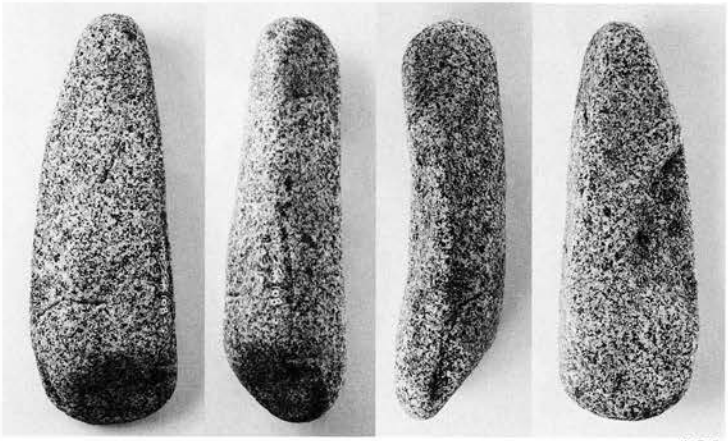
135

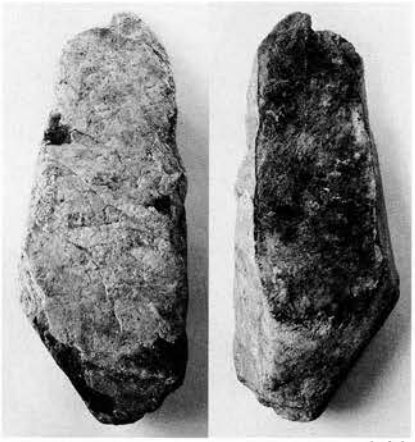

137


138

136


140

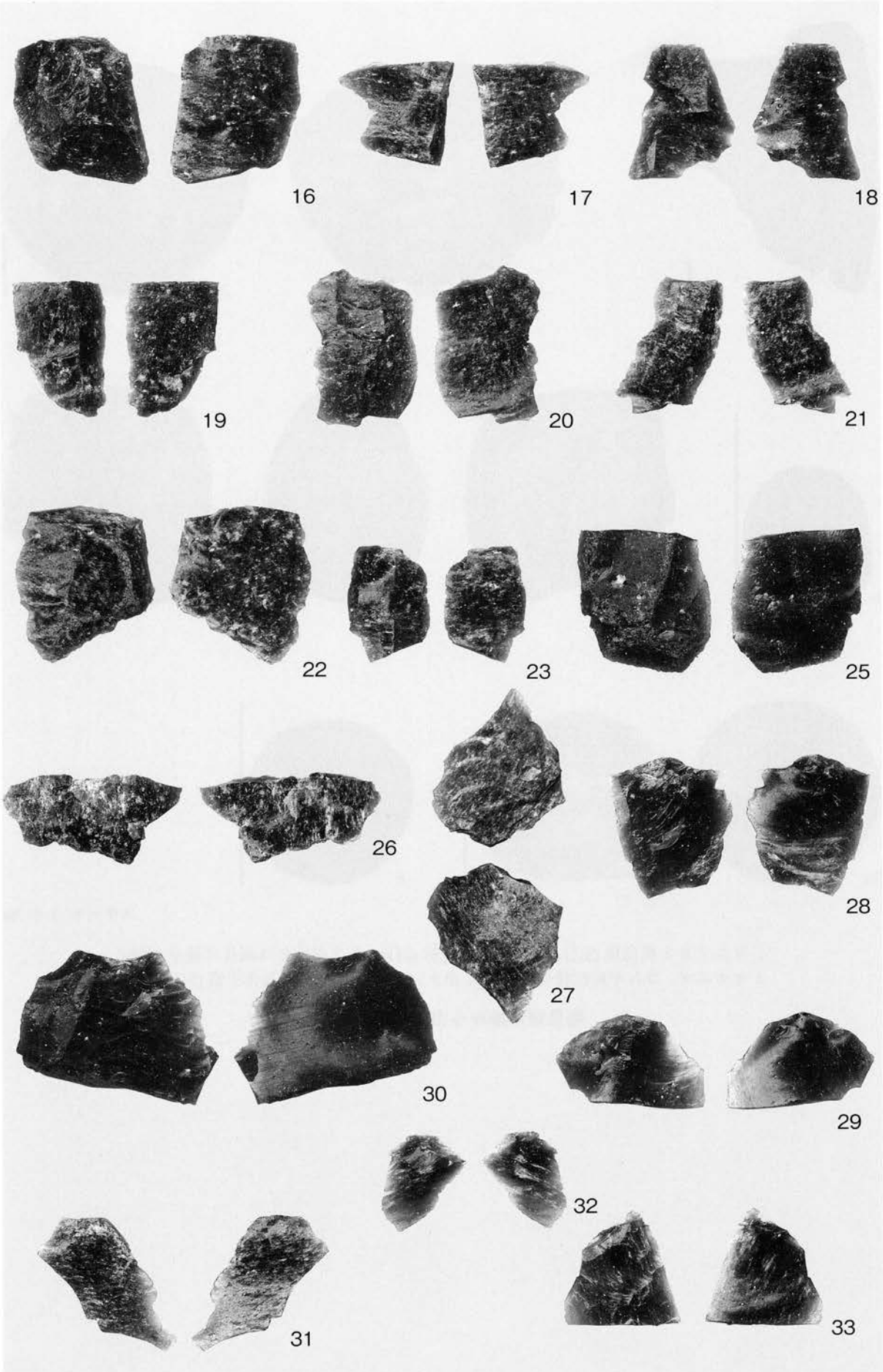

139


141

出土石器（2）　※番号は遺物挿図番号と対応

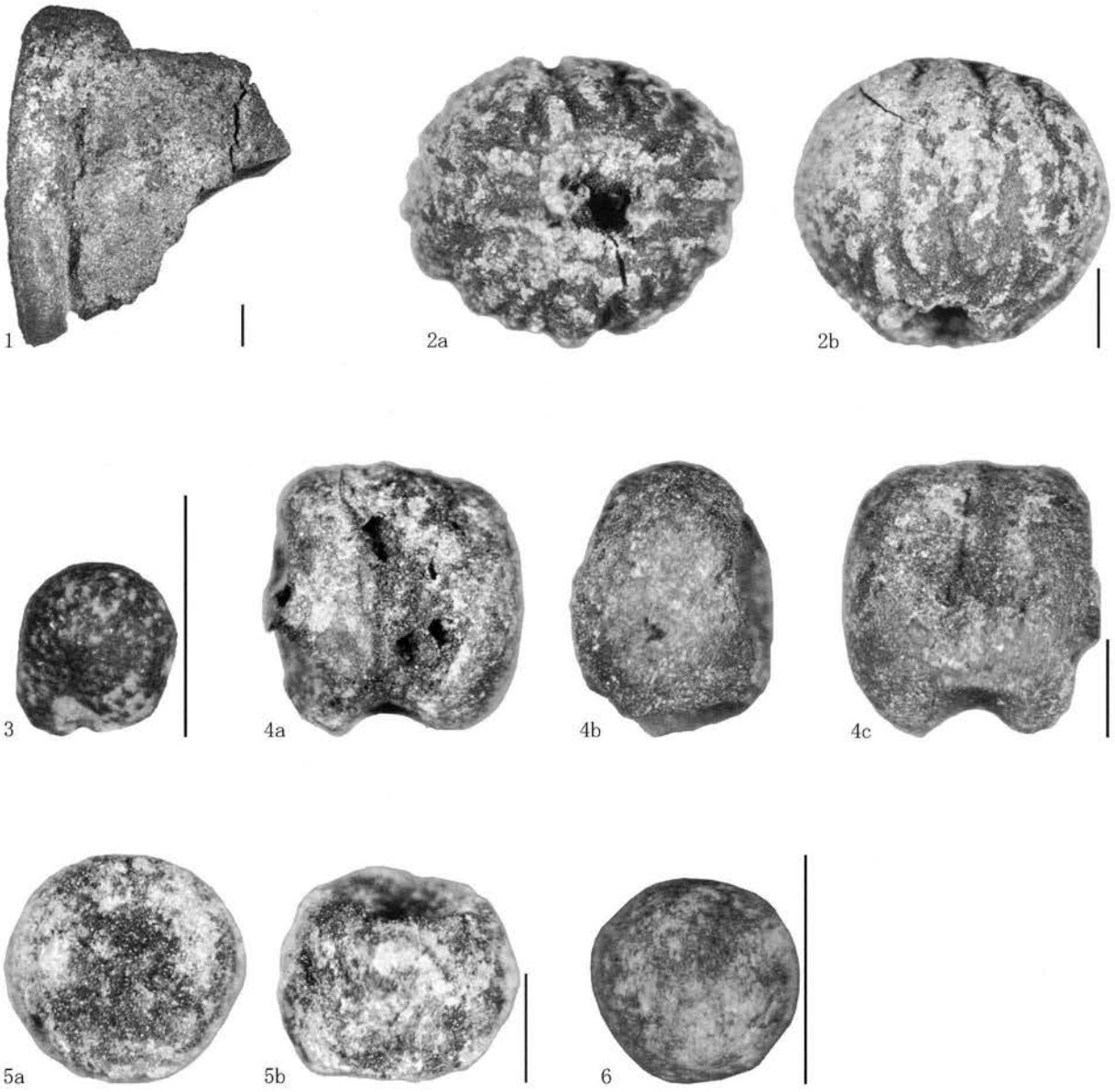
図版 42

旧石器時代石器（1）　※番号は図版内番号に対応



旧石器時代石器（2）　※番号は図版内番号に対応

図版 44



スケール 1-6:1mm

1. オニグルミ炭化核 (SI1)、2. ミズキ炭化核 (SI1)、3. スベリヒユ属炭化種子 (SI8)、
4. オオムギ - コムギ炭化種子 (SI8)、5. 虫えい (SI8)、6. 子嚢菌炭化子嚢 (SI5)

物見塚遺跡から出土した炭化種実

報 告 書 抄 録

ふりがな	ものみづかいせき（にじ）
書名	物見塚遺跡（２次）
副書名	県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釈迦堂地区における農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	笛吹市文化財調査報告書
シリーズ番号	第15集
編著者名	平野　修、望月秀和、秋山圭子、網倉邦生、村松佳幸、保坂康夫、河西　学、杉原重夫、金成太郎、佐々木由香、バリダリ　スダルシャン
編集機関	財団法人　山梨文化財研究所
所在地	〒406-0032　山梨県笛吹市石和町四日市場1566　TEL055-263-6441
発行年月日	平成22（2010）年3月15日

ふりがな	ものみづかいせき
所収遺跡名	物見塚遺跡
ふりがな	やまなしけん ふえふきし いちのみやちょう みなみのろ
所在地	山梨県笛吹市一宮町南野呂1254、1257-1
市町村コード	市町村：19201　　遺跡番号：一宮－86
北緯	35°38′36.9246″
東経	138°43′02.3488″
調査期間	20081224～20090227
調査面積	470.5㎡
調査原因	農道建設
種別	集落跡
主な時代	旧石器時代、縄文時代早期末～前期初頭、前期後半、中期
主な遺構	石器集中ブロック、竪穴建物、土坑、溝状遺構
主な遺物	旧石器時代石器、縄文式土器・石器
特記事項	旧石器時代の小型ナイフ形石器、彫器、抉入石器、二次加工剥片等の石器集中ブロックが確認され、釈迦堂遺跡群に隣接した旧石器時代における石器を使用した作業の場の一つとして想定される。

笛吹市文化財調査報告書　第15集

物見塚遺跡（２次）

県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業釈迦堂地区
における農道建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日　平成22年（2010）3月15日

編　集　㈶山梨文化財研究所

発　行　山梨県峡東農務事務所・笛吹市教育委員会
㈶山梨文化財研究所

印　刷　㈱帝京サービス

Fuefuki City Archaelogical Report Vol.15

The Report of
Archaeological Research of MONOMIZUKA Site
(Secondary Survey)

Archaeological Rescue Survey accompanying
the Agricultural Road Construction at Shakado District as part
of the Prefectural Agriculture, Forestry and Fisheries Gasoline
Tax Fund Utilization Through Road Improvement Project

March, 2010

Agricultural Department, Yamanashi Prefectural
Development Office of Kyoto Area
Fuefuki City Board of Education
Yamanashi Research Institute of Cultural Properties